

令和 7 年度
常磐自動車道
田野高架橋耐震補強工事

設 計 図
【田野高架橋(下り線)】

令和 7 年 1 2 月

東日本高速道路株式会社
関東支社 水戸管理事務所

【 図 面 目 録 】 田野高架橋（下り線）(1/2)

図面番号	図面名称	図面番号	図面名称
1	田野高架橋(下り線) 位置図	34 ～ 36	田野高架橋(下り線) P4橋脚 落橋防止構造P 構造図 (その1) ～ (その3)
2 ～ 4	田野高架橋(下り線) 耐震補強橋梁一般図 (その1) ～ (その3)	37	田野高架橋(下り線) P4橋脚 落橋防止構造P 構造図 (その4)(参考図)
5	田野高架橋(下り線) P1橋脚耐震補強構造図	38 ～ 40	田野高架橋(下り線) P7橋脚 落橋防止構造P 構造図 (その1) ～ (その3)
6	田野高架橋(下り線) P2橋脚耐震補強構造図	41	田野高架橋(下り線) P7橋脚 落橋防止構造P 構造図 (その4)(参考図)
7	田野高架橋(下り線) P3橋脚耐震補強構造図	42 ～ 44	田野高架橋(下り線) P10橋脚 落橋防止構造P 構造図 (その1) ～ (その3)
8	田野高架橋(下り線) P4橋脚耐震補強構造図	45	田野高架橋(下り線) P10橋脚 落橋防止構造P 構造図 (その4)(参考図)
9	田野高架橋(下り線) P5橋脚耐震補強構造図	46 ～ 48	田野高架橋(下り線) P12橋脚 落橋防止構造P 構造図 (その1) ～ (その3)
10	田野高架橋(下り線) P6橋脚耐震補強構造図	49	田野高架橋(下り線) P12橋脚 落橋防止構造P 構造図 (その4)(参考図)
11	田野高架橋(下り線) P7橋脚耐震補強構造図	50 ～ 51	田野高架橋(下り線) A2橋台 落橋防止構造C 構造図 (その1) ～ (その2)
12	田野高架橋(下り線) P8橋脚耐震補強構造図	52 ～ 53	田野高架橋(下り線) 塗替塗装・塗膜除去工 塗分け区分図 (その1) ～ (その2)
13	田野高架橋(下り線) P9橋脚耐震補強構造図	54 ～ 55	田野高架橋 P5橋脚 ライナープレート計画図 (その1)(参考図)～(その2)(参考図)
14	田野高架橋(下り線) P10橋脚耐震補強構造図	56	田野高架橋(下り線) P5橋脚 ライナープレート計画図 (その3)
15	田野高架橋(下り線) P11橋脚耐震補強構造図	57 ～ 59	田野高架橋(下り線) 耐震補強施工計画図 (その1)(参考図)～(その3)(参考図)
16	田野高架橋(下り線) P12橋脚耐震補強構造図	60	田野高架橋(下り線) P1橋脚施工要領図 (参考図)
17	田野高架橋(下り線) P13橋脚耐震補強構造図	61	田野高架橋(下り線) P2橋脚施工要領図 (参考図)
18	田野高架橋(下り線) P14橋脚耐震補強構造図	62	田野高架橋(下り線) P3橋脚施工要領図 (参考図)
19	田野高架橋(下り線) P2橋脚耐震補強配筋図	63	田野高架橋(下り線) P4橋脚施工要領図 (参考図)
20	田野高架橋(下り線) P3橋脚耐震補強配筋図	64	田野高架橋(下り線) P5橋脚施工要領図 (参考図)
21	田野高架橋(下り線) P4橋脚耐震補強配筋図	65	田野高架橋(下り線) P6橋脚施工要領図 (参考図)
22	田野高架橋(下り線) P5橋脚耐震補強配筋図	66	田野高架橋(下り線) P7橋脚施工要領図 (参考図)
23	田野高架橋(下り線) P6橋脚耐震補強配筋図	67	田野高架橋(下り線) P8橋脚施工要領図 (参考図)
24	田野高架橋(下り線) P7橋脚耐震補強配筋図	68	田野高架橋(下り線) P9橋脚施工要領図 (参考図)
25	田野高架橋(下り線) P8橋脚耐震補強配筋図	69	田野高架橋(下り線) P10橋脚施工要領図 (参考図)
26	田野高架橋(下り線) P9橋脚耐震補強配筋図	70	田野高架橋(下り線) P11橋脚施工要領図 (参考図)
27	田野高架橋(下り線) P10橋脚耐震補強配筋図	71	田野高架橋(下り線) P12橋脚施工要領図 (参考図)
28	田野高架橋(下り線) P11橋脚耐震補強配筋図	72	田野高架橋(下り線) P13橋脚施工要領図 (参考図)
29	田野高架橋(下り線) P12橋脚耐震補強配筋図	73	田野高架橋(下り線) P14橋脚施工要領図 (参考図)
30	田野高架橋(下り線) P13橋脚耐震補強配筋図	74	田野高架橋(下り線) はく落防止対策工B詳細図
31	田野高架橋(下り線) P14橋脚耐震補強配筋図	75	田野高架橋(下り線) P2橋脚補修一般図
32 ～ 33	田野高架橋(下り線) A1橋台 落橋防止構造C 構造図 (その1) ～ (その2)	76	田野高架橋(下り線) P4橋脚補修一般図

【 図 面 目 録 】 田野高架橋 (下り線)(2/2)

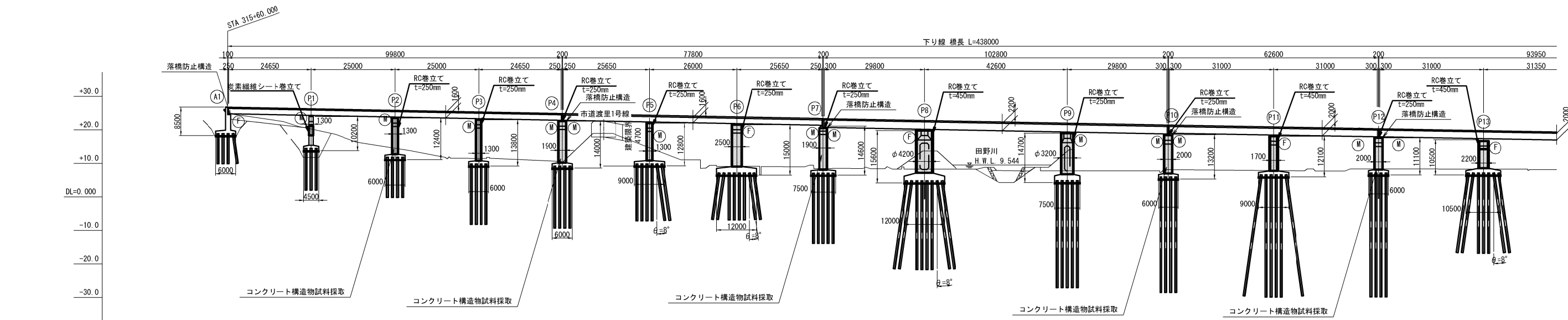
[illegible]



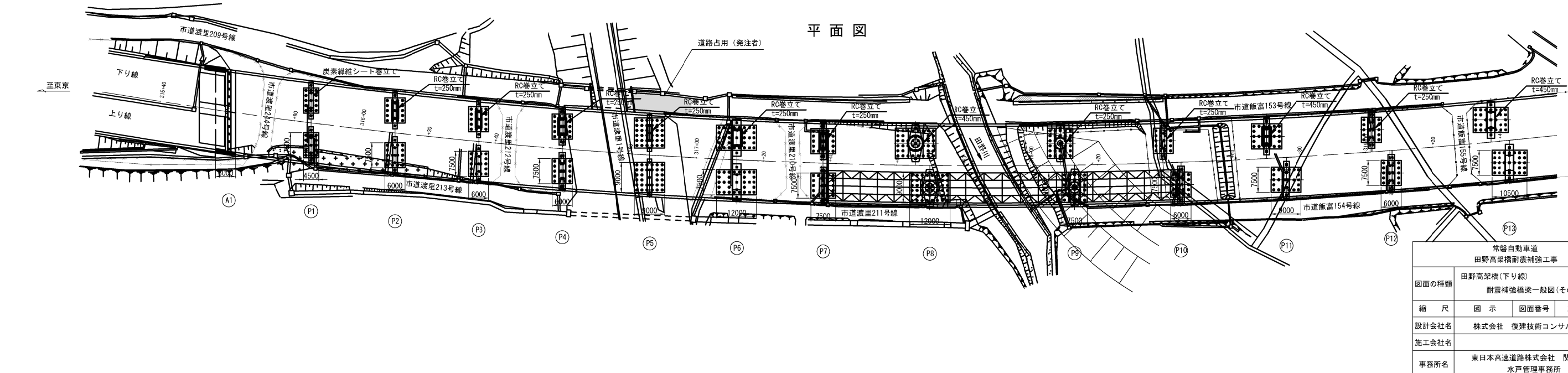
注記) この地図は国土地理院のウェブサイト (<https://maps.gsi.go.jp/#15/36.724507/140.670104/&base=std&ls=std&disp=1&vs=c1g1j0h0k0l0u0t0z0r0s0m0f1>) の地図をもとに
(株)復建技術コンサルタントが作成したもの。

常磐自動車道 田野高架橋耐震補強工事			
図面の種類	田野高架橋(下り線)		
	位置図		
縮 尺	図 示	図面番号	1 / 79
設計会社名	株式会社 復建技術コンサルタント		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 水戸管理事務所		

縦断図

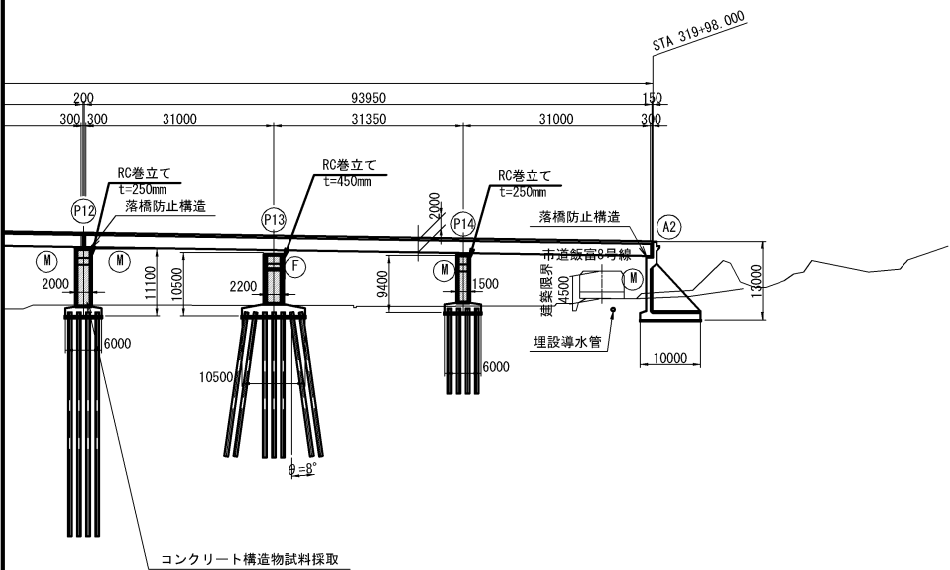


片勾配すりつ付図	R=1600 L=763.971																			
	4.000%																			
平面曲線																				
測 点	-315+40	-20.000	-31540.000	-25.44	-27.193															
単 距 離																				
追 加 距 離																				
地 盤 高																				
計 画 高																				

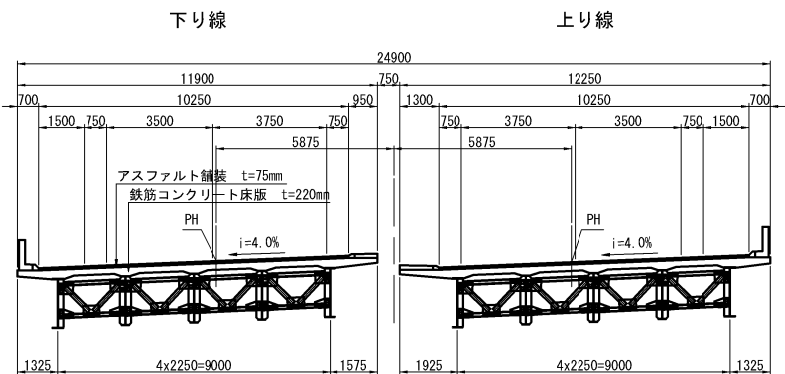


常盤自動車道	田野高架橋耐震補強工事
図面の種類	田野高架橋(下り線) 耐震補強橋梁一般図(その1)
縮尺	図示 図面番号 2 / 79
設計会社名	株式会社 復建技術コンサルタント
施工会社名	東日本高速道路株式会社 関東支社
事務所名	水戸管理事務所

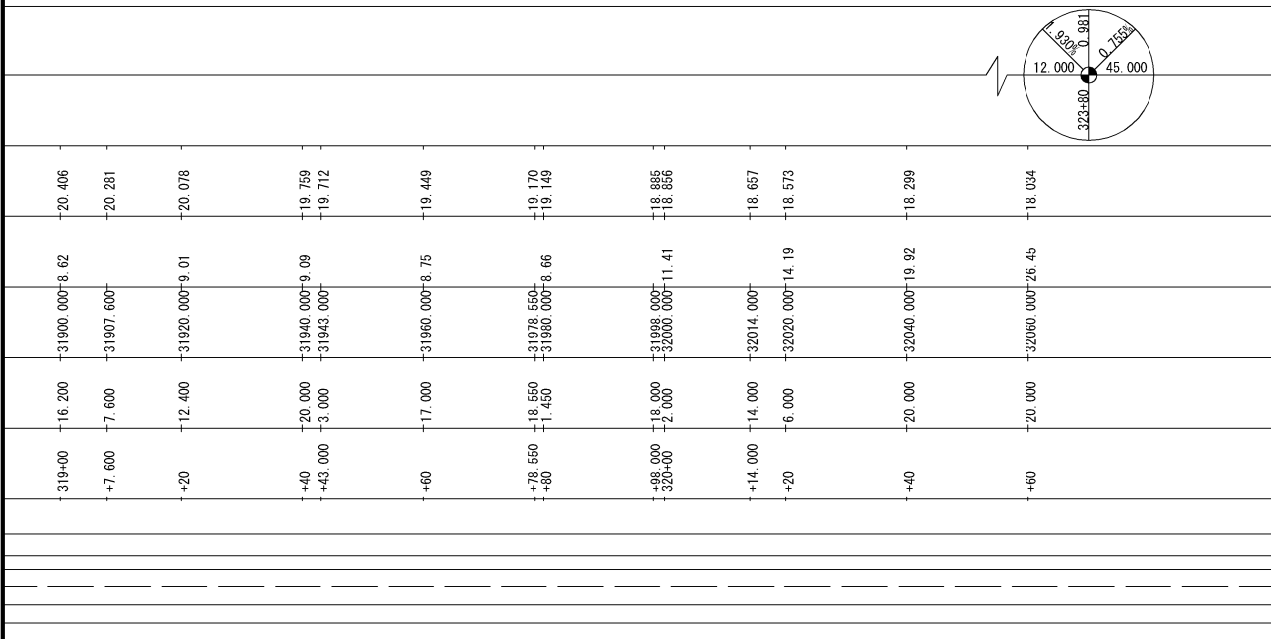
縦断図 S=1:1250



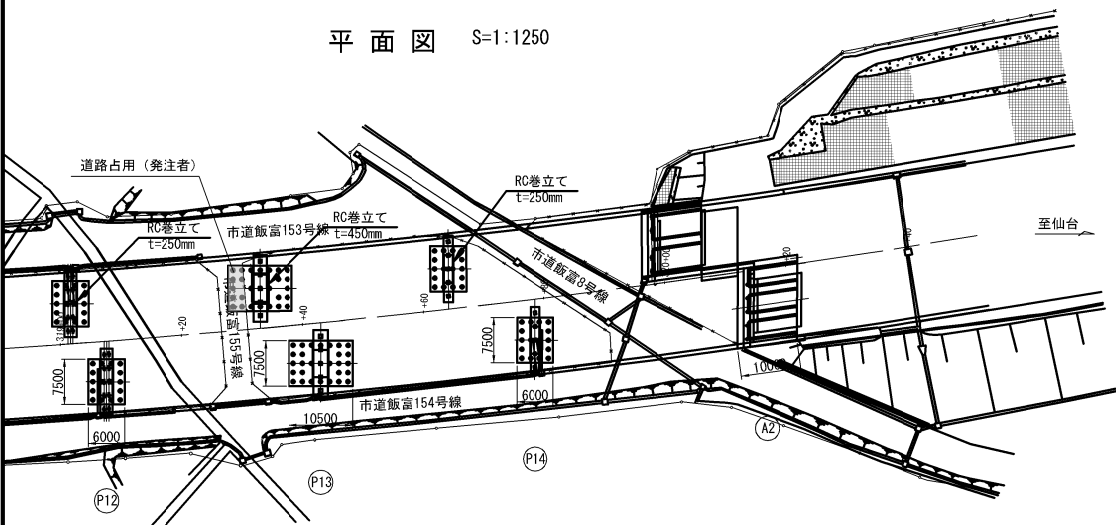
標準断面図 S=1:250



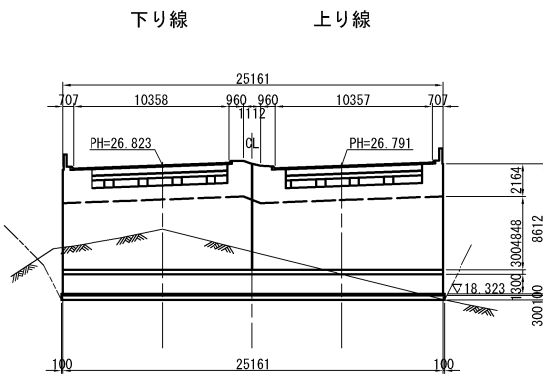
横断図 S=1:500



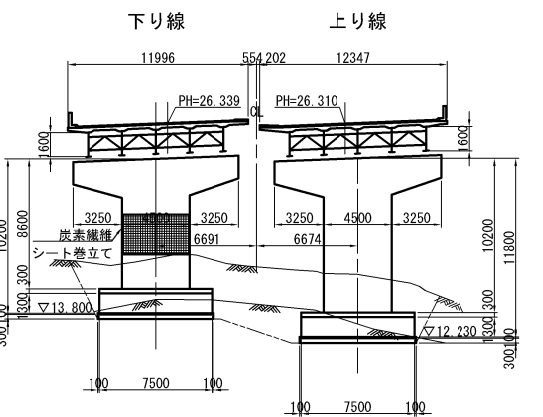
平面図 S=1:1250



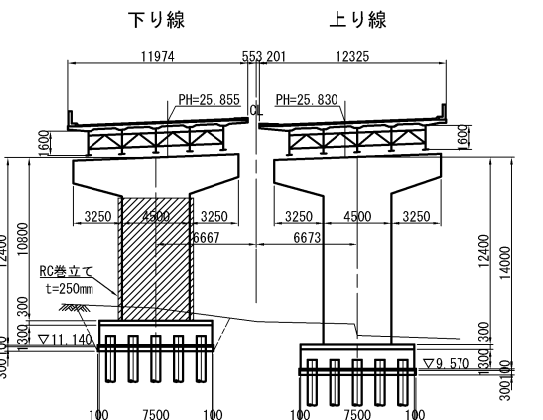
A1橋台



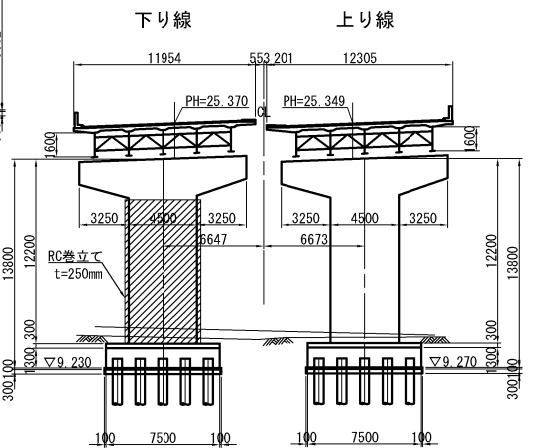
P1橋脚



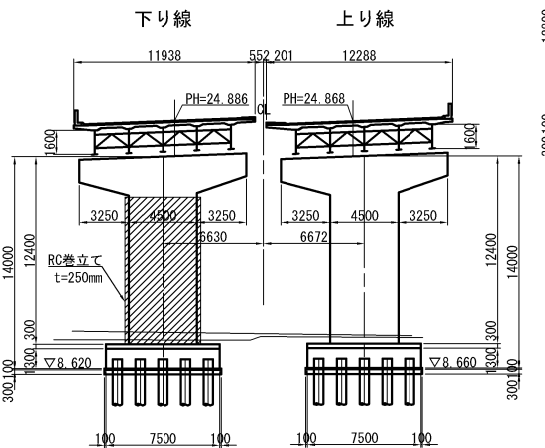
P2橋脚



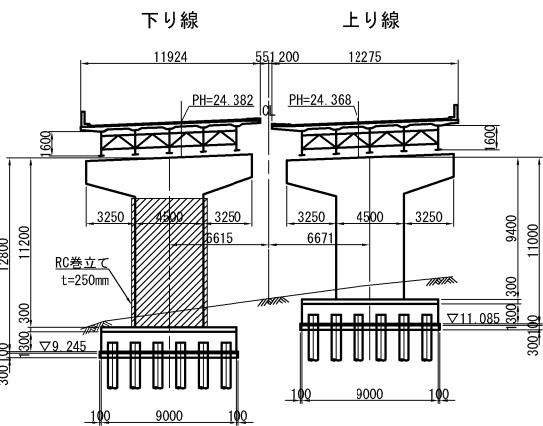
P3橋脚



P4橋脚

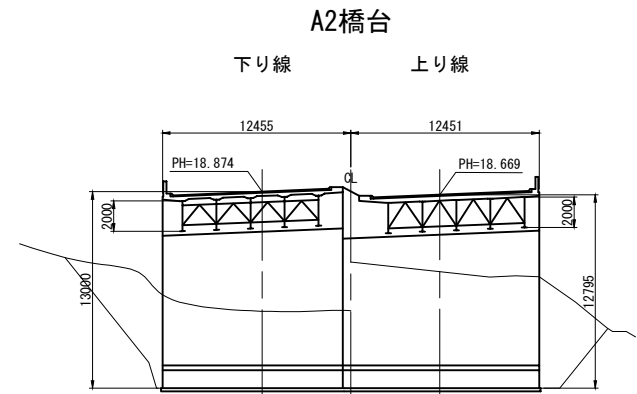
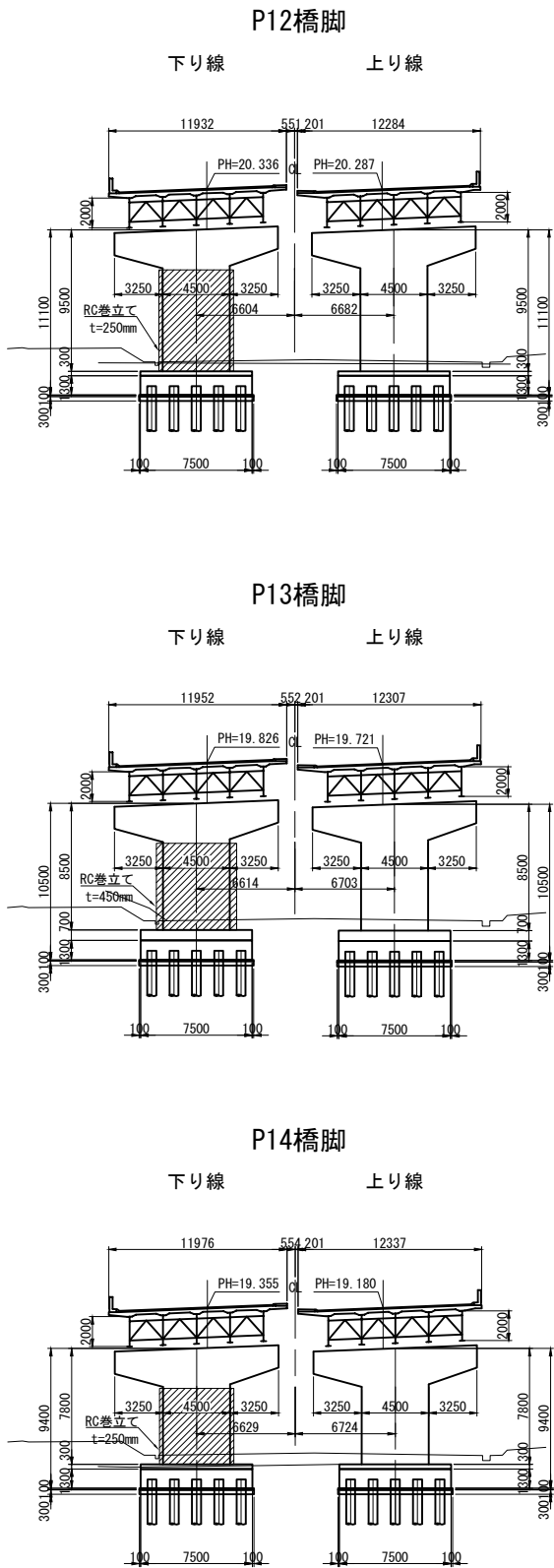
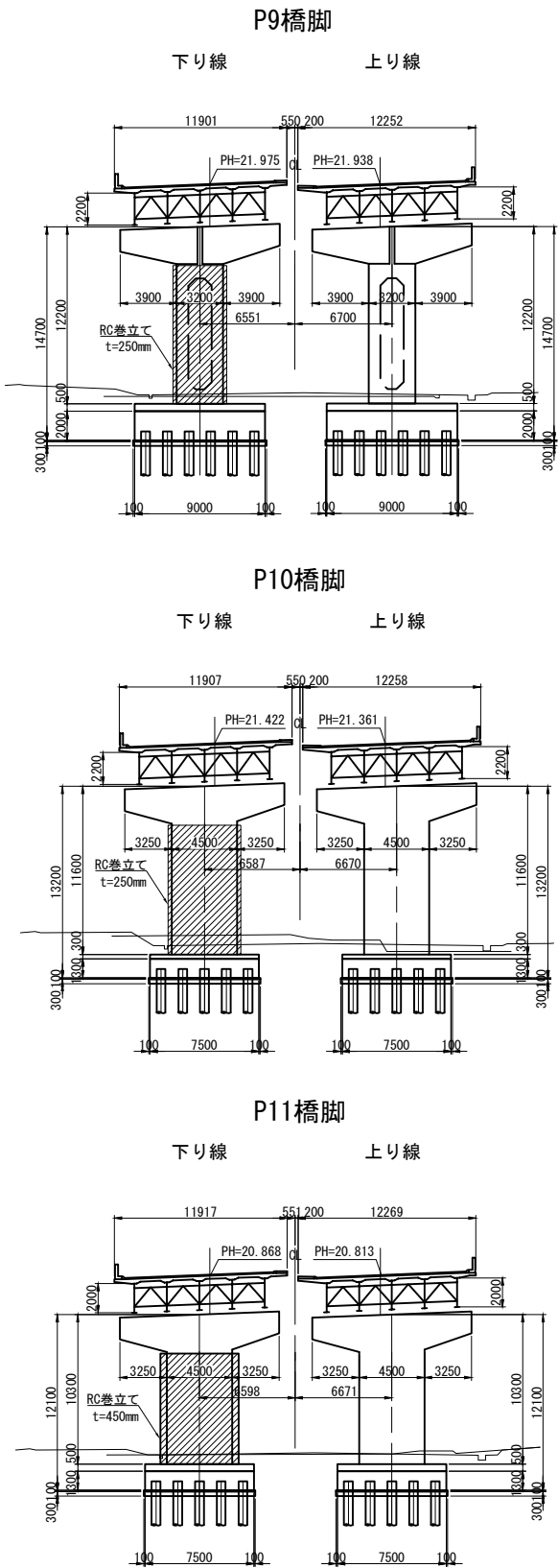
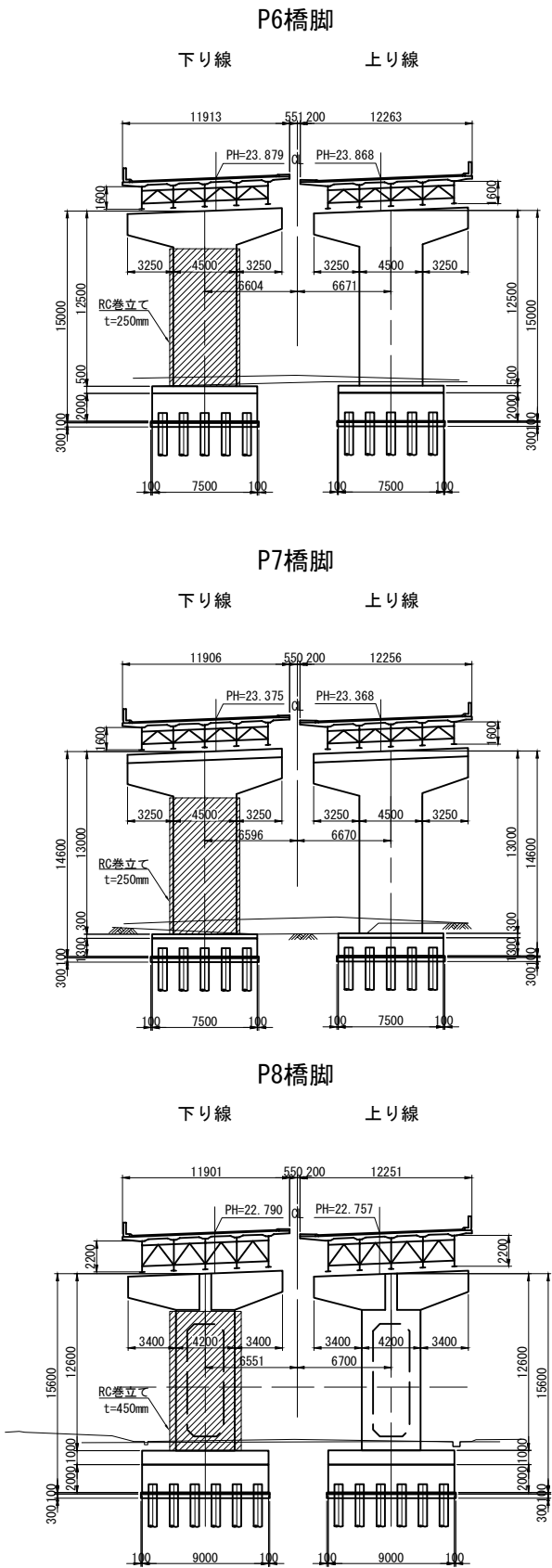


P5橋脚



常磐自動車道 田野高架橋耐震補強工事			
図面の種類	田野高架橋(下り線) 耐震補強橋梁一般図(その2)		
縮尺	図示	図面番号	3 / 79
設計会社名	株式会社 復建技術コンサルタント		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 水戸管理事務所		

横断図



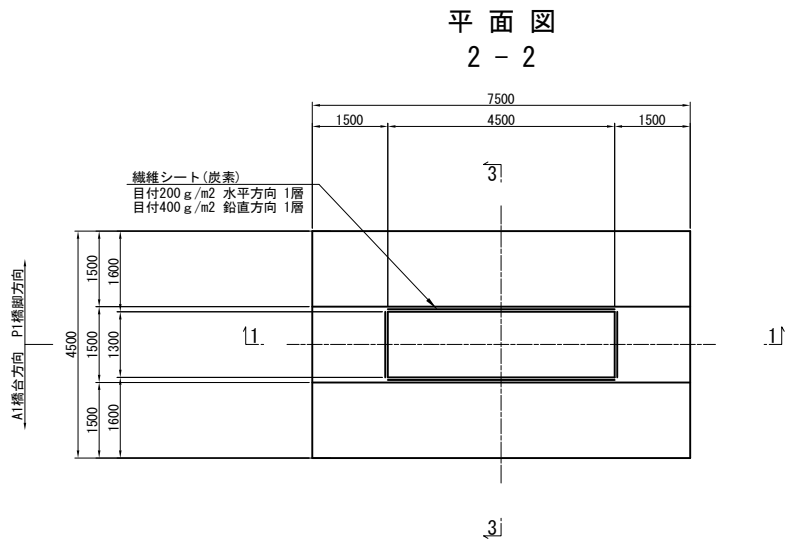
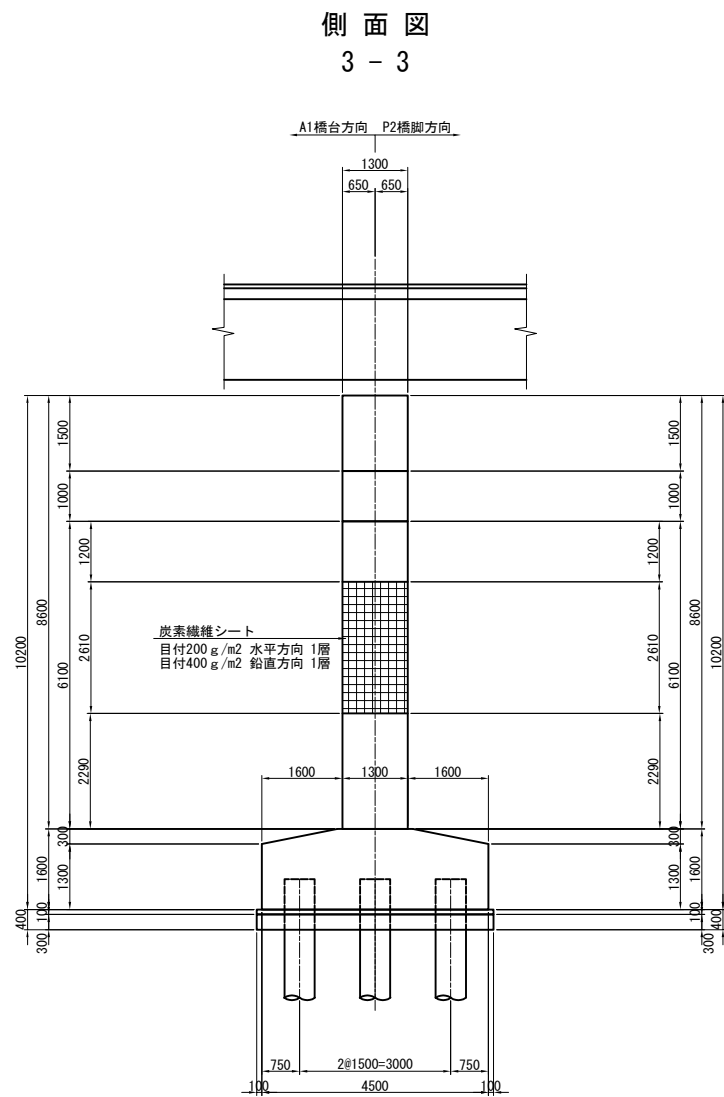
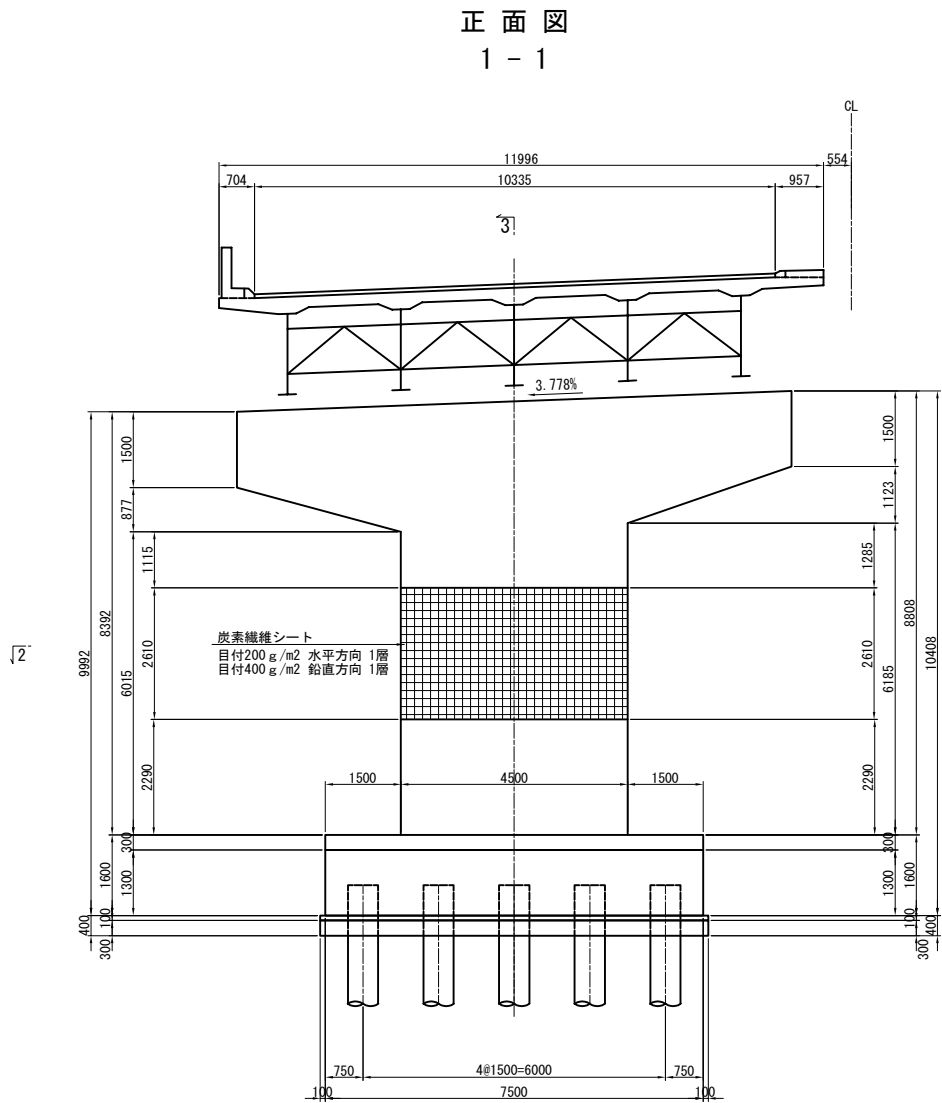
建設時設計条件

橋長	上り線	454.000m	桁長	上り線	99.8m+77.8m+106.6m+62.6m+106.15m				
	下り線	438.000m		下り線	99.8m+77.8m+102.8m+62.6m+93.95m				
道路規格	1種 1級 B(V=120km/h)								
支間長	上り線	(24.65m+2@25.0m+24.65m)+(25.65m+26.0m+25.65m)+(31.4m+43.2m+31.4m)+2@31.0m+(35.0m+35.55+35.0m)							
	下り線	(24.65m+2@25.0m+24.65m)+(25.65m+26.0m+25.65m)+(29.8m+42.6m+29.8m)+2@31.0m+(31.0m+31.35m+31.0m)							
全幅員	上り線	12.250m							
	下り線	11.900m							
有効幅員	上り線	10.250m	斜角	上り線	直(STA317+87.000)				
	下り線	10.250m		下り線	直(STA317+87.000)				
横断勾配	上り線	0.400% 片側直線勾配							
	下り線	0.400% 片側直線勾配							
縦断勾配	上り線	1.930%							
	下り線	1.930%							
上部工形式	上り線	鋼4径間連続非合成版桁橋、鋼3径間連続非合成版桁橋×2連、鋼2径間非合成版桁橋、鋼3径間連続非合成版桁橋							
	下り線	鋼4径間連続非合成版桁橋、鋼3径間連続非合成版桁橋×2連、鋼2径間非合成版桁橋、鋼3径間連続非合成版桁橋							
下部工形式	上り線	逆T式橋台1基、柱式橋脚14基、控え壁式橋台1基							
	下り線	逆T式橋台1基、柱式橋脚14基、控え壁式橋台1基							
活荷重	TL-20、TT-43								
完成年月	1984年(昭和59年)9月								
設計基準	上部工	道路橋示方書・同解説(昭和55年)							
	下部工	道路橋耐震設計指針・同解説(昭和47年)							
設計水平震度	kh=0.24(橋台のみkh=0.2)								
使用材料	床版コンクリート	圧縮強度 $\sigma_{ck}=240\text{kg/cm}^2$							
	床版鉄筋	材質 SD30 許容引張応力 $\sigma_{sa}=1400\text{kg/cm}^2$							
	コンクリート	$\sigma_{ck}=240\text{kgf/cm}^2$							
	鉄筋	SD30							
	鋼材	SS41、SM41、SM50Y							

今回耐震補強設計条件

設計基準	R5設計要領 第二集 橋梁保全編 H24道路橋示方書・同解説 IV下部構造編 H24道路示方書・同解説 V耐震設計編	
使用材料	コンクリート	$\sigma_{ck}=30\text{N/mm}^2$
	鉄筋	SD345
補強内容	橋脚	RC巻立て補強、炭素繊維シート
	上部工	落橋防止構造：PCケーブル、緩衝チェーン

常磐自動車道 田野高架橋耐震補強工事			
図面の種類	田野高架橋(下り線) 耐震補強橋梁一般図(その3)		
縮尺	図示	図面番号	4 / 79
設計会社名	株式会社 復建技術コンサルタント		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 水戸管理事務所		



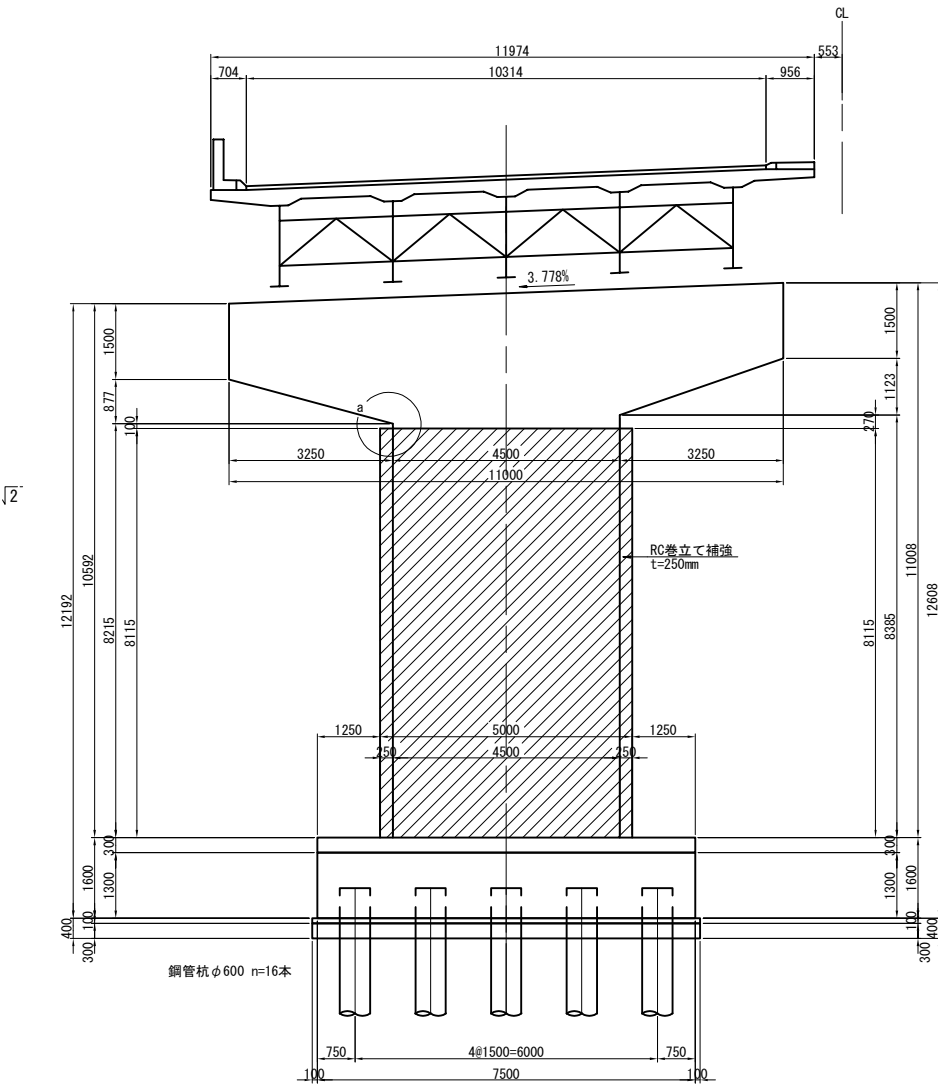
炭素繊維シート 性能表

繊維目付 (g/m ²)	引張強度 (N/mm ²)	引張弾性率 (N/mm ²)	設計厚さ (mm)
200	3,400	2.45×10^{-5}	0.111
400	3,400	2.45×10^{-5}	0.222

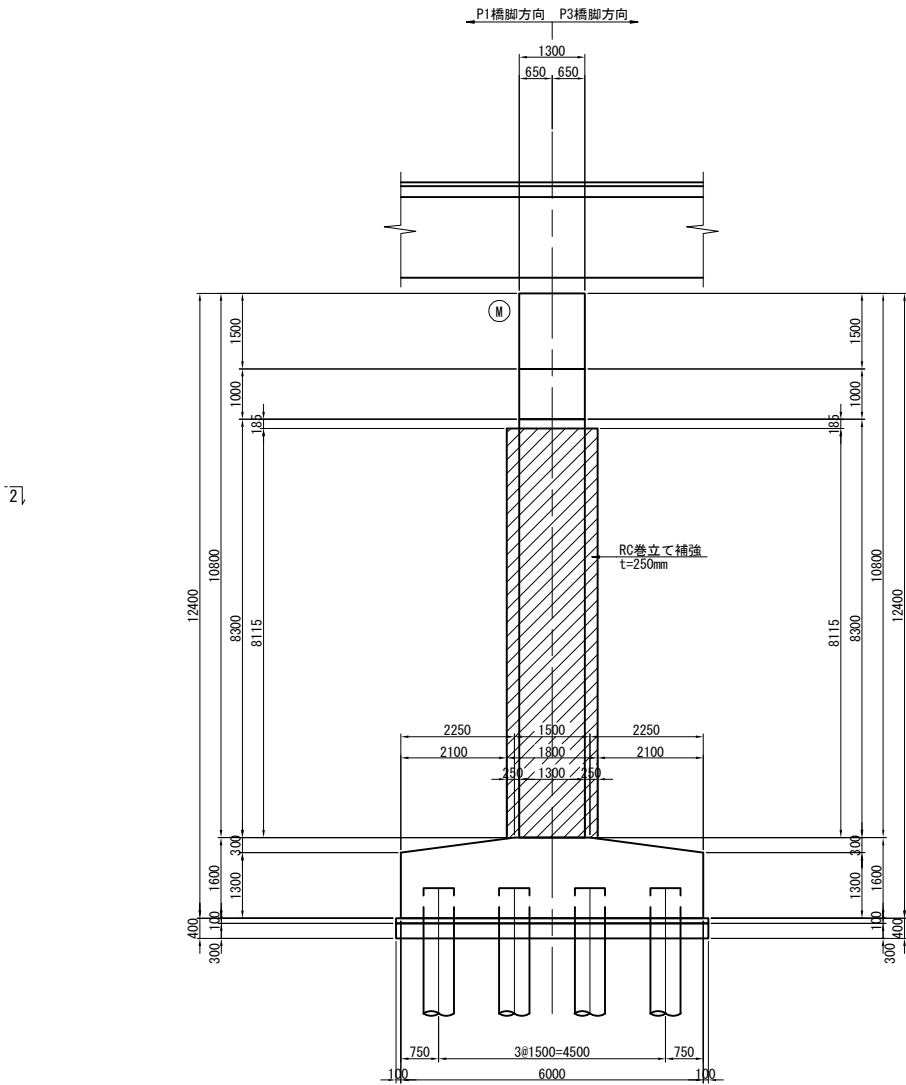
- 注) 1. 施工前に既設形状寸法を確認すること。
2. アンカ一定着鉄筋の削孔にあたっては、既設構造物の鉄筋を切断しないように現在の配筋状態を事前に鉄筋探査等による調査を実施し、確認すること。
3. 補強部分(既設面)は、電動工具による表面処理を行うこと。

常磐自動車道 田野高架橋耐震補強工事			
図面の種類	田野高架橋(下り線) P1橋脚耐震補強構造図		
	縮 尺	図 示	図面番号 5 / 79
設計会社名	株式会社 復建技術コンサルタント		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 水戸管理事務所		

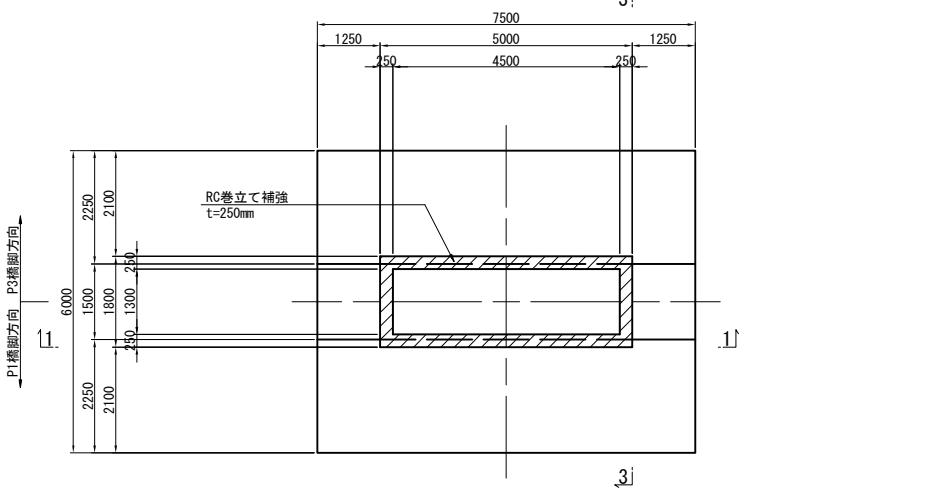
正面図
1 - 1



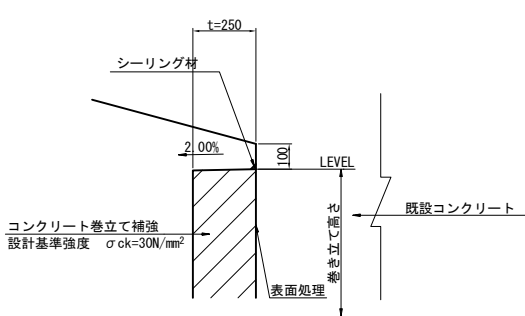
側面図
3 - 3



平面図
2 - 2



a部詳細図 S=1:30



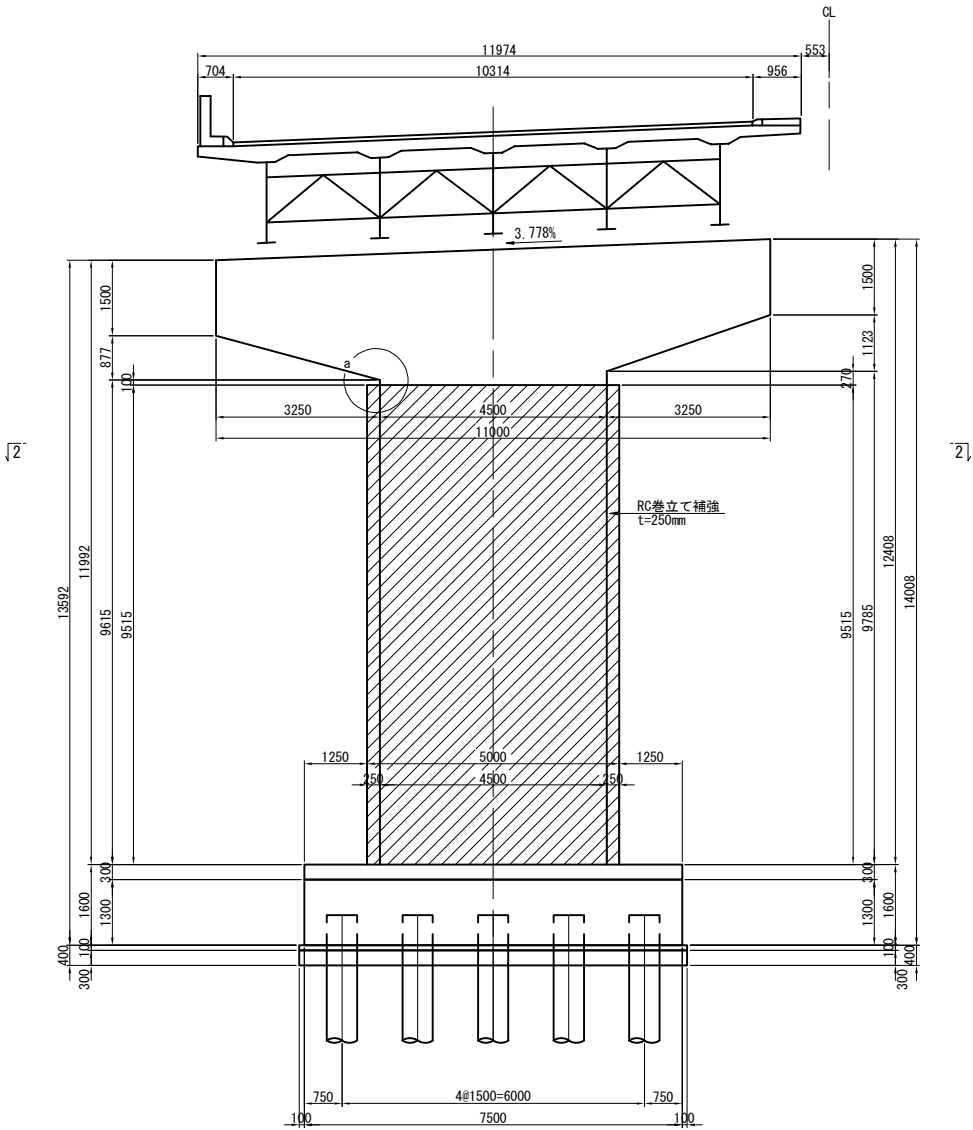
使用材料

工 種		仕様
既設部	コンクリート	$\sigma_{ck}=24\text{N/mm}^2$
	鉄 筋	SD295
補強部	コンクリート	$\sigma_{ck}=30\text{N/mm}^2$
	鉄 筋	SD345

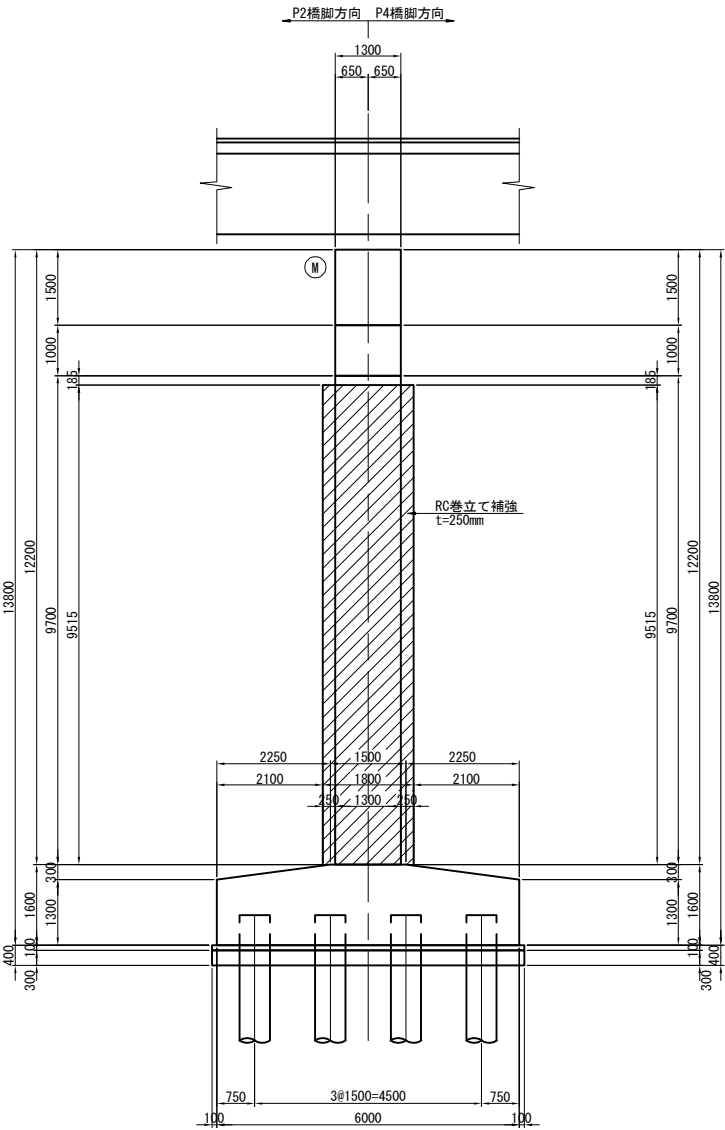
- 注) 1. 施工前に既設形状寸法を確認すること。
2. アンカー定着鉄筋の削孔にあたっては、既設構造物の鉄筋を切断しないように現在の配筋状態を事前に鉄筋探査等による調査を実施し、確認すること。
3. 補強部分(既設面)は、WJによる表面処理を行うこと。

常磐自動車道 田野高架橋耐震補強工事			
図面の種類	田野高架橋(下り線) P2橋脚耐震補強構造図		
縮 尺	図 示	図面番号	6 / 79
設計会社名	株式会社 復建技術コンサルタント		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 水戸管理事務所		

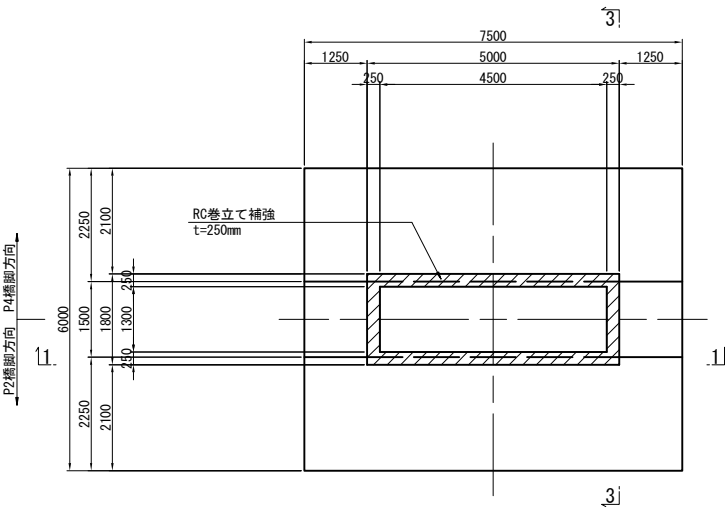
正面図
1 - 1



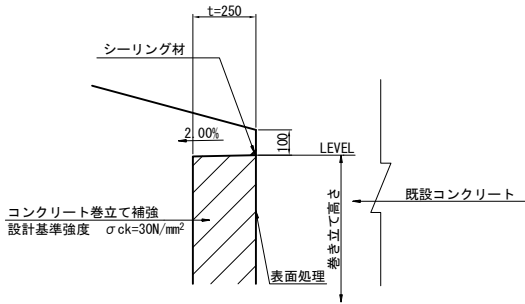
側面図
3 - 3



平面図
2 - 2



a部詳細図 S=1:30



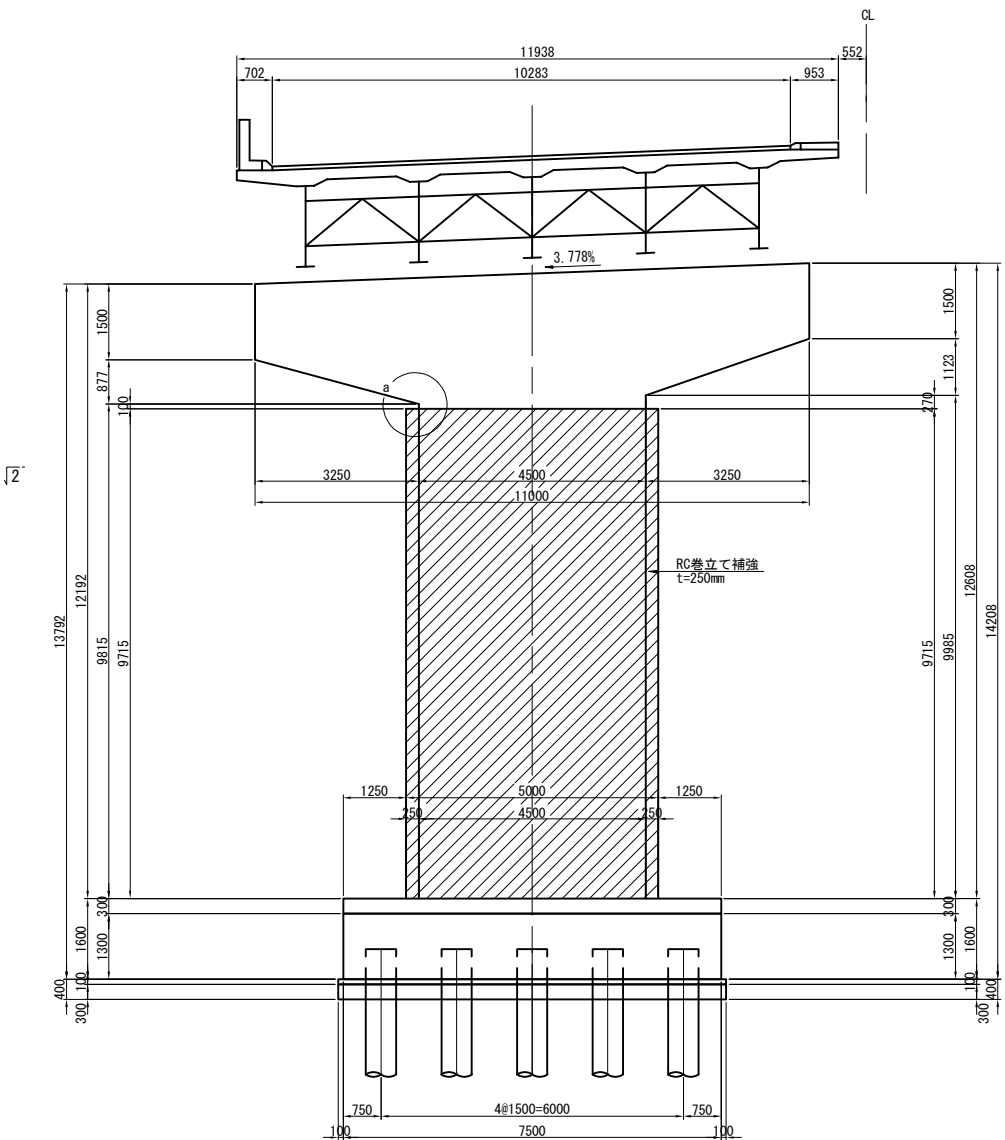
使用材料

工	種	仕様
既設部	コンクリート	$\sigma_{ck}=24\text{N/mm}^2$
	鉄筋	SD295
補強部	コンクリート	$\sigma_{ck}=30\text{N/mm}^2$
	鉄筋	SD345

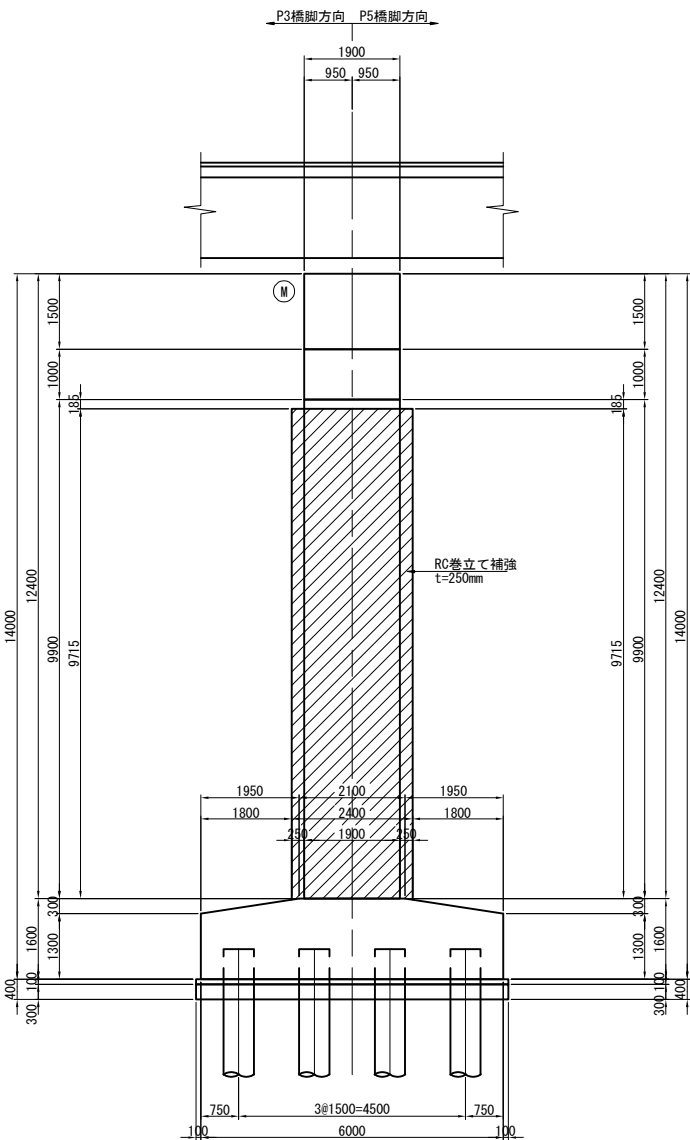
- 注) 1. 施工前に既設形状寸法を確認すること。
2. アンカ一定着鉄筋の削孔にあたっては、既設構造物の鉄筋を切断しないように現在の配筋状態を事前に鉄筋探査等による調査を実施し、確認すること。
3. 補強部分(既設面)は、WJによる表面処理を行うこと。

常磐自動車道 田野高架橋耐震補強工事				
図面の種類	田野高架橋(下り線) P3橋脚耐震補強構造図			
縮 尺	図 示	図面番号	7 / 79	
設計会社名	株式会社 復建技術コンサルタント			
施工会社名				
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 水戸管理事務所			

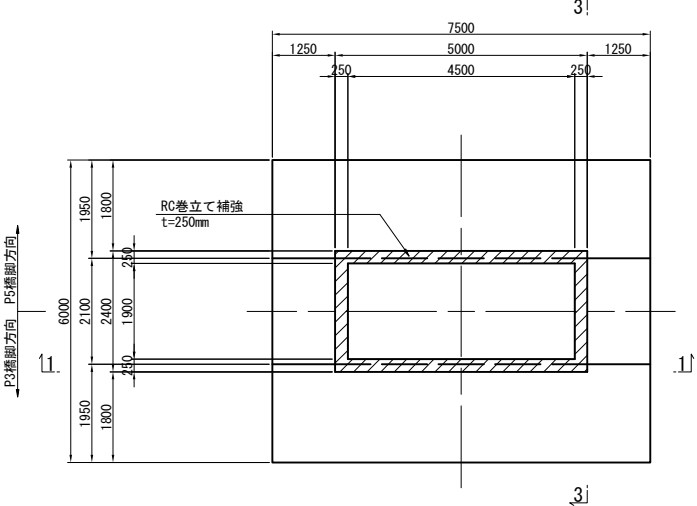
正面図
1 - 1



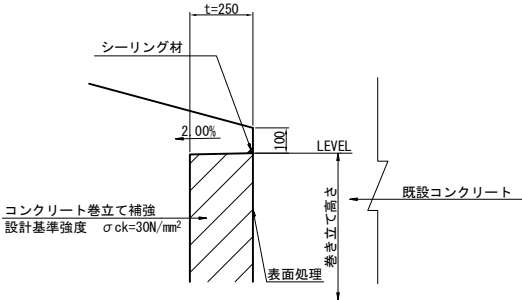
側面図
3 - 3



平面図
2 - 2



a部詳細図 S=1:30



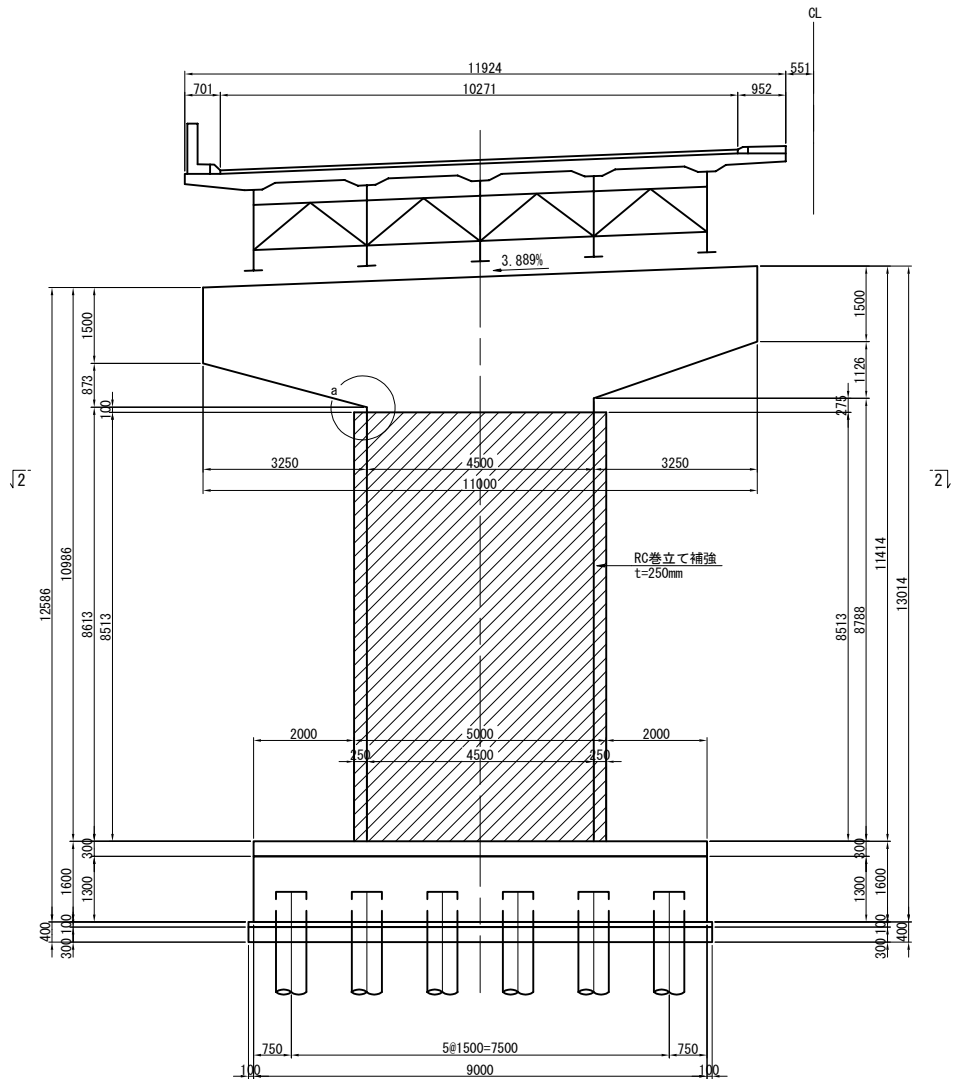
使用材料

工	種	仕様
既設部	コンクリート	$\sigma_{ck}=24\text{N/mm}^2$
	鉄筋	SD295
補強部	コンクリート	$\sigma_{ck}=30\text{N/mm}^2$
	鉄筋	SD345

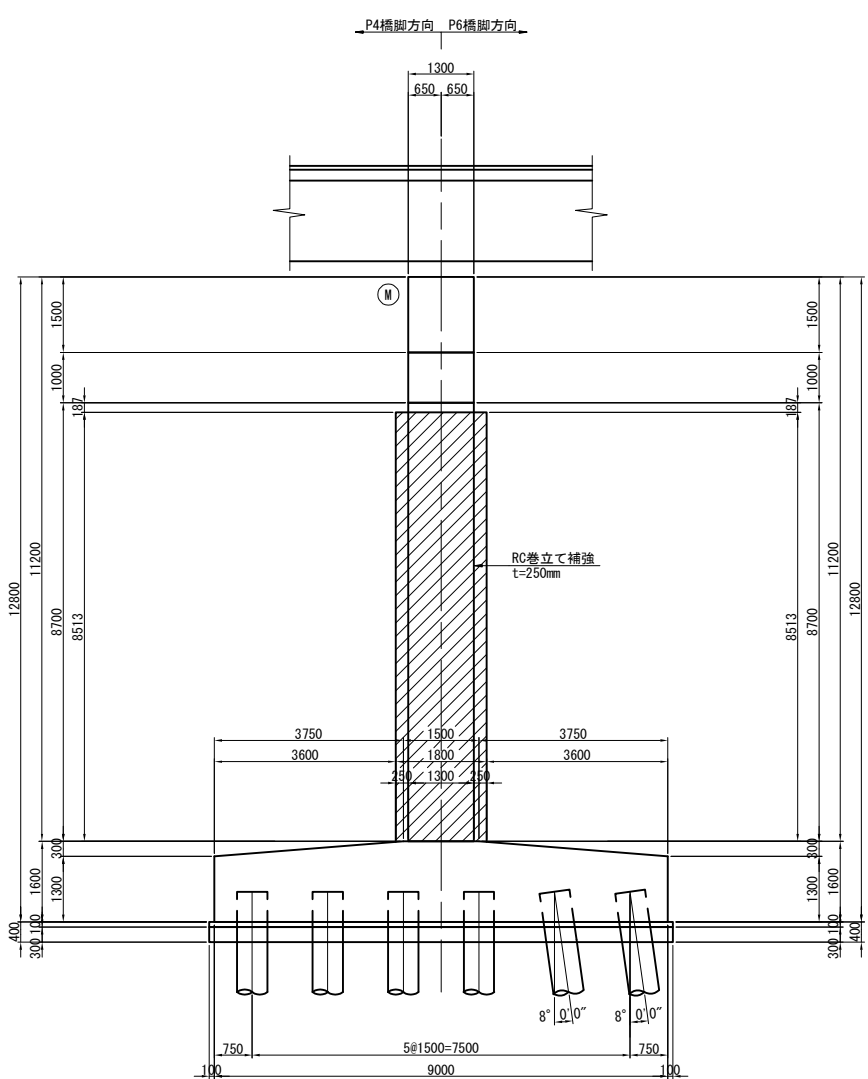
- 注) 1. 施工前に既設形状寸法を確認すること。
2. アンカ一定着鉄筋の削孔にあたっては、既設構造物の鉄筋を切断しないように現在の配筋状態を事前に鉄筋探査等による調査を実施し、確認すること。
3. 補強部分(既設面)は、WJによる表面処理を行うこと。

常磐自動車道 田野高架橋耐震補強工事			
図面の種類	田野高架橋(下り線) P4橋脚耐震補強構造図		
縮尺	図示	図面番号	8 / 79
設計会社名	株式会社 復建技術コンサルタント		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 水戸管理事務所		

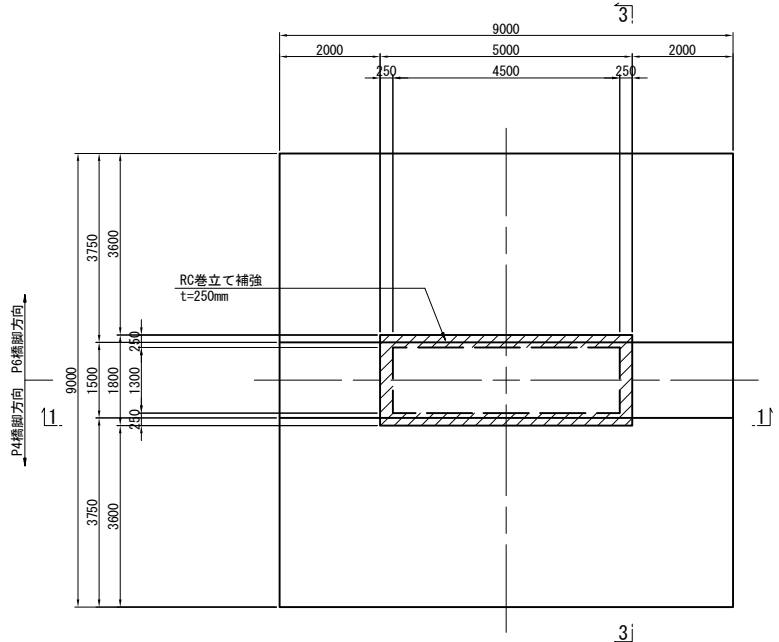
正面図
1 - 1



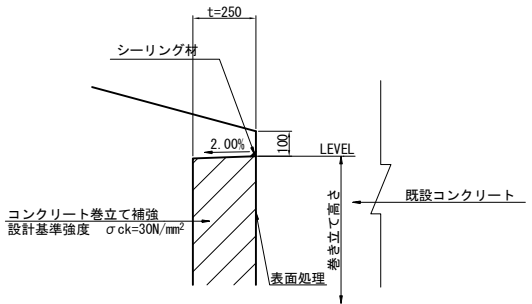
側面図
3 - 3



平面図
2 - 2



a部詳細図 S=1:30



使用材料

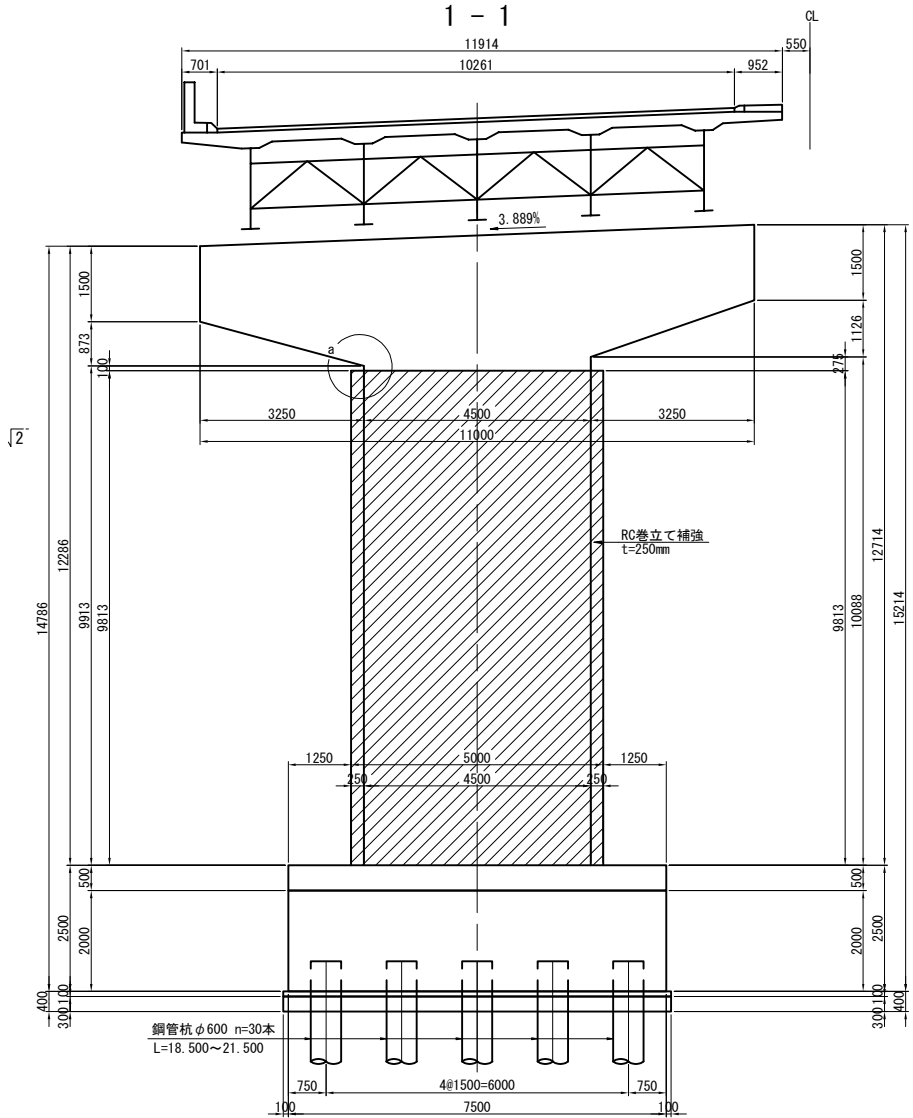
工 種	仕 様
既設部	コンクリート $\sigma_{ck}=24\text{N/mm}^2$
	鉄 筋 SD295
補強部	コンクリート $\sigma_{ck}=30\text{N/mm}^2$
	鉄 筋 SD345

- 注) 1. 施工前に既設形状寸法を確認すること。
2. アンカ一定着鉄筋の削孔にあたっては、既設構造物の鉄筋を切断しないように現在の配筋状態を事前に鉄筋探査等による調査を実施し、確認すること。
3. 補強部分(既設面)は、WJによる表面処理を行うこと。

常磐自動車道 田野高架橋耐震補強工事			
図面の種類	田野高架橋(下り線) P5橋脚耐震補強構造図		
縮 尺	図 示	図面番号	9 / 79
設計会社名	株式会社 復建技術コンサルタント		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 水戸管理事務所		

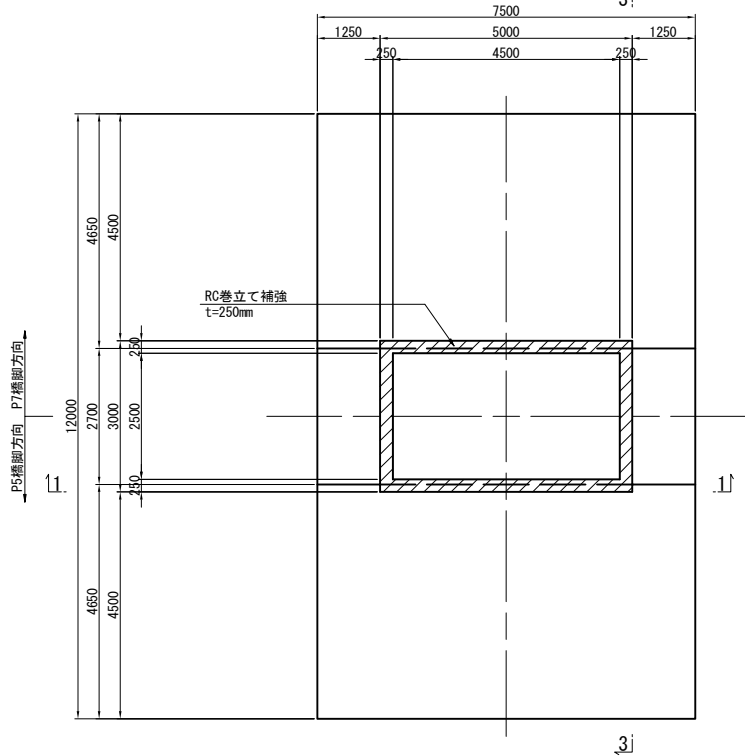
正面図

1 - 1



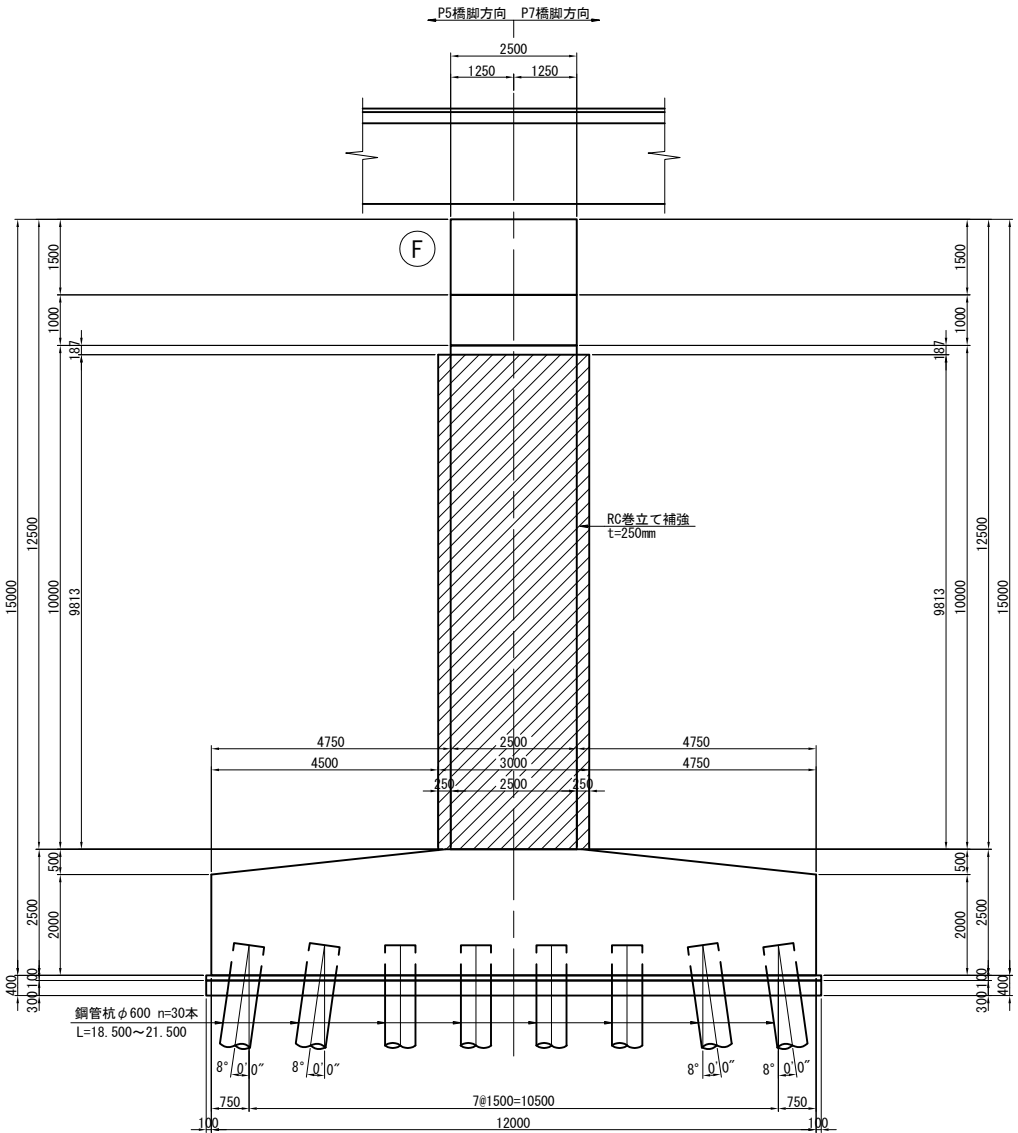
平面図

2 - 2

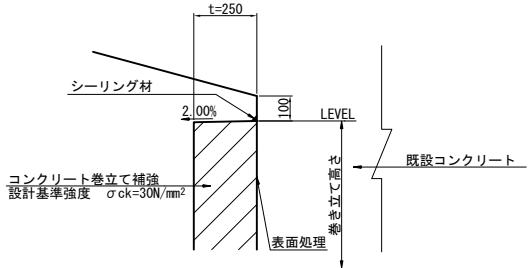


側面図

3 - 3



a部詳細図 S=1:30



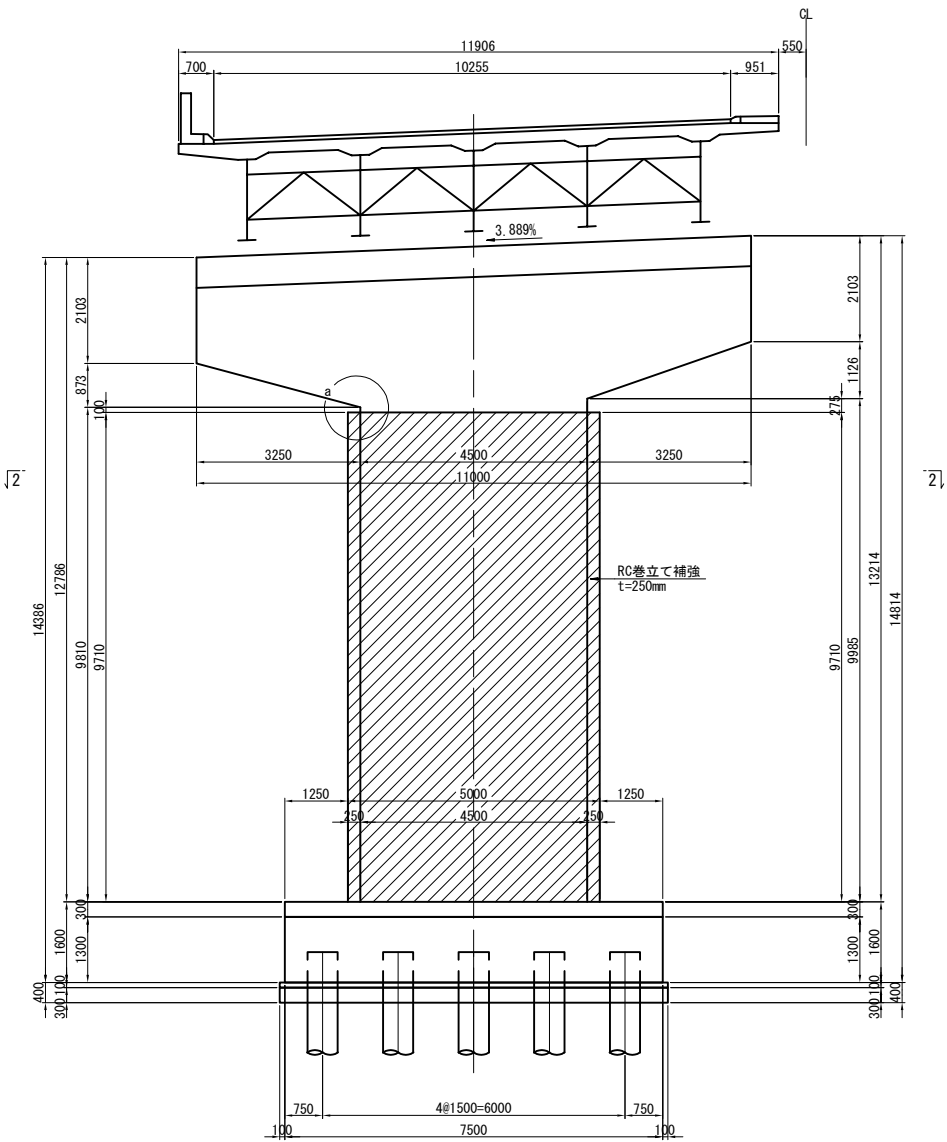
使用材料

工	種	仕様
既設部	コンクリート	$\sigma_{ck}=24\text{N/mm}^2$
	鉄筋	SD295
補強部	コンクリート	$\sigma_{ck}=30\text{N/mm}^2$
	鉄筋	SD345

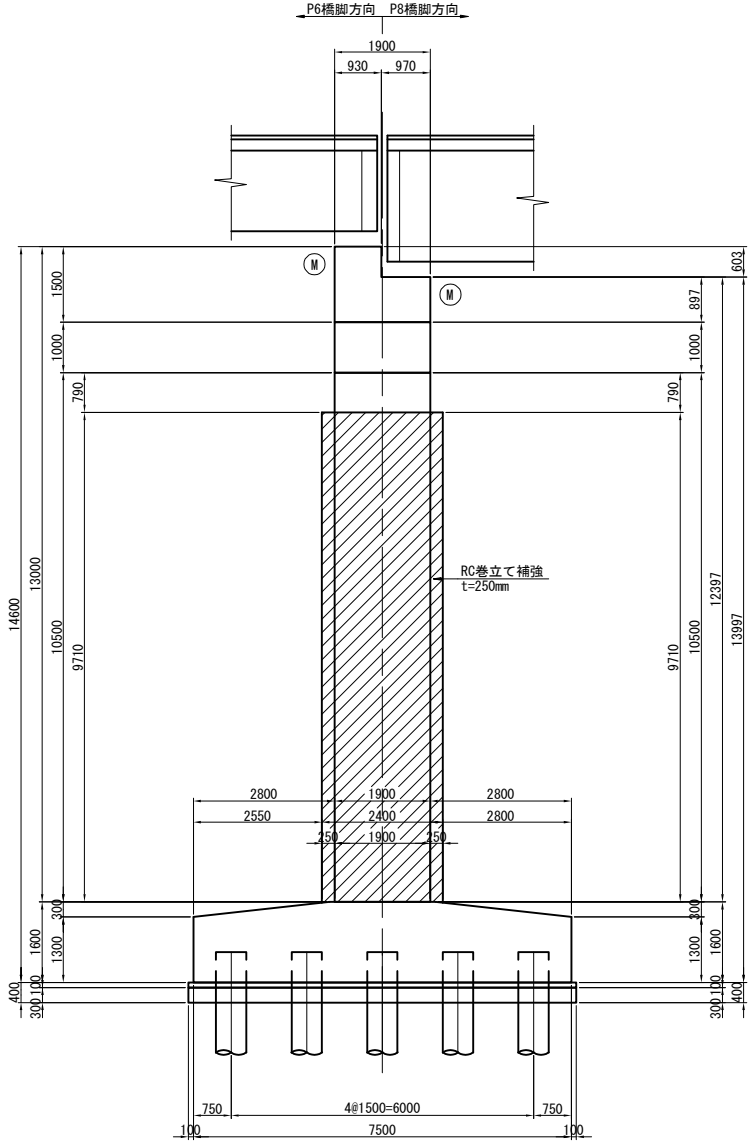
- 注) 1. 施工前に既設形状寸法を確認すること。
2. アンカー定着鉄筋の削孔にあたっては、既設構造物の鉄筋を切断しないように現在の配筋状態を事前に鉄筋探査等による調査を実施し、確認すること。
3. 補強部分(既設面)は、WJによる表面処理を行うこと。

常磐自動車道 田野高架橋耐震補強工事			
図面の種類	田野高架橋(下り線) P6橋脚耐震補強構造図		
縮尺	図示	図面番号	10 / 79
設計会社名	株式会社 復建技術コンサルタント		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 水戸管理事務所		

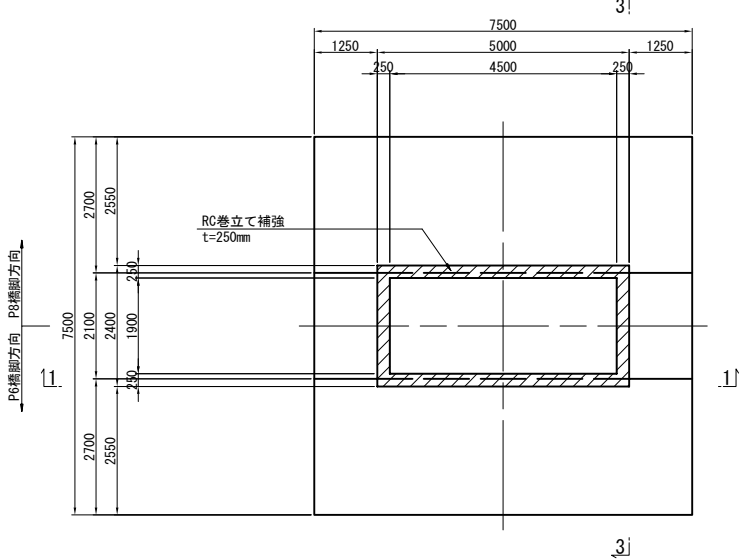
正面図
1 - 1



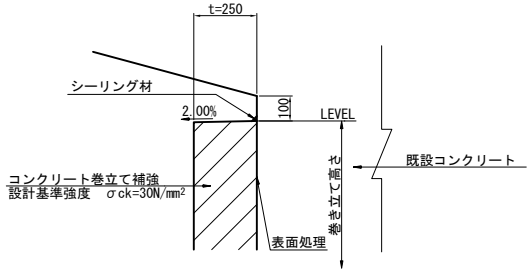
側面図
3 - 3



平面図
2 - 2



a部詳細図 S=1:30

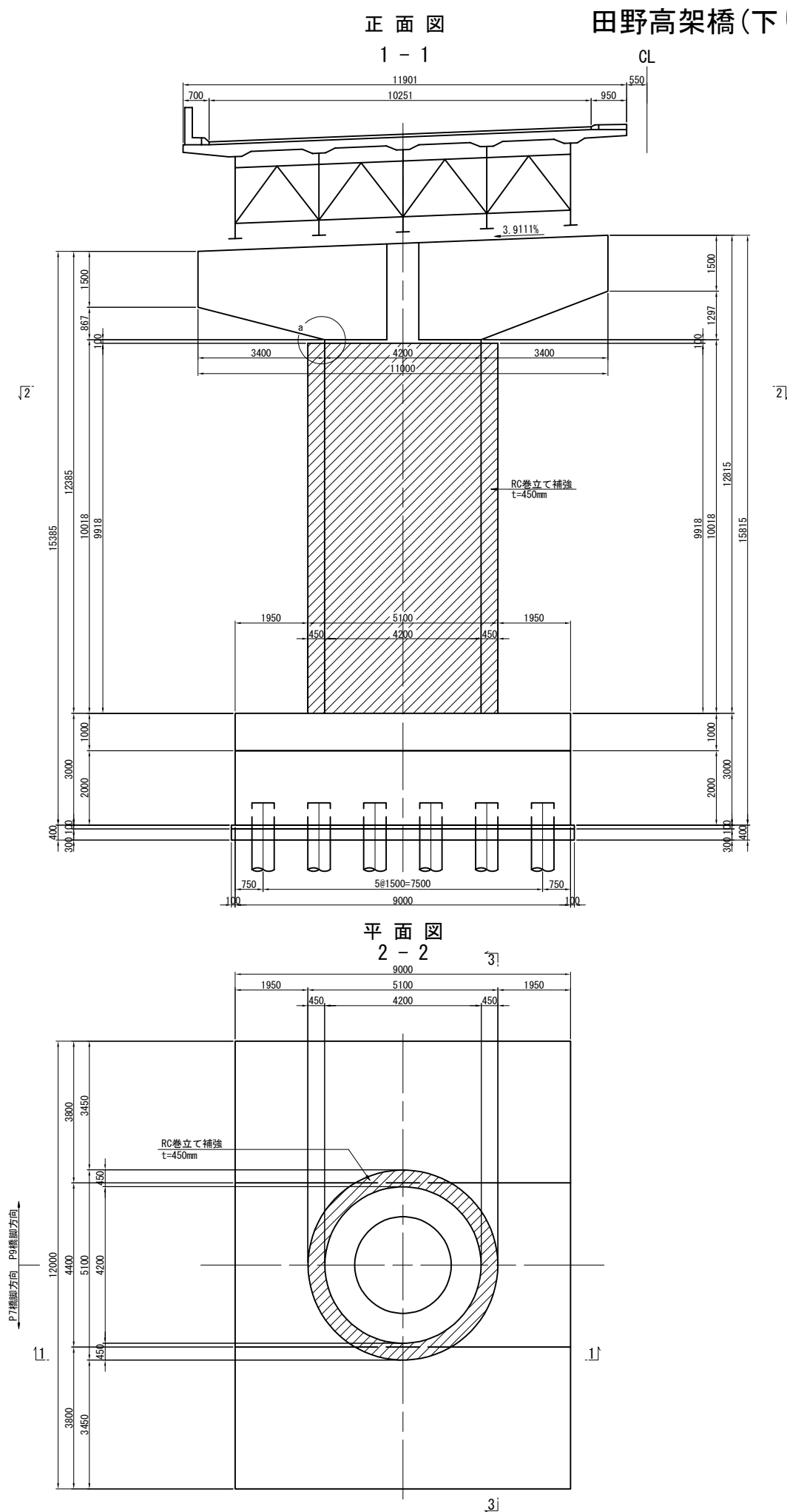


使用材料

工 種		仕様
既設部	コンクリート	$\sigma_{ck}=24\text{N/mm}^2$
	鉄 筋	SD295
補強部	コンクリート	$\sigma_{ck}=30\text{N/mm}^2$
	鉄 筋	SD345

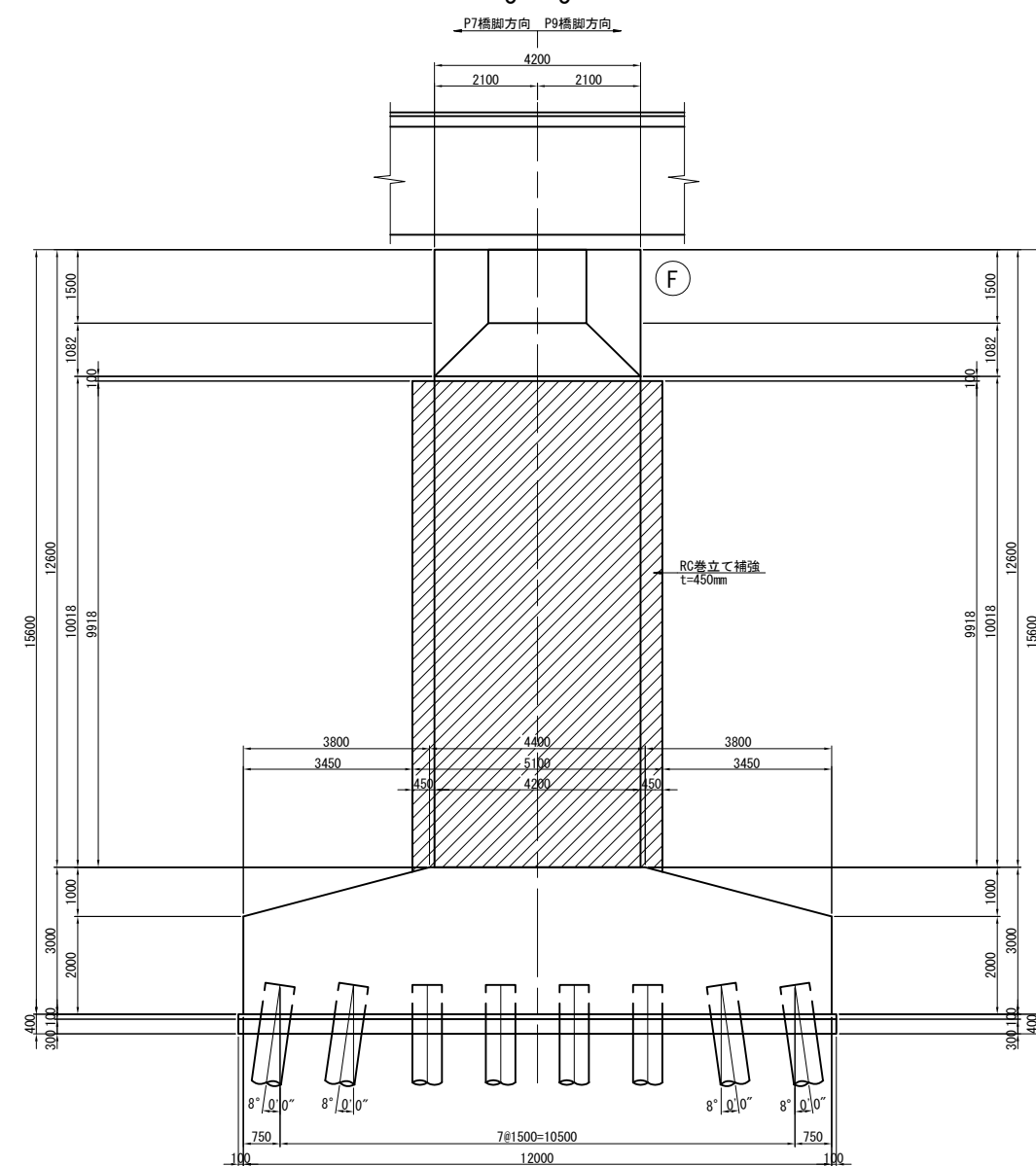
- 注) 1. 施工前に既設形状寸法を確認すること。
2. アンカー定着鉄筋の削孔にあたっては、既設構造物の鉄筋を切断しないように現在の配筋状態を事前に鉄筋探査等による調査を実施し、確認すること。
3. 補強部分(既設面)は、WJによる表面処理を行うこと。

常磐自動車道 田野高架橋耐震補強工事			
図面の種類	田野高架橋(下り線) P7橋脚耐震補強構造図		
縮 尺	図 示	図面番号	11 / 79
設計会社名	株式会社 復建技術コンサルタント		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 水戸管理事務所		

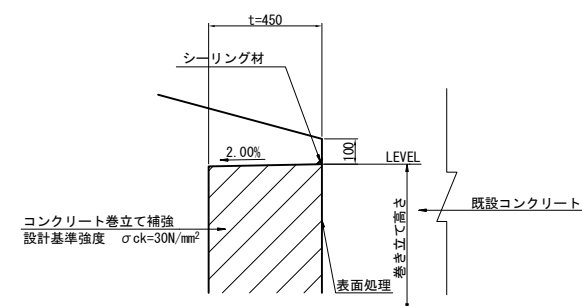


田野高架橋(下り線) P8橋脚耐震補強構造図

S=1:150 側面図
3 - 3



a部詳細図 S=1:30

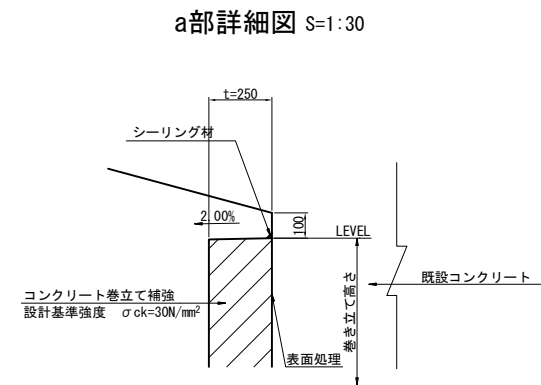
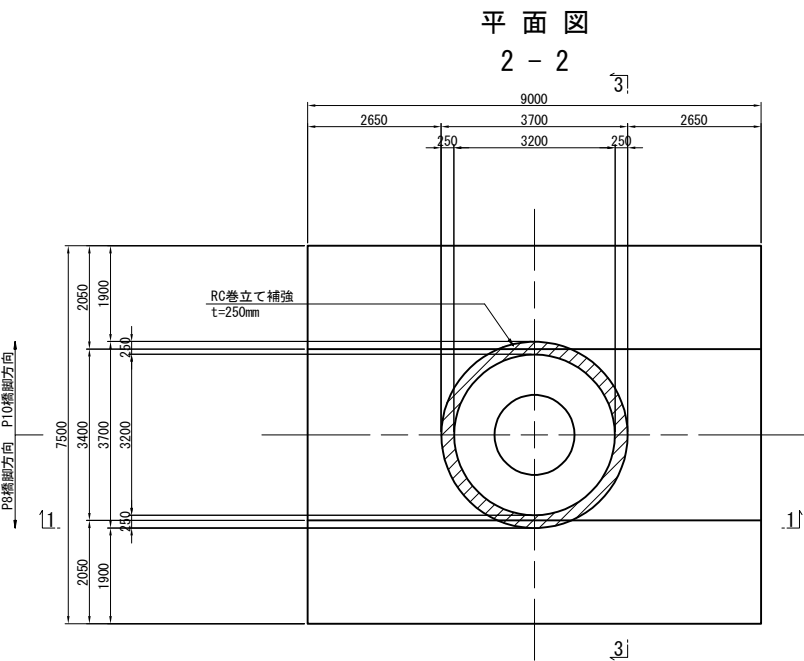
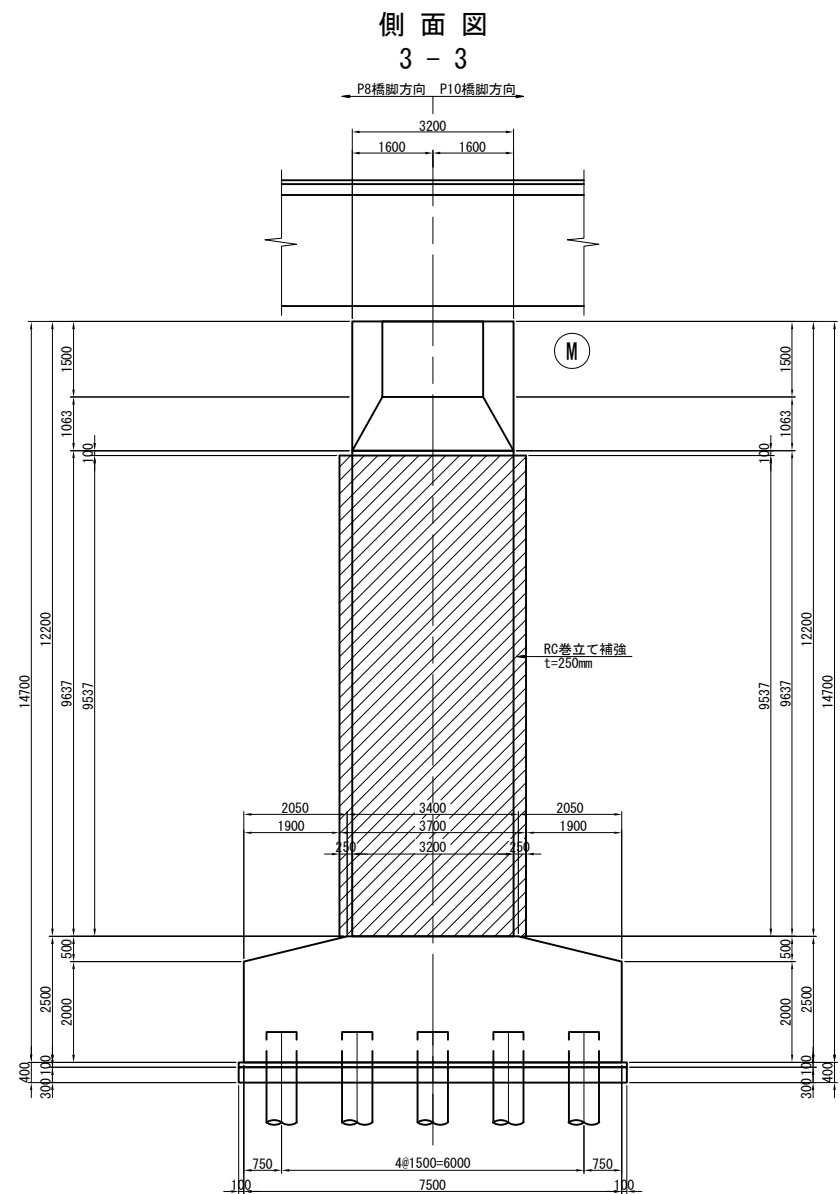
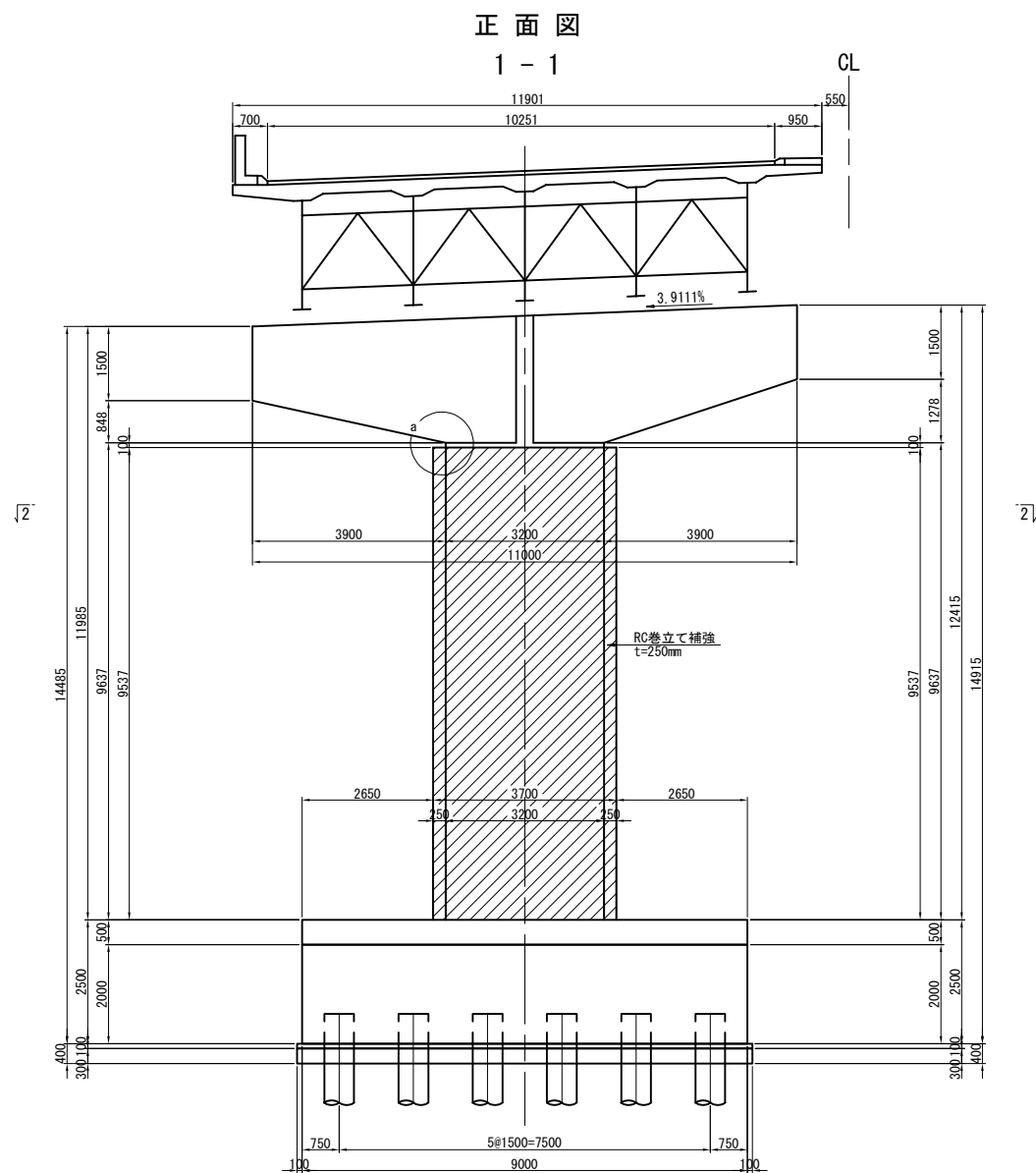


使用材料

工種	仕様
既設部	コンクリート $\sigma_{ck}=24\text{N/mm}^2$
	鉄筋 SD295
補強部	コンクリート $\sigma_{ck}=30\text{N/mm}^2$
	鉄筋 SD345

- 注) 1. 施工前に既設形状寸法を確認すること。
2. アンカー定着鉄筋の削孔にあたっては、既設構造物の鉄筋を切断しないように現在の配筋状態を事前に鉄筋探査等による調査を実施し、確認すること。
3. 補強部分(既設面)は、WJによる表面処理を行うこと。

常磐自動車道 田野高架橋耐震補強工事			
図面の種類	田野高架橋(下り線) P8橋脚耐震補強構造図		
縮尺	図示	図面番号	12 / 79
設計会社名	株式会社 復建技術コンサルタント		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 水戸管理事務所		

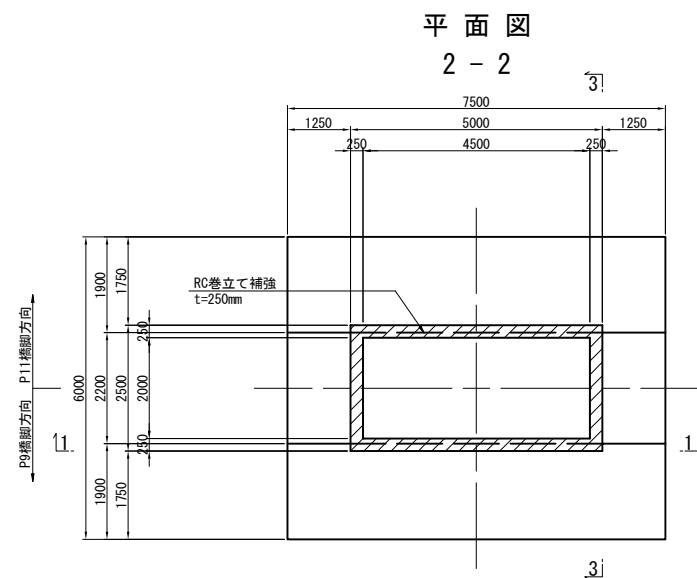
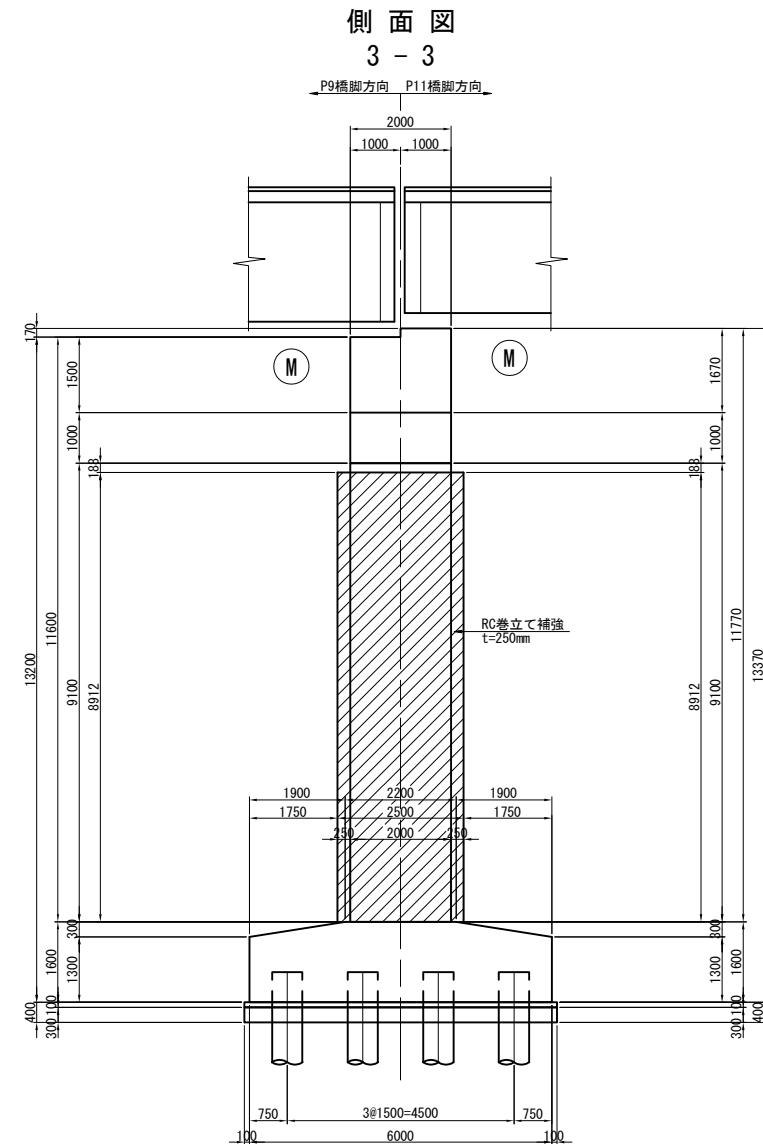
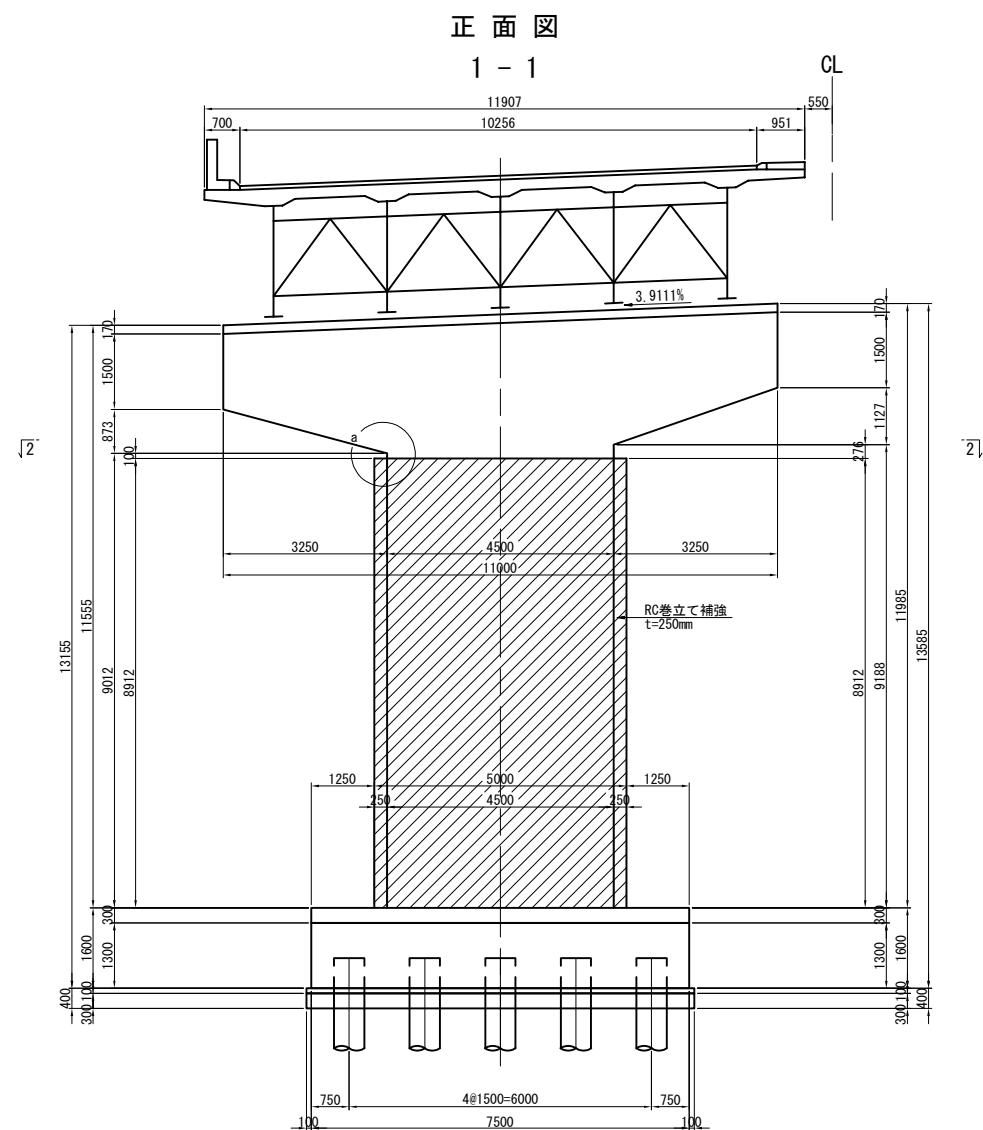


使用材料

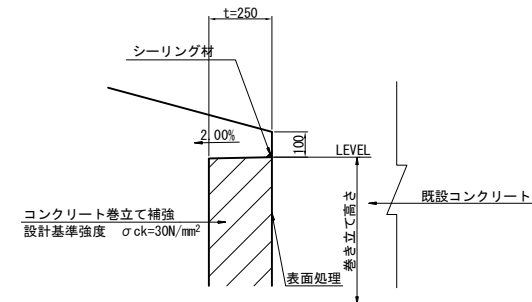
工 種		仕様
既設部	コンクリート	$\sigma_{ck}=24\text{N/mm}^2$
	鉄 筋	SD295
補強部	コンクリート	$\sigma_{ck}=30\text{N/mm}^2$
	鉄 筋	SD345

- 注) 1. 施工前に既設形状寸法を確認すること。
2. アンカー定着鉄筋の削孔にあたっては、既設構造物の鉄筋を切断しないように現在の配筋状態を事前に鉄筋探査等による調査を実施し、確認すること。
3. 補強部分(既設面)は、WJによる表面処理を行うこと。

常磐自動車道 田野高架橋耐震補強工事			
図面の種類	田野高架橋(下り線) P9橋脚耐震補強構造図		
縮 尺	図 示	図面番号	13 / 79
設計会社名	株式会社 復建技術コンサルタント		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 水戸管理事務所		



a部詳細図 S=1:30



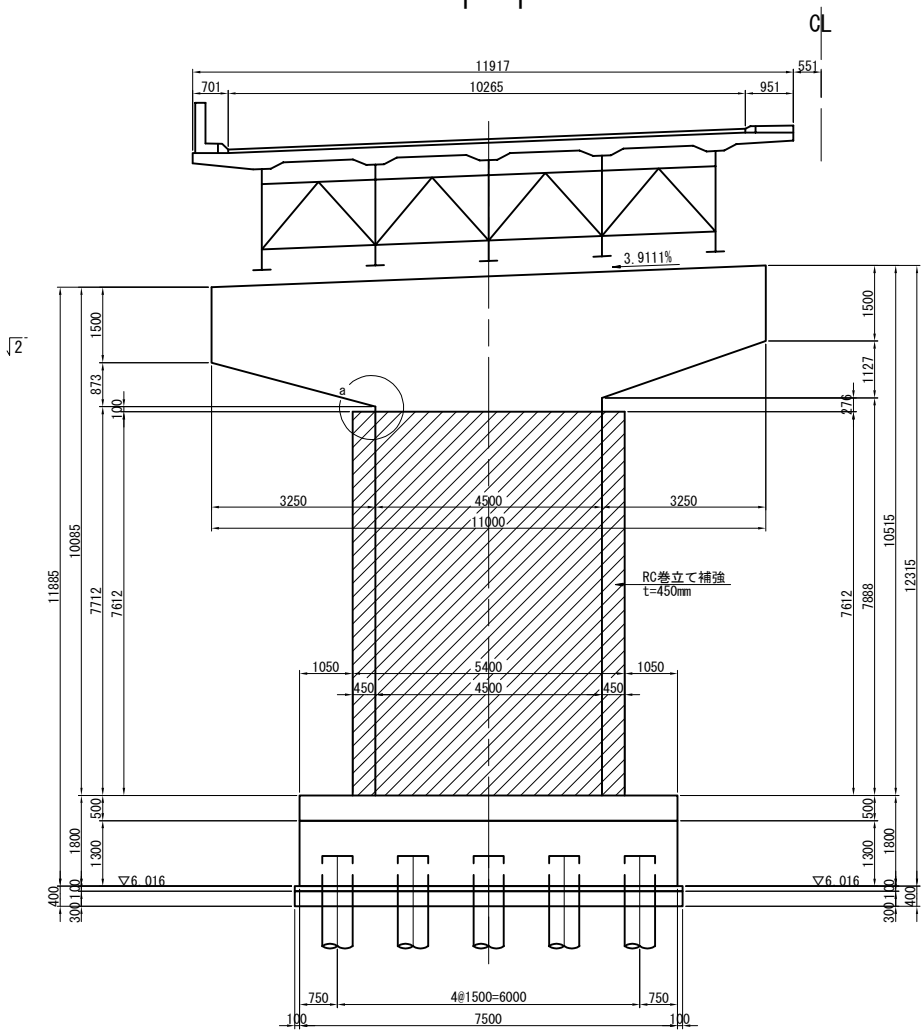
使用材料

工種	仕様
既設部	コンクリート $\sigma_{ck}=24\text{N/mm}^2$
	鉄筋 SD295
補強部	コンクリート $\sigma_{ck}=30\text{N/mm}^2$
	鉄筋 SD345

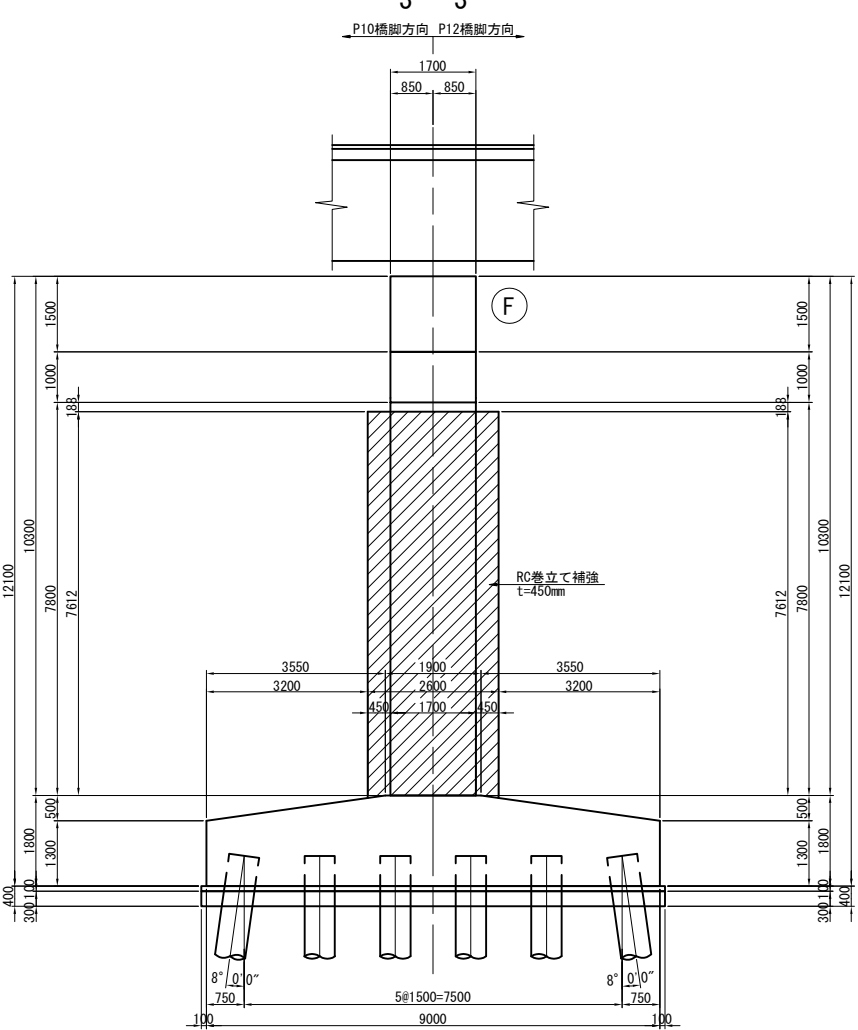
- 注) 1. 施工前に既設形状寸法を確認すること。
2. アンカ一定着鉄筋の削孔にあたっては、既設構造物の鉄筋を切断しないように現在の配筋状態を事前に鉄筋探査等による調査を実施し、確認すること。
3. 補強部分(既設面)は、WJによる表面処理を行うこと。

常磐自動車道 田野高架橋耐震補強工事			
図面の種類	田野高架橋(下り線) P10橋脚耐震補強構造図		
縮尺	図示	図面番号	14 / 79
設計会社名	株式会社 復建技術コンサルタント		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 水戸管理事務所		

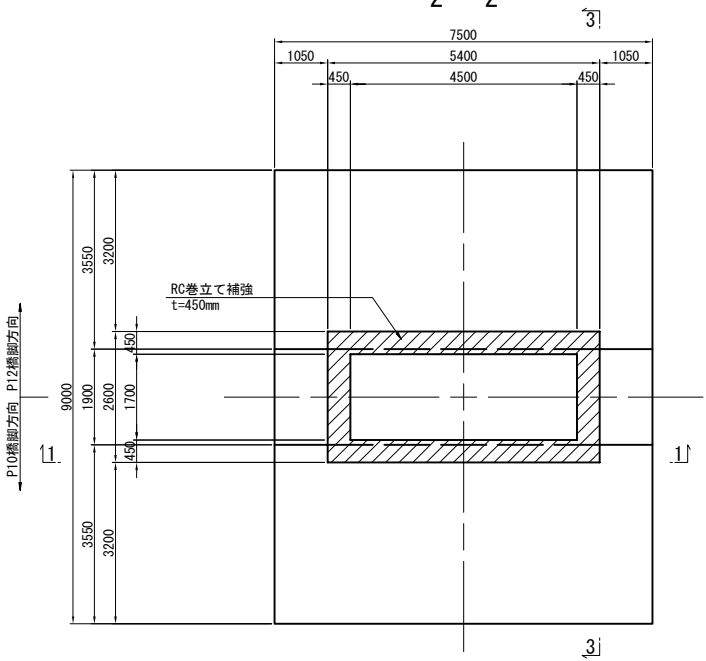
正面図
1 - 1



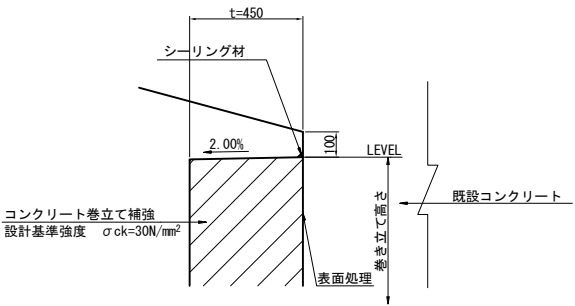
側面図
3 - 3



平面図
2 - 2



a部詳細図 S=1:30

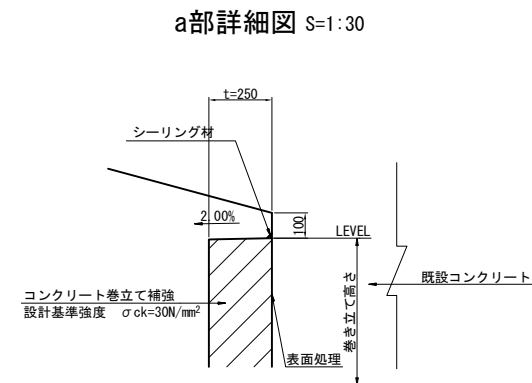
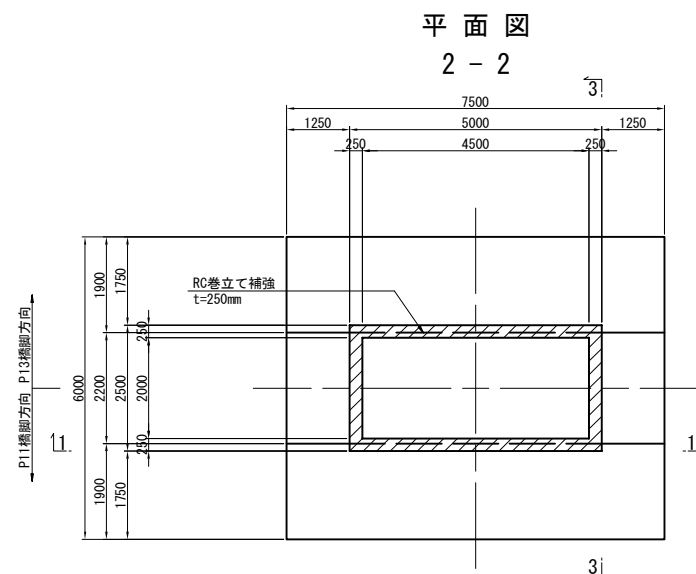
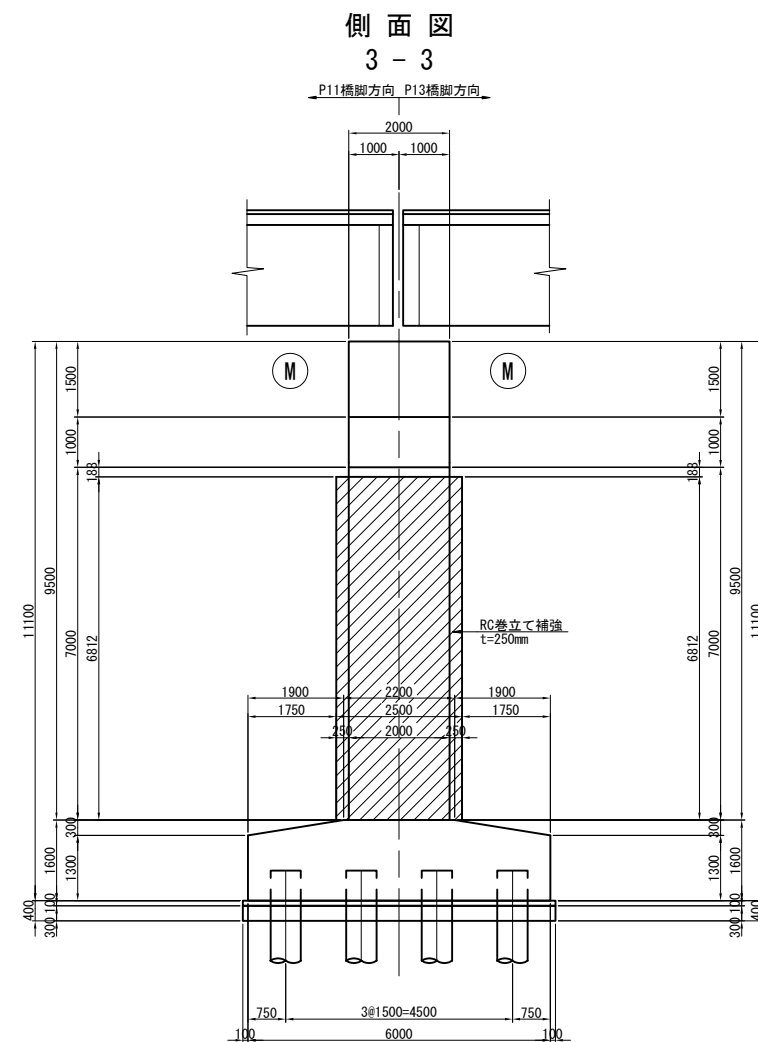
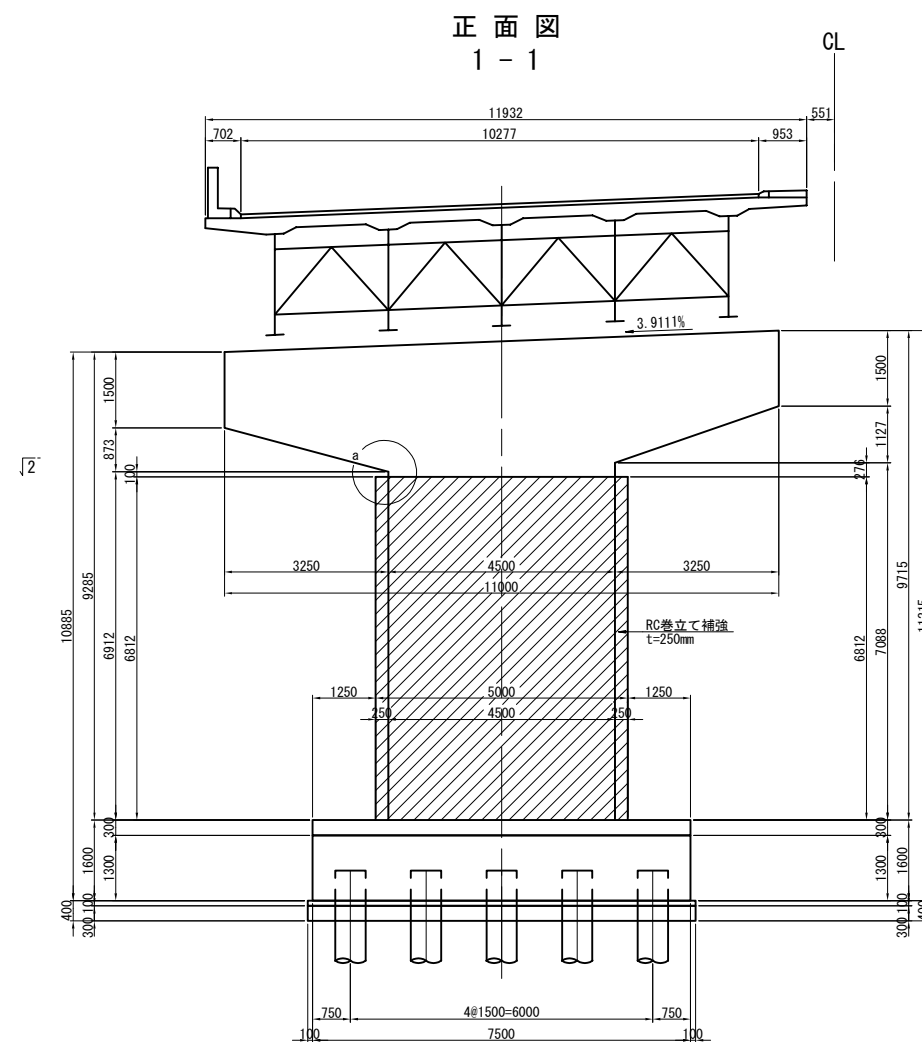


使用材料

工 種		仕様
既設部	コンクリート	$\sigma_{ck}=24\text{N/mm}^2$
	鉄 筋	SD295
補強部	コンクリート	$\sigma_{ck}=30\text{N/mm}^2$
	鉄 筋	SD345

- 注) 1. 施工前に既設形状寸法を確認すること。
2. アンカー定着鉄筋の削孔にあたっては、既設構造物の鉄筋を切断しないように現在の配筋状態を事前に鉄筋探査等による調査を実施し、確認すること。
3. 補強部分(既設面)は、WJによる表面処理を行うこと。

常磐自動車道 田野高架橋耐震補強工事			
図面の種類	田野高架橋(下り線) P11橋脚耐震補強構造図		
縮 尺	図 示	図面番号	15 / 79
設計会社名	株式会社 復建技術コンサルタント		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 水戸管理事務所		



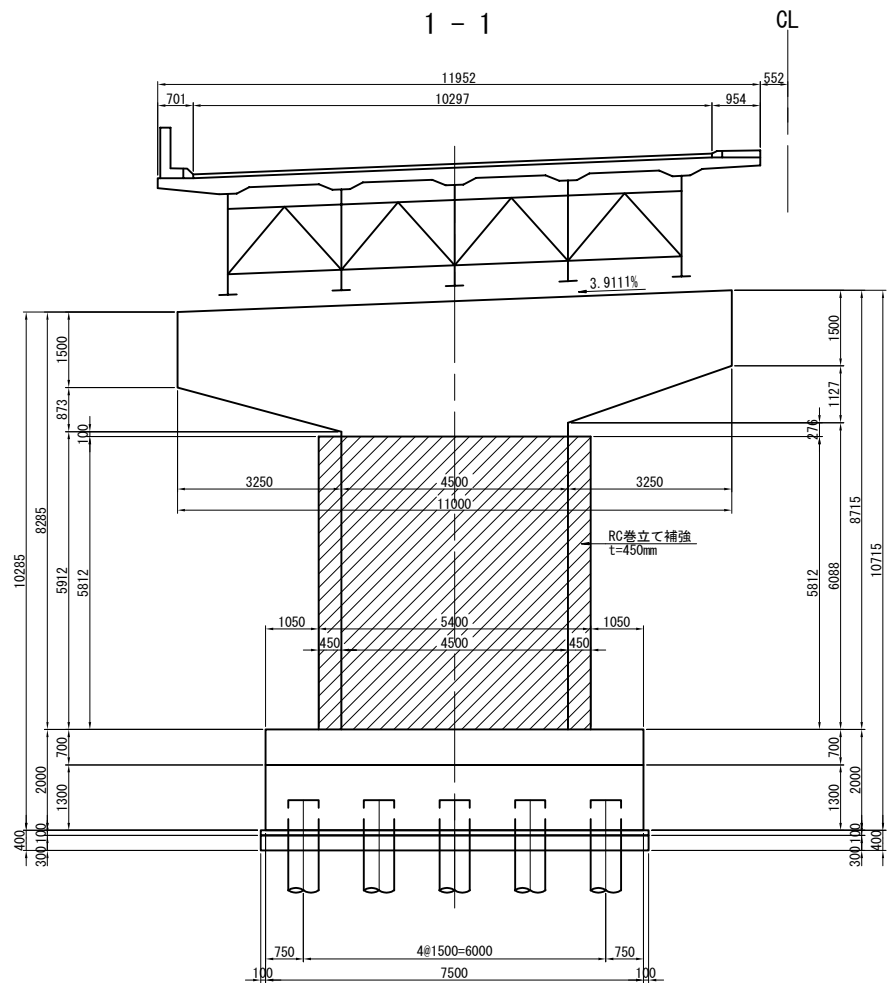
使用材料

工 種	仕 様
既設部	コンクリート $\sigma_{ck}=24\text{N/mm}^2$
	鉄 筋 SD295
補強部	コンクリート $\sigma_{ck}=30\text{N/mm}^2$
	鉄 筋 SD345

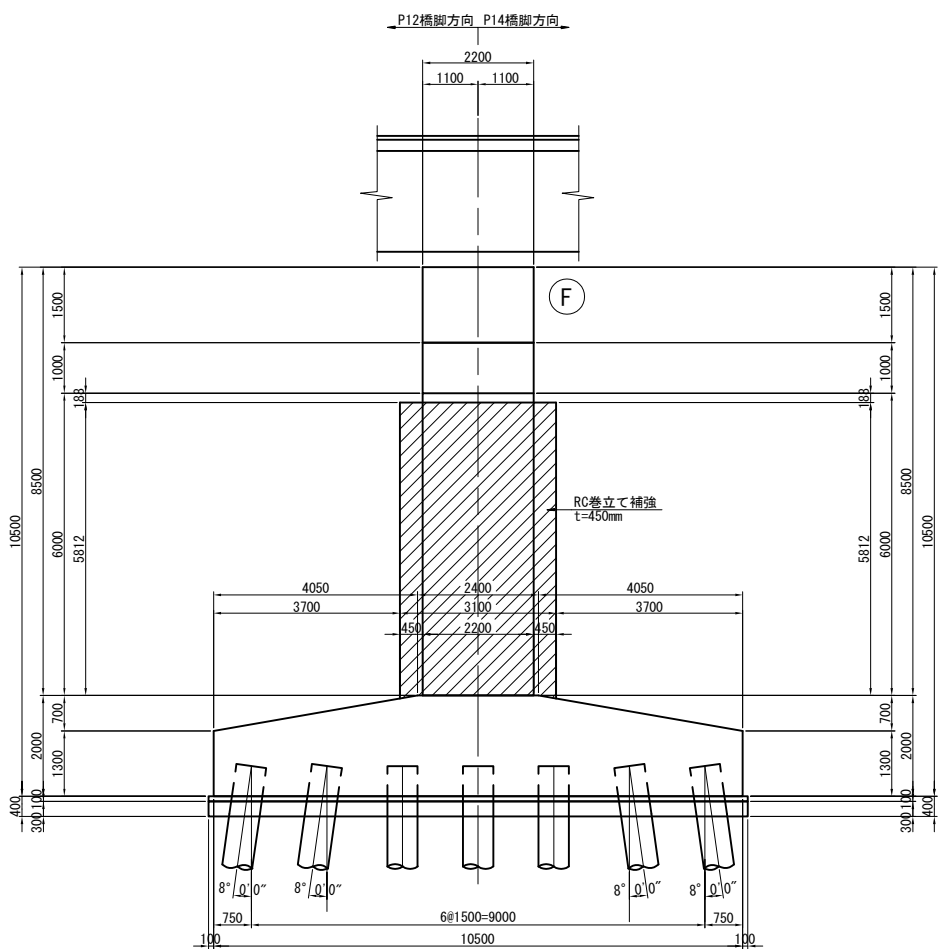
- 注) 1. 施工前に既設形状寸法を確認すること。
2. アンカー定着鉄筋の削孔にあたっては、既設構造物の鉄筋を切断しないように現在の配筋状態を事前に鉄筋探査等による調査を実施し、確認すること。
3. 補強部分(既設面)は、WJによる表面処理を行うこと。

常磐自動車道 田野高架橋耐震補強工事				
図面の種類	田野高架橋(下り線) P12橋脚耐震補強構造図			
	縮 尺	図 示	図面番号	16 / 79
設計会社名	株式会社 復建技術コンサルタント			
施工会社名				
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社			
	水戸管理事務所			

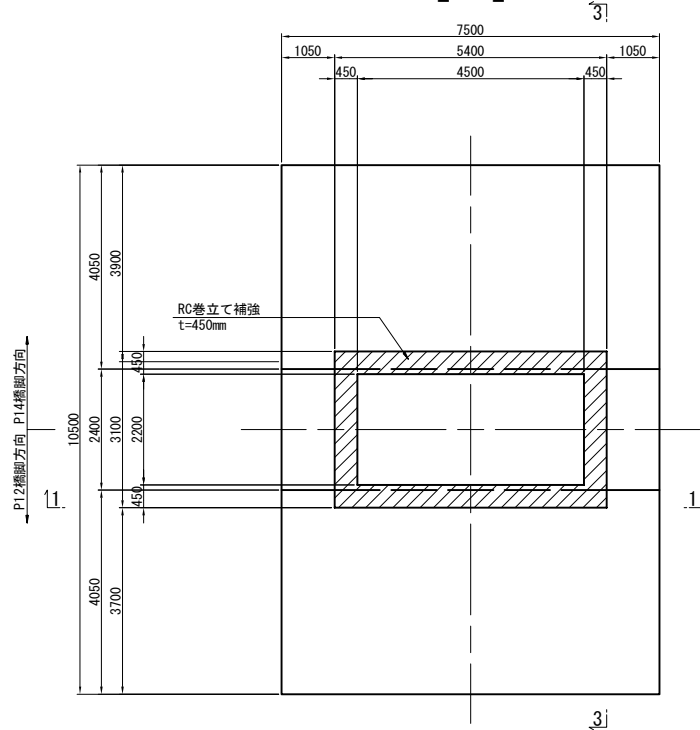
正面図
1 - 1



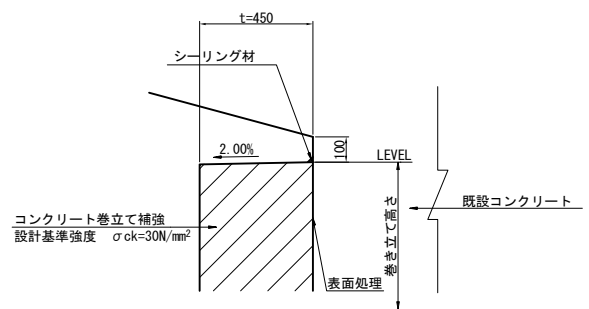
側面図
3 - 3



平面図
2 - 2



a部詳細図 S=1:30

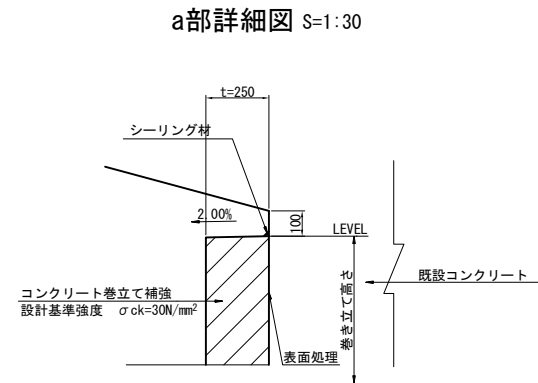
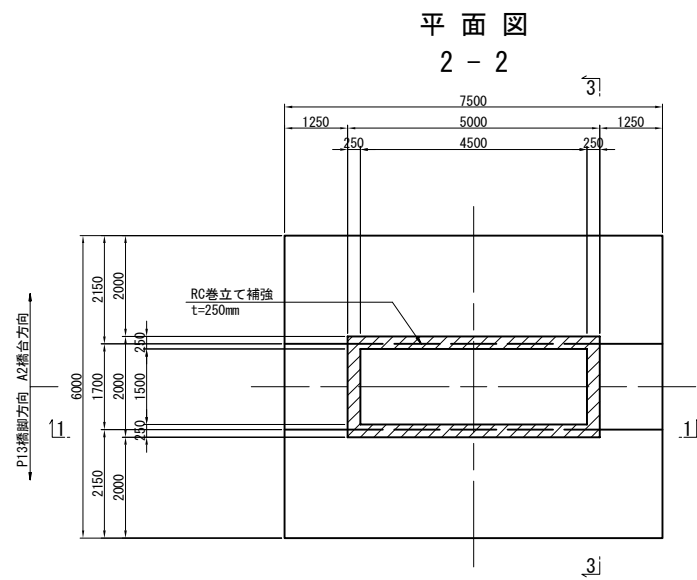
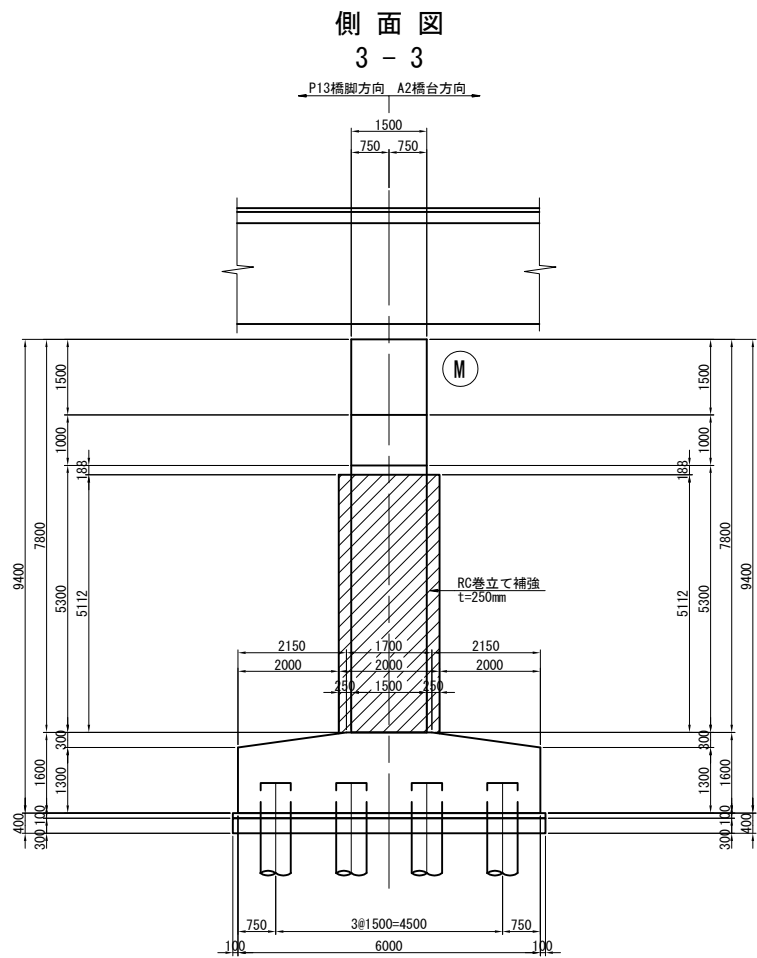
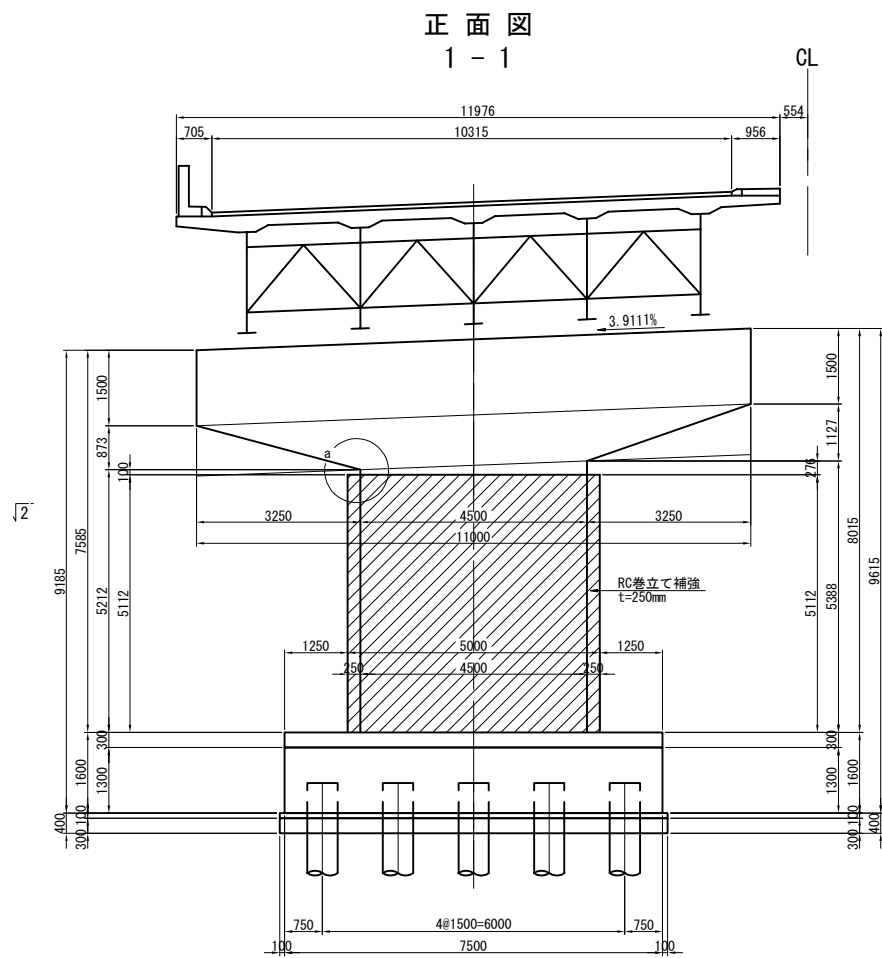


使用材料

工	種	仕様
既設部	コンクリート	$\sigma_{ck}=24\text{N/mm}^2$
	鉄筋	SD295
補強部	コンクリート	$\sigma_{ck}=30\text{N/mm}^2$
	鉄筋	SD345

- 注) 1. 施工前に既設形状寸法を確認すること。
2. アンカー定着鉄筋の削孔にあたっては、既設構造物の鉄筋を切断しないように現在の配筋状態を事前に鉄筋探査等による調査を実施し、確認すること。
3. 補強部分(既設面)は、WJによる表面処理を行うこと。

常磐自動車道 田野高架橋耐震補強工事			
図面の種類	田野高架橋(下り線) P13橋脚耐震補強構造図		
縮尺	図示	図面番号	17 / 79
設計会社名	株式会社 復建技術コンサルタント		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 水戸管理事務所		

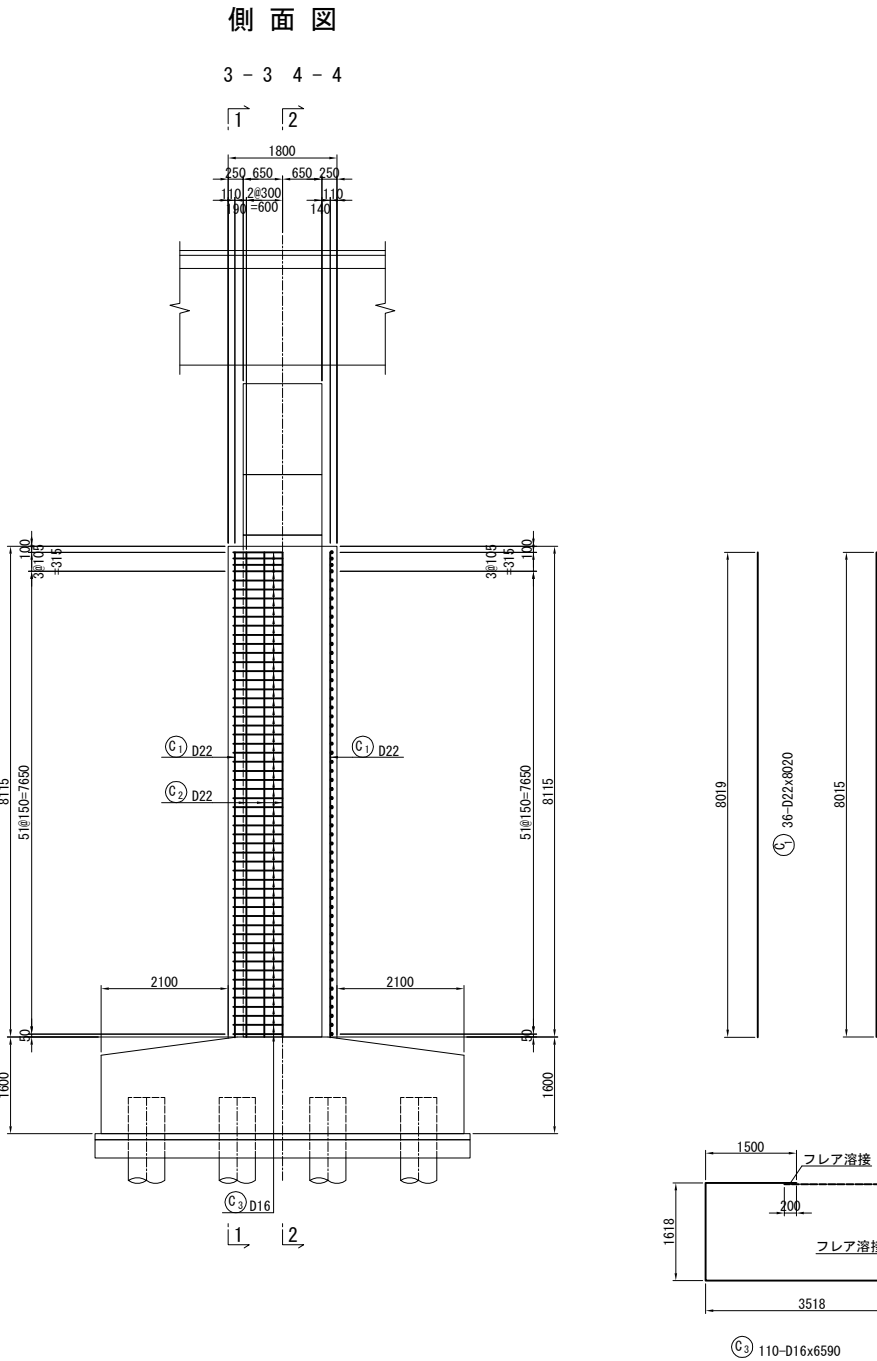
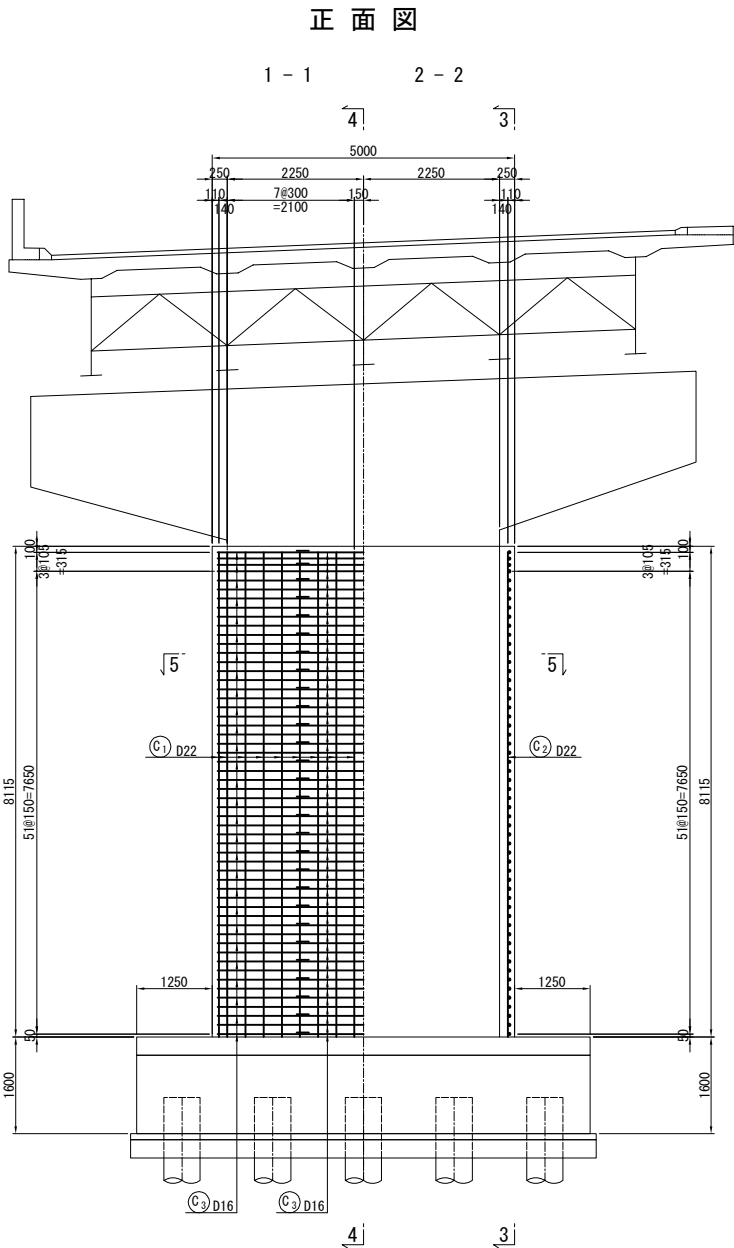


使用材料

工 種		仕様
既設部	コンクリート	$\sigma_{ck}=24\text{N/mm}^2$
	鉄 筋	SD295
補強部	コンクリート	$\sigma_{ck}=30\text{N/mm}^2$
	鉄 筋	SD345

- 注) 1. 施工前に既設形状寸法を確認すること。
2. アンカ一定着鉄筋の削孔にあたっては、既設構造物の鉄筋を切断しないように現在の配筋状態を事前に鉄筋探査等による調査を実施し、確認すること。
3. 補強部分(既設面)は、WJによる表面処理を行うこと。

常磐自動車道 田野高架橋耐震補強工事			
図面の種類	田野高架橋(下り線) P14橋脚耐震補強構造図		
縮 尺	図 示	図面番号	18 / 79
設計会社名	株式会社 復建技術コンサルタント		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 水戸管理事務所		



鉄筋表 (橋脚1基当り)

記号	径	長さ (mm)	本数 (本)	単位質量 (kg/m)	本当り質量 (kg/本)	質量 (kg)	摘要
C1	D22	8020	36	3.04	24.4	878	└
C2	"	8020	10	"	24.4	244	└
C3	D16	6590	110	1.56	10.3	1133	└ <110>
2255 kg							
フレア溶接箇所数							
D22				1122 kg			
D16				1133 kg	<110>		
合計				2255 kg	<110>		

注：◇内はフレア溶接箇所数を示す。

組立てアンカー参考数量 (橋脚1基当り)

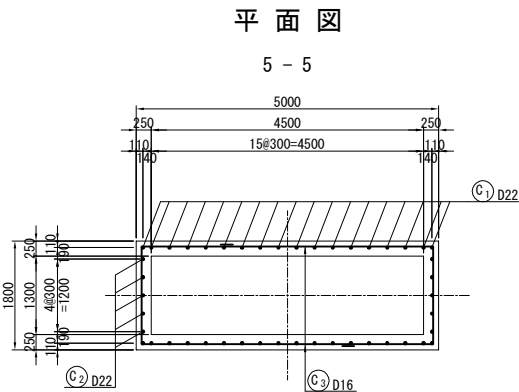
種別	径	長さ (mm)	本数 (本)	単位質量 (kg/m)	本当り質量 (kg/本)	質量 (kg)	摘要
組立て鉄筋	D13	240	94	0.995	0.239	22	r
合計							22 kg
D13 (SD345)							22 kg
コンクリートアンカー							M12 94 本

※ 組立てアンカー本数
94.1 m2 × 1本/m2 =94本

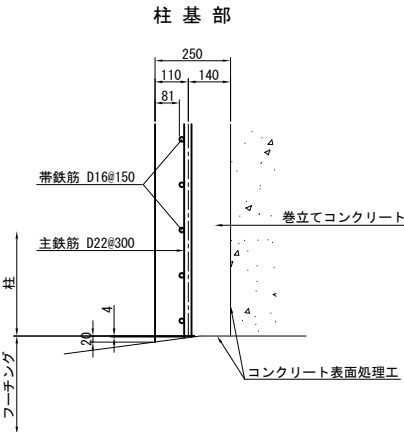
鉄筋加工寸法表

		主			筋		
		θ=90°			θ=135°		
	R	a	△L	R	a	△L	
D13	39	61	17	71.5	56	3	
D16	48	75	21	88	69	4	
D19	57	89	25	104.5	82	5	
D22	66	104	28	121	95	5	

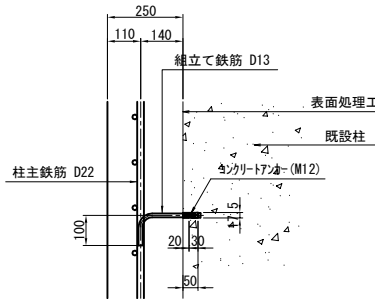
※ 上記に当てはまらない角度は各々の角度で減長計算している。



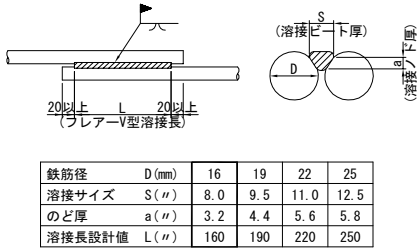
鉄筋かぶり詳細図 S=1:25



組立てアンカー参考図 S=1:25



フレア溶接詳細図

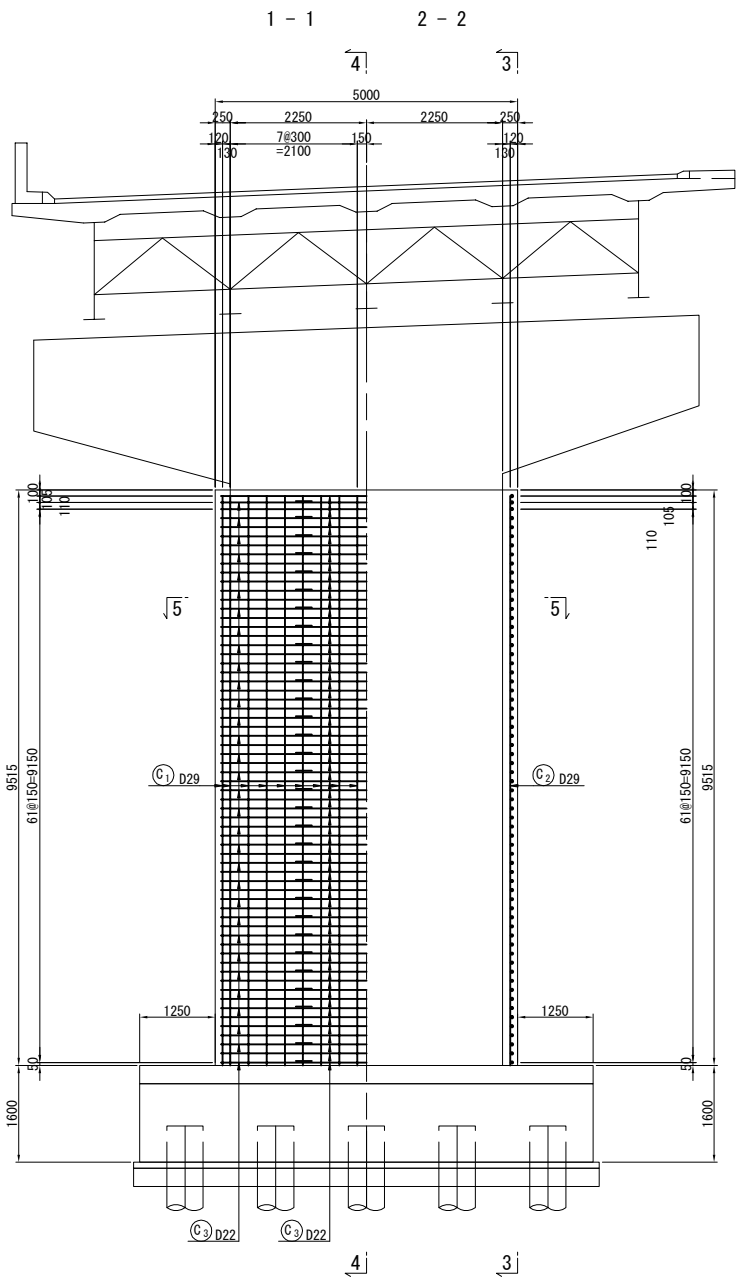


注記

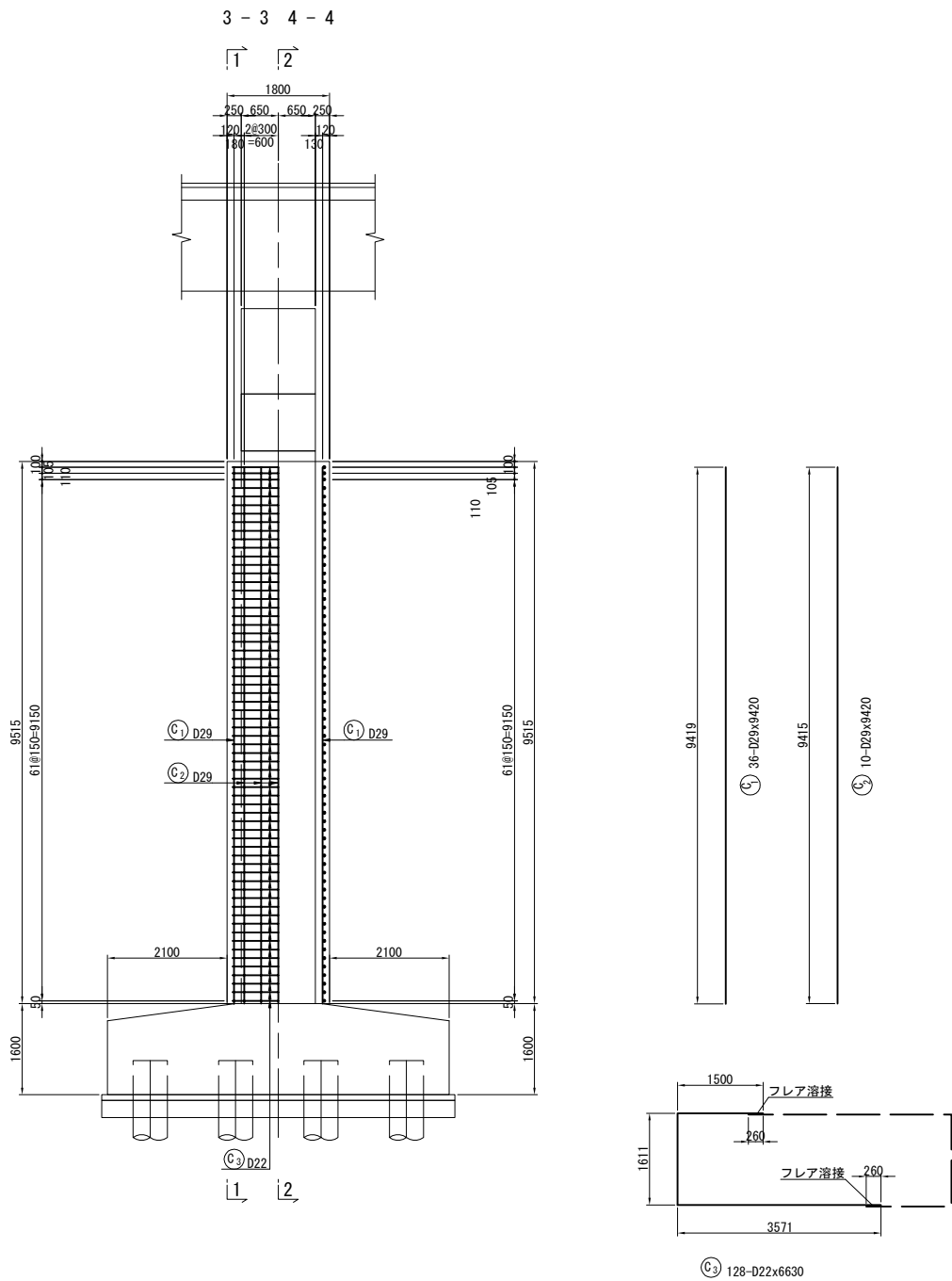
- ・図面は竣工図に基づき作成されたものである。
- ・既設構造物の形状を現地計測の上、必要に応じて施工内容を精査すること。
- ・新旧コンクリート境界面は全てWJ表面処理を行う事。
- ・巻立て部のコンクリートの設計基準強度は30N/mm2とする。
- ・使用鉄筋はSD345とする。
- ・コンクリートの打設時は、既設コンクリート面を湿潤状態にする事。
- ・組立用アンカーは1本程度/m2設置すること。

常磐自動車道 田野高架橋耐震補強工事			
図面の種類	田野高架橋(下り線) P2橋脚耐震補強配筋図		
縮尺	図示	図面番号	19 / 79
設計会社名	株式会社 復建技術コンサルタント		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 水戸管理事務所		

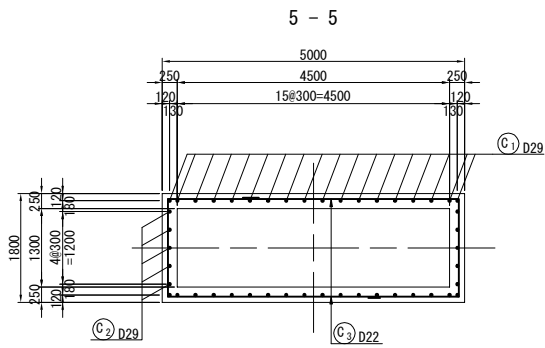
正面図



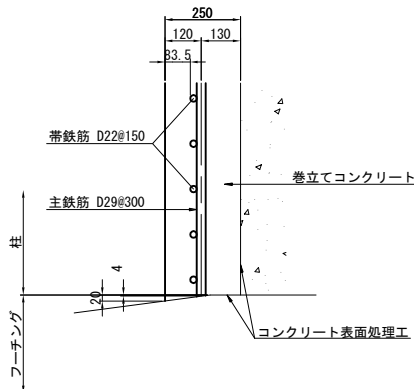
側面図



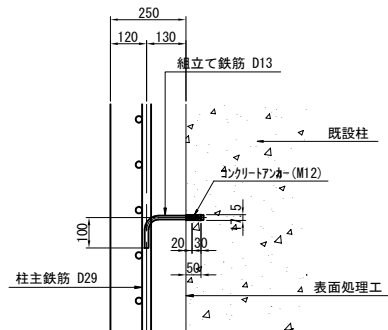
平面図



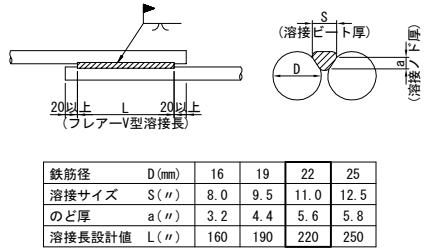
鉄筋かぶり詳細図 S=1:25
柱基部



組立てアンカー参考図 S=1:25



フレア溶接詳細図



鉄筋表

(橋脚1基当り)						
記号	径	長さ (mm)	本数 (本)	単位質量 (kg/m)	1本当り質量 (kg/本)	質量 (kg)
C1	D29	9420	36	5.04	47.5	1710
C2	"	9420	10	"	47.5	475
C3	D22	6630	128	3.04	20.2	2586
						4771 kg
フレア溶接箇所数						
				D29	2185 kg	
				D22	2586 kg	<128>
				合計	4771 kg	<128>

注：◇内はフレア溶接箇所数を示す。

組立てアンカー参考数量

(橋脚1基当り)						
種別	径	長さ (mm)	本数 (本)	単位質量 (kg/m)	1本当り質量 (kg/本)	質量 (kg)
組立て鉄筋	D13	240	110	0.995	0.239	26
合計						26 kg
D13 (SD345)						26 kg
コンクリートアンカー						110 本

※ 組立てアンカー本数
110.3 m2 × 1本/m2 =110本

鉄筋加工寸法表

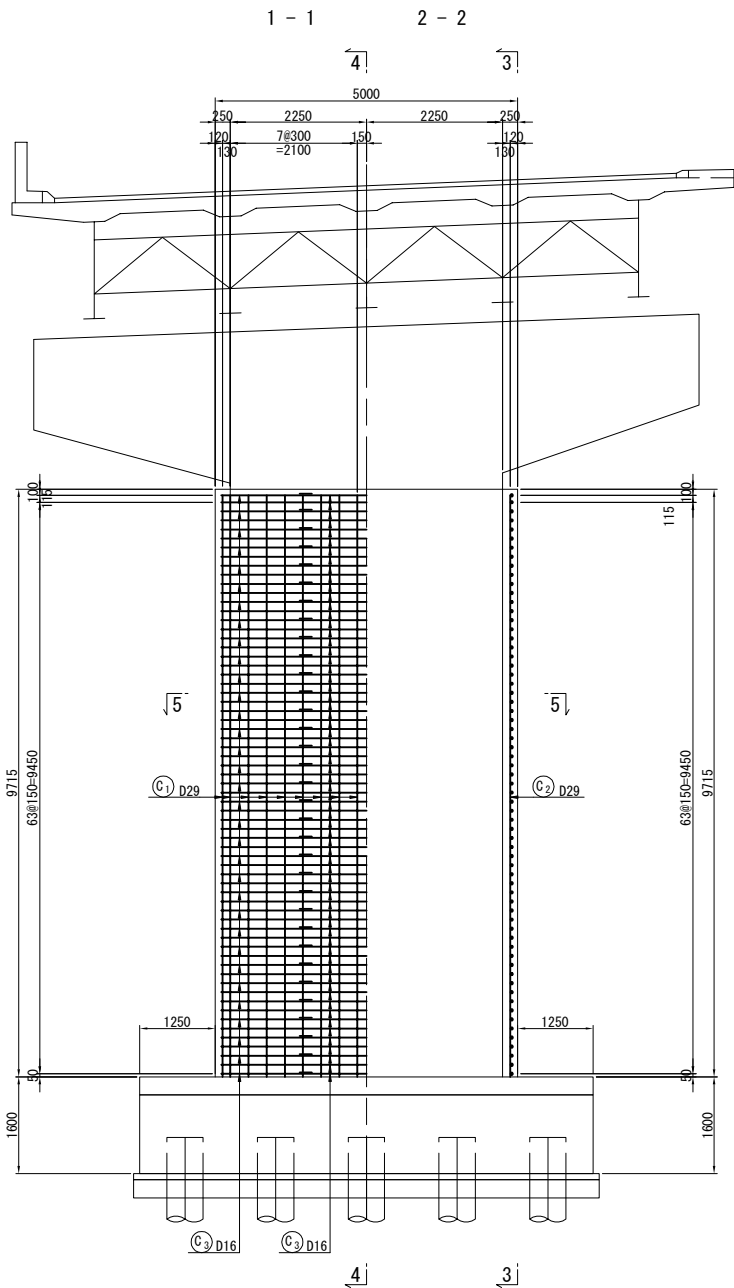
主筋						
	θ=90°			θ=135°		
	R	a	ΔL	R	a	ΔL
D13	39	61	17	71.5	56	3
D16	48	75	21	88	69	4
D19	57	89	25	104.5	82	5
D22	66	104	28	121	95	5

※ 上記に当てはまらない角度は各々の角度で減長計算している。

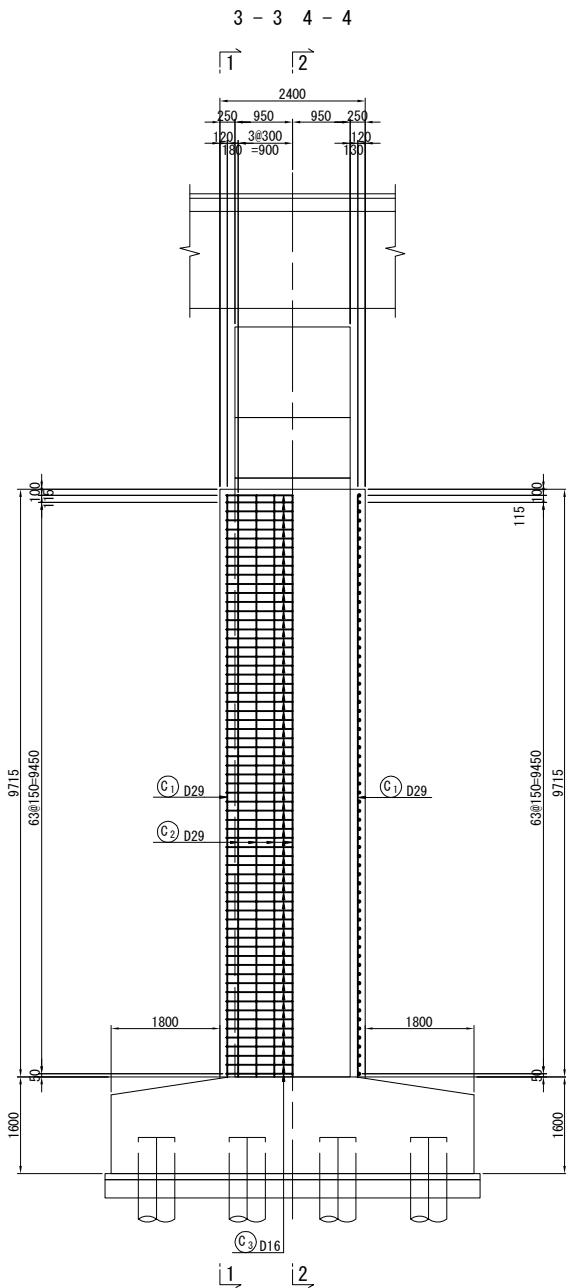
- 注記
- ・図面は竣工図に基づき作成されたものである。
 - ・既設構造物の形状を現地計測の上、必要に応じて施工内容を精査すること。
 - ・新旧コンクリート境界面は全てWJ表面処理を行う事。
 - ・巻立て部のコンクリートの設計基準強度は30N/mm2とする。
 - ・使用鉄筋はSD345とする。
 - ・コンクリートの打設時は、既設コンクリート面を湿潤状態にする事。
 - ・組立用アンカーは1本程度/m2設置すること。

常磐自動車道 田野高架橋耐震補強工事			
図面の種類	田野高架橋(下り線) P3橋脚耐震補強配筋図	図示	図面番号 20 / 79
縮尺	図示	図面番号	20 / 79
設計会社名	株式会社 復建技術コンサルタント		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 水戸管理事務所		

正面図



側面図



鉄筋表

(橋脚1基当り)						
記号	径	長さ (mm)	本数 (本)	単位質量 (kg/m)	1本当り質量 (kg/本)	質量 (kg)
C1	D29	9620	36	5.04	48.5	1746
C2	"	9620	14	"	48.5	679
C3	D16	7170	130	1.56	11.2	1456
3881 kg						
フレア溶接箇所数						
D29				2425 kg	<130>	
D16				1456 kg	<130>	
合計				3881 kg	<130>	

注：◇内はフレア溶接箇所数を示す。

組立てアンカー参考数量

(橋脚1基当り)						
種別	径	長さ (mm)	本数 (本)	単位質量 (kg/m)	1本当り質量 (kg/本)	質量 (kg)
組立て鉄筋	D13	240	124	0.995	0.239	30
合計						30 kg
D13 (SD345)						30 kg
コンクリートアンカー						124 本

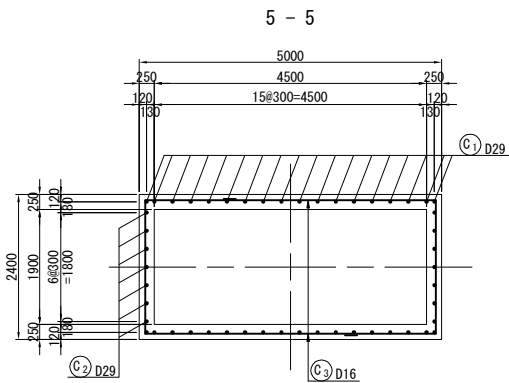
※ 組立てアンカー本数
124.4 m2 × 1本/m2 =124本

鉄筋加工寸法表

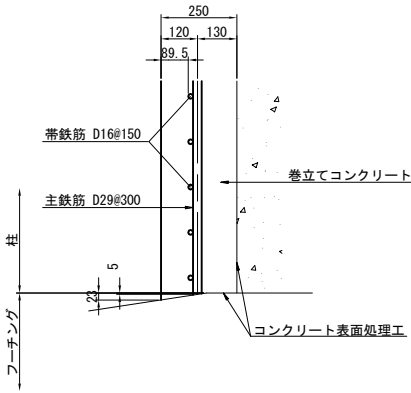
主筋						
	θ=90°			θ=135°		
	R	a	ΔL	R	a	ΔL
D13	39	61	17	71.5	56	3
D16	48	75	21	88	69	4
D19	57	89	25	104.5	82	5
D22	66	104	28	121	95	5

※ 上記に当てはまらない角度は各々の角度で減長計算している。

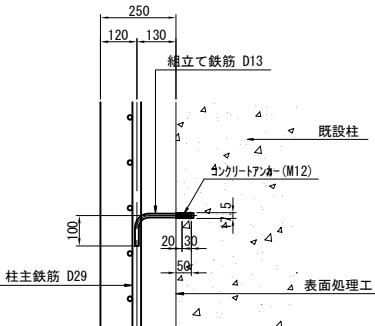
平面図



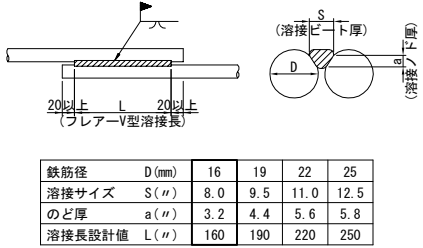
鉄筋かぶり詳細図 S=1:25
柱基部



組立てアンカー参考図 S=1:25



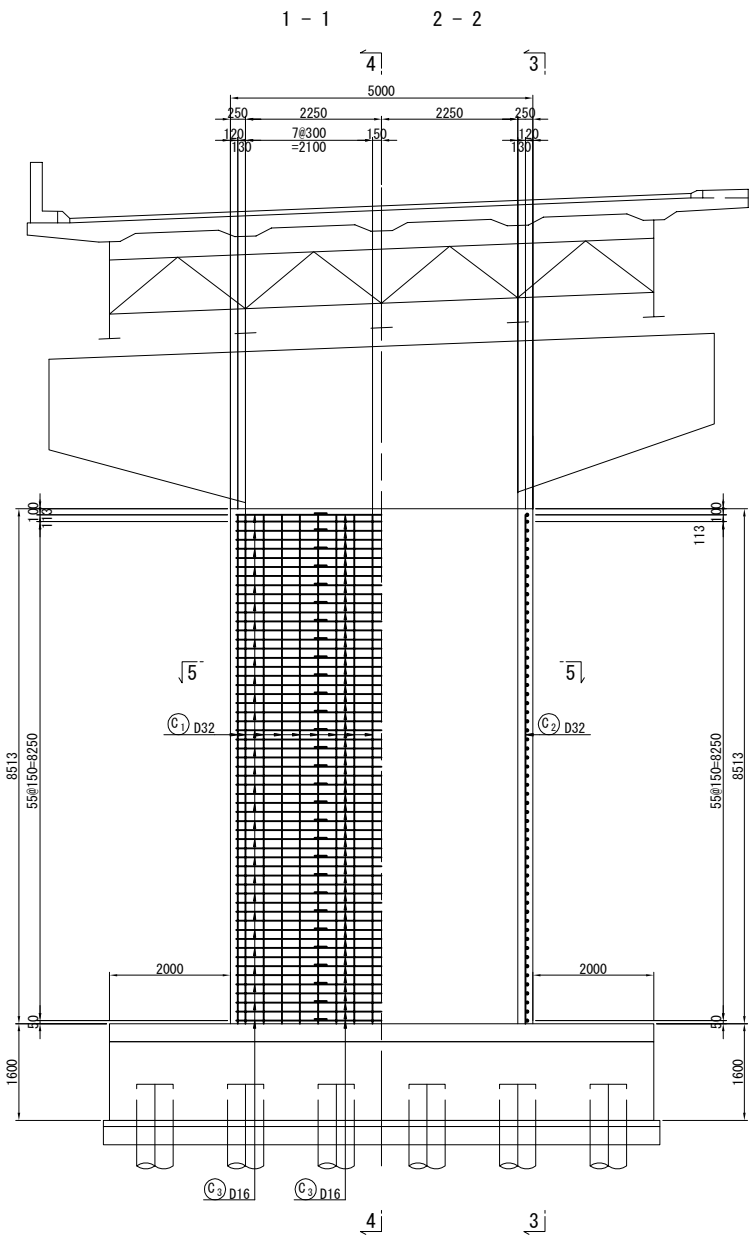
フレア溶接詳細図



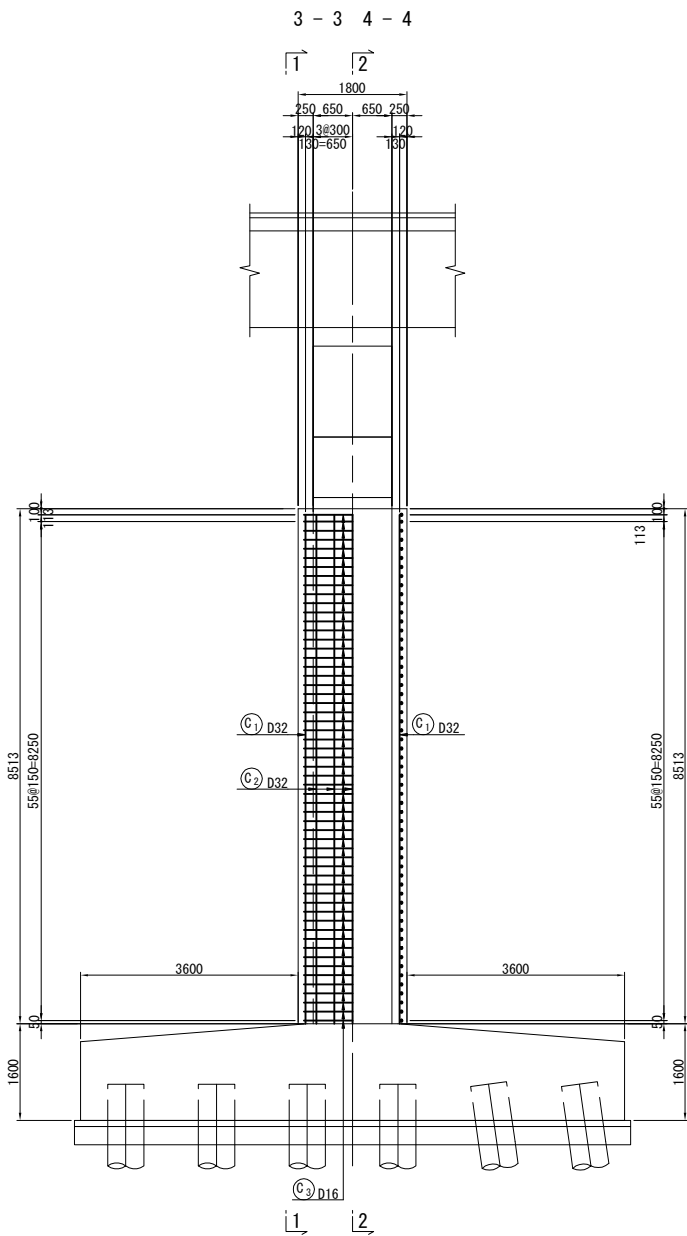
注記
・図面は竣工図に基づき作成されたものである。
・既設構造物の形状を現地計測の上、必要に応じて施工内容を精査すること。
・新旧コンクリート境界面は全てWJ表面処理を行う事。
・巻立て部のコンクリートの設計基準強度は30N/mm2とする。
・使用鉄筋はSD345とする。
・コンクリートの打設時は、既設コンクリート面を湿潤状態にする事。
・組立用アンカーは1本程度/m2設置すること。

常磐自動車道 田野高架橋耐震補強工事			
図面の種類	田野高架橋(下り線) P4橋脚耐震補強配筋図		
縮尺	図示	図面番号	21 / 79
設計会社名	株式会社 復建技術コンサルタント		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 水戸管理事務所		

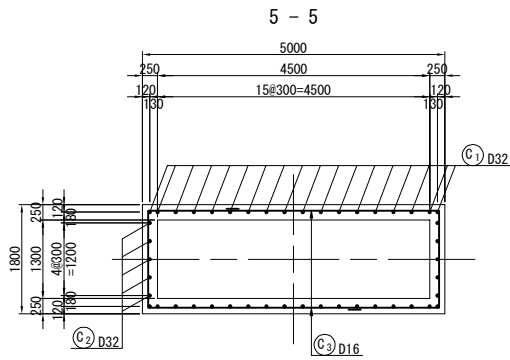
正面図



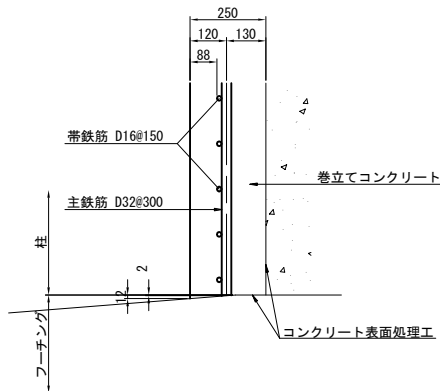
側面図



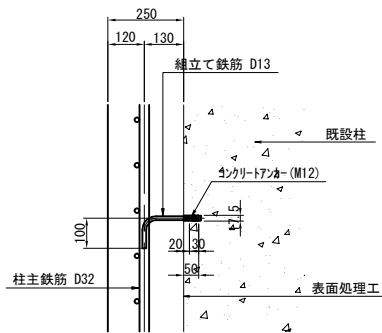
平面図



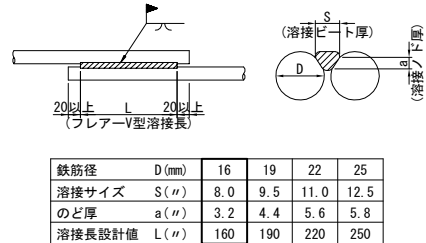
鉄筋かぶり詳細図 S=1:25
柱基部



組立てアンカー参考図 S=1:25



フレア溶接詳細図



鉄筋表

記号	径	長さ (mm)	本数 (本)	単位質量 (kg/m)	1本当り質量 (kg/本)	質量 (kg)	摘要
C1	D32	8420	36	6.23	52.5	1890	
C2	"	8410	10	"	52.4	524	
C3	D16	6570	114	1.56	10.2	1163	<114>
							3577 kg
							フレア溶接箇所数
							D32 2414 kg
							D16 1163 kg <114>
							合計 3577 kg <114>

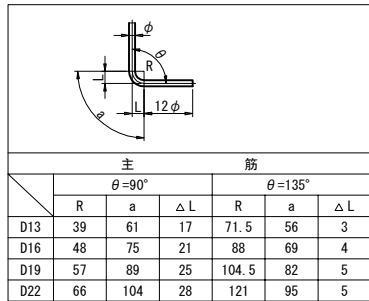
注：◇内はフレア溶接箇所数を示す。

組立てアンカー参考数量

種別	径	長さ (mm)	本数 (本)	単位質量 (kg/m)	1本当り質量 (kg/本)	質量 (kg)	摘要
組立て鉄筋	D13	240	99	0.995	0.239	24	r
							合計 24 kg
							D13 (SD345) 24 kg
							コンクリートアンカー M12 99 本

※ 組立てアンカー本数
98.8 m2 × 1本/m2 =99本

鉄筋加工寸法表



※ 上記に当てはまらない角度は各々の角度で減長計算している。

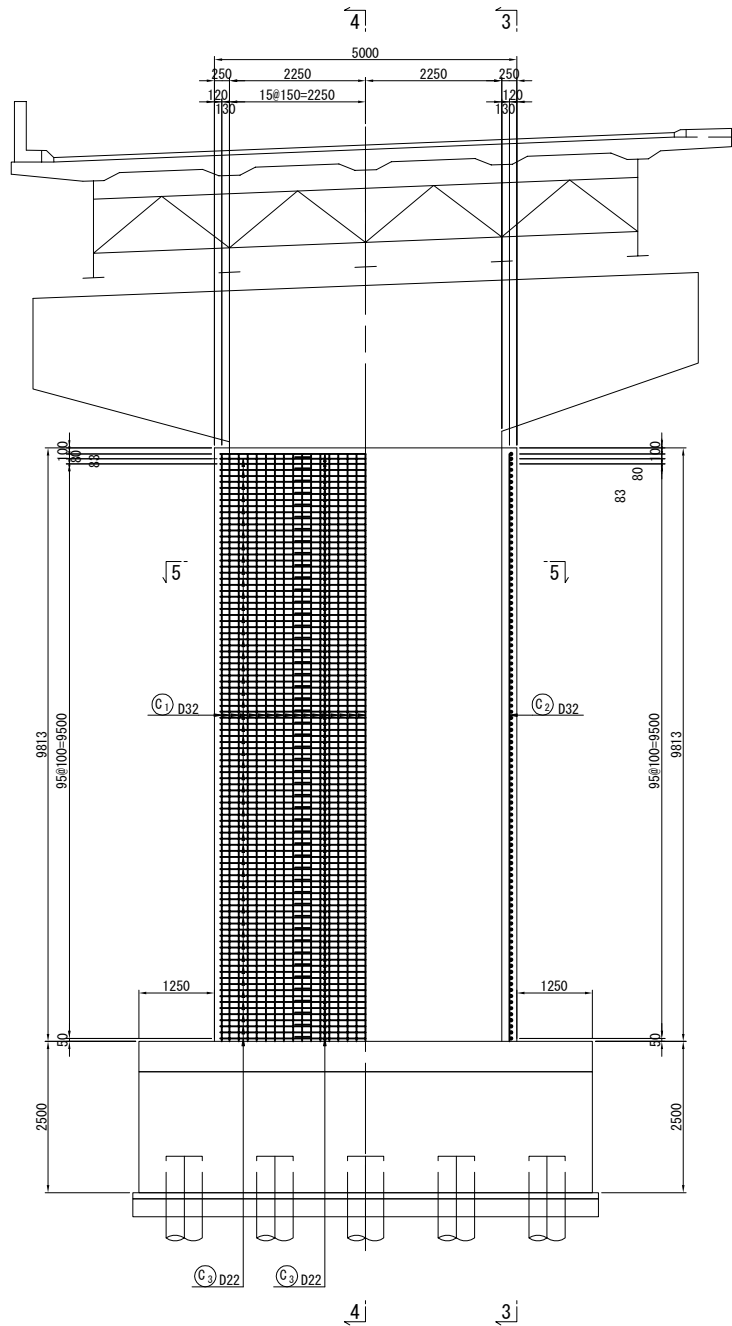
注記

- 図面は竣工図に基づき作成されたものである。
- 既設構造物の形状を現地計測の上、必要に応じて施工内容を精査すること。
- 新旧コンクリート境界面は全てWJ表面処理を行う事。
- 巻立て部のコンクリートの設計基準強度は30N/mm2とする。
- 使用鉄筋はSD345とする。
- コンクリートの打設時は、既設コンクリート面を湿潤状態にする事。
- 組立用アンカーは1本程度/m2設置すること。

常磐自動車道 田野高架橋耐震補強工事			
図面の種類	田野高架橋(下り線) P5橋脚耐震補強配筋図		
縮尺	図示	図面番号	22 / 79
設計会社名	株式会社 復建技術コンサルタント		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 水戸管理事務所		

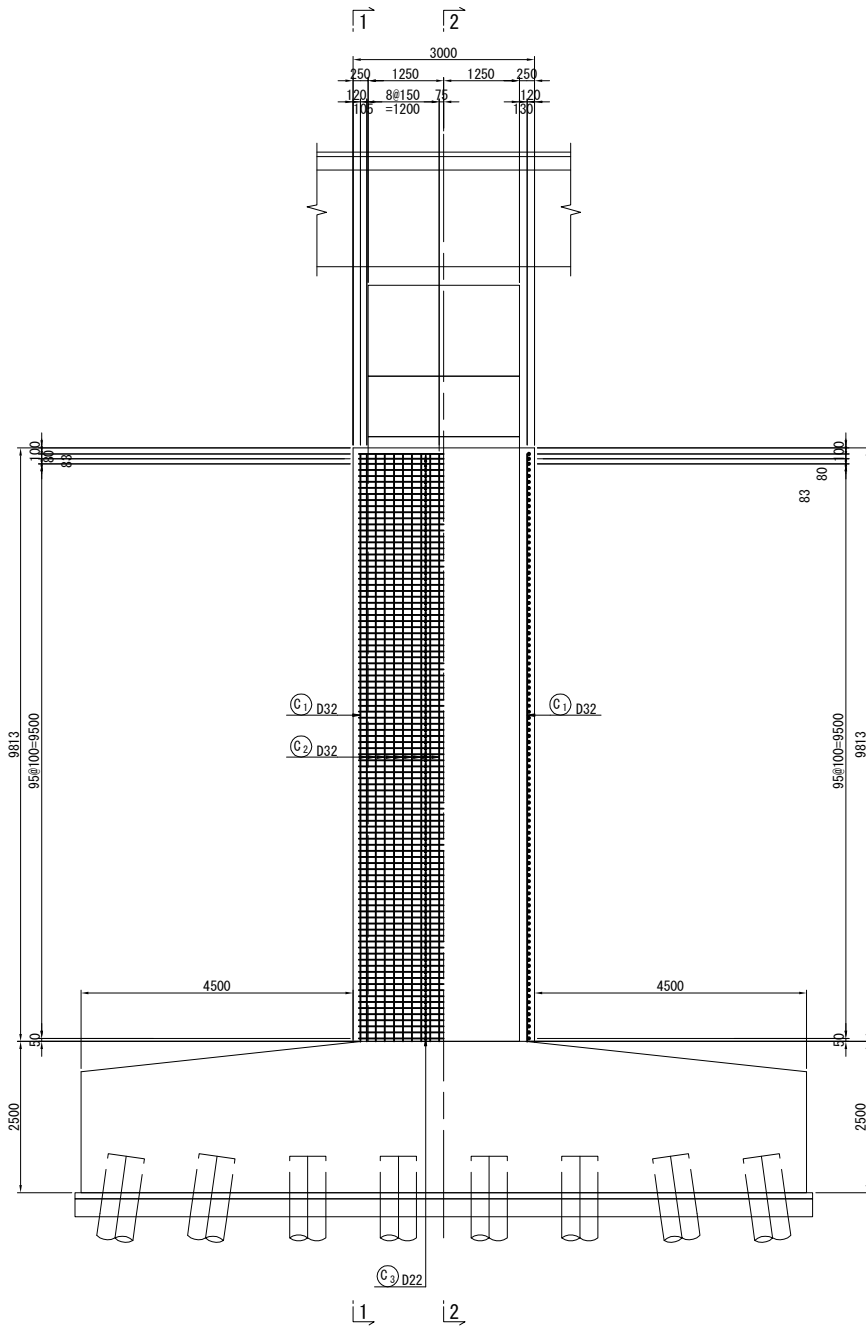
正面図

1 - 1 2 - 2



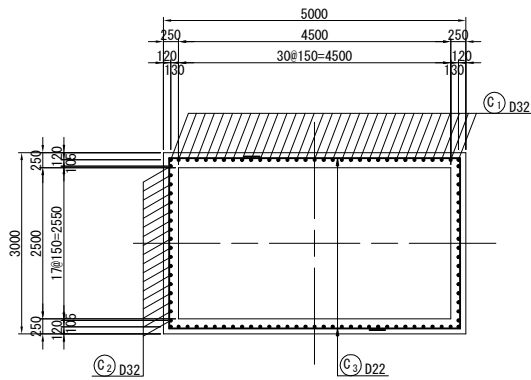
側面図

3 - 3 4 - 4



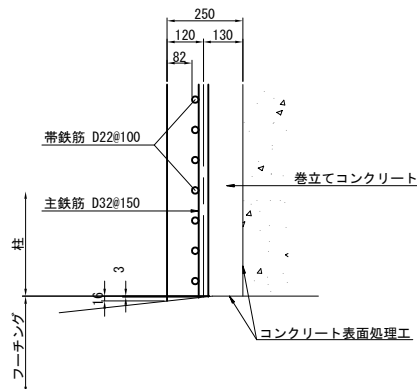
平面図

5 - 5

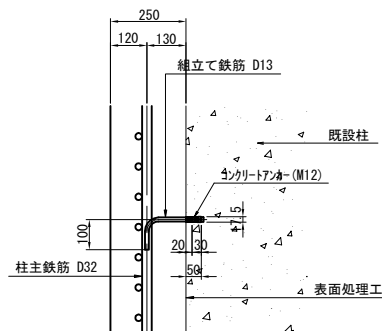


鉄筋かぶり詳細図 S=1:25

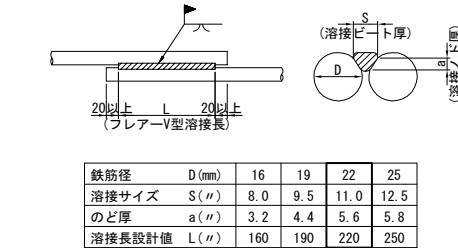
柱基部



組立てアンカー参考図 S=1:25



フレア溶接詳細図



鉄筋表

(橋脚1基当り)						
記号	径	長さ	本数	単位質量	1本当り質量	質量
		(mm)	(本)	(kg/m)	(kg/本)	(kg)
C1	D32	9720	66	6.23	60.6	4000
C2	"	9710	36	"	60.5	2178
C3	D22	7830	196	3.04	23.8	4665
10843 kg						
フレア溶接箇所数						
D32				6178 kg	<196>	
D22				4665 kg	<196>	
合計				10843 kg	<196>	

注：◇内はフレア溶接箇所数を示す。

組立てアンカー参考数量

(橋脚1基当り)						
種別	径	長さ	本数	単位質量	1本当り質量	質量
		(mm)	(本)	(kg/m)	(kg/本)	(kg)
組立て鉄筋	D13	240	137	0.995	0.239	33
合計						33 kg
D13 (SD345)						33 kg
コンクリートアンカー						137 本

※ 組立てアンカー本数
137.4 m2 × 1本/m2 =137本

鉄筋加工寸法表

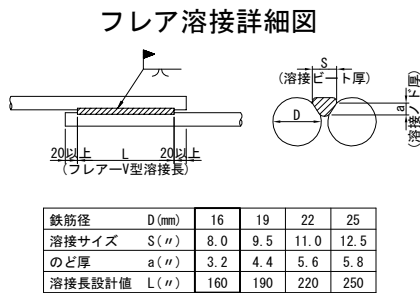
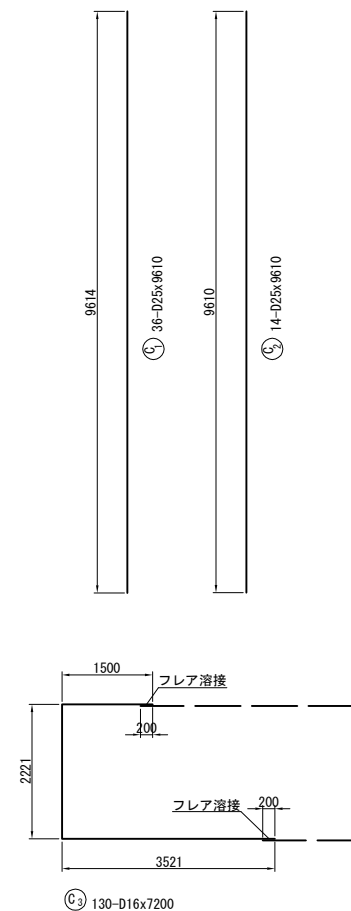
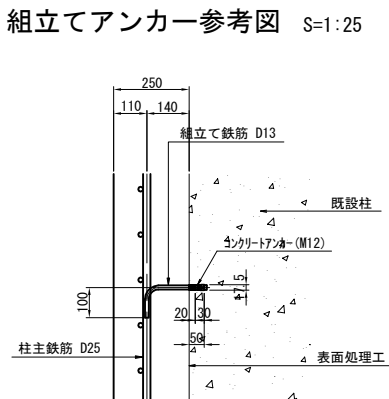
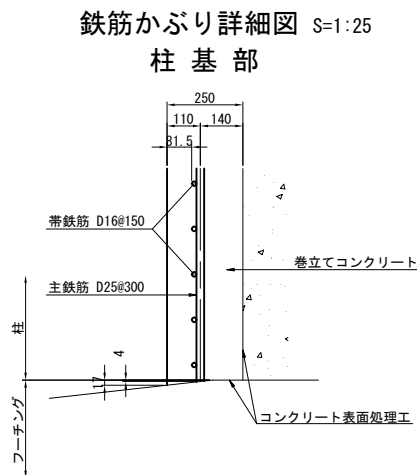
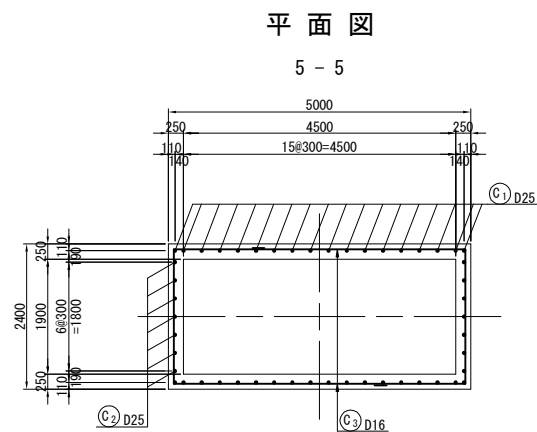
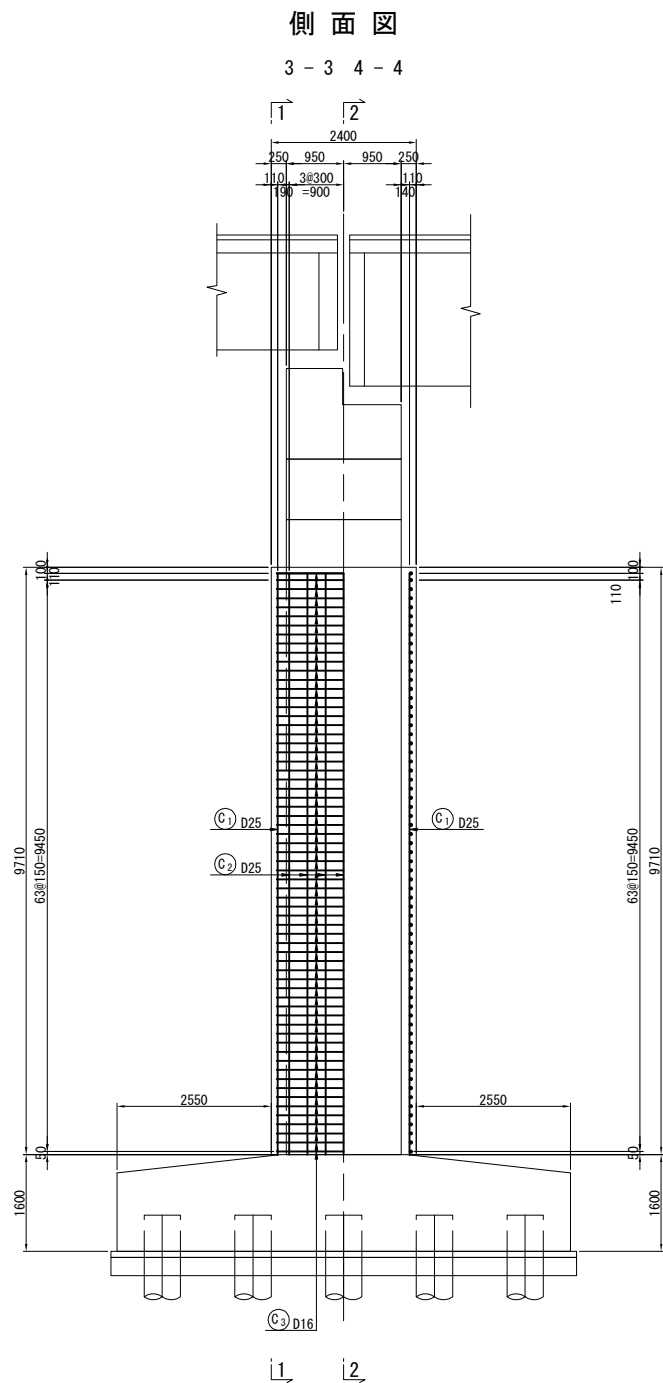
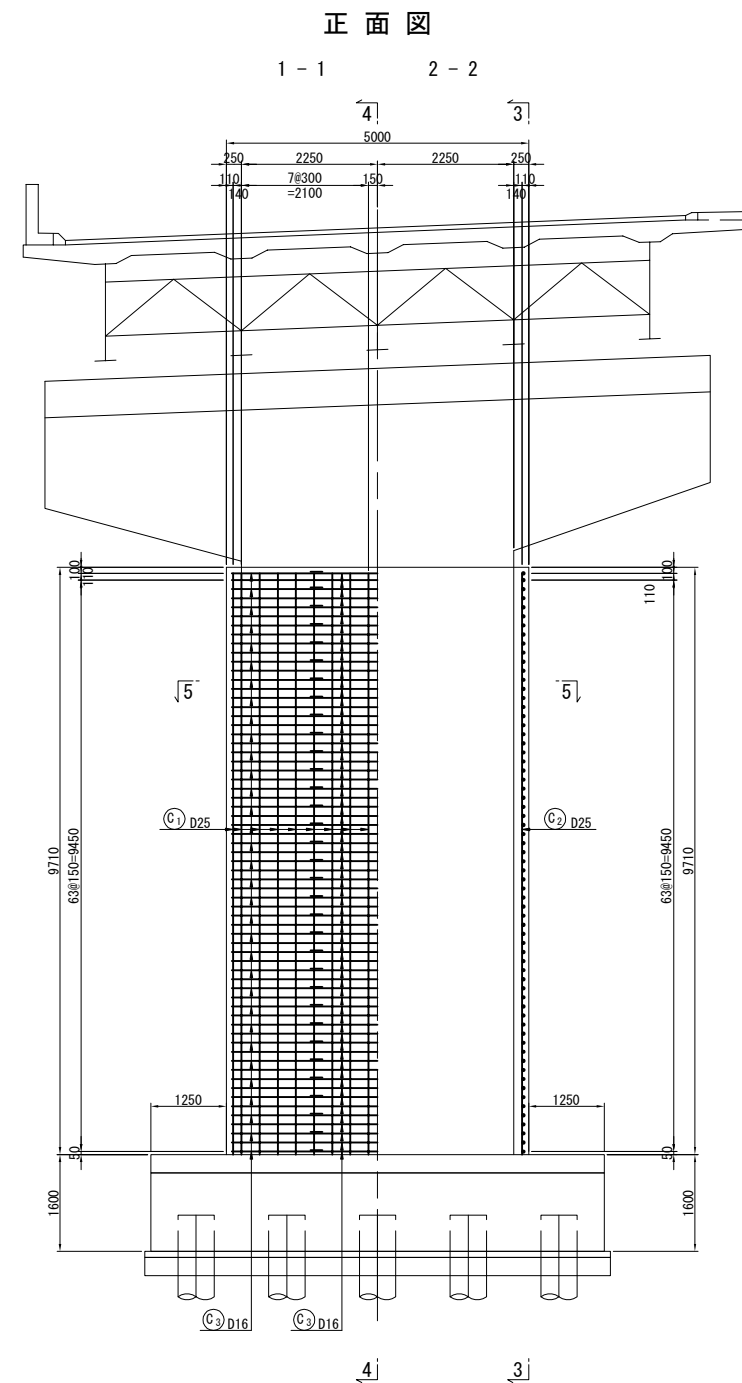
		主			筋		
		θ=90°			θ=135°		
	R	a	△L	R	a	△L	
D13	39	61	17	71.5	56	3	
D16	48	75	21	88	69	4	
D19	57	89	25	104.5	82	5	
D22	66	104	28	121	95	5	

※ 上記に当てはまらない角度は各々の角度で減長計算している。

注記

- ・図面は竣工図に基づき作成されたものである。
- ・既設構造物の形状を現地計測の上、必要に応じて施工内容を精査すること。
- ・新旧コンクリート境界面は全てWJ表面処理を行う事。
- ・巻立て部のコンクリートの設計基準強度は30N/mm2とする。
- ・使用鉄筋はSD345とする。
- ・コンクリートの打設時は、既設コンクリート面を湿潤状態にする事。
- ・組立用アンカーは1本程度/m2設置すること。

常磐自動車道 田野高架橋耐震補強工事			
図面の種類	田野高架橋(下り線) P6橋脚耐震補強配筋図		
	縮 尺	図 示	図面番号 23 / 79
設計会社名	株式会社 復建技術コンサルタント		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 水戸管理事務所		



鉄筋表

(橋脚1基当り)						
記号	径	長さ (mm)	本数 (本)	単位質量 (kg/m)	1本当り質量 (kg/本)	質量 (kg)
C1	D25	9610	36	3.98	38.2	1375
C2	"	9610	14	"	38.2	535
C3	D16	7200	130	1.56	11.2	1456
						3366 kg
フレア溶接箇所数						
				D25	1910 kg	
				D16	1456 kg	<130>
				合計	3366 kg	<130>

注：◇内はフレア溶接箇所数を示す。

組立てアンカー参考数量

(橋脚1基当り)						
種別	径	長さ (mm)	本数 (本)	単位質量 (kg/m)	1本当り質量 (kg/本)	質量 (kg)
組立て鉄筋	D13	250	124	0.995	0.249	31
						合計 31 kg
						D13 (SD345) 31 kg
						コンクリートアンカー M12 124 本

※ 組立てアンカー本数
 124.3 m2 × 1本/m2 =124本

鉄筋加工寸法表

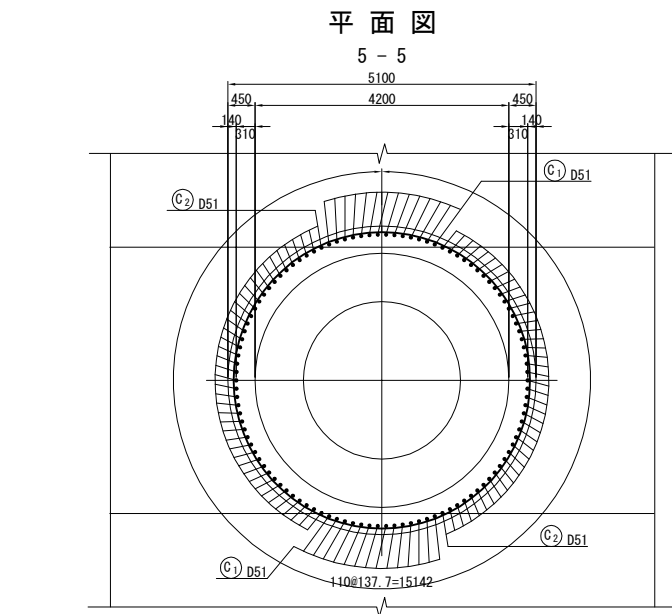
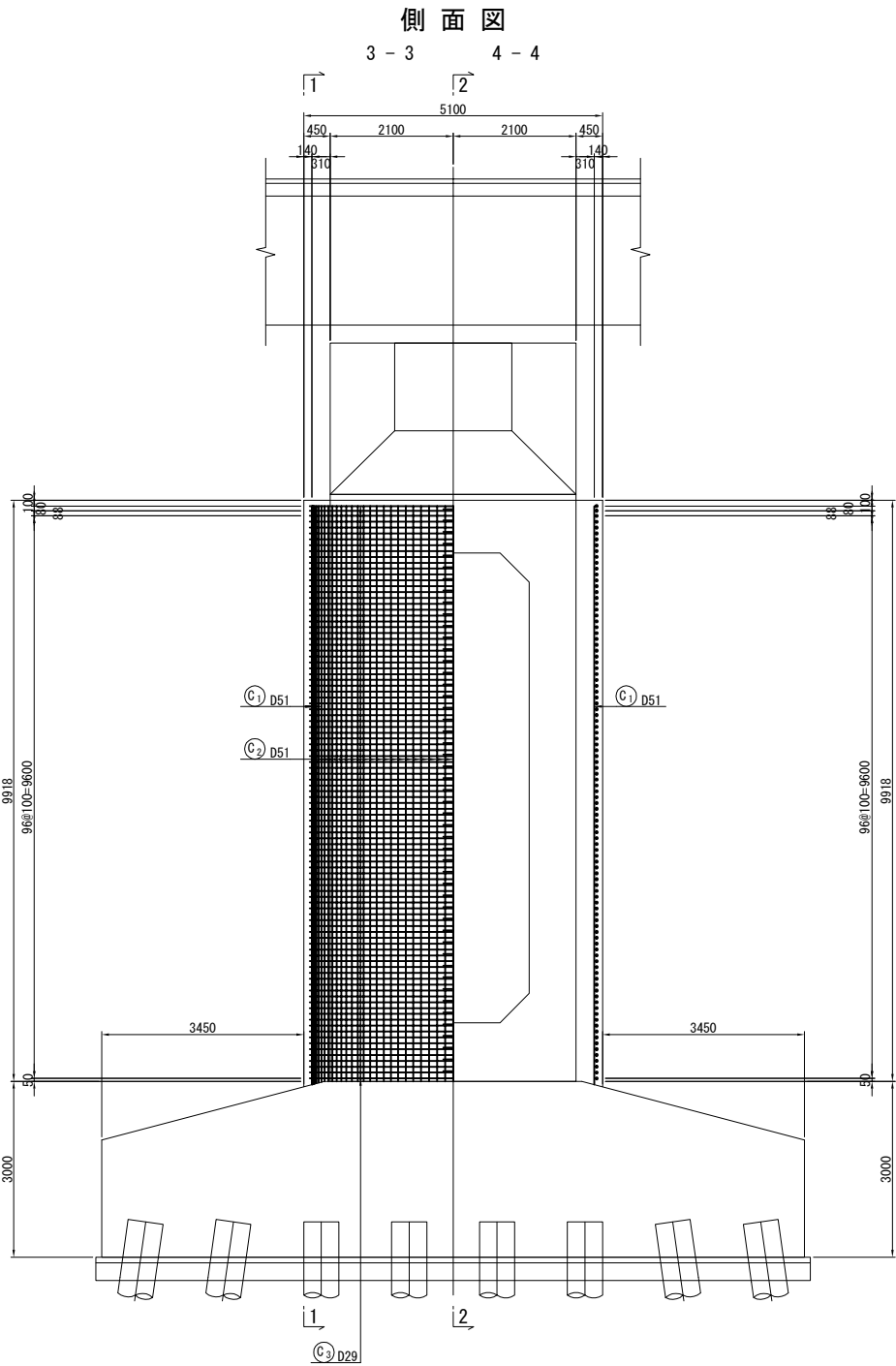
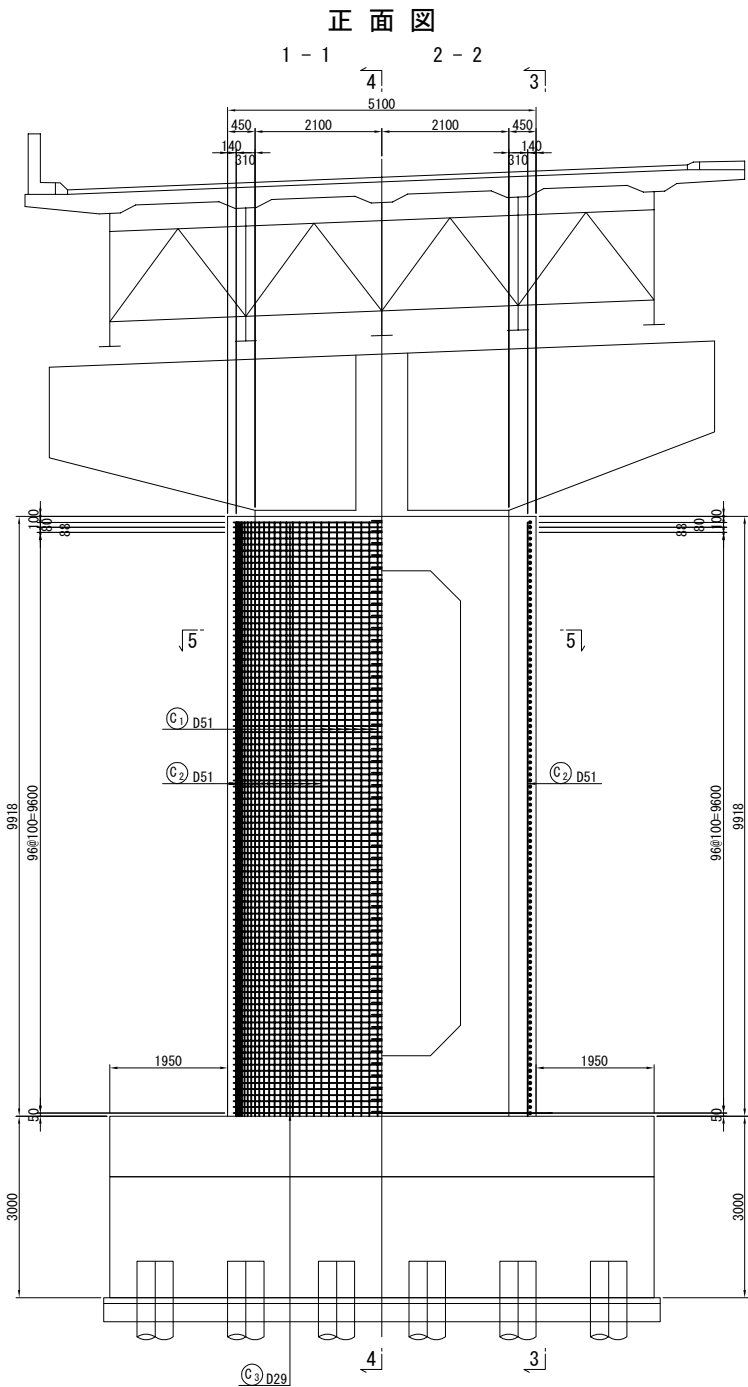
		主			筋		
		θ=90°			θ=135°		
	R	a	△L	R	a	△L	
D13	39	61	17	71.5	56	3	
D16	48	75	21	88	69	4	
D19	57	89	25	104.5	82	5	
D22	66	104	28	121	95	5	

※ 上記に当てはまらない角度は各々の角度で減長計算している。

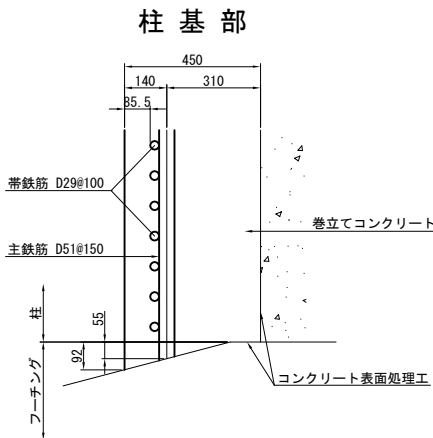
注記

- ・図面は竣工図に基づき作成されたものである。
- ・既設構造物の形状を現地計測の上、必要に応じて施工内容を精査すること。
- ・新旧コンクリート境界面は全てWJ表面処理を行う事。
- ・巻立て部のコンクリートの設計基準強度は30N/mm2とする。
- ・使用鉄筋はSD345とする。
- ・コンクリートの打設時は、既設コンクリート面を湿潤状態にする事。
- ・組立用アンカーは1本程度/m2設置すること。

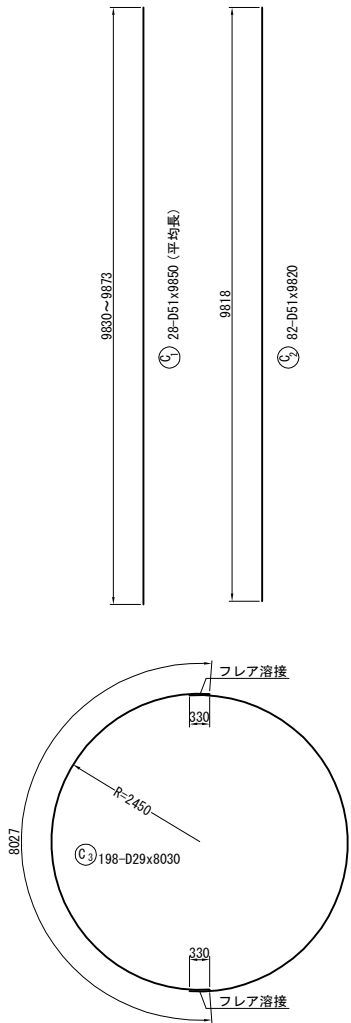
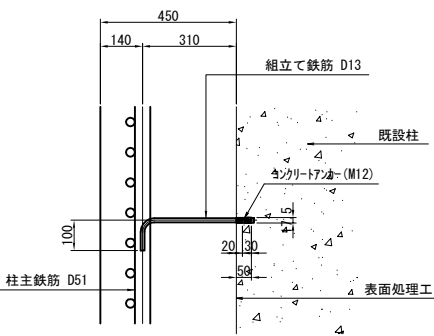
常磐自動車道 田野高架橋耐震補強工事			
図面の種類	田野高架橋(下り線) P7橋脚耐震補強配筋図	図示	図面番号 24 / 79
縮尺	図示	図面番号	24 / 79
設計会社名	株式会社 復建技術コンサルタント		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 水戸管理事務所		



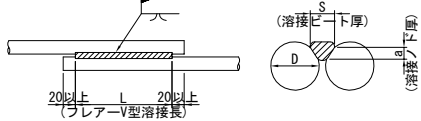
鉄筋かぶり詳細図 S=1:25



組立てアンカー参考図 S=1:25



フレア溶接詳細図



鉄筋径	D (mm)	19	22	25	29
溶接サイズ	S (mm)	9.5	11.0	12.5	14.5
のど厚	a (mm)	4.4	5.6	5.8	7.3
溶接長設計値	L (mm)	190	220	250	290

鉄筋表

(橋脚1基当り)						
記号	径	長さ (mm)	本数 (本)	単位質量 (kg/m)	1本当り質量 (kg/本)	質量 (kg)
C1	D51	9850	28	15.9	157	4396
C2	"	9820	82	"	156	12792
C3	D29	8030	198	5.04	40.5	8019
25207 kg						
フレア溶接箇所数						
D51				17188 kg	<198>	
D29				8019 kg	<198>	
合計				25207 kg	<198>	

注：◇内はフレア溶接箇所数を示す。

組立てアンカー参考数量

(橋脚1基当り)						
種別	径	長さ (mm)	本数 (本)	単位質量 (kg/m)	1本当り質量 (kg/本)	質量 (kg)
組立て鉄筋	D13	420	131	0.995	0.418	55
合計 55 kg						
D13 (SD345) 55 kg						
コンクリートアンカー M12 131 本						

※ 組立てアンカー本数
130.9 m2 × 1本/m2 =131本

鉄筋加工寸法表

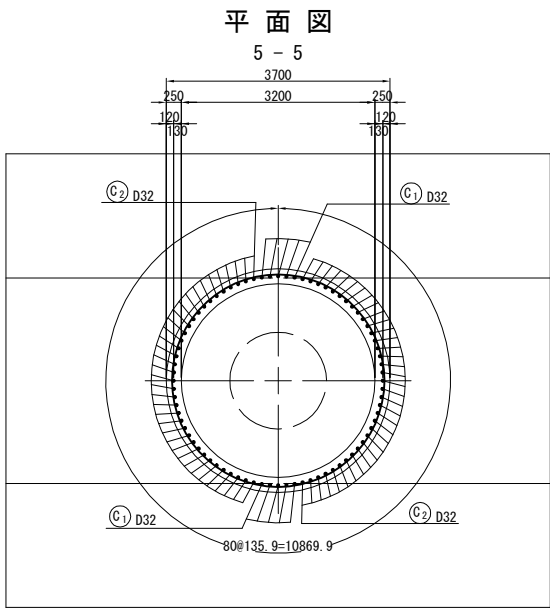
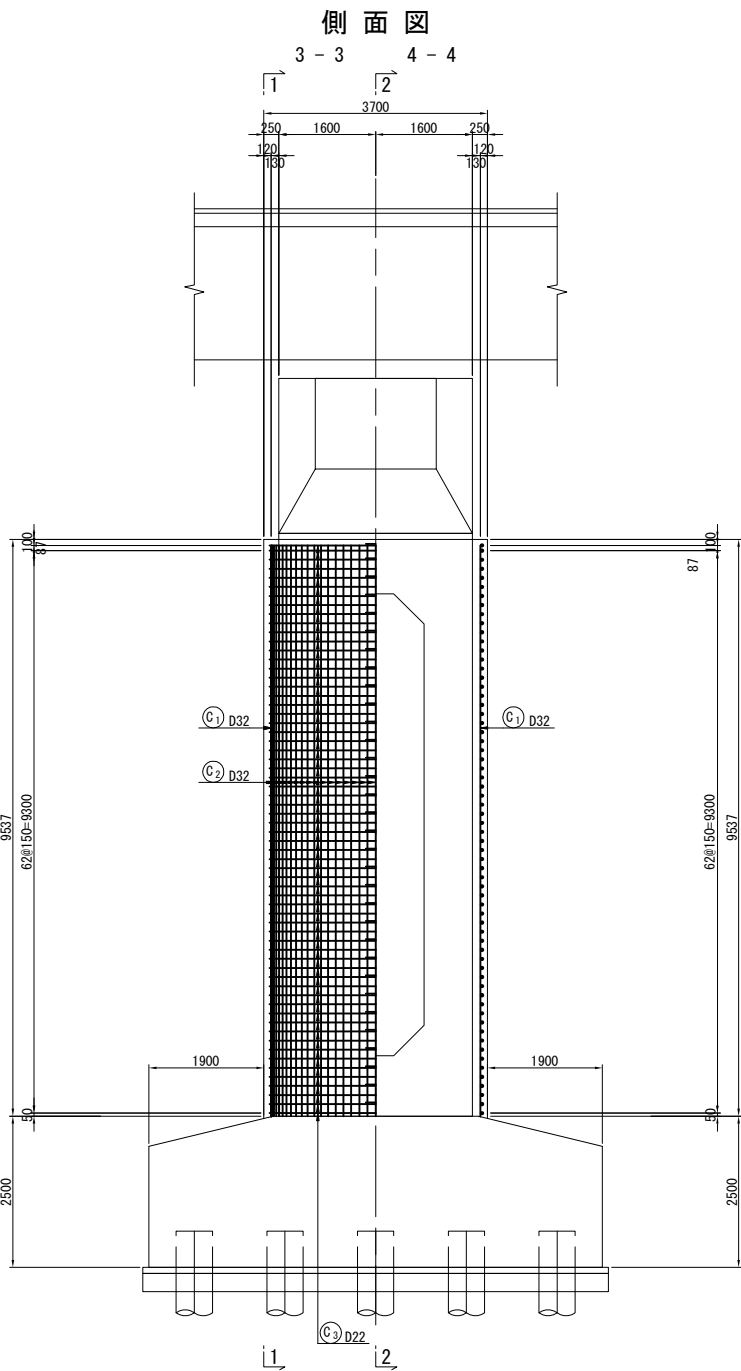
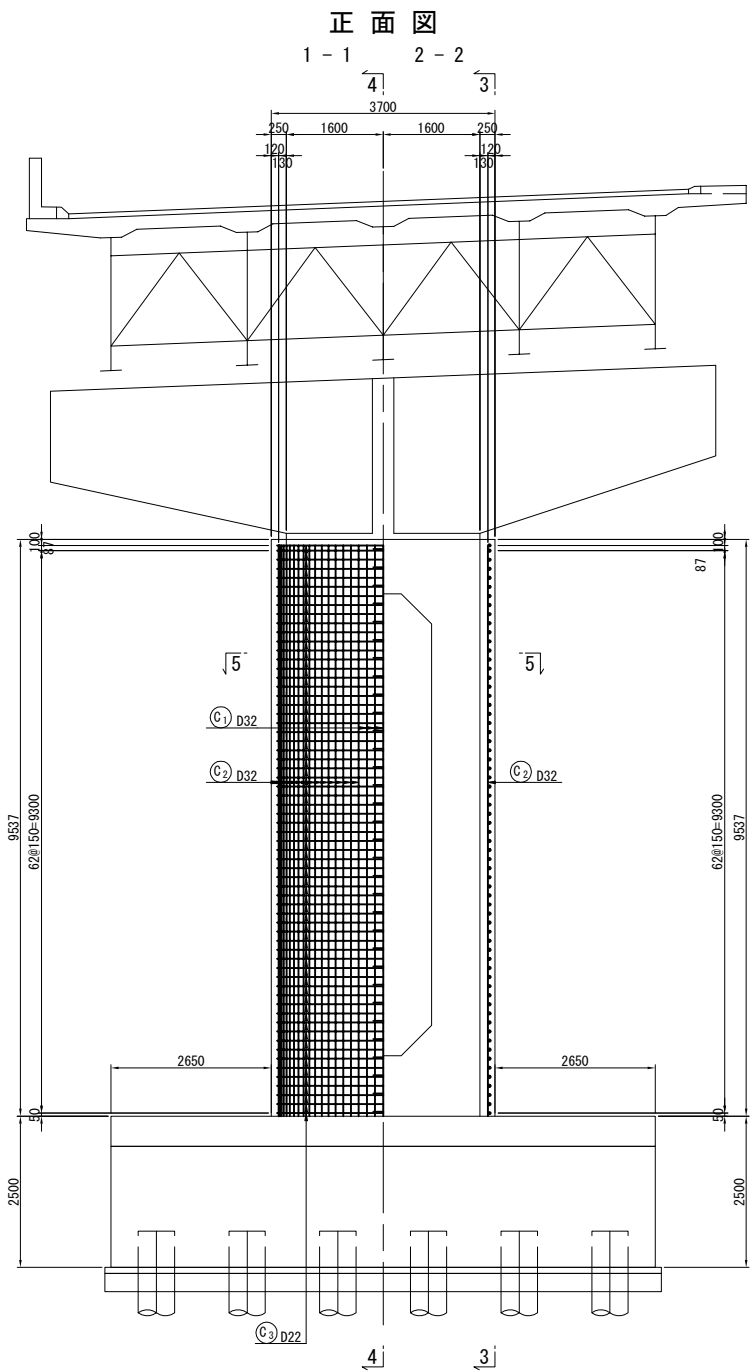
主筋						
	θ=90°			θ=135°		
	R	a	△L	R	a	△L
D13	39	61	17	71.5	56	3
D16	48	75	21	88	69	4
D19	57	89	25	104.5	82	5
D22	66	104	28	121	95	5

※ 上記に当てはまらない角度は各々の角度で減長計算している。

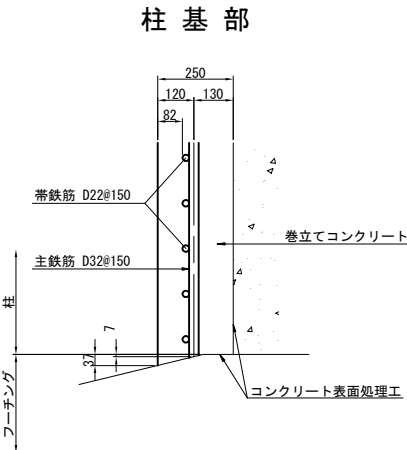
注記

- ・図面は竣工図に基づき作成されたものである。
- ・既設構造物の形状を現地計測の上、必要に応じて施工内容を精査すること。
- ・新旧コンクリート境界面は全てWJ表面処理を行う事。
- ・巻立て部のコンクリートの設計基準強度は30N/mm2とする。
- ・使用鉄筋はSD345とする。
- ・コンクリートの打設時は、既設コンクリート面を湿潤状態にする事。
- ・組立用アンカーは1本程度/m2設置すること。

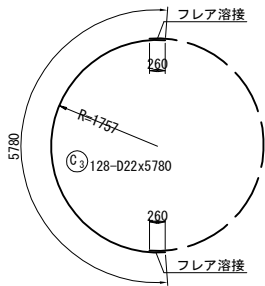
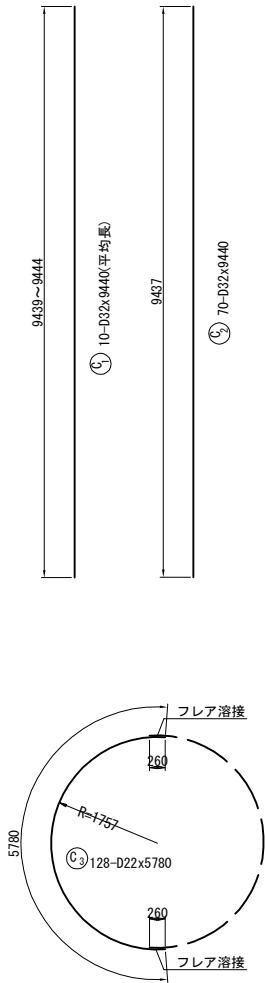
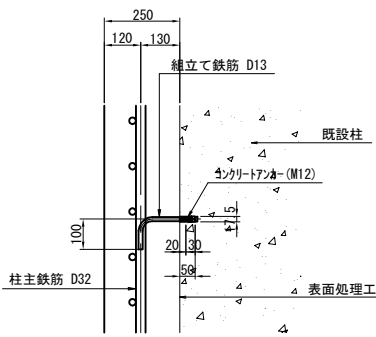
常磐自動車道 田野高架橋耐震補強工事			
図面の種類	田野高架橋(下り線) P8橋脚耐震補強配筋図		
縮尺	図示	図面番号	25 / 79
設計会社名	株式会社 復建技術コンサルタント		
施工会社名	東日本高速道路株式会社 関東支社		
事務所名	水戸管理事務所		



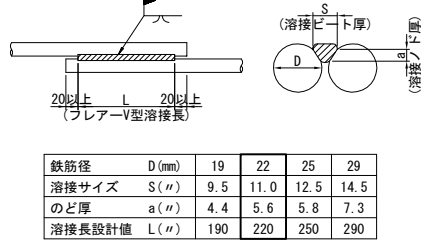
鉄筋かぶり詳細図 S=1:25



組立てアンカー参考図 S=1:25



フレア溶接詳細図



鉄筋径	D (mm)	19	22	25	29
溶接サイズ	S (mm)	9.5	11.0	12.5	14.5
のど厚	a (mm)	4.4	5.6	5.8	7.3
溶接長設計値	L (mm)	190	220	250	290

鉄筋表

(橋脚1基当り)						
記号	径	長さ (mm)	本数 (本)	単位質量 (kg/m)	1本当り質量 (kg/本)	質量 (kg)
C1	D32	9440	10	6.23	58.8	588
C2	"	9440	70	"	58.8	4116
C3	D22	5780	128	3.04	17.6	2253
6957 kg						
フレア溶接箇所数						
D32				4704 kg	<128>	
D22				2253 kg	<128>	
合計				6957 kg	<128>	

注：◇内はフレア溶接箇所数を示す。

組立てアンカー参考数量

(橋脚1基当り)						
種別	径	長さ (mm)	本数 (本)	単位質量 (kg/m)	1本当り質量 (kg/本)	質量 (kg)
組立て鉄筋	D13	240	96	0.995	0.239	23
合計						23 kg
D13 (SD345)						23 kg
コンクリートアンカー						96 本

※ 組立てアンカー本数
95.9 m2 × 1本/m2 =96本

鉄筋加工寸法表

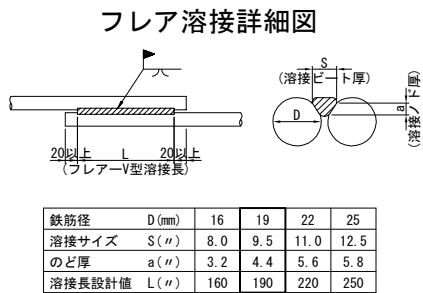
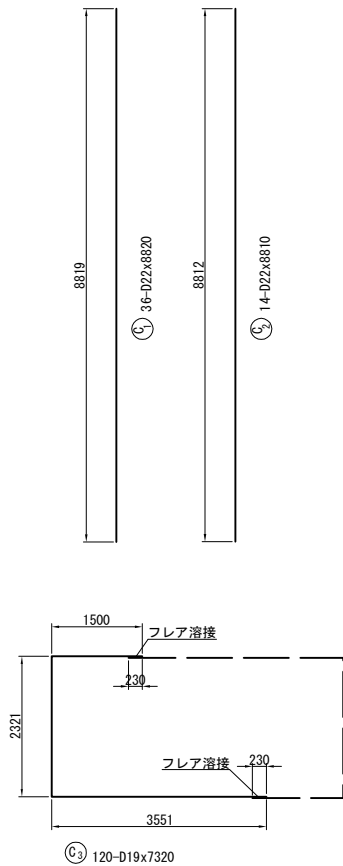
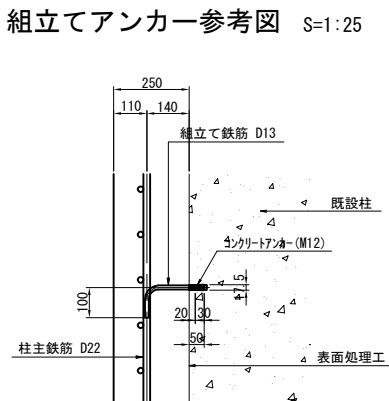
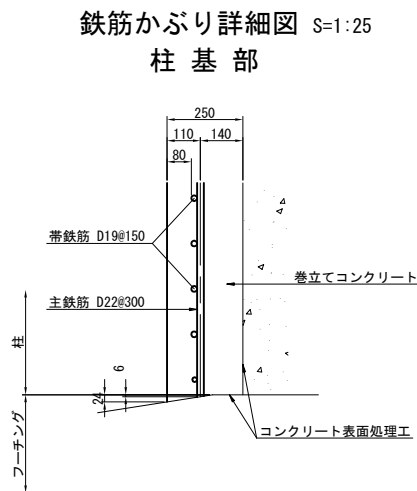
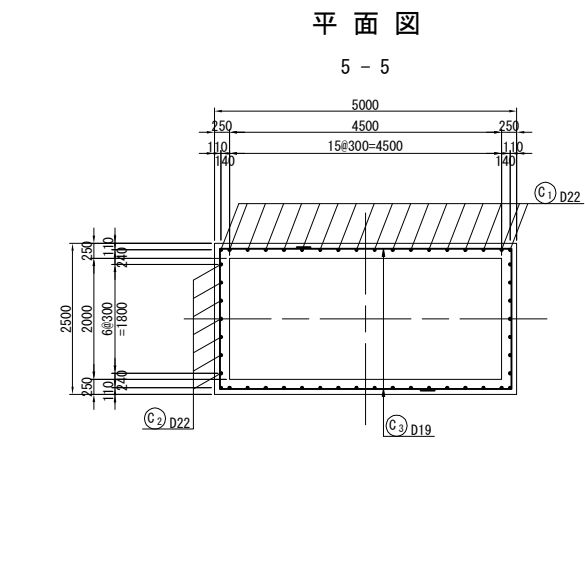
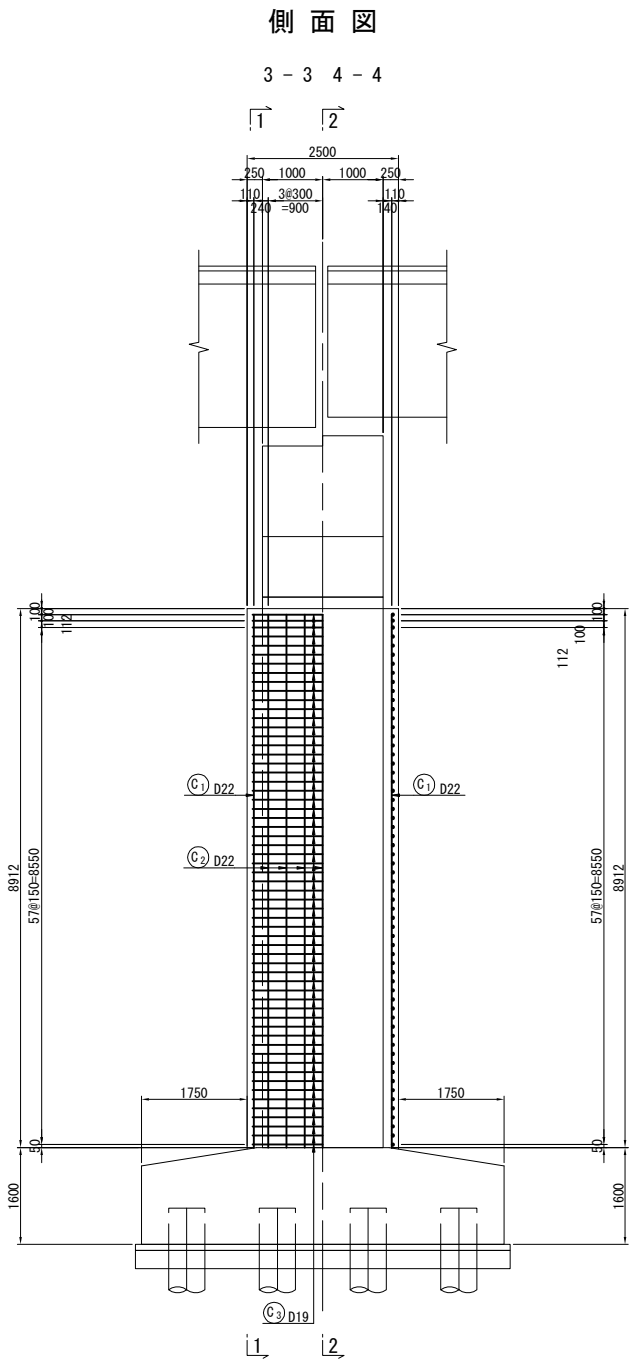
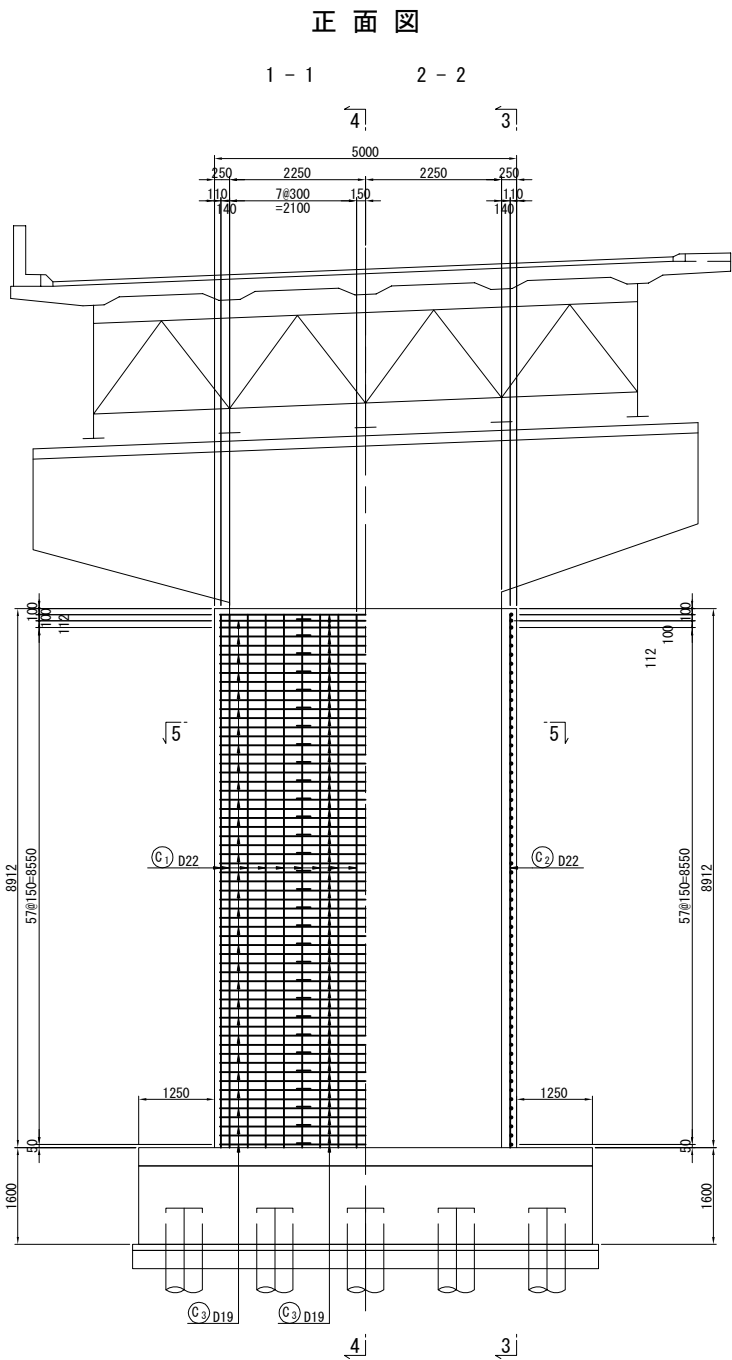
主筋						
	θ=90°			θ=135°		
	R	a	ΔL	R	a	ΔL
D13	39	61	17	71.5	56	3
D16	48	75	21	88	69	4
D19	57	89	25	104.5	82	5
D22	66	104	28	121	95	5

※ 上記に当てはまらない角度は各々の角度で減長計算している。

注記

- ・図面は竣工図に基づき作成されたものである。
- ・既設構造物の形状を現地計測の上、必要に応じて施工内容を精査すること。
- ・新旧コンクリート境界面は全てWJ表面処理を行う事。
- ・巻立て部のコンクリートの設計基準強度は30N/mm2とする。
- ・使用鉄筋はSD345とする。
- ・コンクリートの打設時は、既設コンクリート面を湿潤状態にする事。
- ・組立用アンカーは1本程度/m2設置すること。

常磐自動車道 田野高架橋耐震補強工事			
図面の種類	田野高架橋(下り線) P9橋脚耐震補強配筋図		
縮尺	図示	図面番号	26 / 79
設計会社名	株式会社 復建技術コンサルタント		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 水戸管理事務所		



鉄筋表

記号	径	長さ	本数	単位質量	1本当り質量	質量	摘要
		(mm)	(本)	(kg/m)	(kg/本)	(kg)	
C1	D22	8820	36	3.04	26.8	965	
C2	"	8810	14	"	26.8	375	
C3	D19	7320	120	2.25	16.5	1980	<120>
3320 kg							
フレア溶接箇所数							
D22 1340 kg							
D19 1980 kg <120>							
合計 3320 kg <120>							

注：◇内はフレア溶接箇所数を示す。

組立てアンカー参考数量

種別	径	長さ	本数	単位質量	1本当り質量	質量	摘要
		(mm)	(本)	(kg/m)	(kg/本)	(kg)	
組立て鉄筋	D13	250	116	0.995	0.249	29	⌈
合計 29 kg							
D13 (SD345) 29 kg							
コンクリートアンカー M12 116 本							

※ 組立てアンカー本数
 115.9 m2 × 1本/m2 =116本

鉄筋加工寸法表

	主 筋					
	θ=90°			θ=135°		
	R	a	△L	R	a	△L
D13	39	61	17	71.5	56	3
D16	48	75	21	88	69	4
D19	57	89	25	104.5	82	5
D22	66	104	28	121	95	5

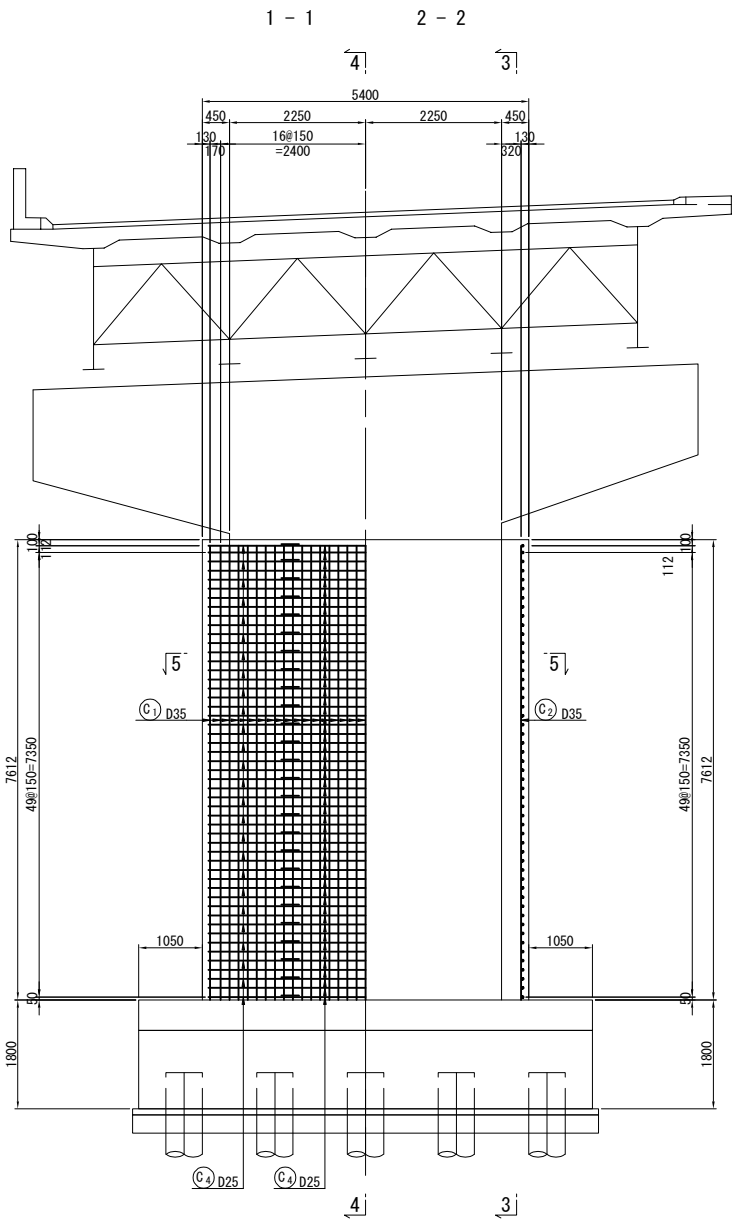
※ 上記に当てはまらない角度は各々の角度で減長計算している。

注記

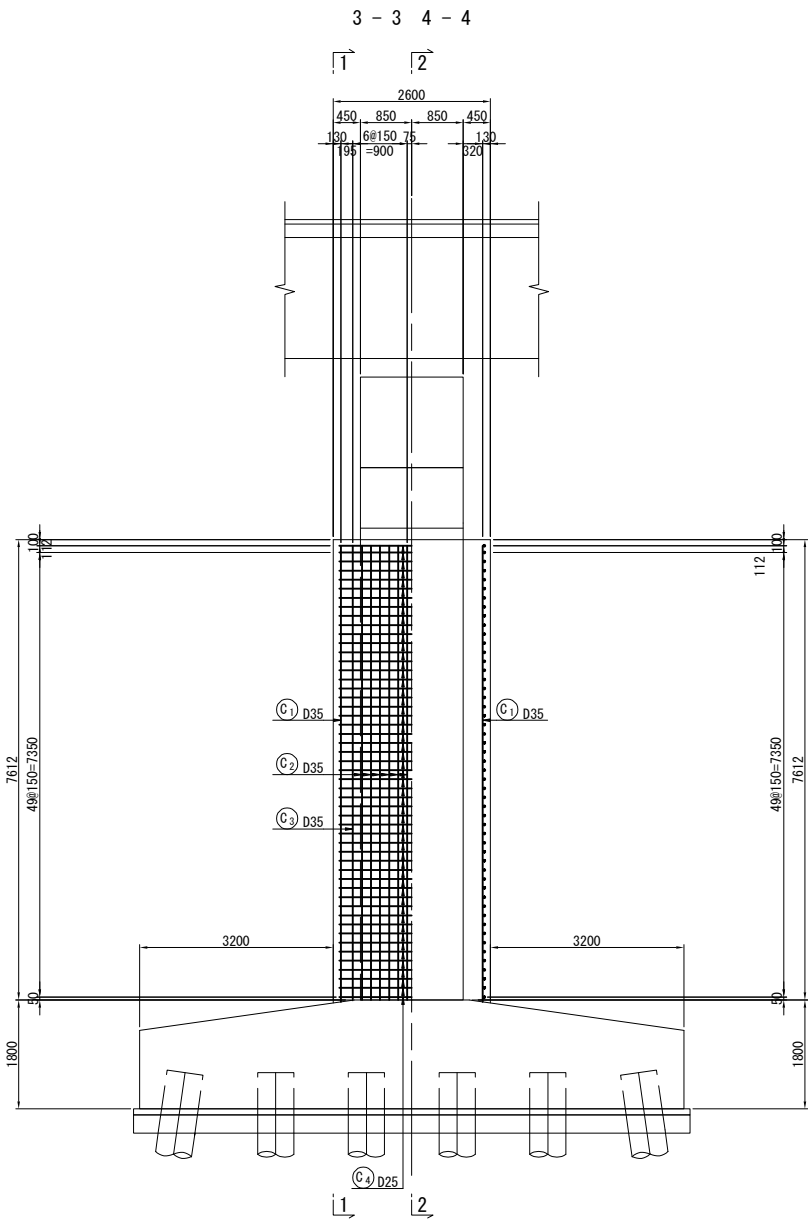
- ・図面は竣工図に基づき作成されたものである。
- ・既設構造物の形状を現地計測の上、必要に応じて施工内容を精査すること。
- ・新旧コンクリート境界面は全てWJ表面処理を行う事。
- ・巻立て部のコンクリートの設計基準強度は30N/mm2とする。
- ・使用鉄筋はSD345とする。
- ・コンクリートの打設時は、既設コンクリート面を湿潤状態にする事。
- ・組立用アンカーは1本程度/m2設置すること。

常磐自動車道 田野高架橋耐震補強工事			
図面の種類	田野高架橋(下り線) P10橋脚耐震補強配筋図		
縮 尺	図 示	図面番号	27 / 79
設計会社名	株式会社 復建技術コンサルタント		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 水戸管理事務所		

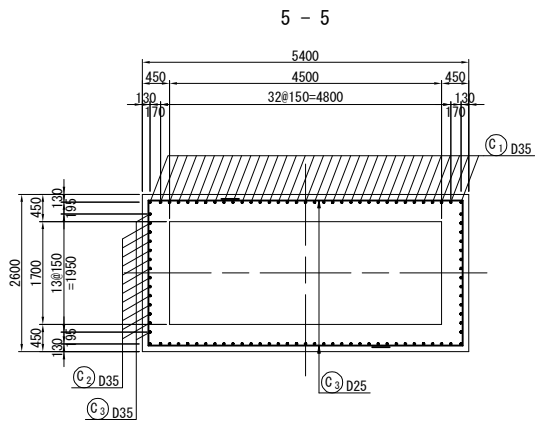
正面図



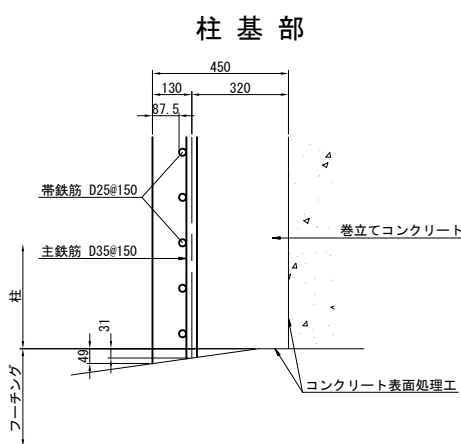
側面図



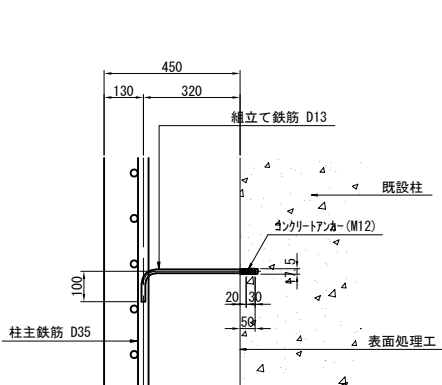
平面図



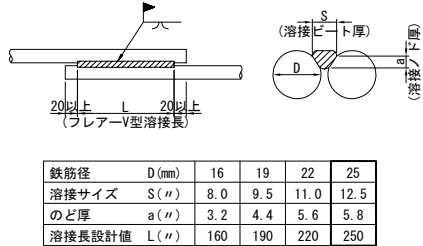
鉄筋かぶり詳細図 S=1:25



組立てアンカー参考図 S=1:25



フレア溶接詳細図



鉄筋表

記号	径	長さ	本数	単位質量	1本当り質量	質量	摘要
C1	D35	7540	70	7.51	56.6	3962	
C2	"	7510	24	"	56.4	1354	
C3	"	7520	4	"	56.5	226	
C4	D25	7830	102	3.98	31.2	3182	<102>
8724 kg							
フレア溶接箇所数							
D35				5542 kg	<102>		
D25				3182 kg	<102>		
合計				8724 kg	<102>		

注：◇内はフレア溶接箇所数を示す。

組立てアンカー参考数量

種別	径	長さ	本数	単位質量	1本当り質量	質量	摘要
組立て鉄筋	D13	430	94	0.995	0.428	40	r
合計							40 kg
D13 (SD345)							40 kg
コンクリートアンカー							M12 94 本

※ 組立てアンカー本数
94.4 m2 × 1本/m2 =94本

鉄筋加工寸法表

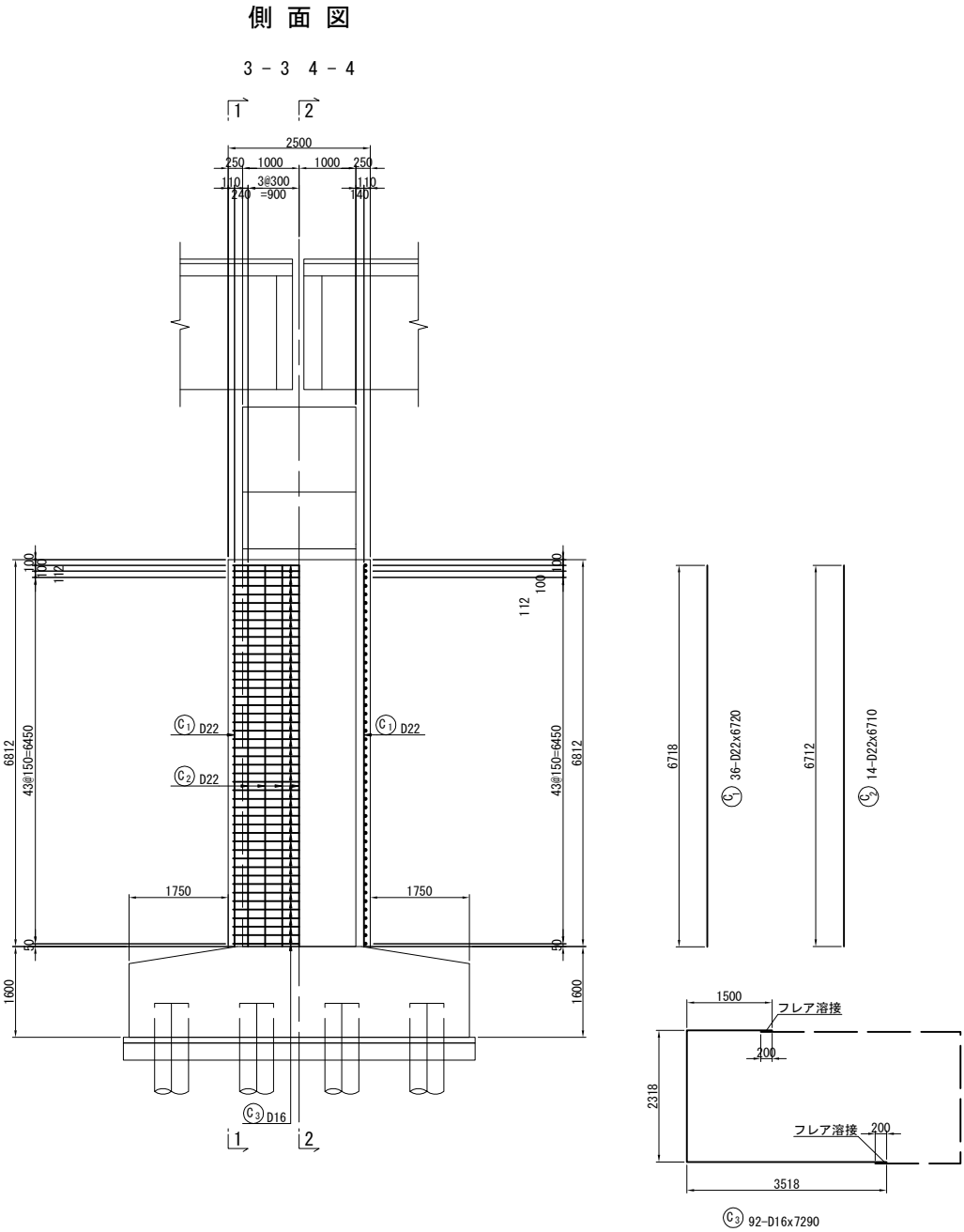
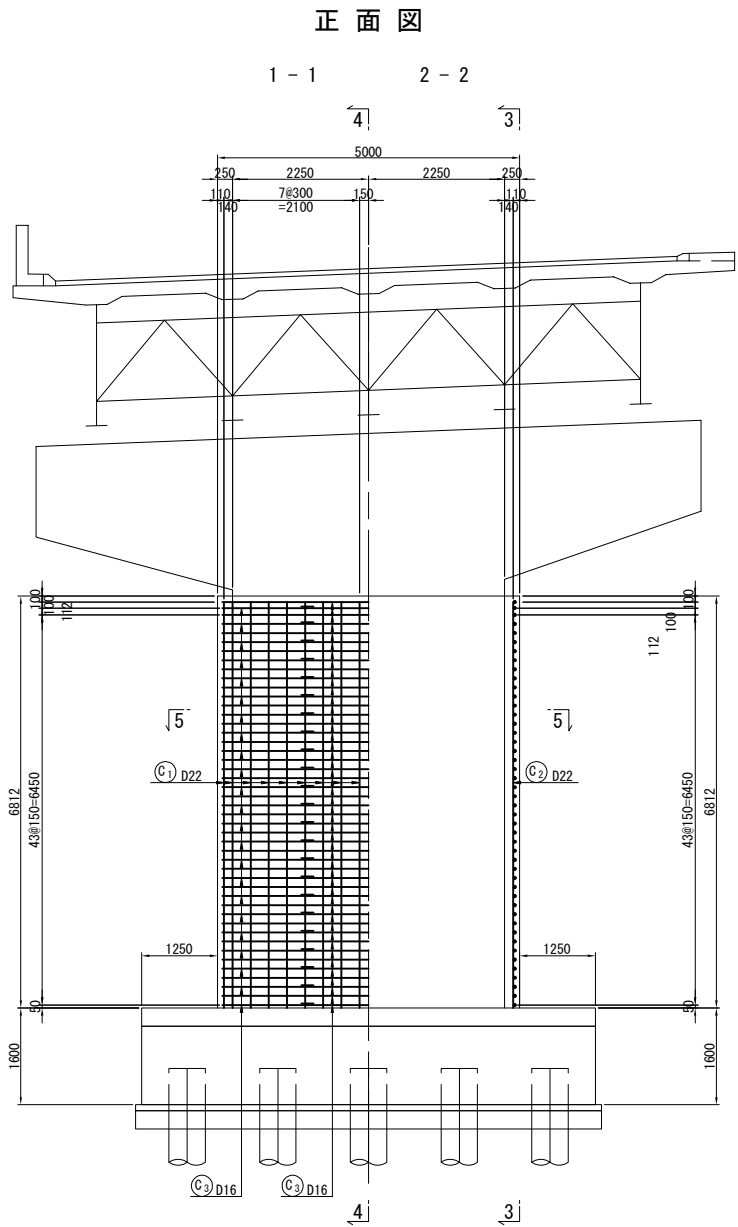
	主筋					
	θ=90°			θ=135°		
	R	a	ΔL	R	a	ΔL
D16	48	75	21	88	69	4
D19	57	89	25	104.5	82	5
D22	66	104	28	121	95	5
D25	75	118	32	137.5	108	6

※ 上記に当てはまらない角度は各々の角度で減長計算している。

注記

- ・図面は竣工図に基づき作成されたものである。
- ・既設構造物の形状を現地計測の上、必要に応じて施工内容を精査すること。
- ・新旧コンクリート境界面は全てWJ表面処理を行う事。
- ・巻立て部のコンクリートの設計基準強度は30N/mm2とする。
- ・使用鉄筋はSD345とする。
- ・コンクリートの打設時は、既設コンクリート面を湿潤状態にする事。
- ・組立用アンカーは1本程度/m2設置すること。

常磐自動車道			
田野高架橋耐震補強工事			
図面の種類	田野高架橋(下り線)	P11橋脚耐震補強配筋図	
縮尺	図示	図面番号	28 / 79
設計会社名	株式会社 復建技術コンサルタント		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社	水戸管理事務所	



鉄筋表

(橋脚1基当り)						
記号	径	長さ (mm)	本数 (本)	単位質量 (kg/m)	本当り質量 (kg/本)	質量 (kg)
C1	D22	6720	36	3.04	20.4	734
C2	"	6710	14	"	20.4	286
C3	D16	7290	92	1.56	11.4	1049
2069 kg						
フレア溶接箇所数						
D22				1020 kg		
D16				1049 kg	<92>	
合計				2069 kg	<92>	

注：◇内はフレア溶接箇所数を示す。

組立てアンカー参考数量

(橋脚1基当り)						
種別	径	長さ (mm)	本数 (本)	単位質量 (kg/m)	本当り質量 (kg/本)	質量 (kg)
組立て鉄筋	D13	250	89	0.995	0.249	22
合計						22 kg
D13(SD345)						22 kg
コンクリートアンカー						89 本

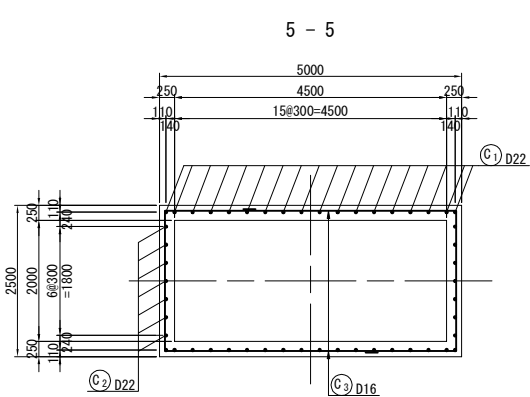
※ 組立てアンカー本数
88.6 m2 × 1本/m2 =89本

鉄筋加工寸法表

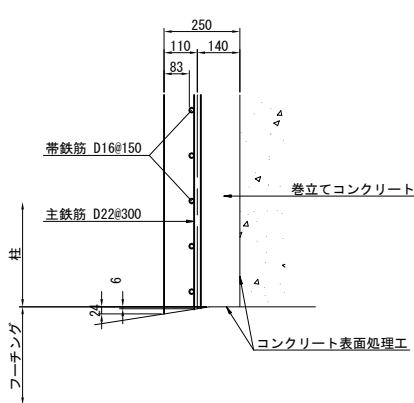
主筋						
	θ=90°			θ=135°		
	R	a	ΔL	R	a	ΔL
D16	48	75	21	88	69	4
D19	57	89	25	104.5	82	5
D22	66	104	28	121	95	5
D25	75	118	32	137.5	108	6

※ 上記に当てはまらない角度は各々の角度で減長計算している。

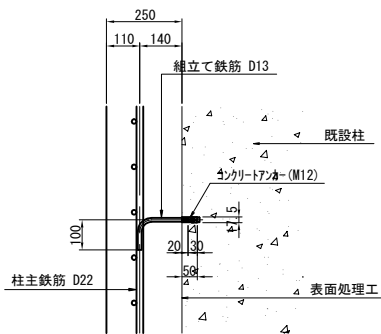
平面図



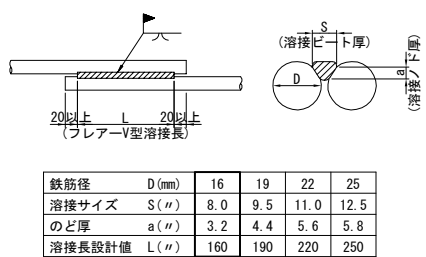
鉄筋かぶり詳細図 S=1:25



組立てアンカー参考図 S=1:25



フレア溶接詳細図

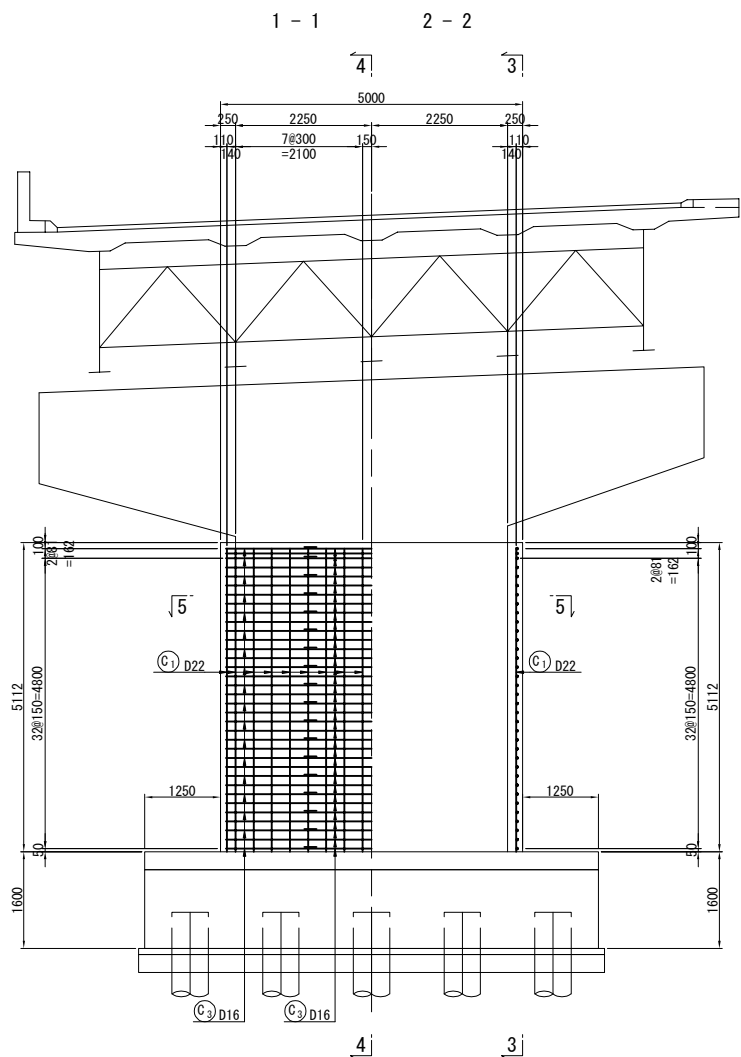


注記

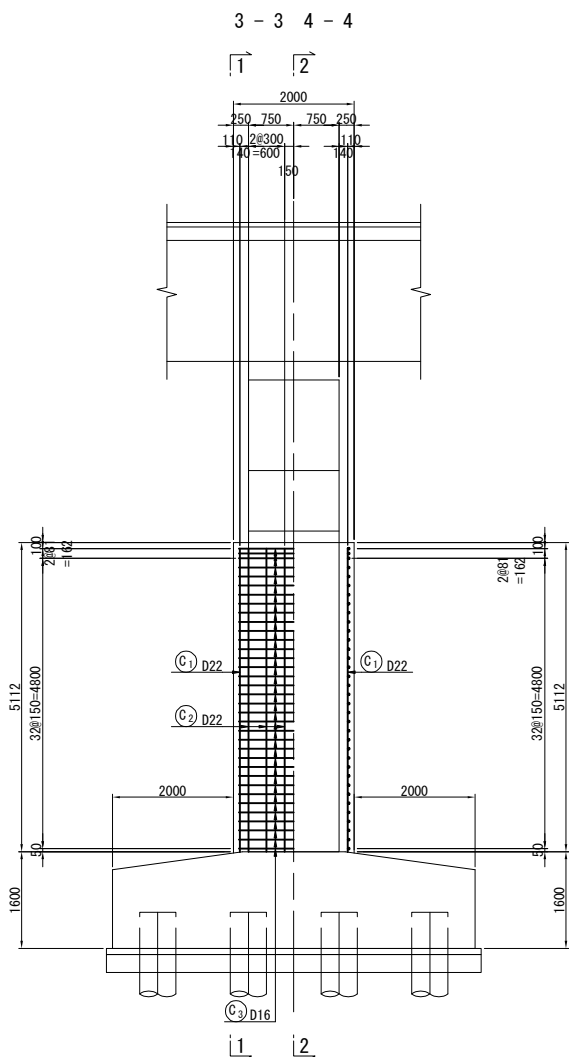
- ・図面は竣工図に基づき作成されたものである。
- ・既設構造物の形状を現地計測の上、必要に応じて施工内容を精査すること。
- ・新旧コンクリート境界面は全てWJ表面処理を行う事。
- ・巻立て部のコンクリートの設計基準強度は30N/mm2とする。
- ・使用鉄筋はSD345とする。
- ・コンクリートの打設時は、既設コンクリート面を湿潤状態にする事。
- ・組立用アンカーは1本程度/m2設置すること。

常磐自動車道 田野高架橋耐震補強工事			
図面の種類	田野高架橋(下り線) P12橋脚耐震補強配筋図	図面番号	29 / 79
縮尺	図示	図面番号	29 / 79
設計会社名	株式会社 復建技術コンサルタント	施工会社名	
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社	水戸管理事務所	

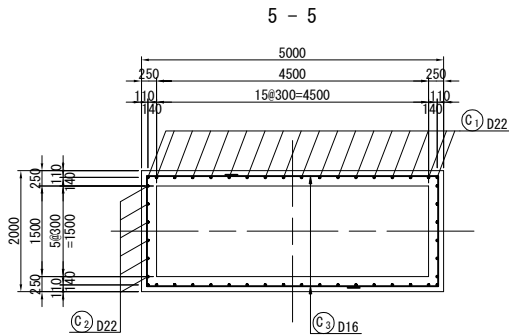
正面図



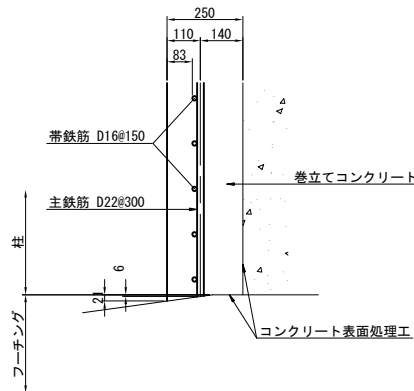
側面図



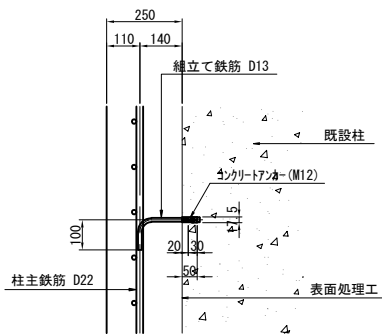
平面図



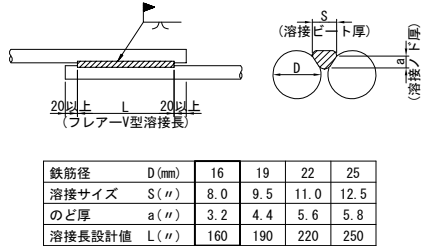
鉄筋かぶり詳細図 S=1:25
柱基部



組立てアンカー参考図 S=1:25



フレア溶接詳細図



鉄筋表

記号	径	長さ (mm)	本数 (本)	単位質量 (kg/m)	1本当り質量 (kg/本)	質量 (kg)	摘要
C1	D22	5020	36	3.04	15.3	551	
C2	"	5010	12	"	15.2	182	
C3	D16	6790	70	1.56	10.6	742	<70>
1475 kg							
フレア溶接箇所数							
D22				733 kg			
D16				742 kg	<70>		
合計				1475 kg	<70>		

注：<>内はフレア溶接箇所数を示す。

組立てアンカー参考数量

種別	径	長さ (mm)	本数 (本)	単位質量 (kg/m)	1本当り質量 (kg/本)	質量 (kg)	摘要
組立て鉄筋	D13	250	61	0.995	0.249	15	■
合計							15 kg
D13(SD345)							15 kg
コンクリートアンカー							M12 61 本

※ 組立てアンカー本数
61.3 m2 × 1本/m2 =61本

鉄筋加工寸法表

	主			筋		
	$\theta=90^\circ$			$\theta=135^\circ$		
	R	a	ΔL	R	a	ΔL
D16	48	75	21	88	69	4
D19	57	89	25	104.5	82	5
D22	66	104	28	121	95	5
D25	75	118	32	137.5	108	6

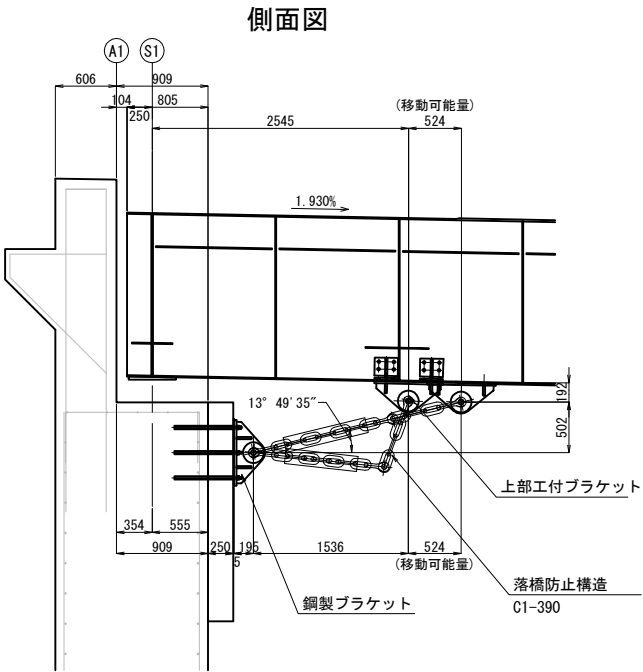
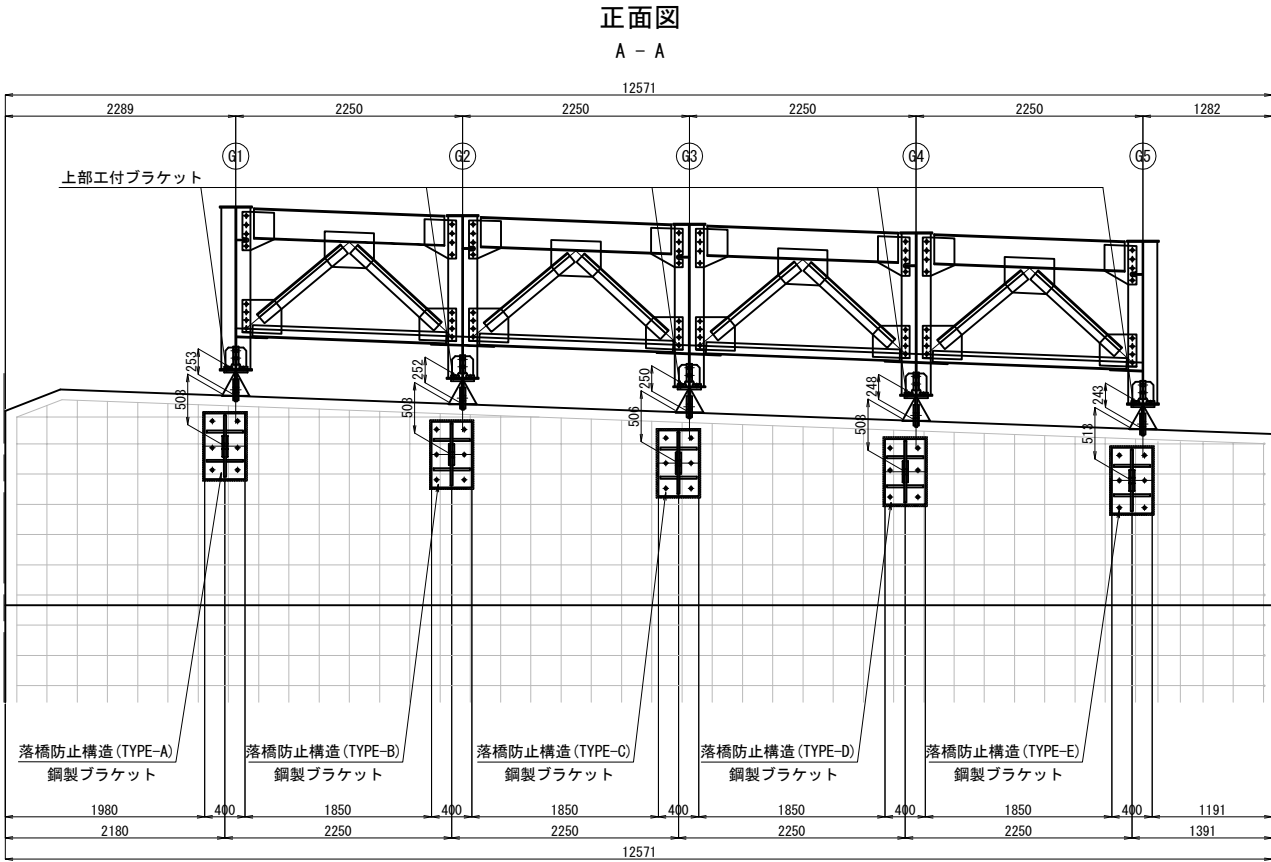
※ 上記に当てはまらない角度は各々の角度で減長計算している。

注記

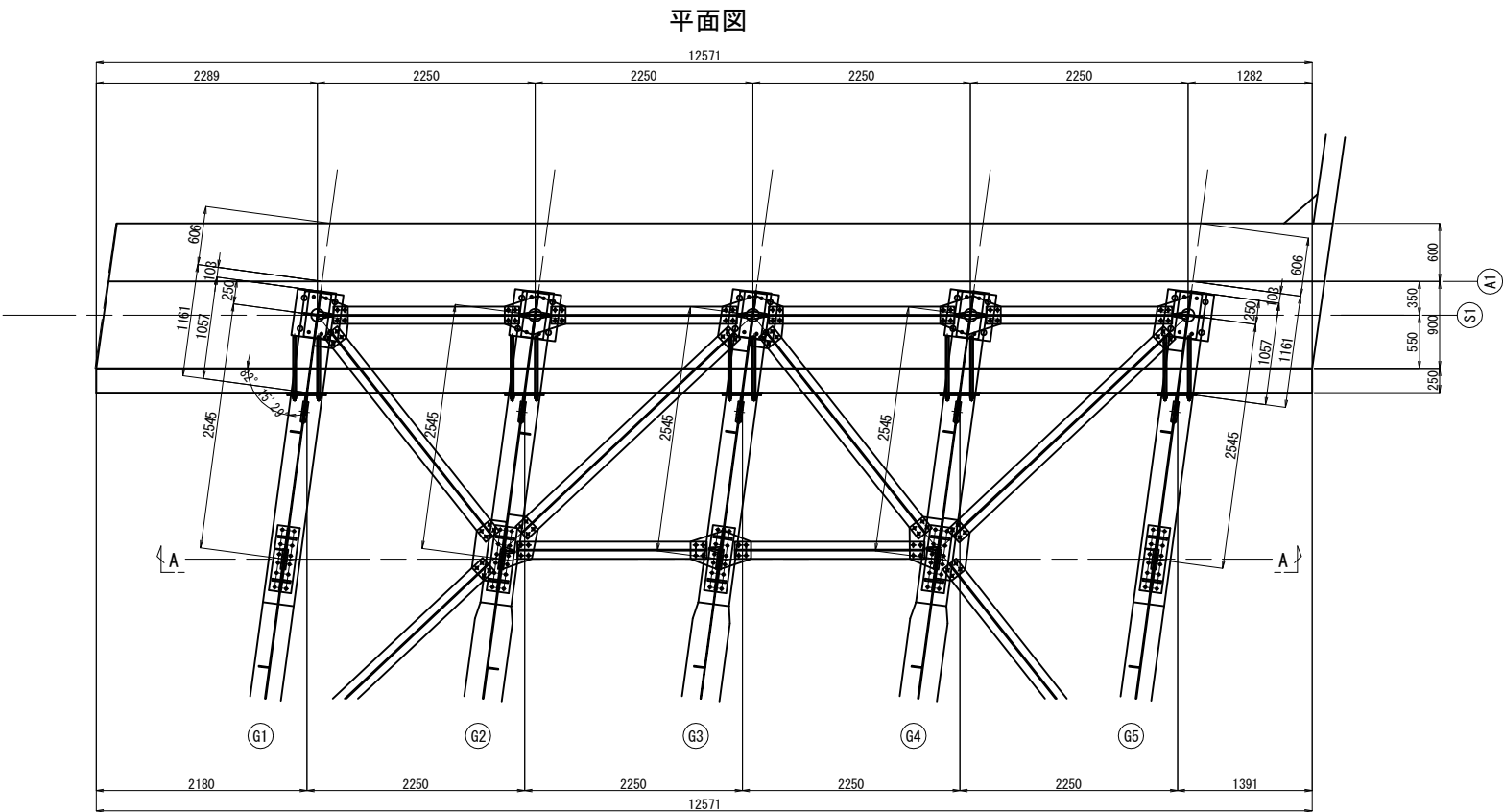
- ・図面は竣工図に基づき作成されたものである。
- ・既設構造物の形状を現地計測の上、必要に応じて施工内容を精査すること。
- ・新旧コンクリート境界面は全てWJ表面処理を行う事。
- ・巻立て部のコンクリートの設計基準強度は30N/mm2とする。
- ・使用鉄筋はSD345とする。
- ・コンクリートの打設時は、既設コンクリート面を湿潤状態にする事。
- ・組立用アンカーは1本程度/m2設置すること。

常磐自動車道 田野高架橋耐震補強工事			
図面の種類	田野高架橋(下り線) P14橋脚耐震補強配筋図	図面番号	31 / 79
縮尺	図示	図面番号	31 / 79
設計会社名	株式会社 復建技術コンサルタント	施工会社名	
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 水戸管理事務所		

田野高架橋(下り線) A1橋台 落橋防止構造C 構造図(その1) S=1:75
 落橋防止構造C1-390



設計水平力	390kN
設計移動量	524mm

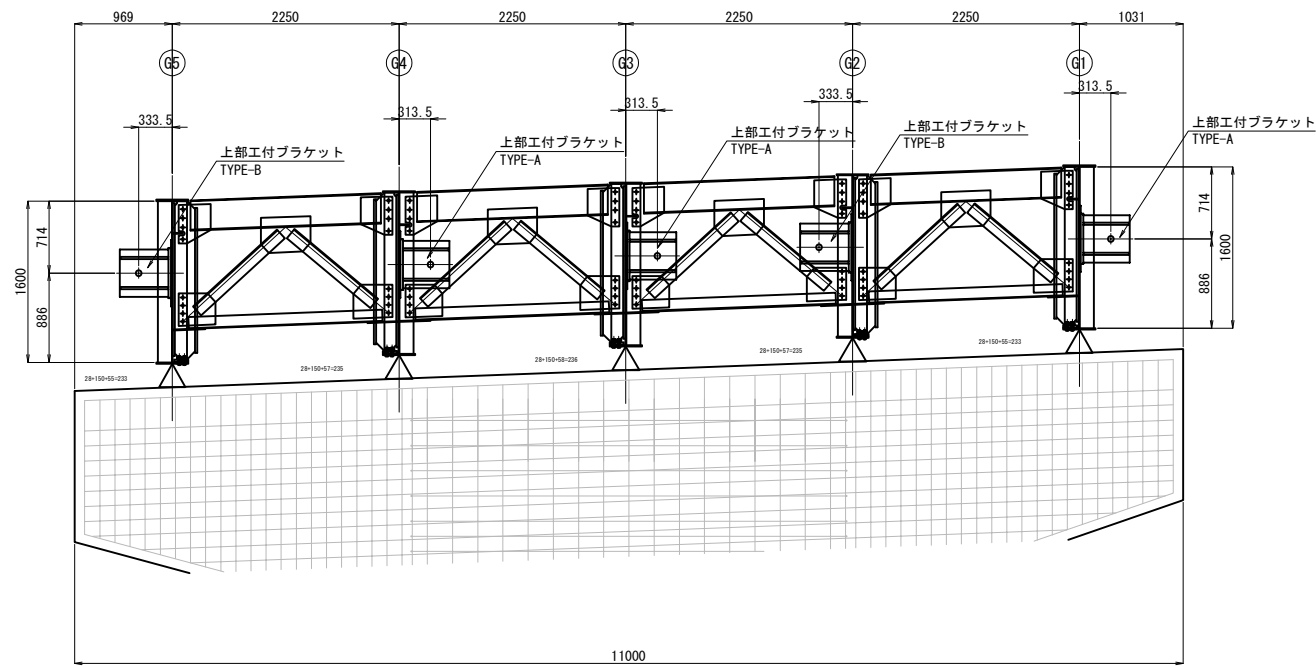


- 注 記
1. ブラケットの製作は、現地調査の上最終決定のこと。
 2. 鋼材の加工は現橋の調査・計測を行い構造物の形状を最終的に決めてから行うこと。
 3. 既設コンクリートへの削孔の際には、鉄筋探査等を実施し既設鉄筋の切断に注意すること。また、必要に応じ削孔位置、ブラケットの
 4. 下部工付きブラケットは全て溶融亜鉛メッキを施す。
上部工部材は全て塗装仕上げとする。
主桁補強取付面は既設桁の素地調整を行うこと。
 5. 鋼製ブラケット(下部工付)は表面処理としてチッピングを行う。

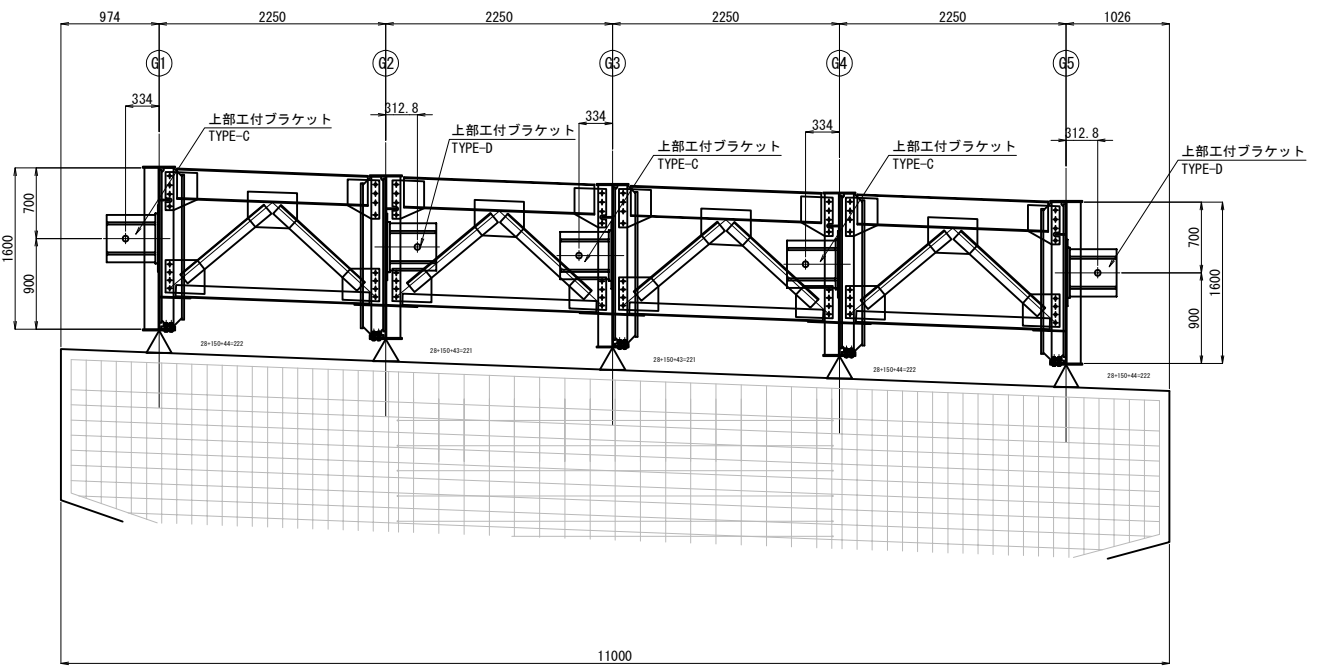
常磐自動車道 田野高架橋耐震補強工事			
図面の種類	田野高架橋(下り線) A1橋台 落橋防止構造C 構造図(その1)		
縮 尺	図 示	図面番号	32 / 79
設計会社名	株式会社 復建技術コンサルタント		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 水戸管理事務所		

田野高架橋(下り線) P4橋脚 落橋防止構造P 構造図(その1) S=1:75
 落橋防止構造P2-390

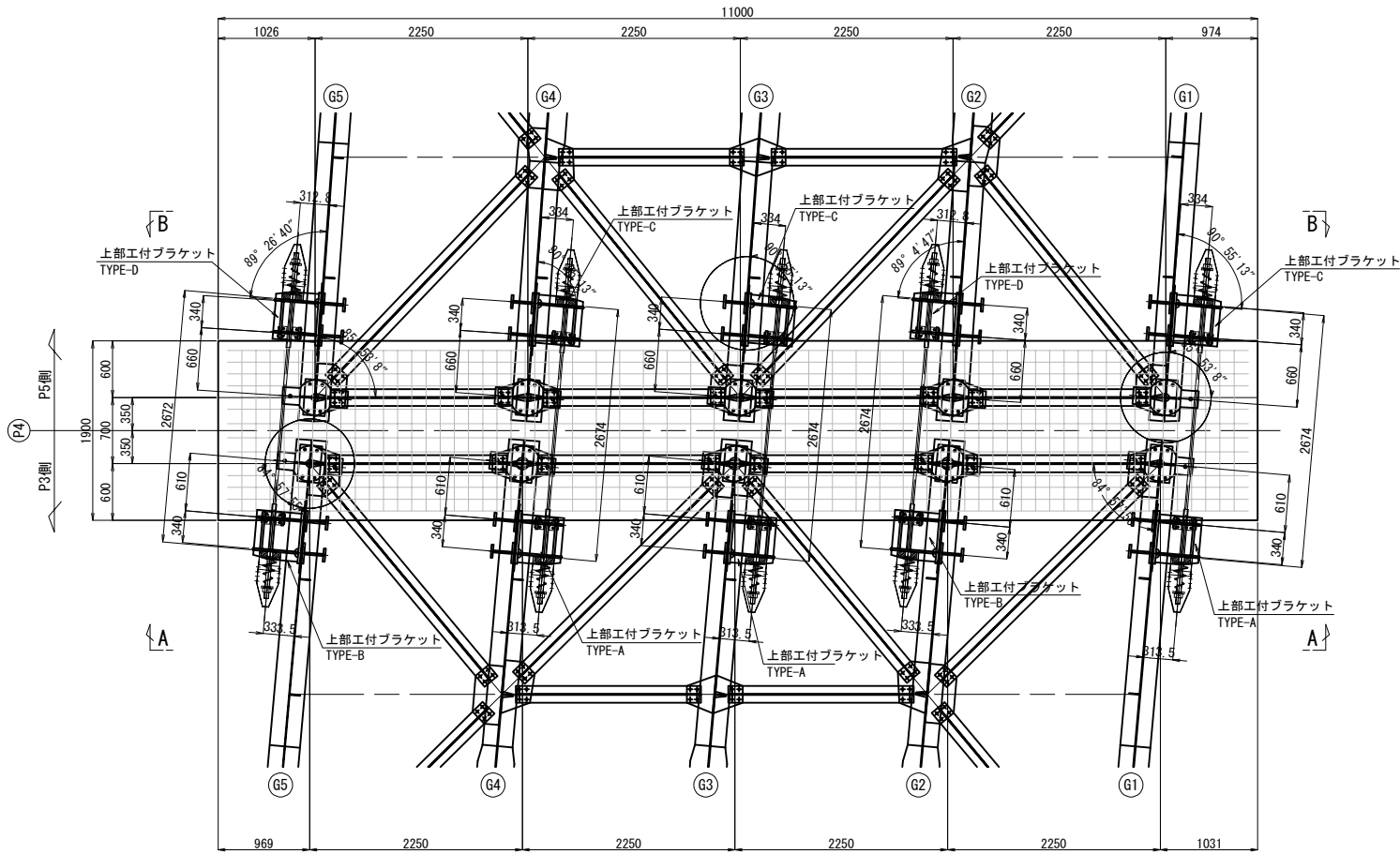
正面図
A - A



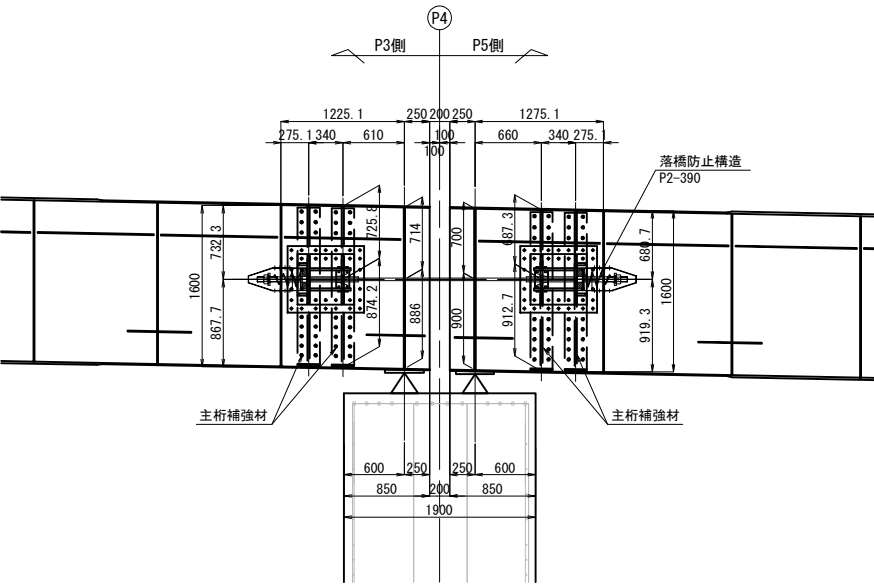
正面図
B - B



平面図



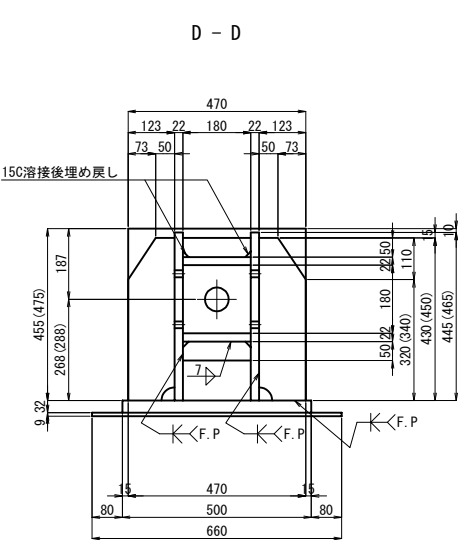
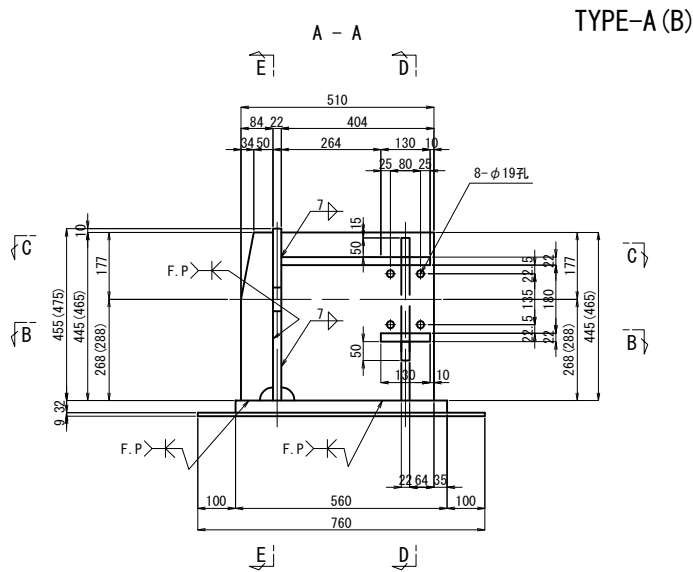
側面図



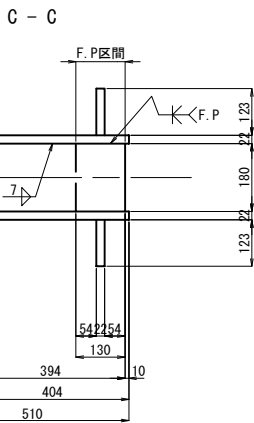
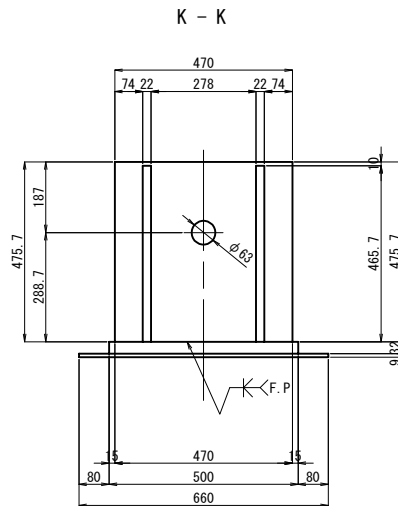
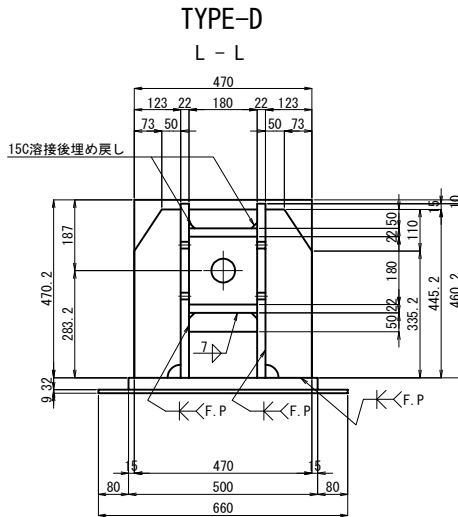
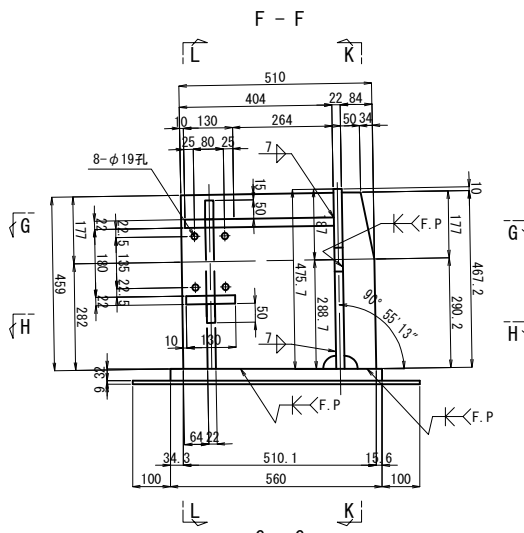
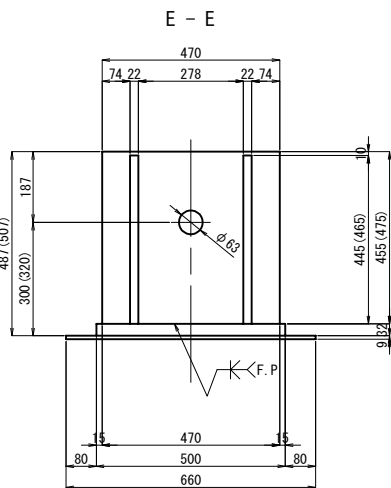
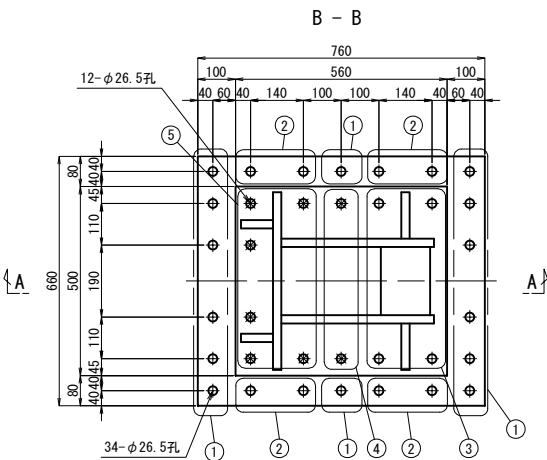
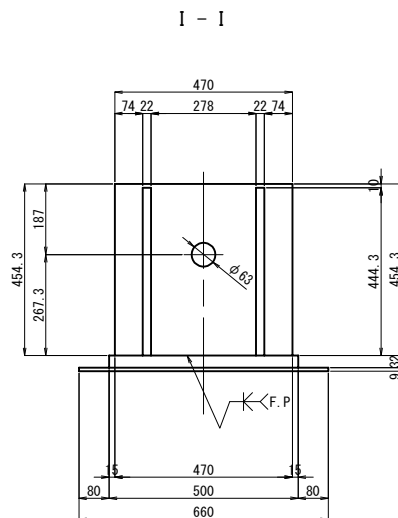
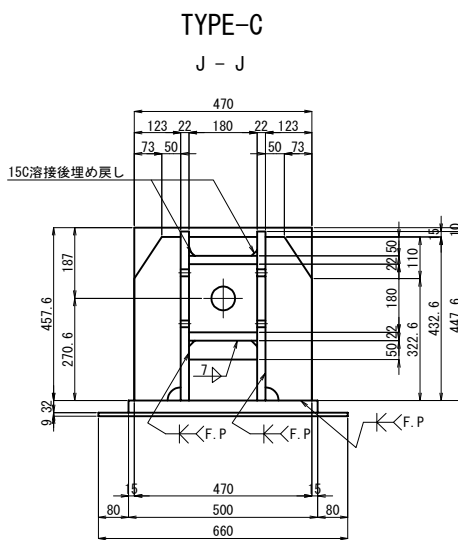
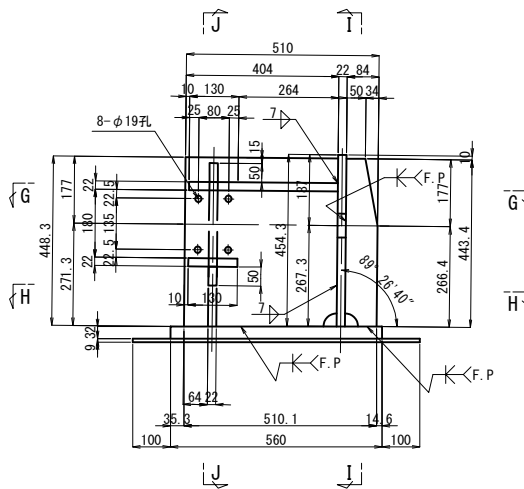
設計水平力	390kN
設計遊間量	300mm

- 注 記
1. 上部工付ブラケットの製作は、現地調査の上最終決定のこと。
 2. 鋼材の加工は現橋の調査・計測を行い構造物の形状を最終的に決めてから行うこと。
 3. 上部工部材は全て塗装仕上げとする。
 4. 主桁補強取付面は既設桁の素地調整を行うこと。

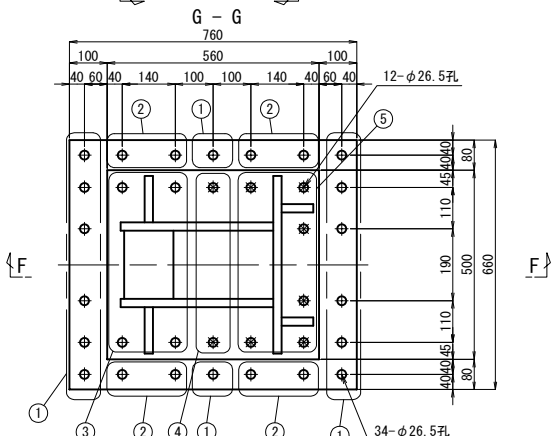
常磐自動車道 田野高架橋耐震補強工事			
図面の種類	田野高架橋(下り線) P4橋脚 落橋防止構造P 構造図(その1)		
縮 尺	図 示	図面番号	34 / 79
設計会社名	株式会社 復建技術コンサルタント		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 水戸管理事務所		



落橋防止構造P2-390
〔上部工付ブラケット詳細図〕
F - F



- TYPE-A(B)
1基当たり
(TYPE-A:3基 TYPE-B:2基)
1-Base PL 500x32x560
1-PL 455(475)x22x470
2-PL 84x22x445(465)
2-PL 404x22x445(465)
2-PL 123x22x430(450)
1-PL 180x22x394
1-PL 180x22x130
2-PL 50x22x180
1-PL 660x9x760
① 14-TCB M22x55(S10T)
② 8-TCB M22x80(S10T)
③ 4-TCB M22x110(S10T)
④ 2-TCB M22x90(2W付)(S10T)
⑤ 6-TCB M22x115(2W付)(S10T)



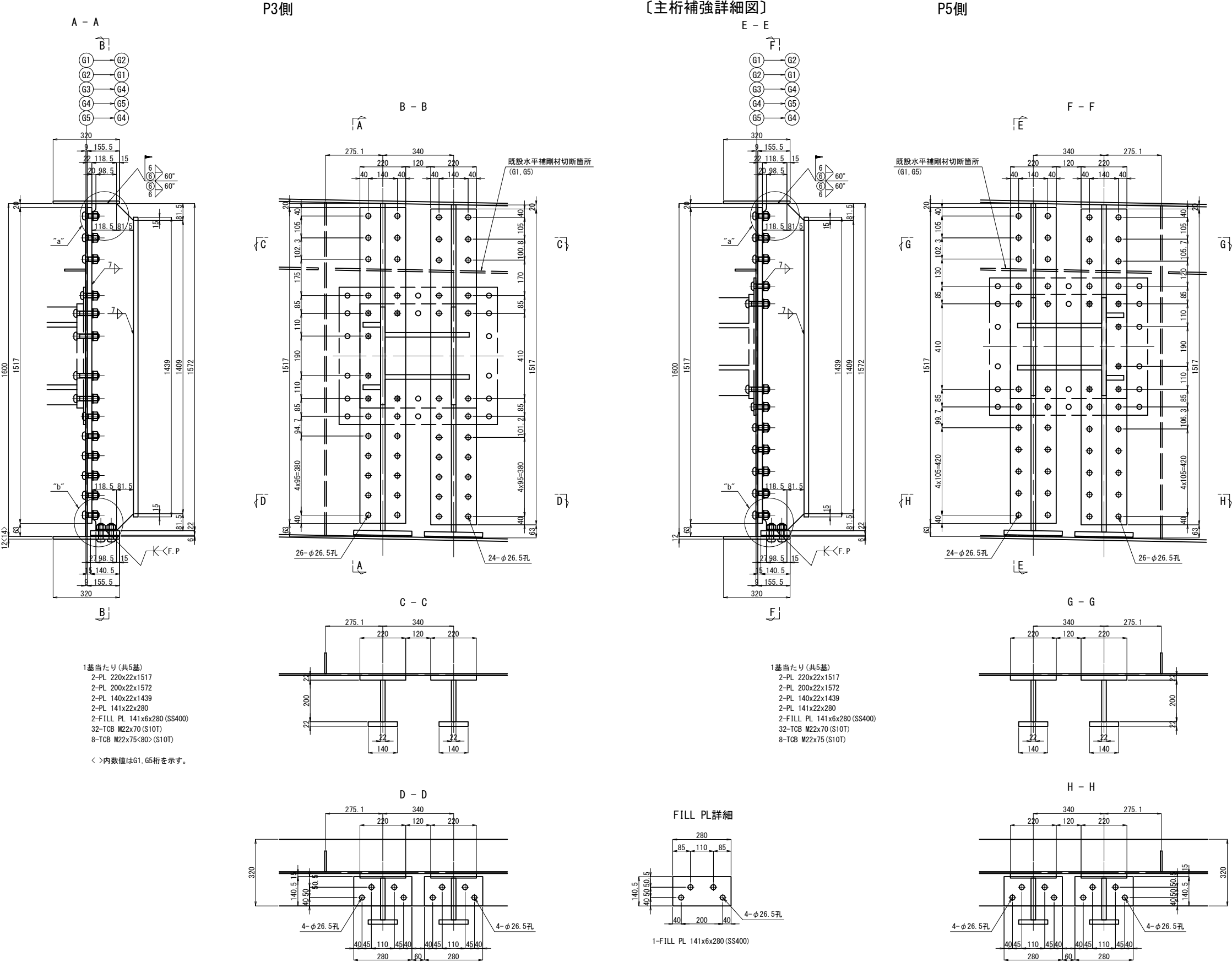
- TYPE-C
1基当たり:3基
1-Base PL 500x32x560
1-PL 454x22x470
2-PL 84x22x444
2-PL 404x22x448
2-PL 123x22x433
1-PL 180x22x394
1-PL 180x22x130
2-PL 50x22x180
1-PL 660x9x760
① 14-TCB M22x55(S10T)
② 8-TCB M22x80(S10T)
③ 4-TCB M22x110(S10T)
④ 2-TCB M22x90(2W付)(S10T)
⑤ 6-TCB M22x115(2W付)(S10T)

- TYPE-D
1基当たり:2基
1-Base PL 500x32x560
1-PL 476x22x470
2-PL 84x22x467
2-PL 404x22x466
2-PL 123x22x445
1-PL 180x22x394
1-PL 180x22x130
2-PL 50x22x180
1-PL 660x9x760
① 14-TCB M22x55(S10T)
② 8-TCB M22x80(S10T)
③ 4-TCB M22x110(S10T)
④ 2-TCB M22x90(2W付)(S10T)
⑤ 6-TCB M22x115(2W付)(S10T)

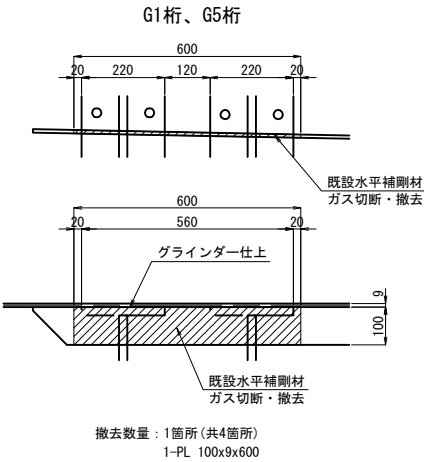
- 注 記
1. 上部工付ブラケットの製作は、現地調査の上最終決定のこと。
2. 鋼材の加工は現橋の調査・計測を行い構造物の形状を最終的に決めてから行うこと。
3. 特記なき材質は全てSM400Aとする。
4. 特記なきスカラーは50Rとする。
5. 中印のボルトは、TCB M22を示す。
※印のボルトは、TCB M22[2W付]を示す。
6. ボルト孔明けについて、以下の通りとする。
TCB M22 → φ24.5(既設)
TCB M22 → φ26.5(新設)
7. 上部工部材は全て塗装仕上げとする。
8. 主桁補強取付面は既設桁の素地調整を行うこと。
9. 「F.P」の表示のあるものは、完全溶込み溶接とすること。

常磐自動車道 田野高架橋耐震補強工事			
図面の種類	田野高架橋(下り線) P4橋脚 落橋防止構造P 構造図(その2)		
縮 尺	図 示	図面番号	35 / 79
設計会社名	株式会社 復建技術コンサルタント		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 水戸管理事務所		

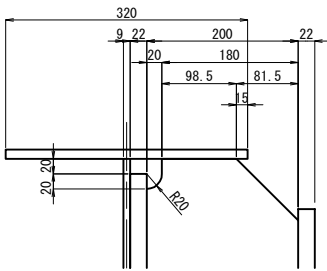
落橋防止構造P2-390
〔主桁補強詳細図〕



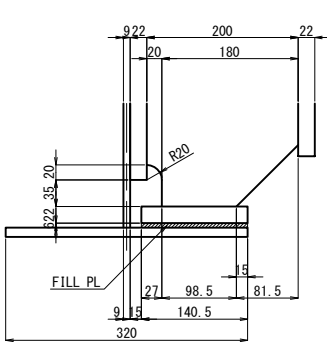
既設水平補剛材切断詳細



“a”部詳細 S=1:10



“b”部詳細 S=1:10



- 注 記
- 鋼材の製作は、現地調査の上最終決定のこと。
 - 鋼材の加工は現場の調査・計測を行い構造物の形状を最終的に決めてから行うこと。
 - 特記なき材質は全てSM400Aとする。
 - 特記なきスカラーップは50Rとする。
 - 印のボルトは、TCB M22〔20付〕を示す。
※印のボルトは、TCB M22〔20付〕を示す。
 - ボルト孔明けについて、以下の通りとする。
TCB M22 一φ24.5 (既設)
TCB M22 一φ26.5 (新設)
 - 上部工部材は全て塗装仕上げとする。
 - 主桁補強取付面は既設桁の素地調整を行うこと。
 - 「F.P.」の表示のあるものは、完全溶込み溶接とすること。

常磐自動車道 田野高架橋耐震補強工事			
図面の種類	田野高架橋(下り線) P4橋脚 落橋防止構造P 構造図(その3)		
縮 尺	図 示	図面番号	36 / 79
設計会社名	株式会社 復建技術コンサルタント		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 水戸管理事務所		

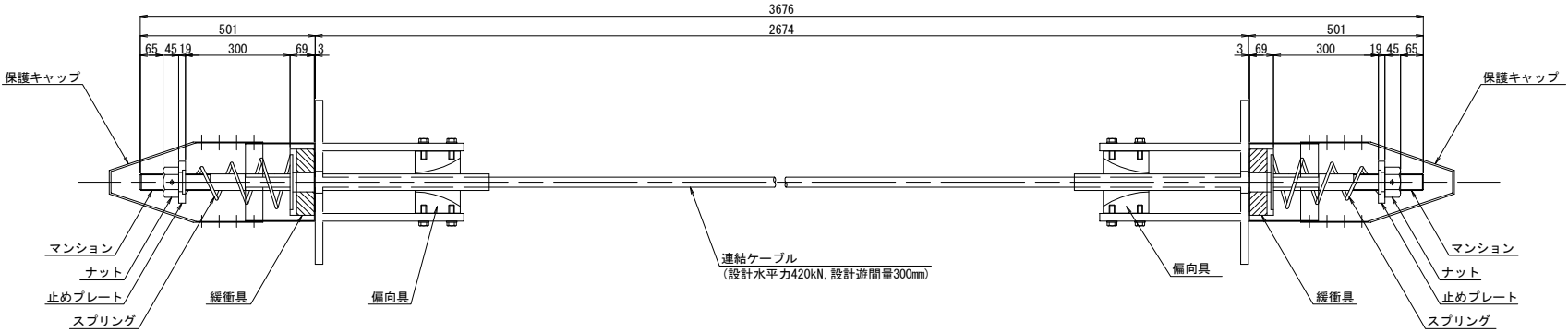
落橋防止構造P2-390
〔連結ケーブル〕

取付詳細図

材 料 表 (落橋防止構造1組当たり)

全5組

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
連結ケーブル (マンション) (ガイドパイプ)	L=3676mm	本	1	PC鋼より線, ポリエチレン被覆
		個	2	SCM435, ネジきり標準 <ケーブルに組込>
	700mm	本	2	ポリエチレン <ケーブルに組込>
ナット		個	2	S45C: 垂鉛めっき (HDZT77)
止めプレート		個	2	SS400: 垂鉛めっき (HDZT77)
スプリング	L=450	個	2	SW-C: 垂鉛めっき, クロメート処理
緩衝具		個	2	SS400: 垂鉛めっき (HDZT77) + クロロブレンゴム
偏向具		個	2	ポリエチレン
(取付ボルト)	M16x50 1W付	本	16	SS400相当品: 垂鉛めっき (HDZT49) 接着剤付
保護キャップ		個	2	ポリエチレン: 8-止めビス付



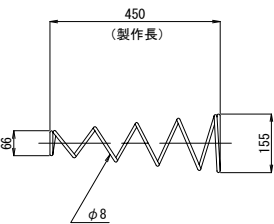
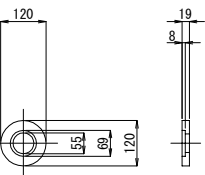
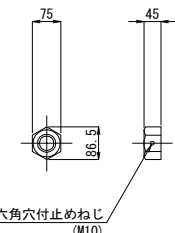
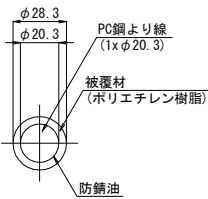
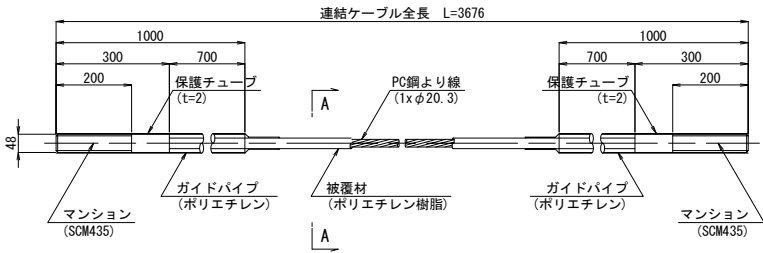
連結ケーブル

A-A断面図 S=1:4

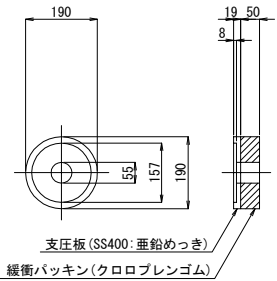
ナット
(S45C: 垂鉛めっき)

止めプレート
(SS400: 垂鉛めっき)

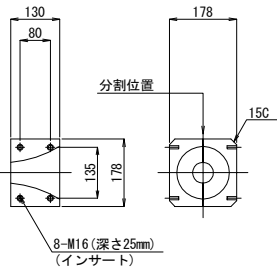
スプリング
(SW-C: 垂鉛めっき, クロメート処理)



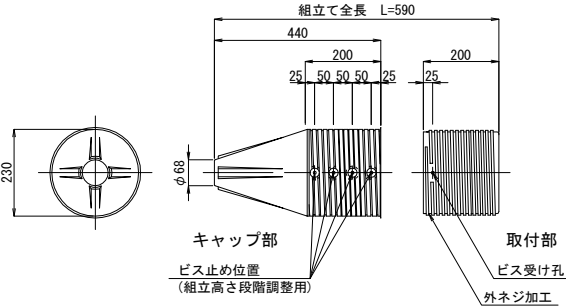
緩衝具
(支圧板+緩衝パッキン)



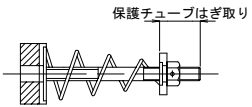
偏向具
(ポリエチレン)



保護キャップ
(ポリエチレン)



マンション端部処理



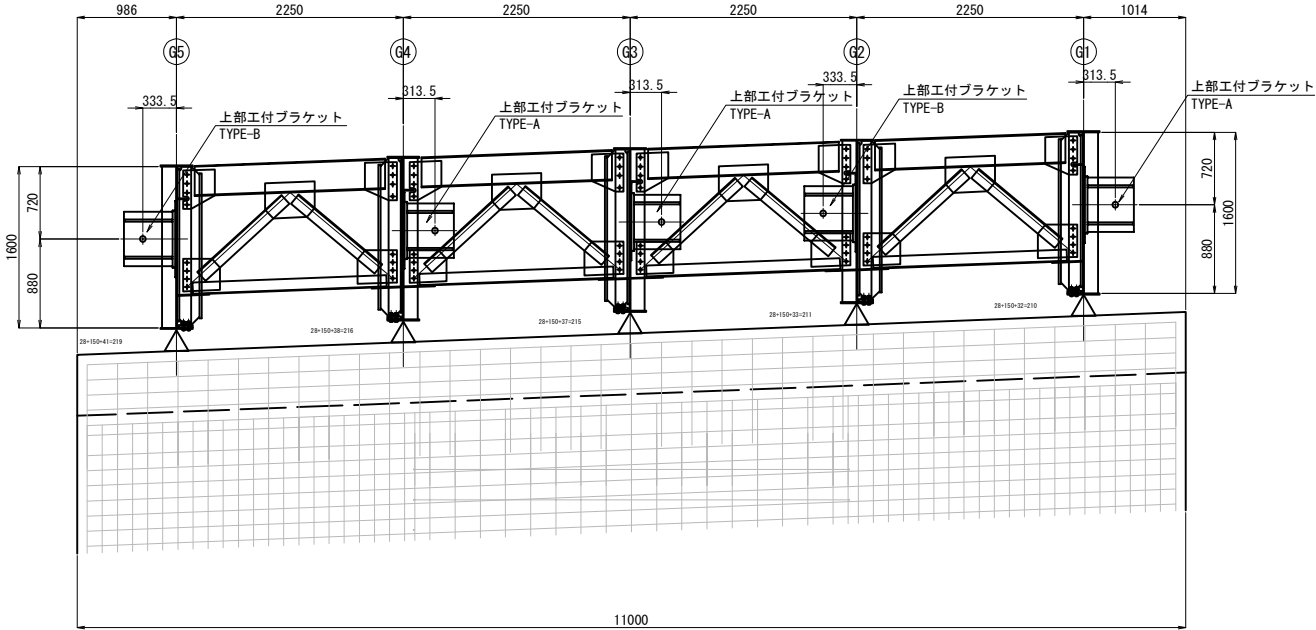
※取付前に保護チューブをはぎ取る。
取付後はマンション先端ねじ部に
防錆処理をおこなうこと。

注記)
1. 連結ケーブルの製作は、現場にて取付間
距離を確認のうえ、おこなうこと。

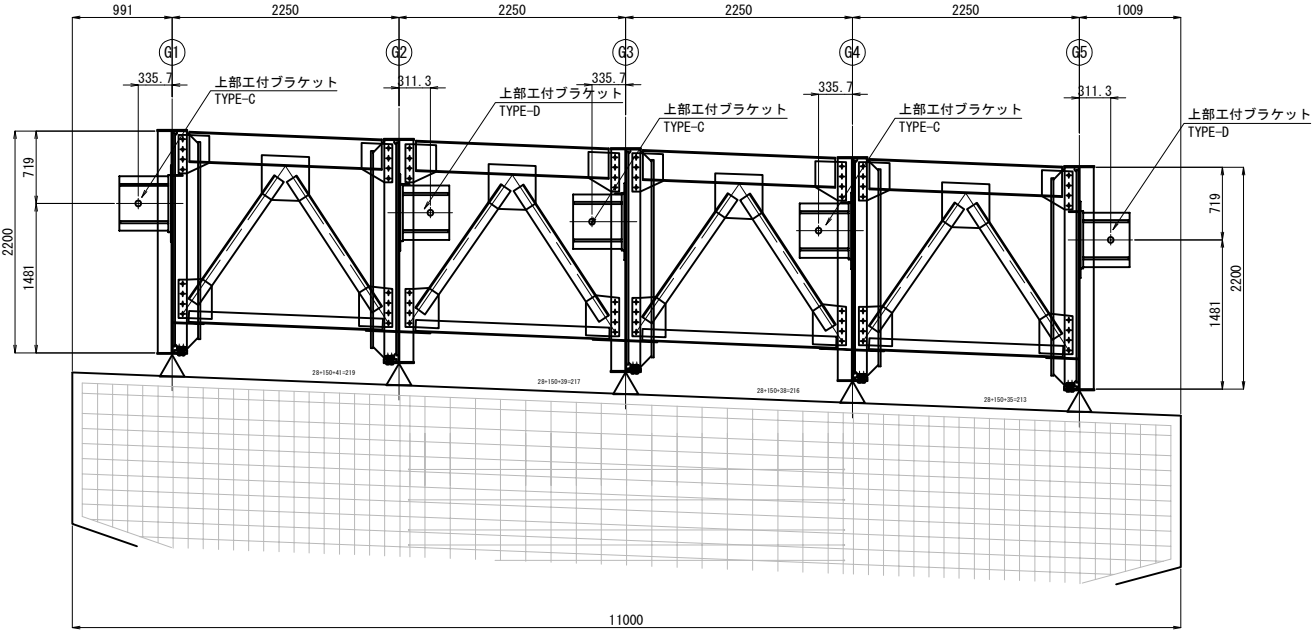
常磐自動車道 田野高架橋耐震補強工事			
図面の種類	田野高架橋(下り線) P4橋脚 落橋防止構造P構造図(その4) (参考図)		
縮 尺	図 示	図面番号	37 / 79
設計会社名	株式会社 復建技術コンサルタント		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 水戸管理事務所		

田野高架橋(下り線) P7橋脚 落橋防止構造P 構造図(その1) S=1:75
 落橋防止構造P2-420

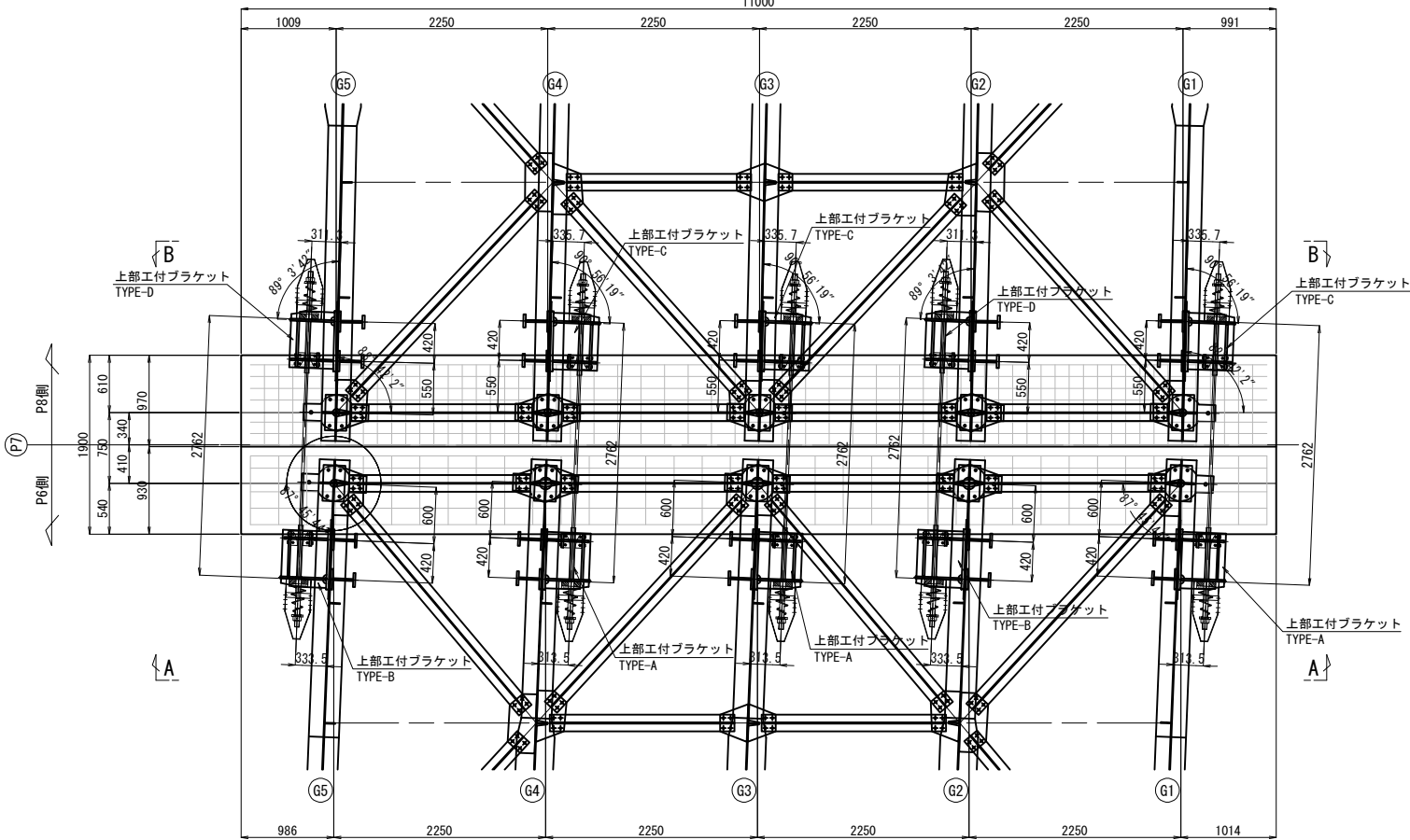
正面図
A - A



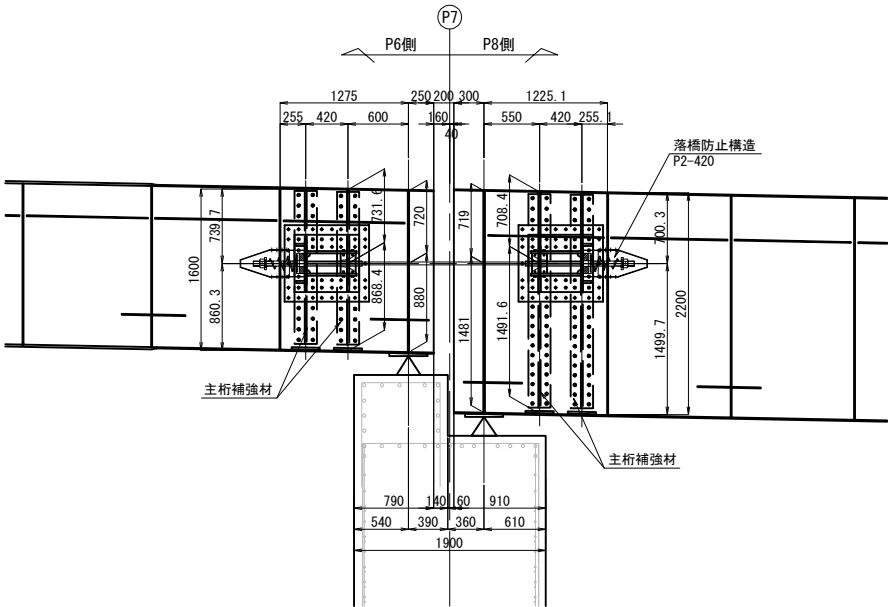
正面図
B - B



平面図



側面図

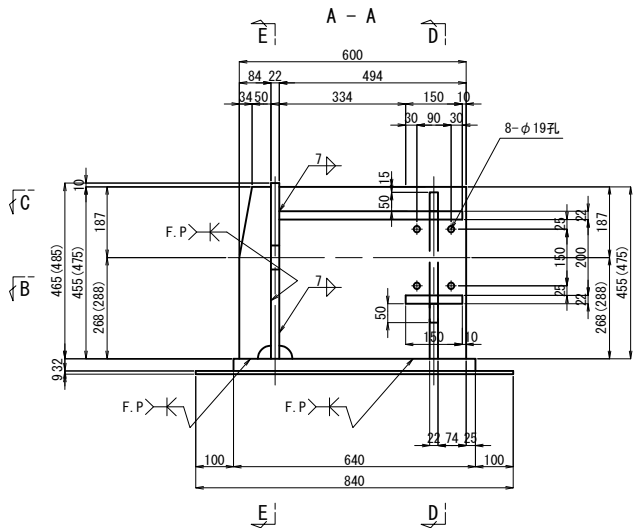


設計水平力	420kN
設計遊間量	300mm

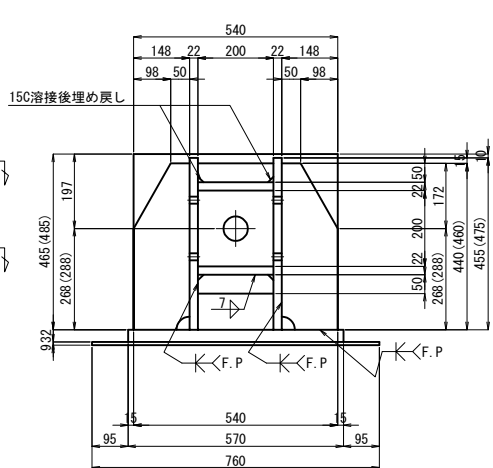
- 注 記
- 上部工付ブラケットの製作は、現地調査の上最終決定のこと。
 - 鋼材の加工は現橋の調査・計測を行い構造物の形状を最終的に決めてから行うこと。
 - 上部工部材は全て塗装仕上げとする。
 - 主桁補強取付面は既設桁の素地調整を行うこと。

常磐自動車道 田野高架橋耐震補強工事			
図面の種類	田野高架橋(下り線) P7橋脚 落橋防止構造P 構造図(その1)		
縮 尺	図 示	図面番号	38 / 79
設計会社名	株式会社 復建技術コンサルタント		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 水戸管理事務所		

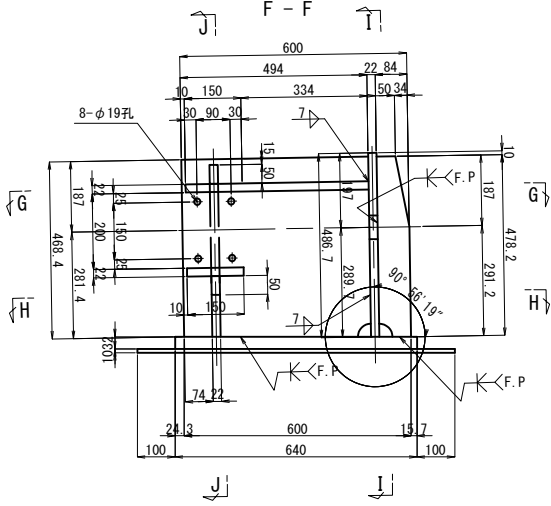
TYPE-A(B)



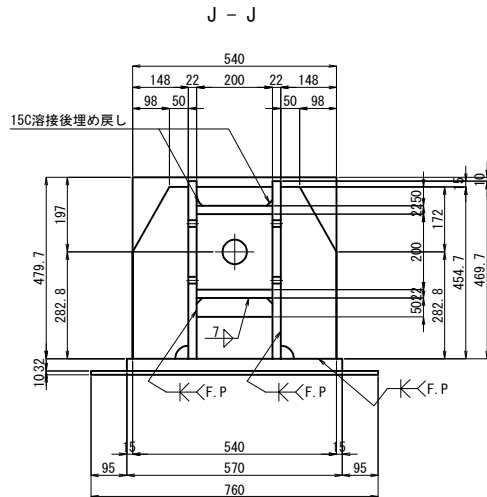
D - D



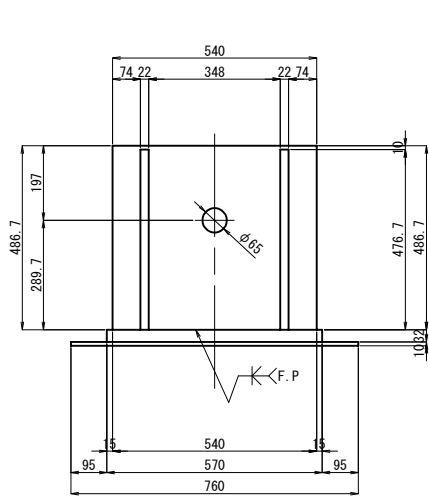
落橋防止構造P2-420
〔上部工付ブラケット詳細図〕



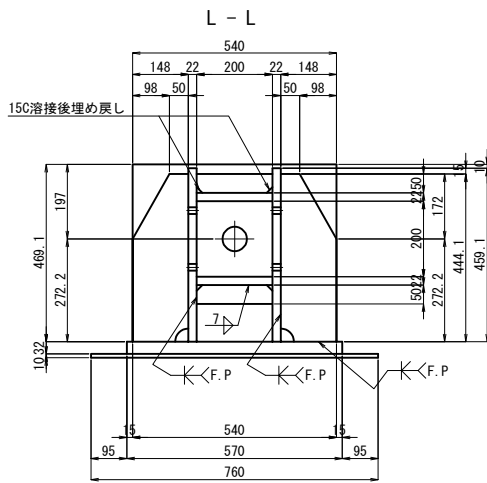
TYPE-C



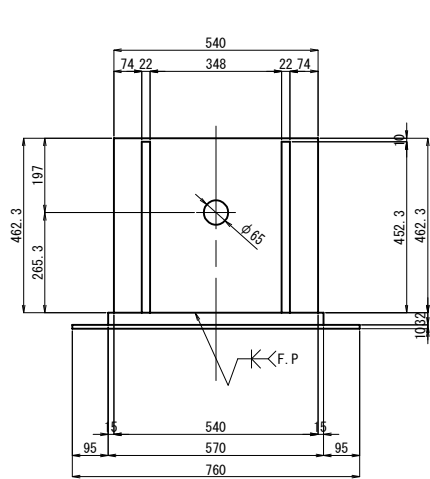
I - I



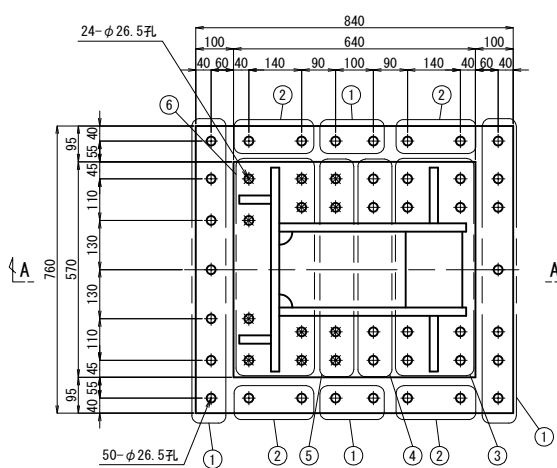
TYPE-D



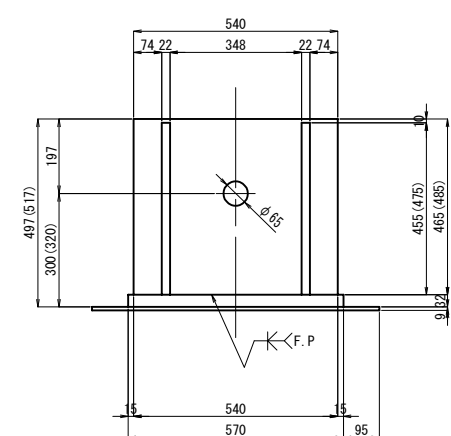
K - K



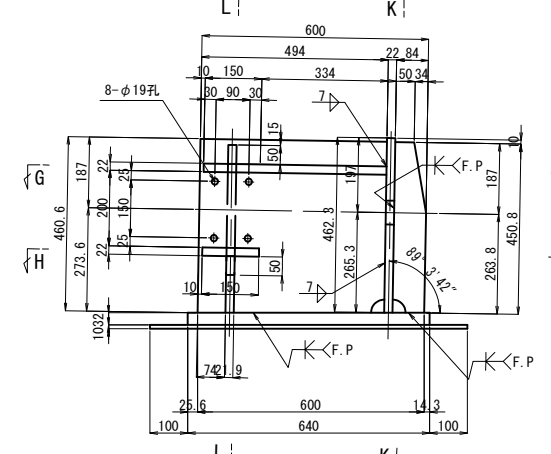
B - B



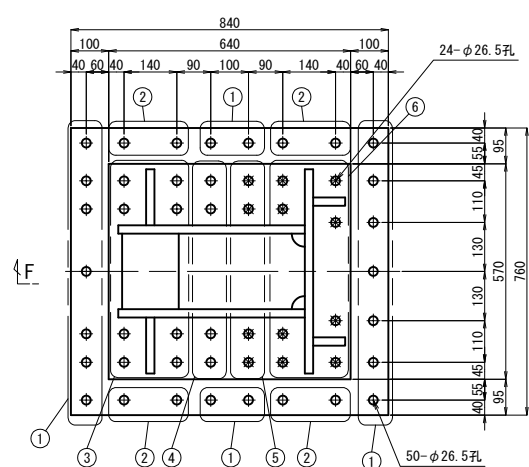
E - E



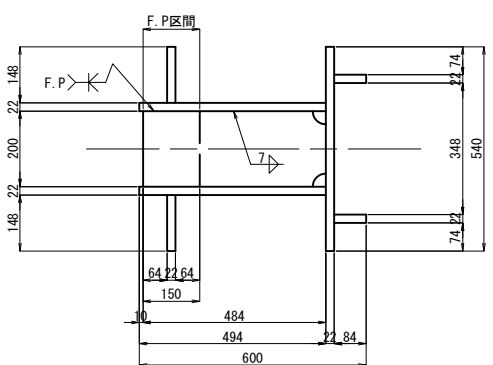
F - F



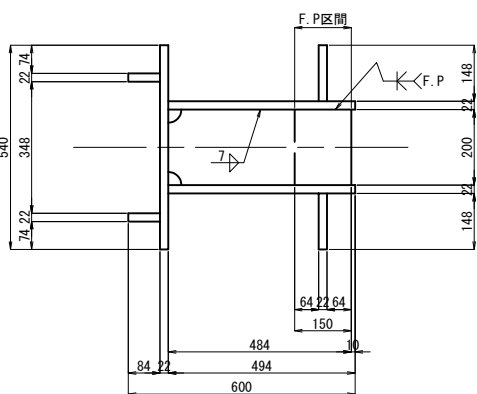
G - G



H - H



C - C



- TYPE-A(B)
1基当たり
(TYPE-A:3基 TYPE-B:2基)
1-Base PL 570x32x640
1-PL 465(485)x22x540
2-PL 84x22x455(475)
2-PL 494x22x455(475)
2-PL 148x22x440(460)
1-PL 200x22x484
1-PL 200x22x150
2-PL 50x22x200
1-PL 760x9x840
① 18-TCB M22x55(S10T)
② 8-TCB M22x75(S10T)
③ 8-TCB M22x110(S10T)
④ 4-TCB M22x85(S10T)
⑤ 4-TCB M22x90(2W付)(S10T)
⑥ 8-TCB M22x115(2W付)(S10T)

- TYPE-C
1基当たり:3基
1-Base PL 570x32x640
1-PL 487x22x540
2-PL 84x22x478
2-PL 494x22x477
2-PL 148x22x455
1-PL 200x22x484
1-PL 200x22x150
2-PL 50x22x200
1-PL 760x10x840
① 18-TCB M22x55(S10T)
② 8-TCB M22x80(S10T)
③ 8-TCB M22x110(S10T)
④ 4-TCB M22x90(S10T)
⑤ 4-TCB M22x95(2W付)(S10T)
⑥ 8-TCB M22x115(2W付)(S10T)

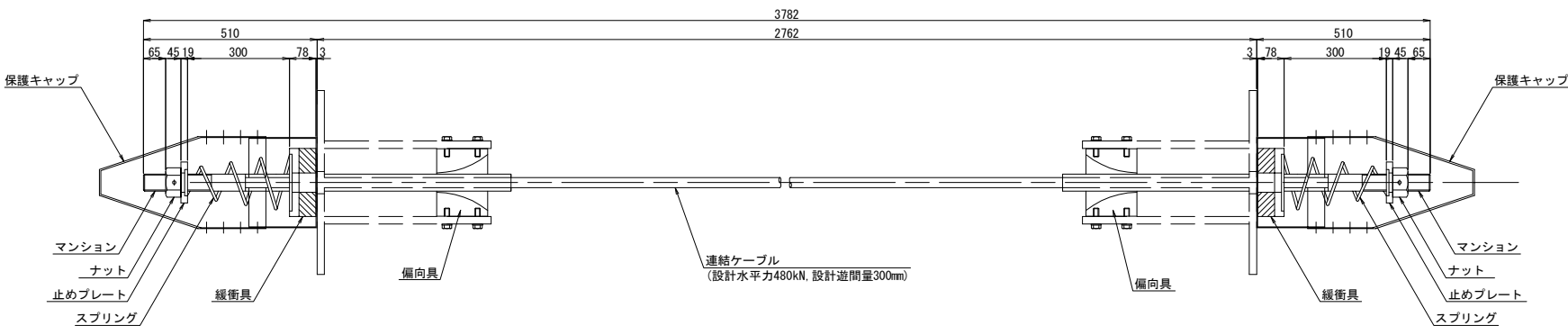
- TYPE-D
1基当たり:2基
1-Base PL 570x32x640
1-PL 462x22x540
2-PL 84x22x452
2-PL 494x22x461
2-PL 148x22x444
1-PL 200x22x484
1-PL 200x22x150
2-PL 50x22x200
1-PL 760x10x840
① 18-TCB M22x55(S10T)
② 8-TCB M22x80(S10T)
③ 8-TCB M22x110(S10T)
④ 4-TCB M22x90(S10T)
⑤ 4-TCB M22x95(2W付)(S10T)
⑥ 8-TCB M22x115(2W付)(S10T)

- 注 記
1. 上部工付ブラケットの製作は、現地調査の上最終決定のこと。
2. 鋼材の加工は現場の調査・計測を行い構造物の形状を最終的に決めてから行うこと。
3. 特記なき材質は全てSM400Aとする。
4. 特記なきスカーラップは50Rとする。
5. 中印のボルトは、TCB M22〔2W付〕を示す。
6. ボルト孔明けについて、以下の通りとする。
TCB M22 一φ24.5(既設)
TCB M22 一φ26.5(新設)
7. 上部工部材は全て塗装仕上げとする。
8. 主桁補強取付面は既設桁の素地調整を行うこと。
9. 「F.P.」の表示のあるものは、完全溶込み溶接とすること。

常磐自動車道 田野高架橋耐震補強工事			
図面の種類	田野高架橋(下り線) P7橋脚 落橋防止構造P 構造図(その2)		
縮 尺	図 示	図面番号	39 / 79
設計会社名	株式会社 復建技術コンサルタント		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 水戸管理事務所		

落橋防止構造P2-420
〔連結ケーブル〕

取付詳細図

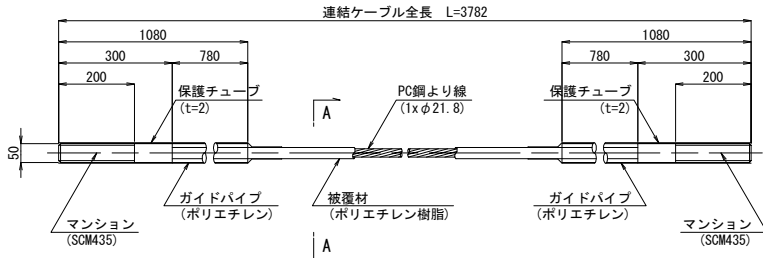


材 料 表 (落橋防止構造1組当たり)

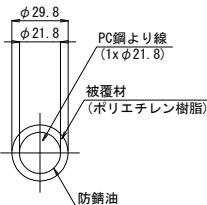
全5組

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
連結ケーブル (マンション) (ガイドパイプ)	L=3782mm	本	1	PC鋼より線、ポリエチレン被覆
		個	2	SCM435、ネジきり標準 <ケーブルに組込>
	780mm	本	2	ポリエチレン <ケーブルに組込>
ナット		個	2	S45C:垂鉛めっき (HDZT77)
止めプレート		個	2	SS400:垂鉛めっき (HDZT77)
スプリング	L=450	個	2	SW-C:垂鉛めっき、クロメート処理
緩衝具		個	2	SS400:垂鉛めっき (HDZT77) + クロロブレンゴム
固定用緩衝具		個	2	SS400:垂鉛めっき (HDZT77) + クロロブレンゴム
偏向具		個	2	ポリエチレン
(取付ボルト)	M16x50 1W付	本	16	SS400相当品:垂鉛めっき (HDZT49) 接着剤付
保護キャップ		個	2	ポリエチレン:8-止めビス付

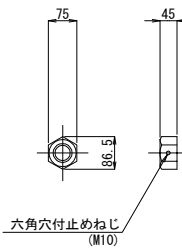
連結ケーブル



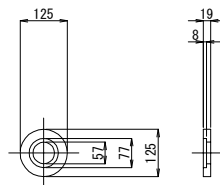
A-A断面図 S=1:4



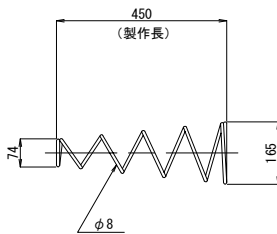
ナット
(S45C:垂鉛めっき)



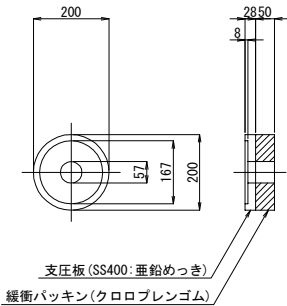
止めプレート
(SS400:垂鉛めっき)



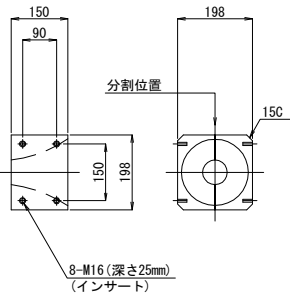
スプリング
(SW-C:垂鉛めっき、クロメート処理)



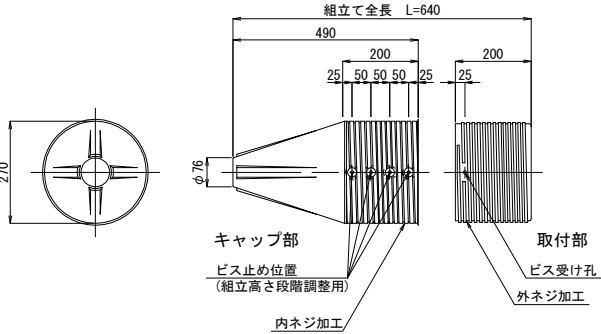
緩 衝 具
(支柱板+緩衝パッキン)



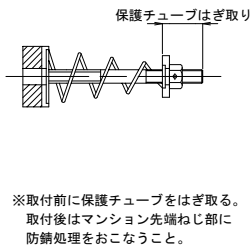
偏 向 具
(ポリエチレン)



保護キャップ
(ポリエチレン)



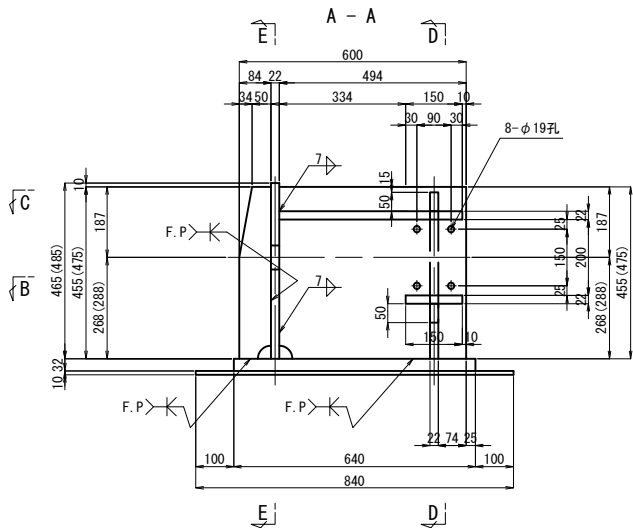
マンション端部処理



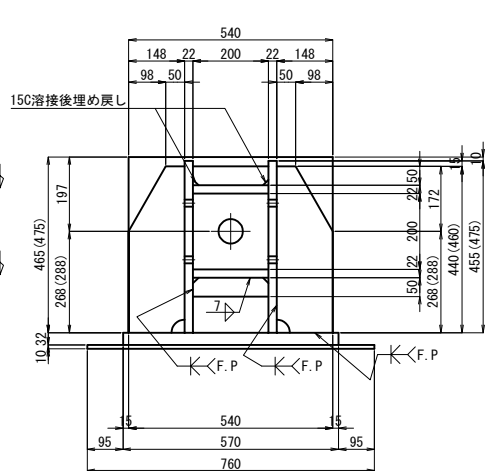
注記)
1. 連結ケーブルの製作は、現場にて取付間
距離を確認のうえ、おこなうこと。

常磐自動車道 田野高架橋耐震補強工事			
図面の種類	田野高架橋(下り線) P7橋脚 落橋防止構造P構造図(その4) (参考図)		
縮 尺	図 示	図面番号	41 / 79
設計会社名	株式会社 復建技術コンサルタント		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 水戸管理事務所		

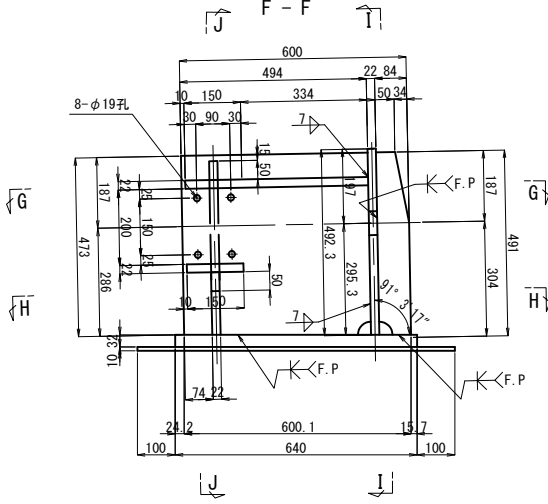
TYPE-A(B)



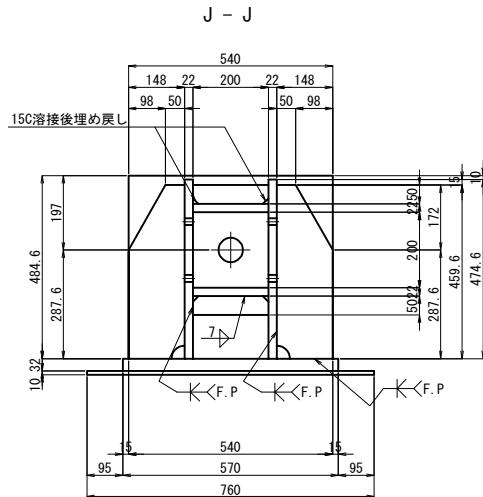
D - D



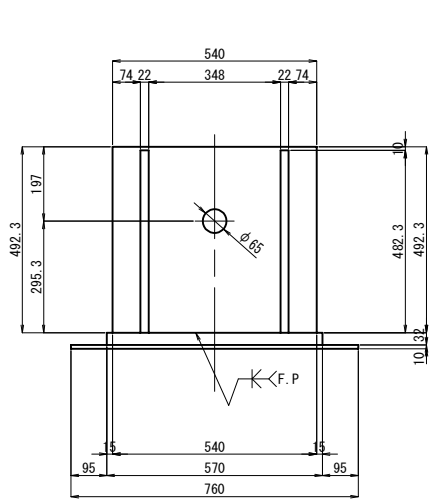
落橋防止構造P2-480
〔上部工付ブラケット詳細図〕



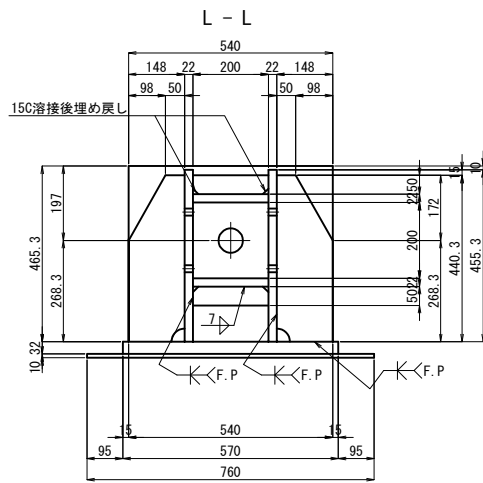
TYPE-C



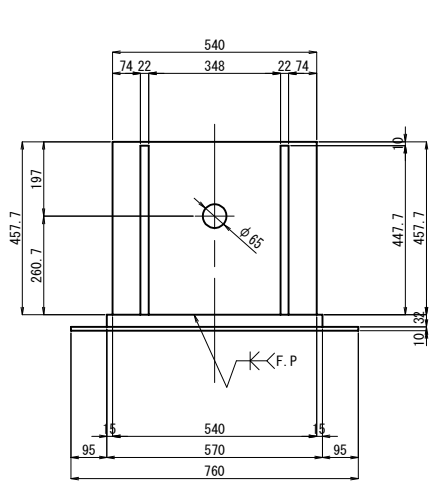
I - I



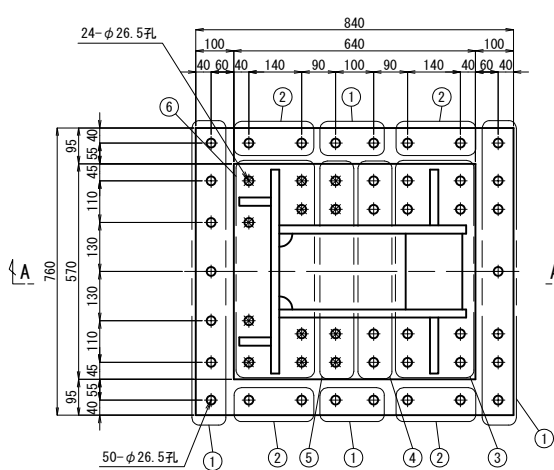
TYPE-D



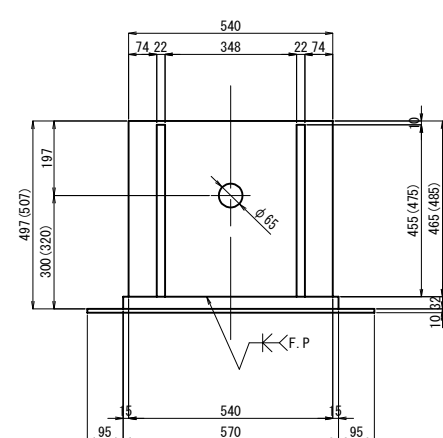
K - K



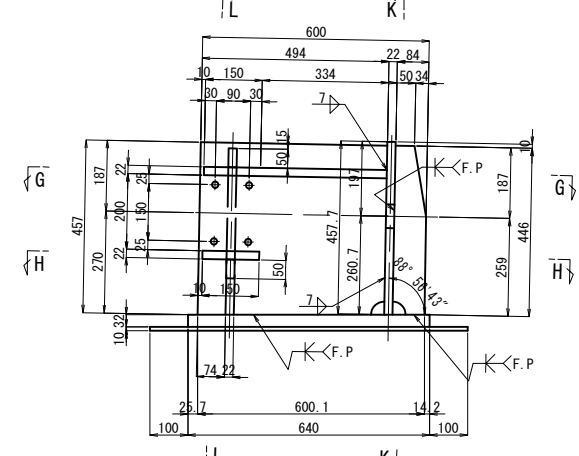
B - B



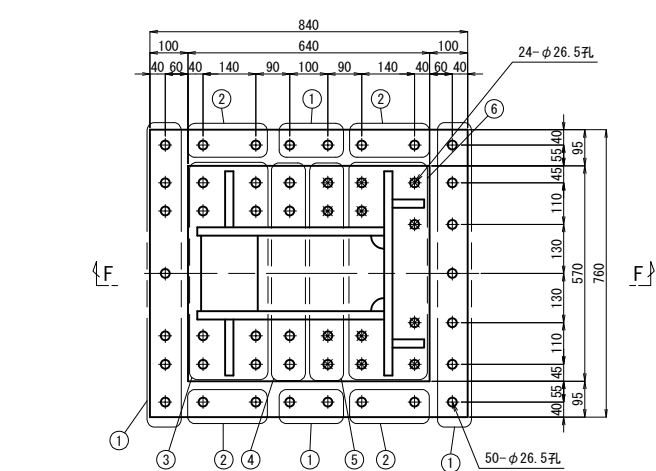
E - E



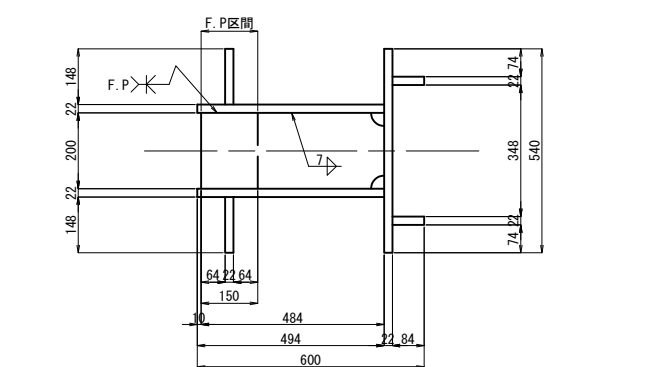
F - F



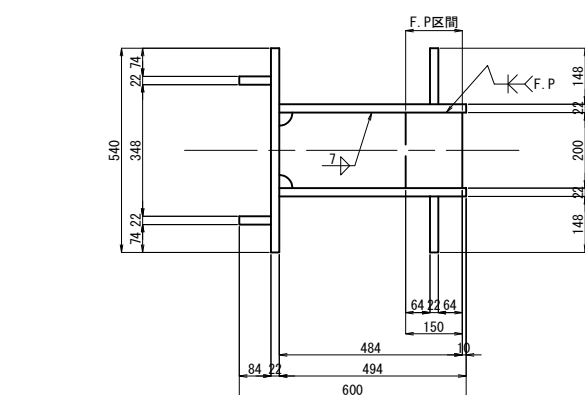
G - G



H - H



C - C



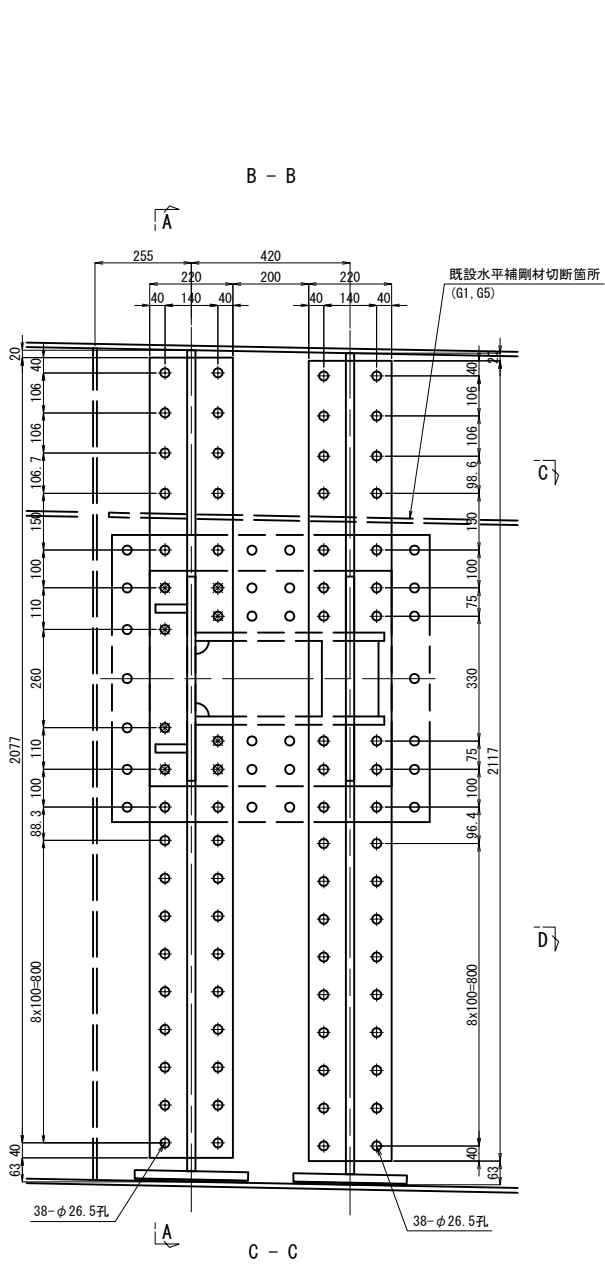
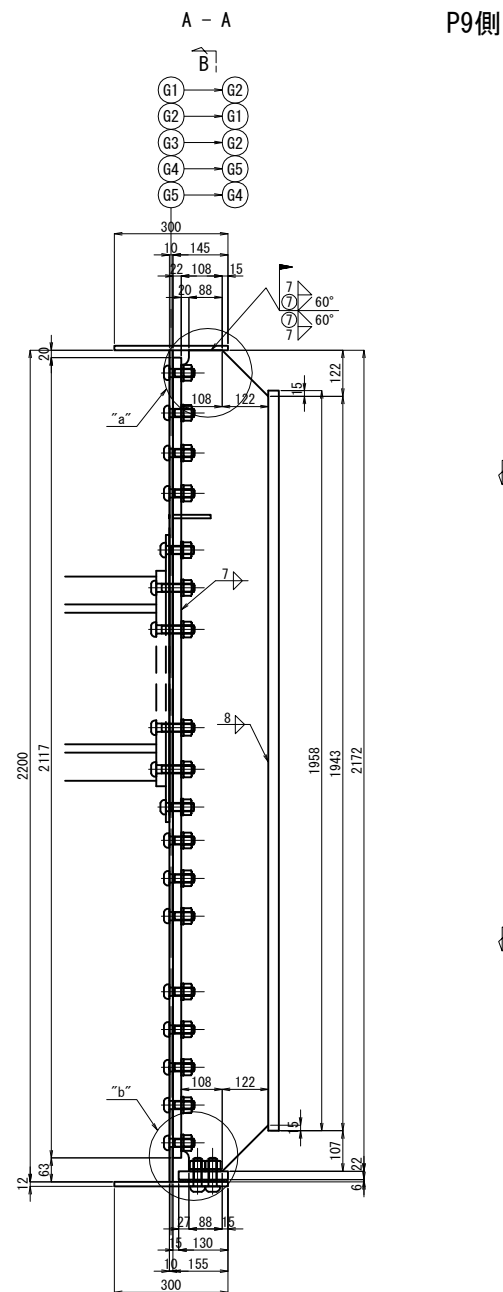
- TYPE-A(B)
1基当たり
(TYPE-A:3基 TYPE-B:2基)
1-Base PL 570x32x640
1-PL 465(485)x22x540
2-PL 84x22x484
2-PL 494x22x455(475)
2-PL 148x22x440(460)
1-PL 200x22x484
1-PL 200x22x150
2-PL 50x22x200
1-PL 760x10x840
① 18-TCB M22x55(S10T)
② 8-TCB M22x80(S10T)
③ 8-TCB M22x110(S10T)
④ 4-TCB M22x90(S10T)
⑤ 4-TCB M22x95(2W付)(S10T)
⑥ 8-TCB M22x115(2W付)(S10T)

- TYPE-C
1基当たり:3基
1-Base PL 570x32x640
1-PL 492x22x540
2-PL 84x22x484
2-PL 494x22x482
2-PL 148x22x460
1-PL 200x22x484
1-PL 200x22x150
2-PL 50x22x200
1-PL 760x10x840
① 18-TCB M22x55(S10T)
② 8-TCB M22x80(S10T)
③ 8-TCB M22x110(S10T)
④ 4-TCB M22x90(S10T)
⑤ 4-TCB M22x95(2W付)(S10T)
⑥ 8-TCB M22x115(2W付)(S10T)

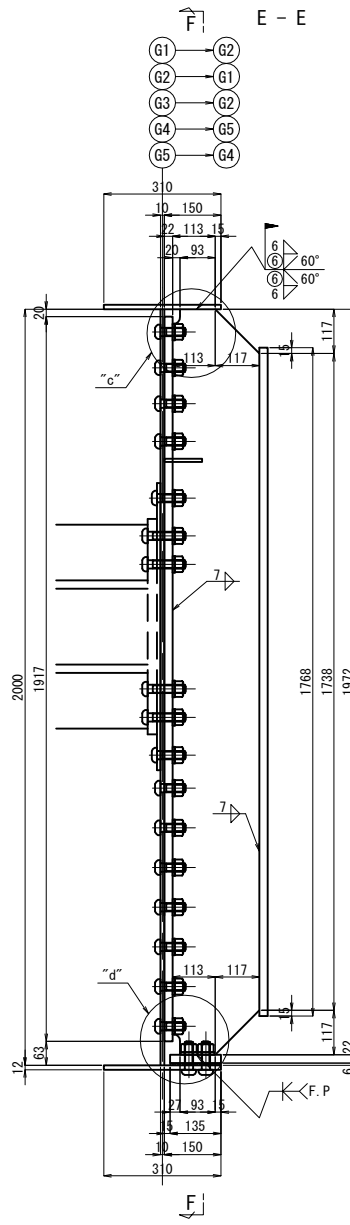
- TYPE-D
1基当たり:2基
1-Base PL 570x32x640
1-PL 458x22x540
2-PL 84x22x448
2-PL 494x22x457
2-PL 148x22x440
1-PL 200x22x484
1-PL 200x22x150
2-PL 50x22x200
1-PL 760x10x840
① 18-TCB M22x55(S10T)
② 8-TCB M22x80(S10T)
③ 8-TCB M22x110(S10T)
④ 4-TCB M22x90(S10T)
⑤ 4-TCB M22x95(2W付)(S10T)
⑥ 8-TCB M22x115(2W付)(S10T)

- 注 記
1. 上部工付ブラケットの製作は、現地調査の上最終決定のこと。
2. 鋼材の加工は現橋の調査・計測を行い構造物の形状を最終的に決めてから行うこと。
3. 特記なき材質は全てSM400Aとする。
4. 特記なきスカーラップは50Rとする。
5. 印のボルトは、TCB M22[2W付]を示す。
6. ボルト孔明けについて、以下の通りとする。
TCB M22 一φ24.5(既設)
TCB M22 一φ26.5(新設)
7. 上部工部材は全て塗装仕上げとする。
8. 主桁補強取付面は既設桁の素地調整を行うこと。
9. 「F.P」の表示のあるものは、完全溶込み溶接とすること。

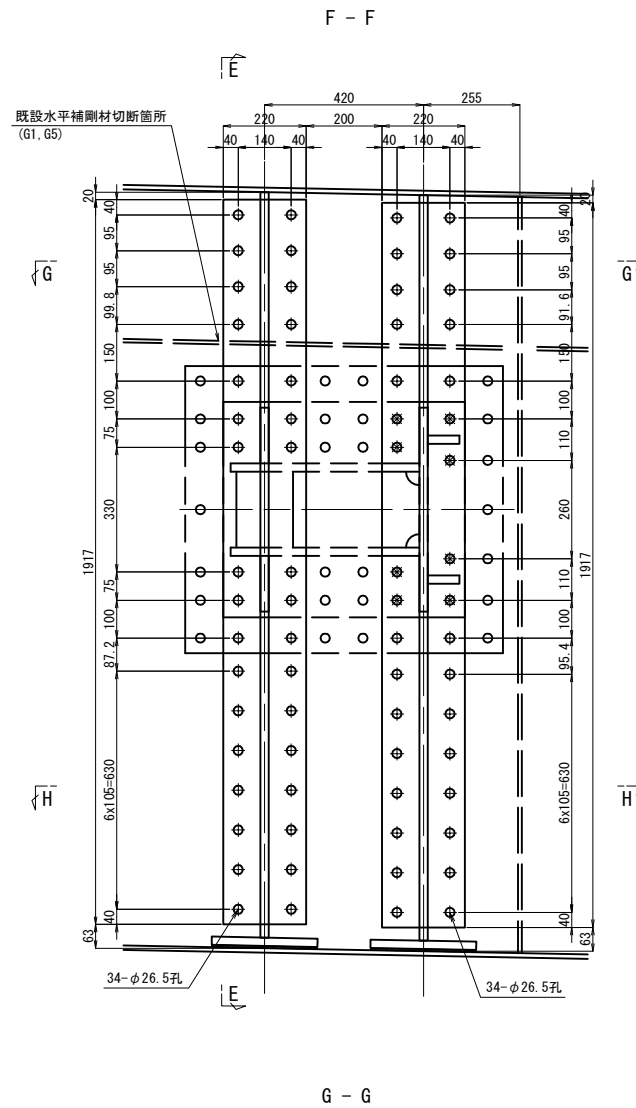
常磐自動車道 田野高架橋耐震補強工事			
図面の種類	田野高架橋(下り線) P10橋脚 落橋防止構造P 構造図(その2)		
縮 尺	図 示	図面番号	43 / 79
設計会社名	株式会社 復建技術コンサルタント		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 水戸管理事務所		



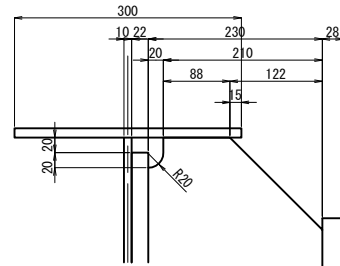
落橋防止構造P2-480
〔主桁補強詳細図〕



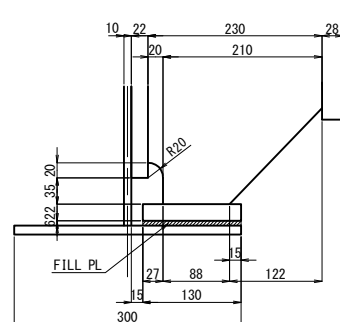
P11側



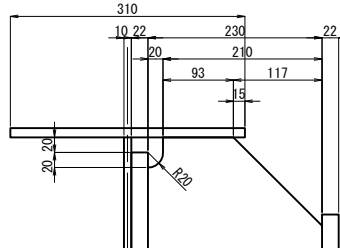
“a”部詳細 S=1:10



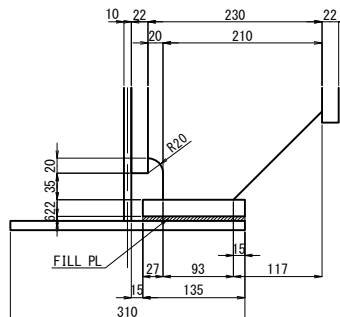
“b”部詳細 S=1:10



“c”部詳細 S=1:10



“d”部詳細 S=1:10

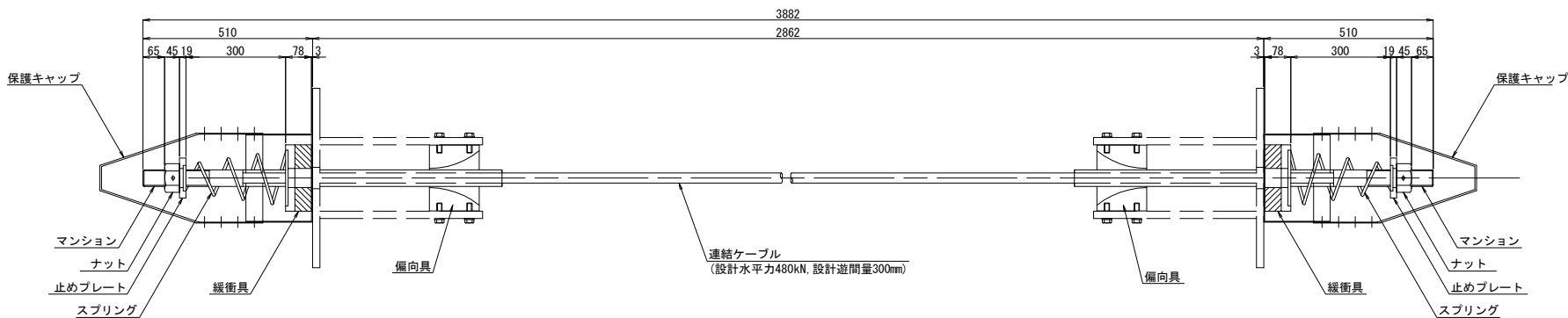


- 注 記
- 鋼材の製作は、現地調査の上最終決定のこと。
 - 鋼材の加工は現場の調査・計測を行い構造物の形状を最終的に決めてから行うこと。
 - 特記なき材質は全てSM400Aとする。
 - 特記なきスカーラップは50Rとする。
 - Φ印のボルトは、TCB M22を示す。
※印のボルトは、TCB M22[2割付]を示す。
 - ボルト孔明けについて、以下の通りとする。
TCB M22 →φ24.5(既設)
TCB M22 →φ26.5(新設)
 - 上部工部材は全て塗装仕上げとする。
 - 主桁補強取付面は既設桁の素地調整を行うこと。
 - 「F.P.」の表示のあるものは、完全溶込み溶接とすること。

常磐自動車道 田野高架橋耐震補強工事			
図面の種類	田野高架橋(下り線) P10橋脚 落橋防止構造P 構造図(その3)	縮 尺	図 示 図面番号 44 / 79
設計会社名	株式会社 復建技術コンサルタント	施工会社名	東日本高速道路株式会社 関東支社
事務所名	水戸管理事務所		

落橋防止構造P2-480
〔連結ケーブル〕

取付詳細図

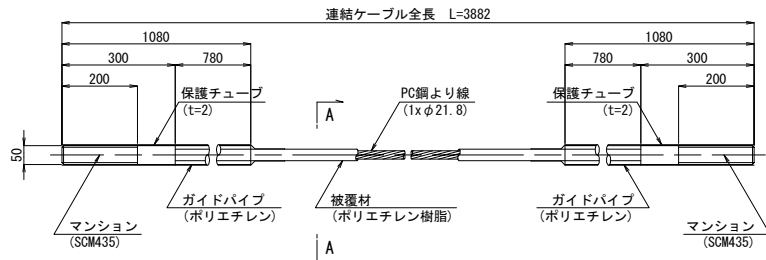


材 料 表 (落橋防止構造1組当たり)

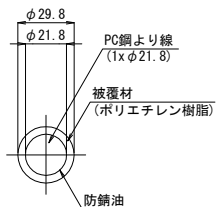
全5組

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
連結ケーブル (マンション) (ガイドパイプ)	L=3882mm	本	1	PC鋼より線、ポリエチレン被覆
		個	2	SCM435、ネジきり標準 <ケーブルに組込>
	F60TD 780mm	本	2	ポリエチレン <ケーブルに組込>
ナット		個	2	S45C:垂鉛めっき (HDZT77)
止めプレート		個	2	SS400:垂鉛めっき (HDZT77)
スプリング	L=450	個	2	SW-C:垂鉛めっき、クロメート処理
緩衝具		個	2	SS400:垂鉛めっき (HDZT77) + クロロブレンゴム
偏向具 (取付ボルト)	M16x50 1W付	個	2	ポリエチレン
保護キャップ		本	16	SS400相当品:垂鉛めっき (HDZT49) 接着剤付
		個	2	ポリエチレン:8-止めビス付

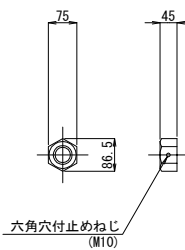
連結ケーブル



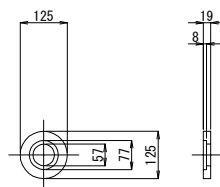
A-A断面図 S=1:4



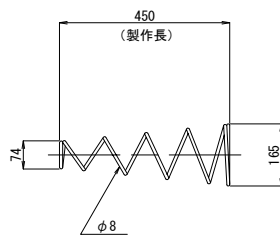
ナット
(S45C:垂鉛めっき)



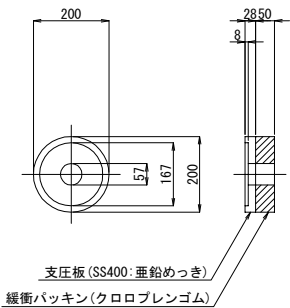
止めプレート
(SS400:垂鉛めっき)



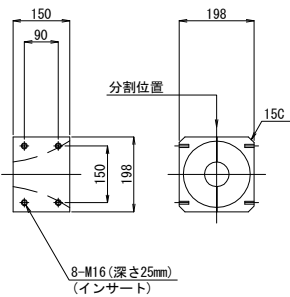
スプリング
(SW-C:垂鉛めっき、クロメート処理)



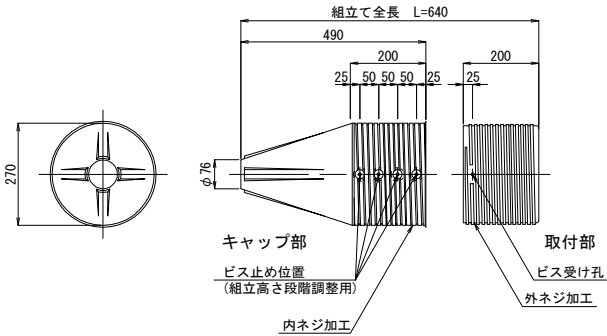
緩 衝 具
(支柱板+緩衝パッキン)



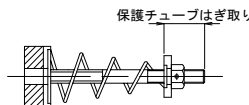
偏 向 具
(ポリエチレン)



保護キャップ
(ポリエチレン)



マンション端部処理

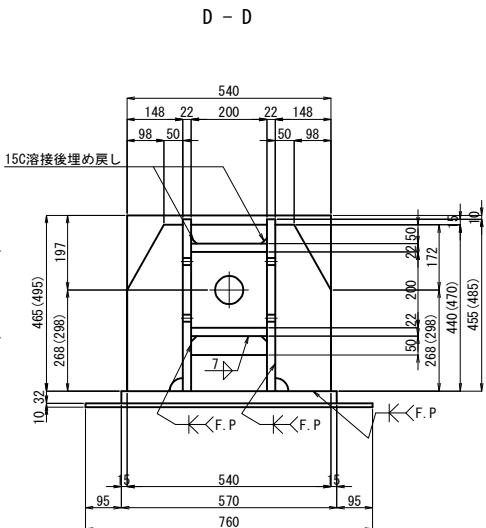
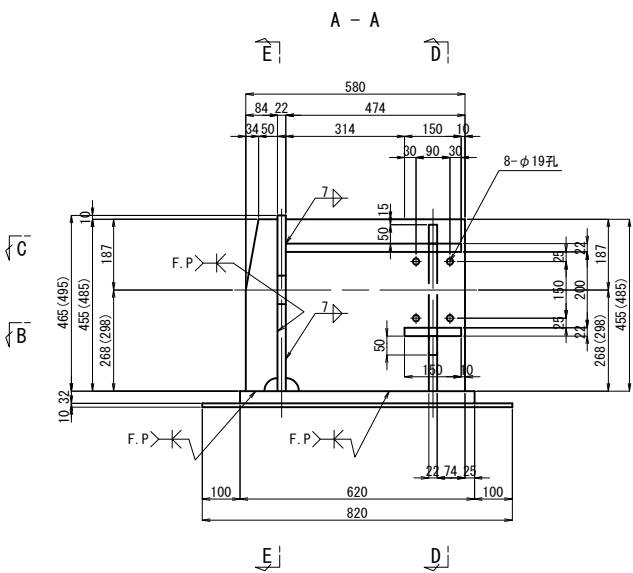


※取付前に保護チューブをはぎ取る。
取付後はマンション先端ねじ部に
防錆処理をおこなうこと。

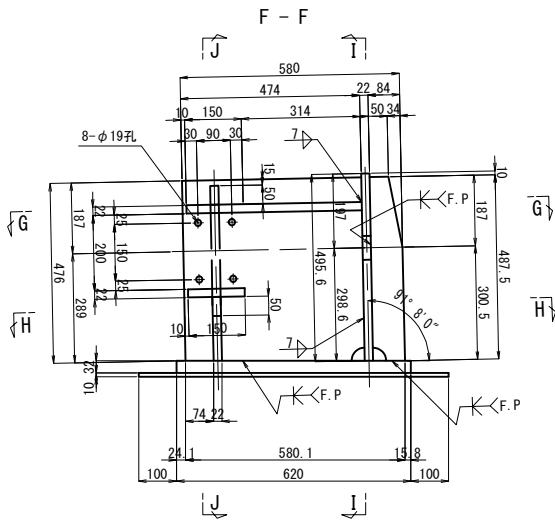
注記)
1. 連結ケーブルの製作は、現場にて取付間
距離を確認のうえ、おこなうこと。

常磐自動車道 田野高架橋耐震補強工事			
図面の種類	田野高架橋(下り線) P10橋脚 落橋防止構造P構造図(その4) (参考図)		
縮 尺	図 示	図面番号	45 / 79
設計会社名	株式会社 復建技術コンサルタント		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 水戸管理事務所		

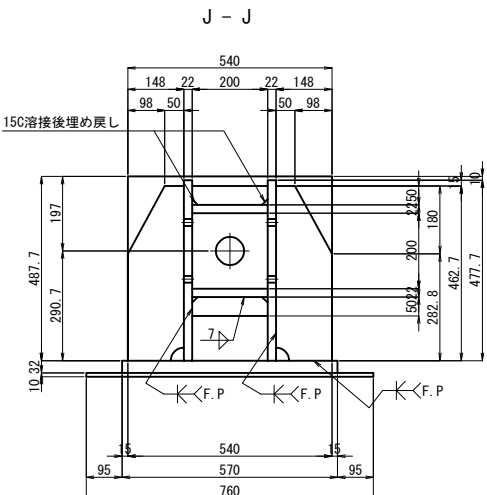
TYPE-A(B)



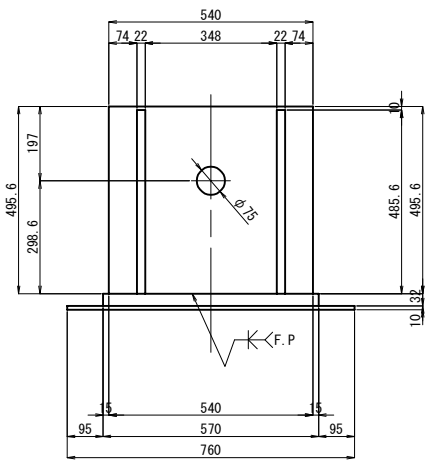
落橋防止構造P2-510
〔上部工付ブラケット詳細図〕



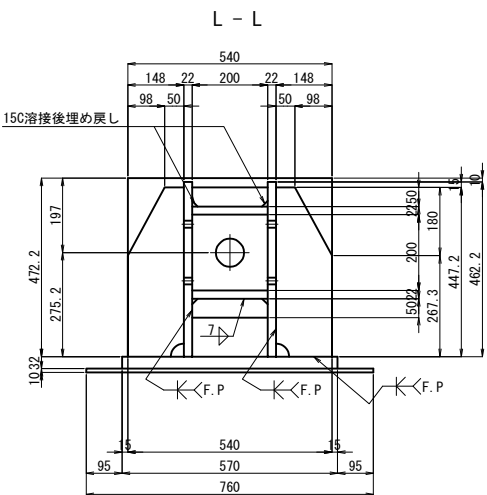
TYPE-C



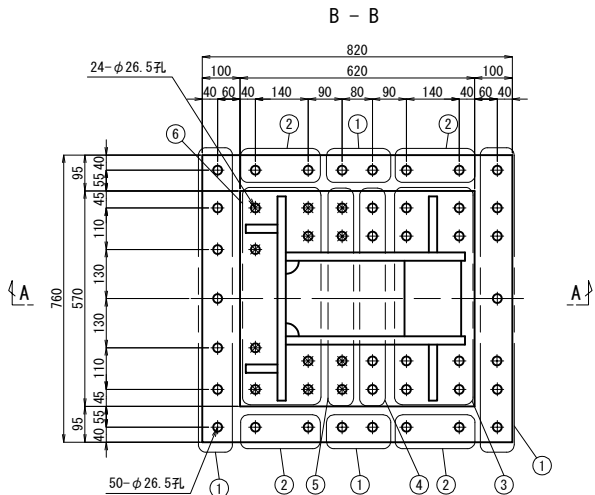
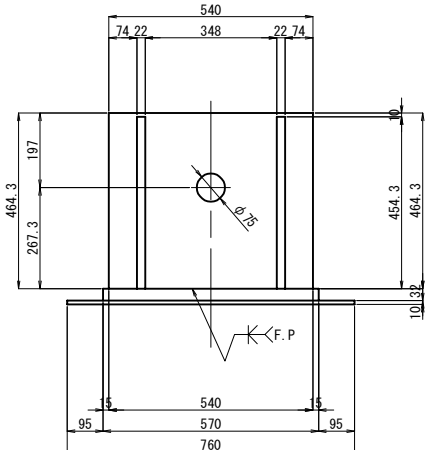
I - I



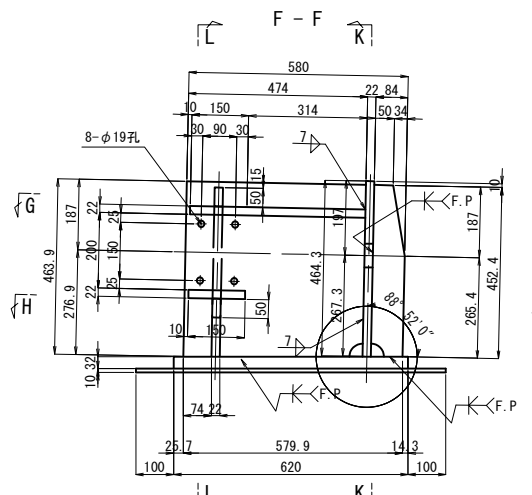
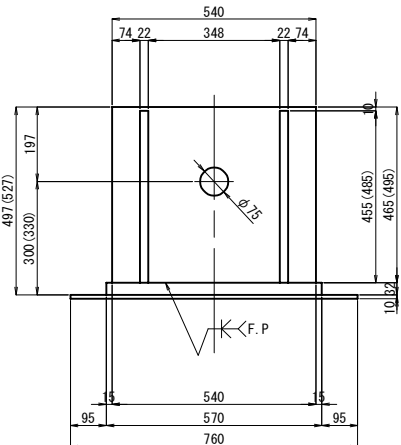
TYPE-D



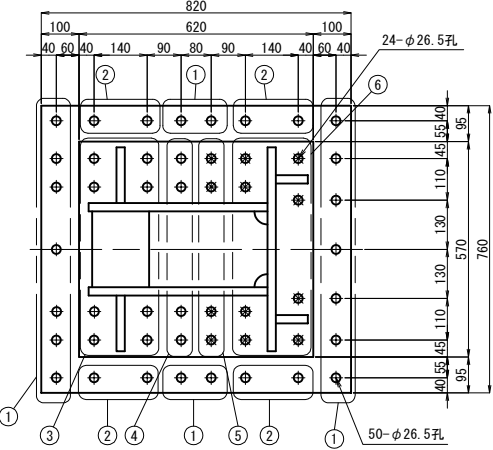
K - K



E - E



G - G



TYPE-C

- 1基当たり:3基
1-Base PL 570x32x620
1-PL 496x22x540
2-PL 84x22x488
2-PL 474x22x485
2-PL 148x22x463
1-PL 200x22x464
1-PL 200x22x150
2-PL 50x22x200
1-PL 760x10x820
① 18-TCB M22x55 (S10T)
② 8-TCB M22x80 (S10T)
③ 8-TCB M22x110 (S10T)
④ 4-TCB M22x90 (S10T)
⑤ 4-TCB M22x95 (2W付) (S10T)
⑥ 8-TCB M22x115 (2W付) (S10T)

TYPE-D

- 1基当たり:2基
1-Base PL 570x32x620
1-PL 464x22x540
2-PL 84x22x454
2-PL 474x22x464
2-PL 148x22x447
1-PL 200x22x464
1-PL 200x22x150
2-PL 50x22x200
1-PL 760x10x820
① 18-TCB M22x55 (S10T)
② 8-TCB M22x80 (S10T)
③ 8-TCB M22x110 (S10T)
④ 4-TCB M22x90 (S10T)
⑤ 4-TCB M22x95 (2W付) (S10T)
⑥ 8-TCB M22x115 (2W付) (S10T)

- 注 記
1. 上部工付ブラケットの製作は、現地調査の上最終決定のこと。
2. 鋼材の加工は現場の調査・計測を行い構造物の形状を最終的に決めてから行うこと。
3. 特記なき材質は全てSM400Aとする。
4. 特記なきスカーラップは50Rとする。
5. φ印のボルトは、TCB M22を示す。
※印のボルトは、TCB M22 [2W付]を示す。
6. ボルト孔明けについて、以下の通りとする。
TCB M22 → φ24.5 (既設)
TCB M22 → φ26.5 (新設)
7. 上部工部材は全て塗装仕上げとする。
8. 主桁補強取付面は既設桁の素地調整を行うこと。
9. 「F.P」の表示のあるものは、完全溶込み溶接とすること。

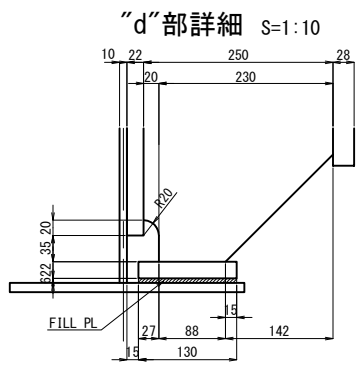
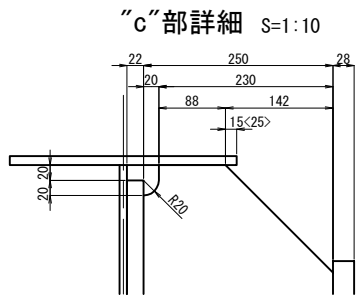
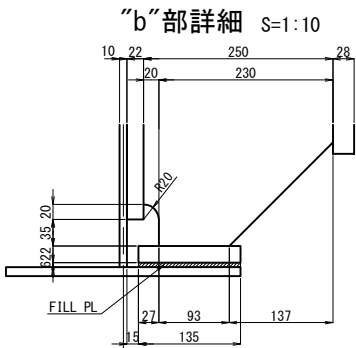
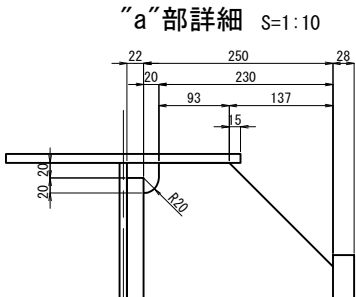
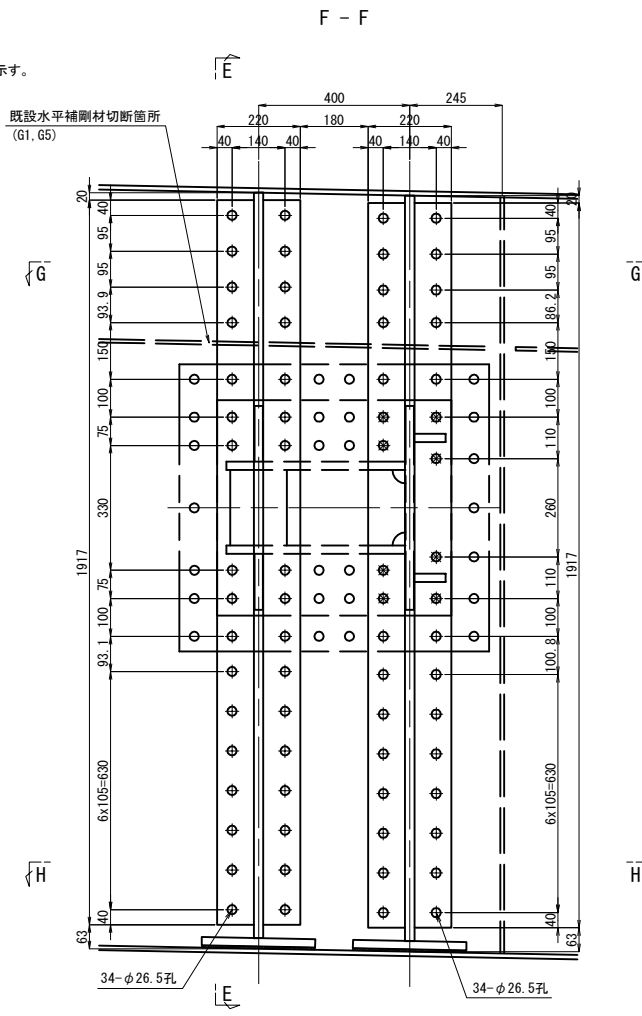
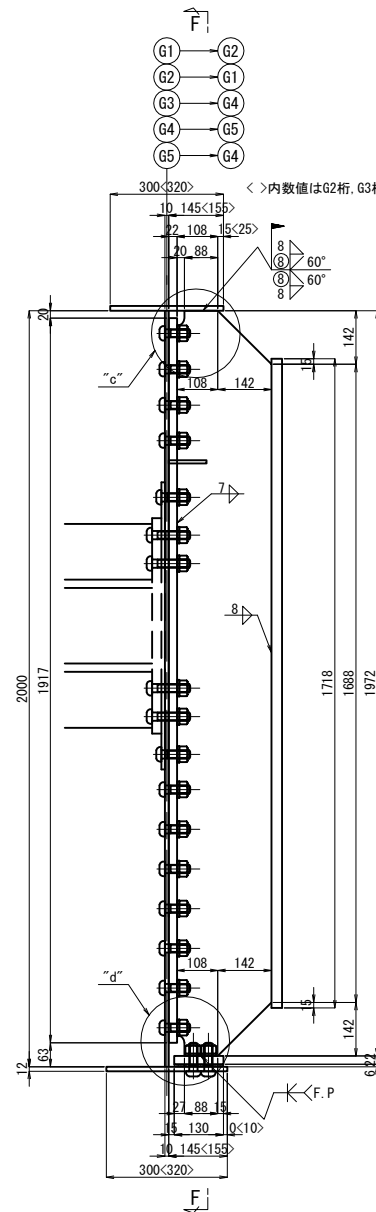
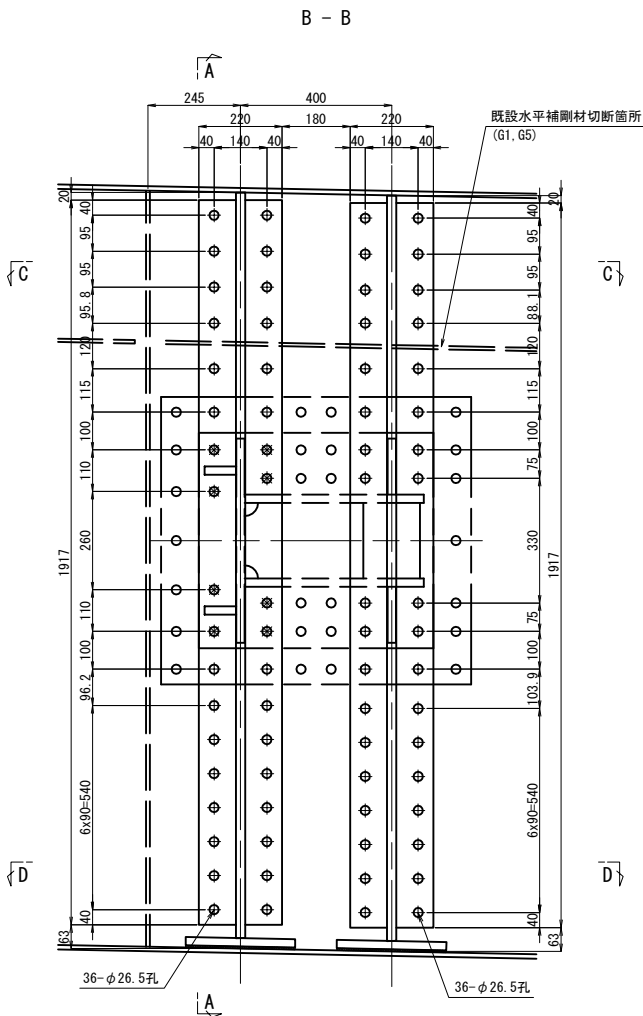
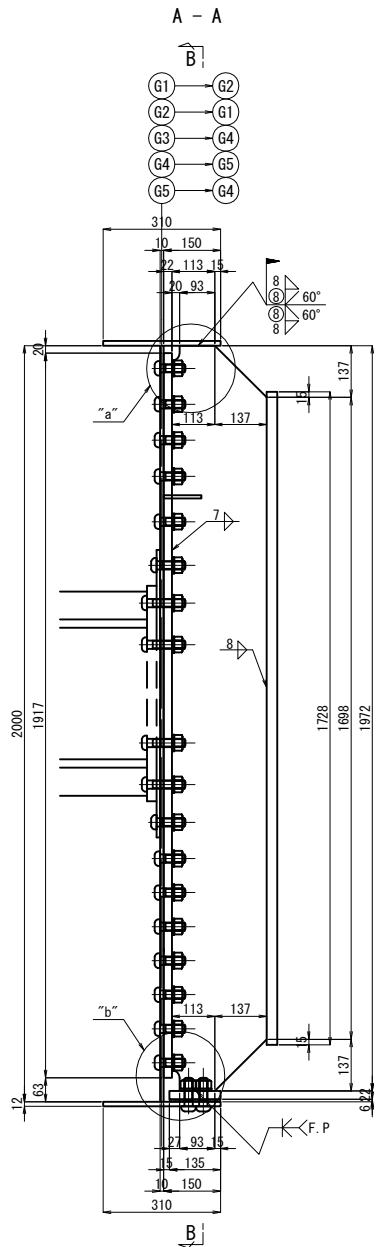
常磐自動車道 田野高架橋耐震補強工事			
図面の種類	田野高架橋(下り線) P12橋脚 落橋防止構造P 構造図(その2)		
縮 尺	図 示	図面番号	47 / 79
設計会社名	株式会社 復建技術コンサルタント		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 水戸管理事務所		

P11側

落橋防止構造P2-510

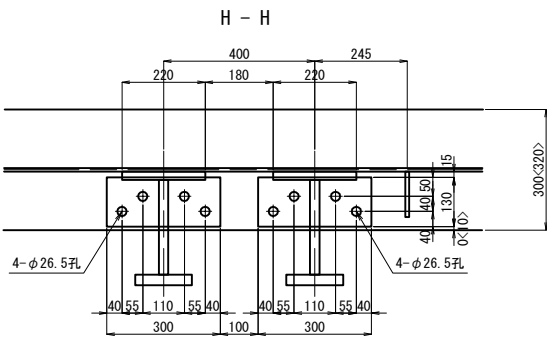
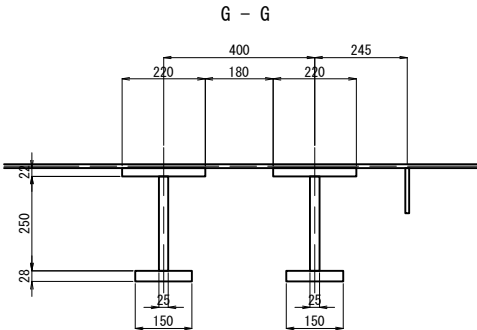
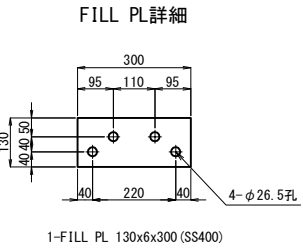
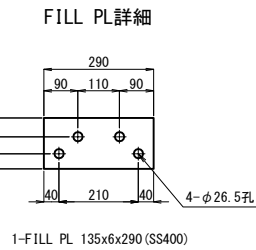
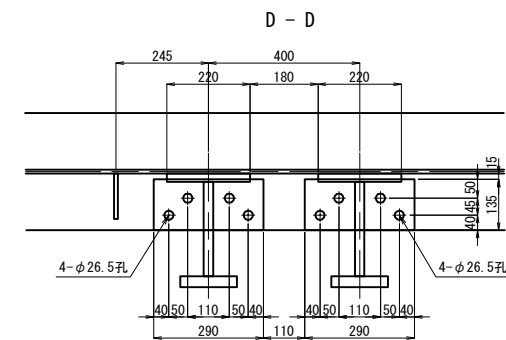
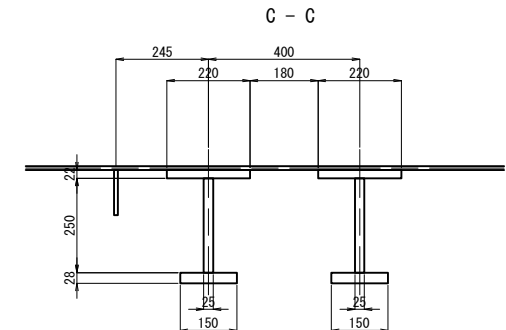
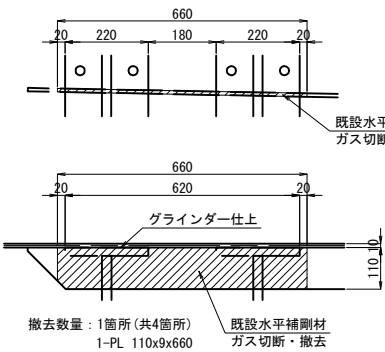
〔主桁補強詳細図〕 E - E

P13側



- 1基当たり(共5基)
2-PL 220x22x1917
2-PL 250x25x1972
2-PL 150x28x1728
2-PL 135x22x290
2-FILL PL 135x6x290 (SS400)
48-TCB M22x70 (S10T)
8-TCB M22x75 (S10T)

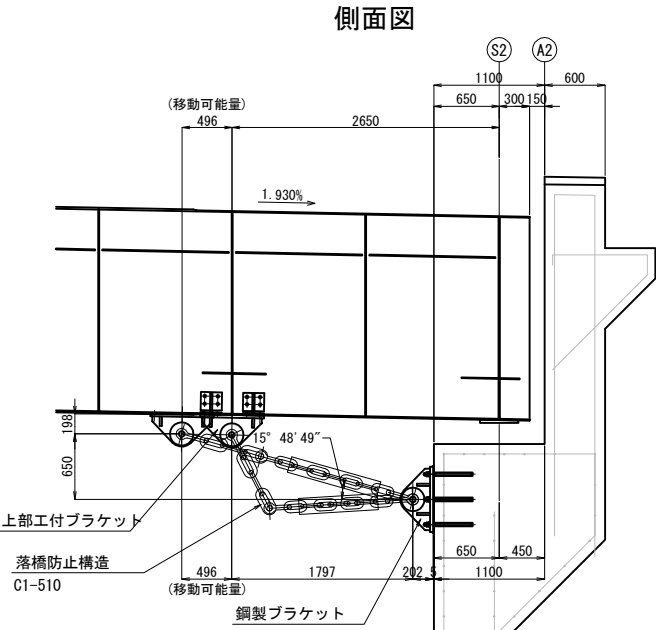
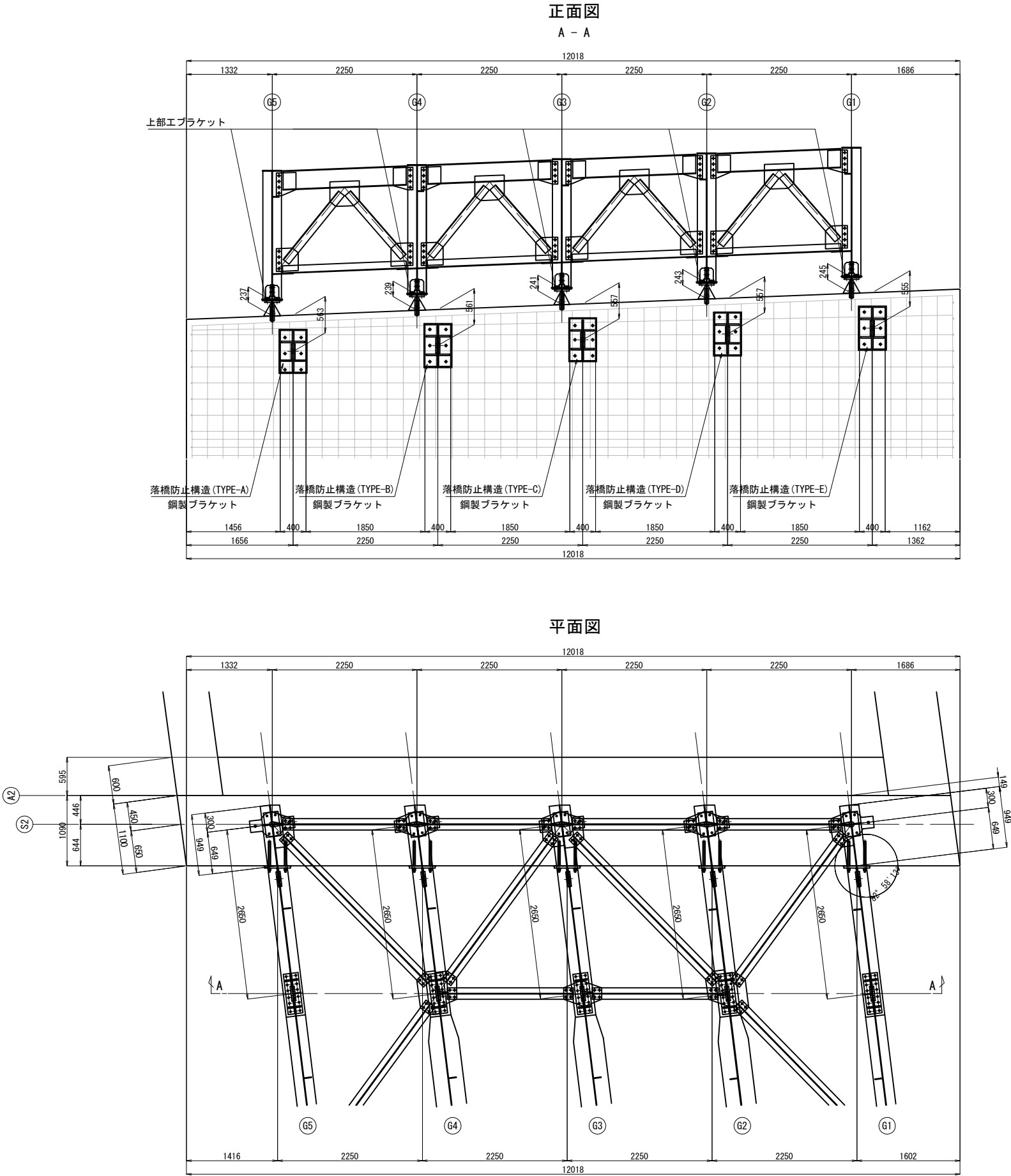
既設水平補剛材切断詳細
G1桁, G5桁



- 注 記
1. 鋼材の製作は、現地調査の上最終決定のこと。
2. 鋼材の加工は現場の調査・計測を行い構造物の形状を最終的に決めてから行うこと。
3. 特記なき材質は全てSM400Aとする。
4. 特記なきスカーラップは50Rとする。
5. 印のボルトは、TCB M22〔2桁付〕を示す。
6. ボルト孔明けについて、以下の通りとする。
TCB M22 一φ24.5 (既設)
TCB M22 一φ26.5 (新設)
7. 上部工部材は全て塗装仕上げとする。
8. 主桁補強取付面は既設桁の素地調整を行うこと。
9. 「F.P.」の表示のあるものは、完全溶込み溶接とすること。

常磐自動車道 田野高架橋耐震補強工事			
図面の種類	田野高架橋(下り線) P12橋脚 落橋防止構造P 構造図(その3)	図面番号	48 / 79
縮 尺	図 示	図面番号	48 / 79
設計会社名	株式会社 復建技術コンサルタント	施工会社名	東日本高速道路株式会社 関東支社
事務所名	水戸管理事務所		

田野高架橋(下り線) A2橋台 落橋防止構造C 構造図(その1) S=1:75
 落橋防止構造C1-510



設計水平力	510kN
設計移動量	496mm

- 注 記
1. ブラケットの製作は、現地調査の上最終決定のこと。
 2. 鋼材の加工は現橋の調査・計測を行い構造物の形状を最終的に決めてから行うこと。
 3. 既設コンクリートへの削孔の際には、鉄筋探査等を実施し既設鉄筋の切断に注意すること。また、必要に応じ削孔位置、ブラケットの
 4. 下部工付きブラケットは全て溶融亜鉛メッキを施す。
上部工部材は全て塗装仕上げとする。
主桁補強取付面は既設桁の素地調整を行うこと。
 5. 鋼製ブラケット(下部工付)は表面処理としてチッピングを行う。

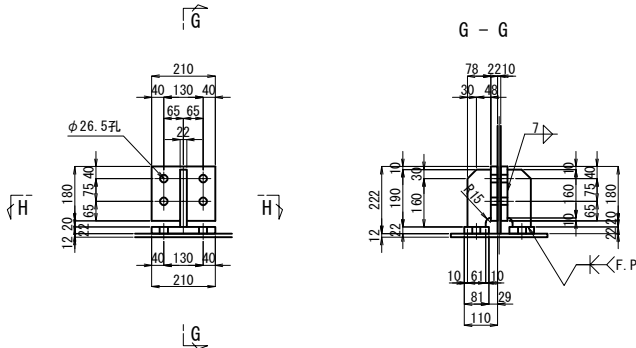
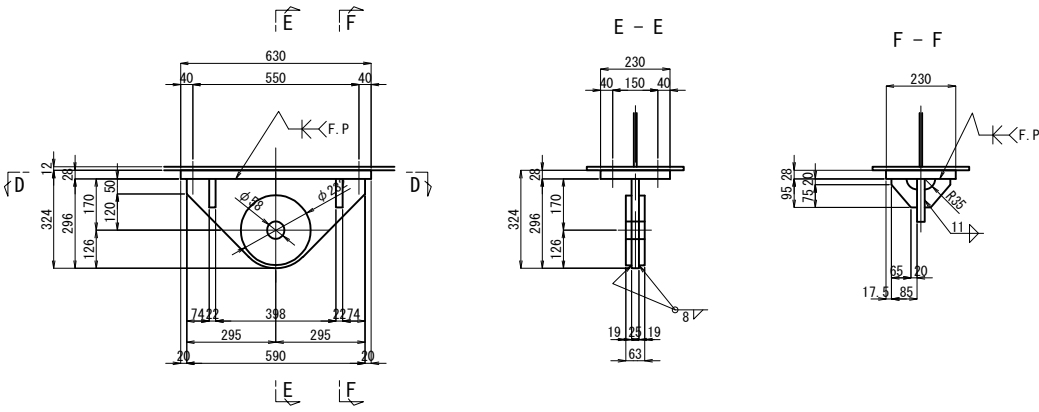
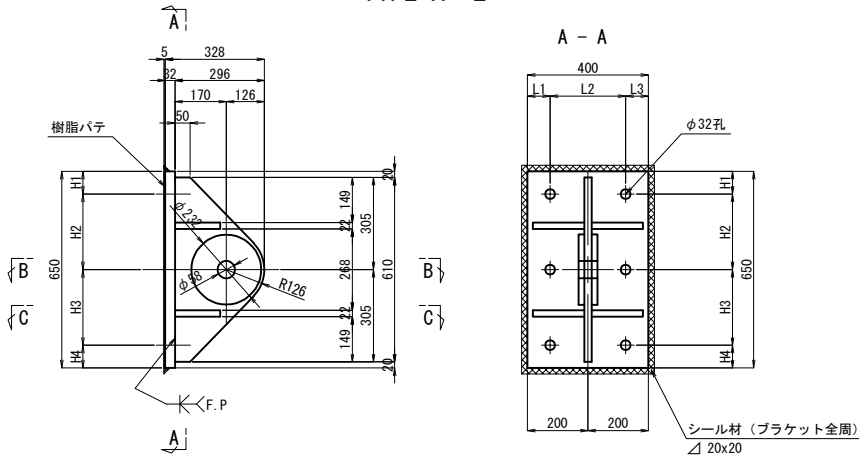
常磐自動車道 田野高架橋耐震補強工事			
図面の種類	田野高架橋(下り線) A2橋台 落橋防止構造C 構造図(その1)		
縮 尺	図 示	図面番号	50 / 79
設計会社名	株式会社 復建技術コンサルタント		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 水戸管理事務所		

落橋防止構造C1-510

上部工付ブラケット

主桁補強材

鋼製ブラケット
TYPE-A～E



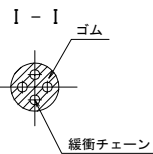
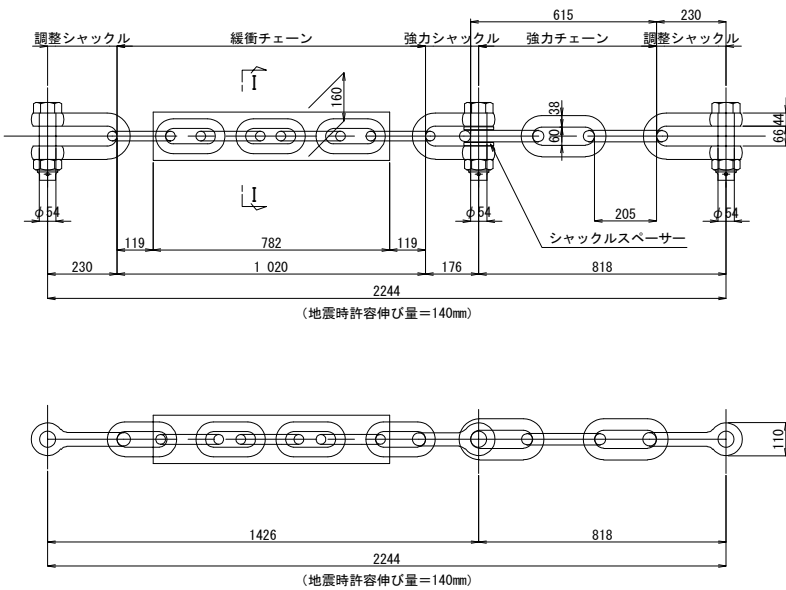
- 1基当たり (共5基)
 1-Base PL 400x32x650 (SM490B)
 1-Top PL 296x25x610 (SM490A)
 2-Ring PL 232x19x232 (SM490A)
 2-Rib PL 150x22x170 (SM490A)
 2-Rib PL 150x22x188 (SM490A)
 6-Anc Bolt D29x535 (SD345)
 6-Nut M27 (1種) (SS400)
 6-Nut M27 (3種) (SS400)
 6-座金 M27 (SS400)

- 1基当たり (共5基)
 1-Base PL 230x28x630 (SM490YB)
 1-Top PL 296x25x590 (SM490YB)
 2-Ring PL 232x19x232 (SM490YB)
 4-Rib PL 95x22x85 (SM490YB)
 8-TCB M22x105 (2W) (S10T)
 4-TCB M22x80 (2W) (S10T)

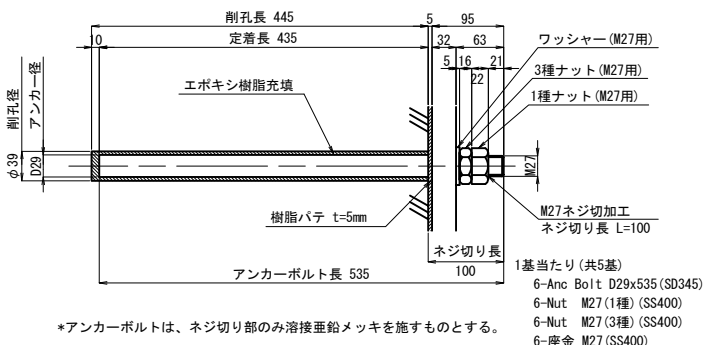
- 1組当たり (共10組)
 2-PL 180x22x210
 2-PL 78x22x190
 2-PL 81x22x210
 4-TCB M22x90 (S10T)

< >内数値はG1.65桁を示す。

緩衝チェーン(許容荷重：615kN) 参考図



アンカーボルト詳細図 S=1:10



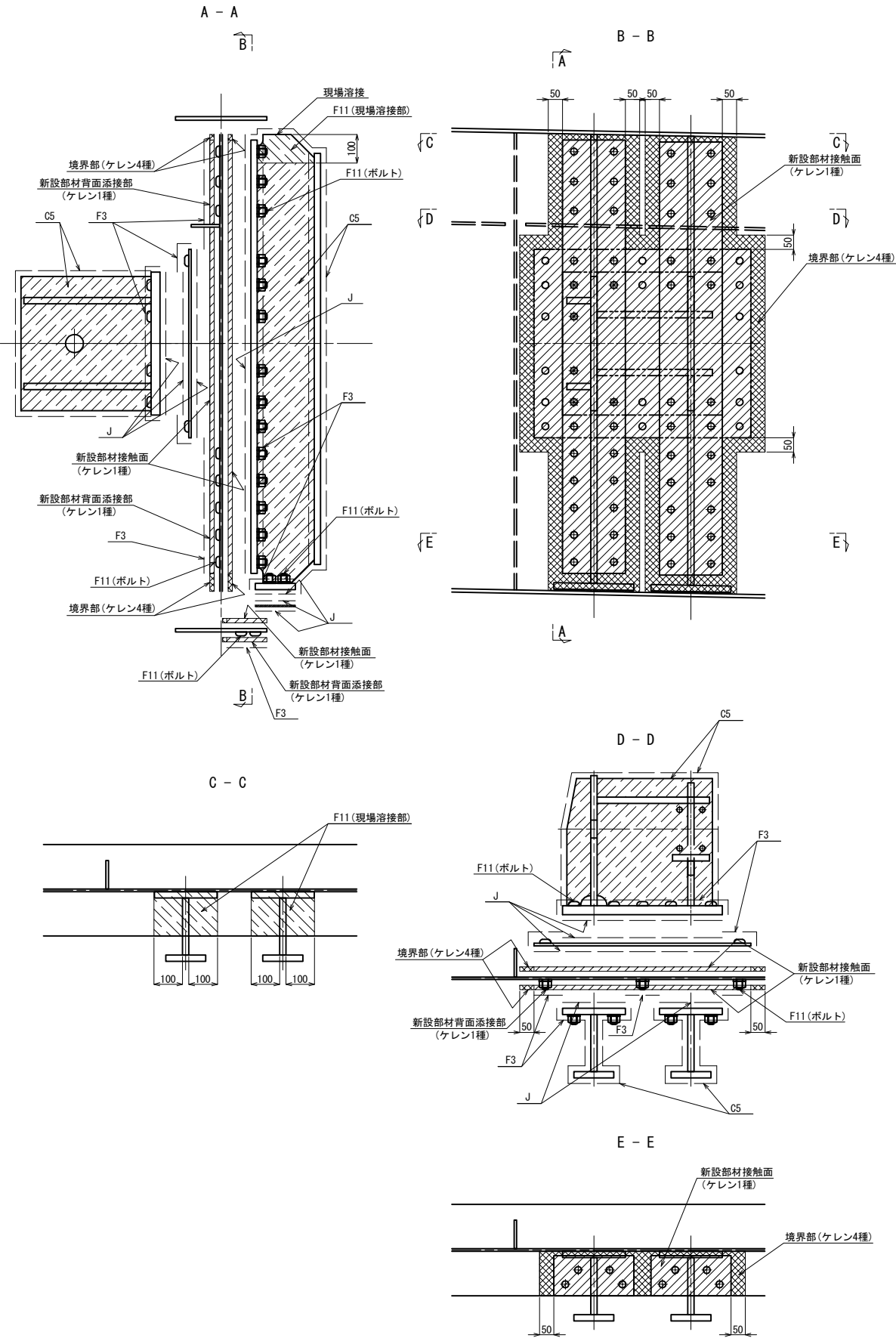
材 料 表 (落橋防止構造1箇所当たり)

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
緩衝チェーン	許容荷重：615kN	組	1	3リングワイド

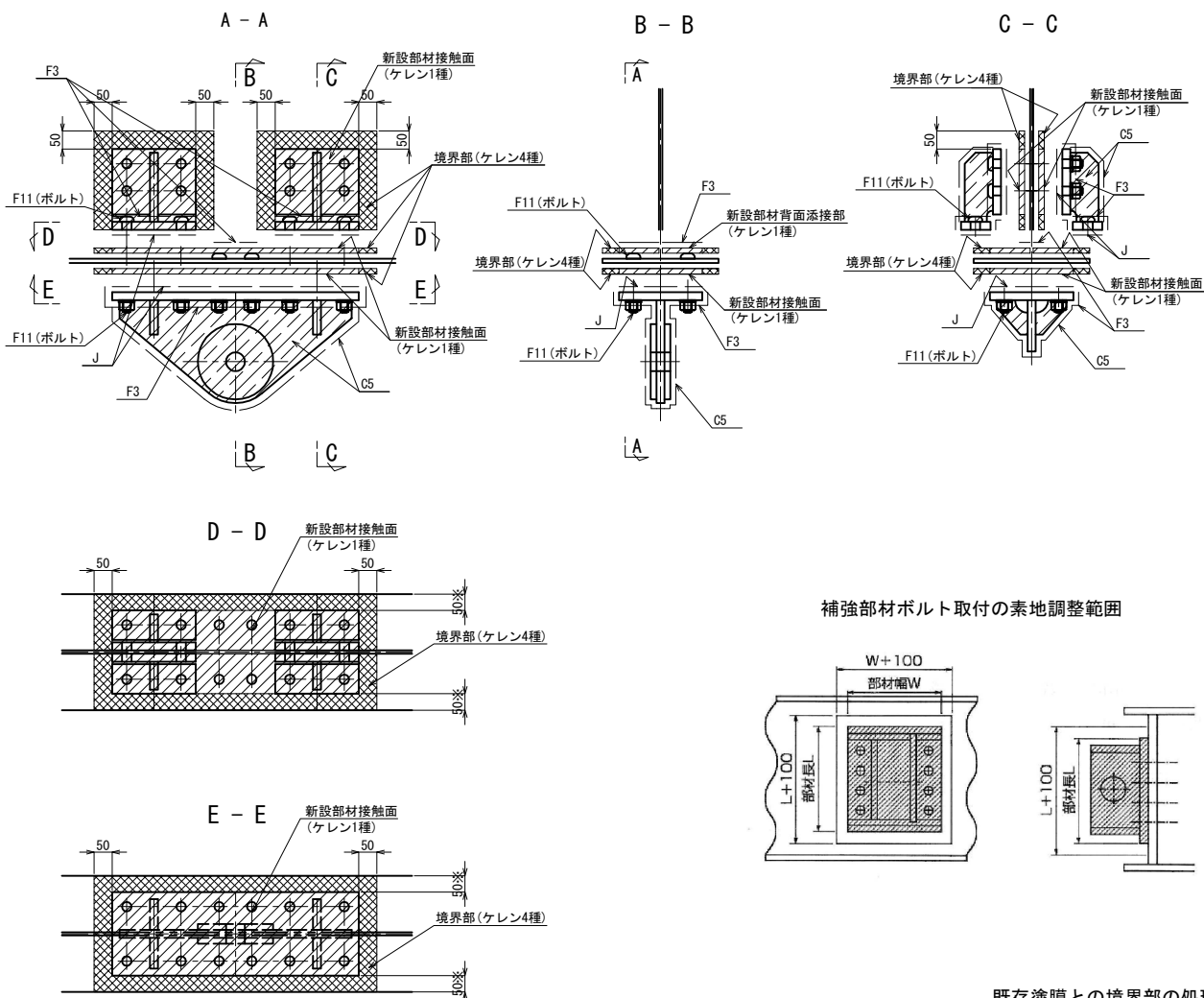
- 注 記
- ブラケットの製作は、現地調査の上最終決定のこと。
 - 鋼材の加工は現場の調査・計測を行い構造物の形状を最終的に決めてから行うこと。
 - 既設コンクリートへの削孔の際には、鉄筋探査等を実施し既設鉄筋の切断に注意すること。また、必要に応じ削孔位置、ブラケットのアンカーボルト位置の調整を行い、構造検査を行う。
 - 特記なき材質は全てSM400Aとする。
 - 特記なきスカラーアップは50Rとする。
 - 下部工部材は、全て溶融亜鉛メッキ仕上げとする。ただし、ボルト・ナット類はHDZT49とする。上部工部材は全て塗装仕上げとする。主桁補強取付面は既設桁の素地調整を行うこと。
 - 中印のボルトは、TCB M22を示す。
 - ボルト孔明けについて、以下の通りとする。TCB M22 → φ24.5 (既設)TCB M22 → φ26.5 (新設)
 - 「F.P」の表示のあるものは、完全溶込み溶接とすること。
 - 鋼製ブラケット(下部工付)は表面処理としてチッピングを行う。
 - 鋼製ブラケット周囲にはシール材 (t=20mm) によりシーリングを行うこと。

常磐自動車道 田野高架橋耐震補強工事			
図面の種類	田野高架橋(下り線) A2橋台 落橋防止構造C 構造図(その2)		
縮 尺	図 示	図面番号	51 / 79
設計会社名	株式会社 復建技術コンサルタント		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 水戸管理事務所		

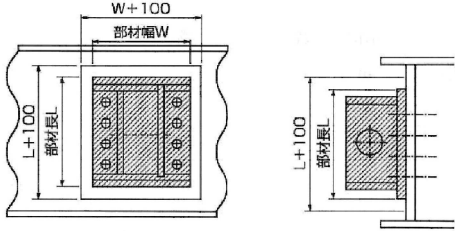
落橋防止構造(PCケーブル) 上部エブラケット



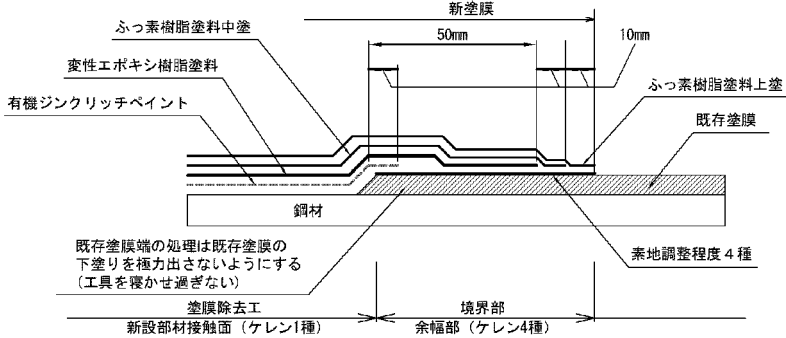
落橋防止構造(緩衝チェーン) 上部エブラケット



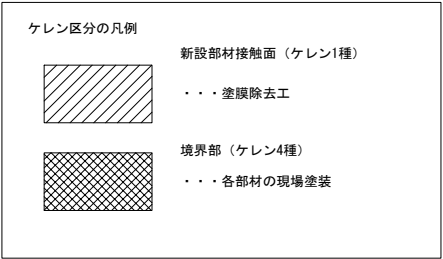
補強部材ボルト取付の素地調整範囲



既存塗膜との境界部の処理



塗膜除去工区分



常磐自動車道 田野高架橋耐震補強工事			
図面の種類	田野高架橋(下り線) 塗替塗装・塗膜除去工 塗分け区分図(その1)		
縮 尺	図 示	図面番号	52 / 79
設計会社名	株式会社 復建技術コンサルタント		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 水戸管理事務所		

塗 装 仕 様

一般部の塗装系

記号	工程		塗料または素地調整程度	標準 使用量 (g/m^2)	塗装間隔	標準 膜厚 (μm)
C (G5)	前処理	素地調整	G-a	—	2hr 以内	—
		プライマー	有機ジンクリッチプライマー	ｽﾌﾟﾚー 160	～6ヶ月	15
	工場塗装	2次素地調整	G-a	—	2hr 以内	—
		下塗り第1層	無機ジンクリッチペイント	ｽﾌﾟﾚー 600	2～10日	75
		ミストコート	エポキシ樹脂塗料下塗りあるいは厚膜形エポキシ樹脂塗料下塗り ($120\mu\text{m}$)	ｽﾌﾟﾚー 160	1～10日	—
		下塗り第2層	厚膜形エポキシ樹脂塗料下塗り ($120\mu\text{m}$)	ｽﾌﾟﾚー 540	1～10日	120
		中塗り	ふっ素樹脂塗料用中塗り	ｽﾌﾟﾚー 170	1～10日	30
		上塗り	ふっ素樹脂塗料上塗り	ｽﾌﾟﾚー 140		25

高力ボルト接触部および現場溶接部（熱影響部以外）の塗装系

記号	工程		塗料または素地調整程度	標準 使用量 (g/m^2)	塗装間隔	標準 膜厚 (μm)
F3	前処理	素地調整	G-a	—	2hr 以内	—
		プライマー	有機ジンクリッチプライマー	ｽﾌﾟﾚー 160	～6ヶ月	17
	工場塗装	2次素地調整	G-a	—	2hr 以内	—
		下塗り第1層	有機ジンクリッチペイント	ｽﾌﾟﾚー 600	2日	75
	現場塗装	ミストコート下塗り	変性エポキシ樹脂塗料下塗りあるいは厚膜形エポキシ樹脂塗料下塗り ($120\mu\text{m}$)	(ｽﾌﾟﾚー 160) ﾊﾞｯｸ 130	～12ヶ月	—
		下塗り第2層	厚膜形エポキシ樹脂塗料下塗り ($120\mu\text{m}$)	(ｽﾌﾟﾚー 360) ﾊﾞｯｸ 300	1～10日	90
		下塗り第3層	厚膜形エポキシ樹脂塗料下塗り ($120\mu\text{m}$)	(ｽﾌﾟﾚー 360) ﾊﾞｯｸ 300	1～10日	90
		中塗り	ふっ素樹脂塗料用中塗り	(ｽﾌﾟﾚー 170) ﾊﾞｯｸ 140	1～10日	30
		上塗り	ふっ素樹脂塗料上塗り	(ｽﾌﾟﾚー 140) ﾊﾞｯｸ 120	1～10日	25

高力ボルト接触部（接触面）の塗装系

記号	工程		塗料または素地調整程度	標準 使用量 (g/m^2)	塗装間隔	標準 膜厚 (μm)
J	前処理	素地調整	G-a	—	2hr 以内	—
		プライマー	有機ジンクリッチプライマー	ｽﾌﾟﾚー 160	～6ヶ月	(15)
	工場塗装	2次素地調整	G-a	—	2hr 以内	—
		下塗り	無機ジンクリッチペイント	ｽﾌﾟﾚー 600		75

一般部（外面）の塗装系（境界部塗装）

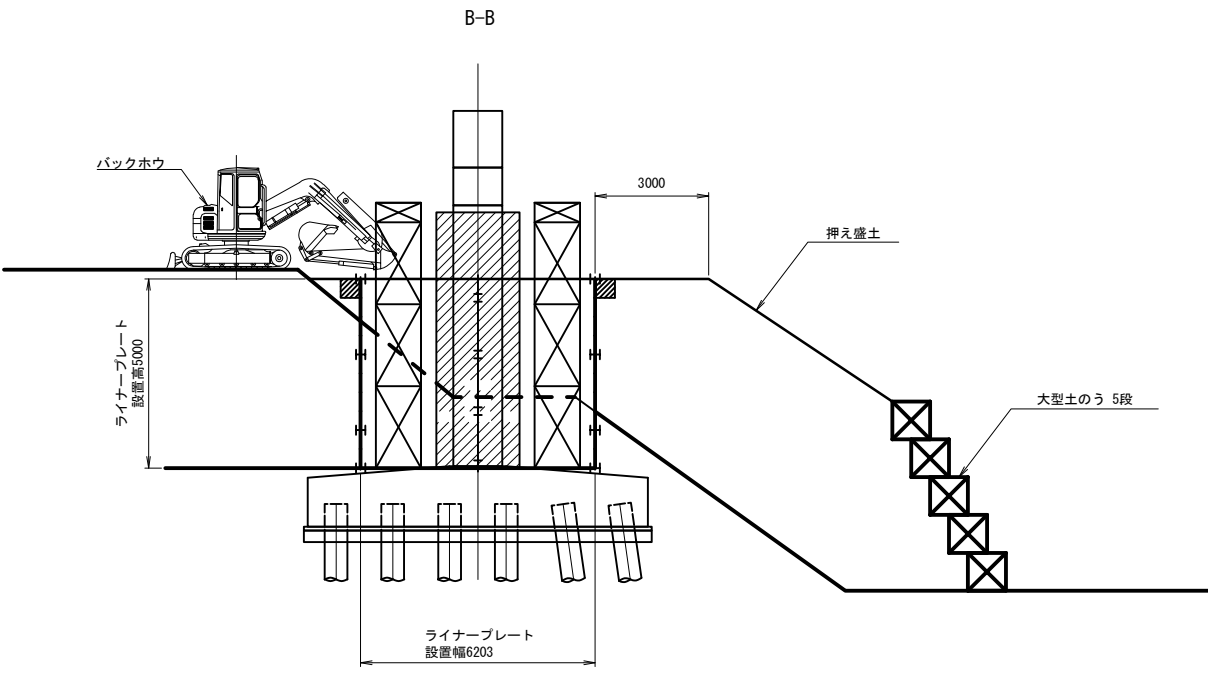
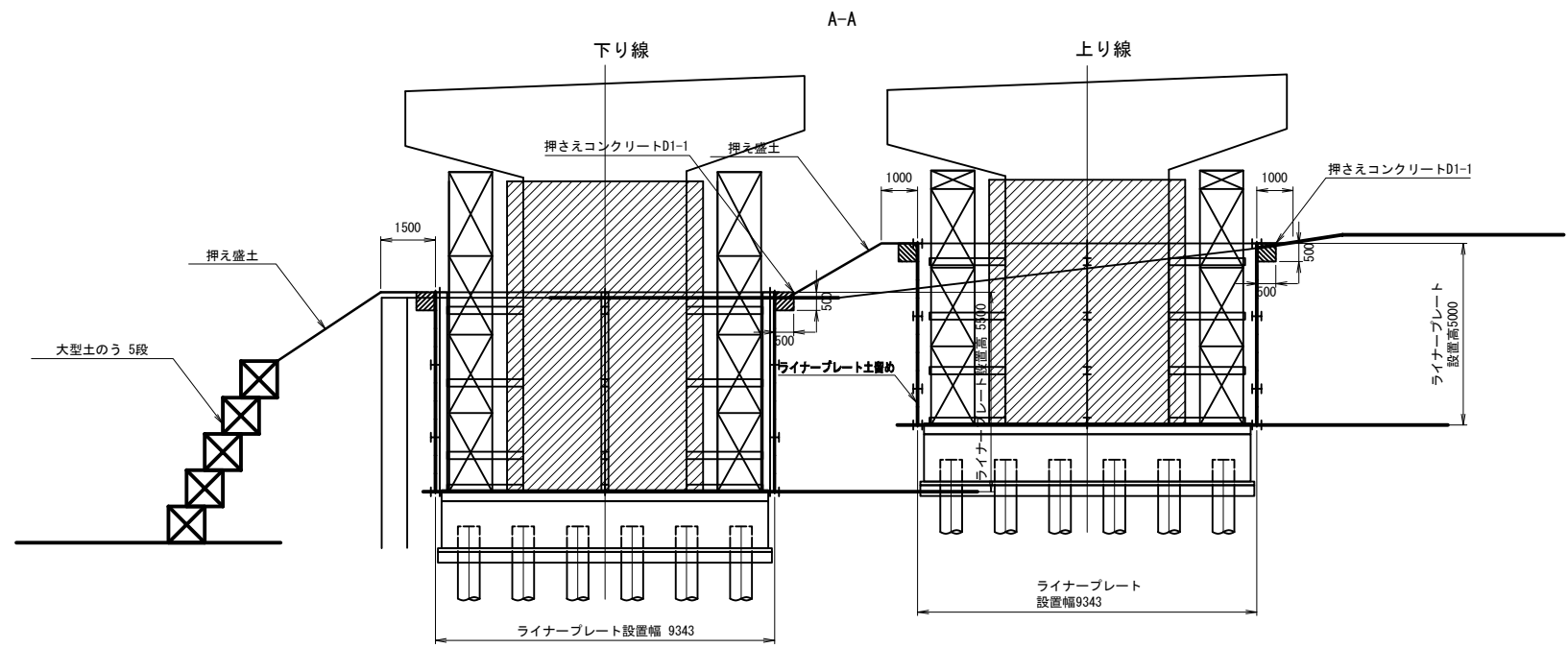
記号	工程		塗料または素地調整程度	標準 使用量 (g/m^2)	塗装間隔	標準 膜厚 (μm)
境界部	現場塗装 (4種)	素地調整	4種	—	4hr 以内	—
		下塗り	変性エポキシ樹脂塗料下塗り	ﾊﾞｯｸ 200	1～10日	60
		中塗り	ふっ素樹脂塗料用中塗り	ﾊﾞｯｸ 140	1～10日	30
		上塗り	ふっ素樹脂塗料上塗り	ﾊﾞｯｸ 120		25

高力ボルト頭部および現場溶接部（熱影響部）の塗装系

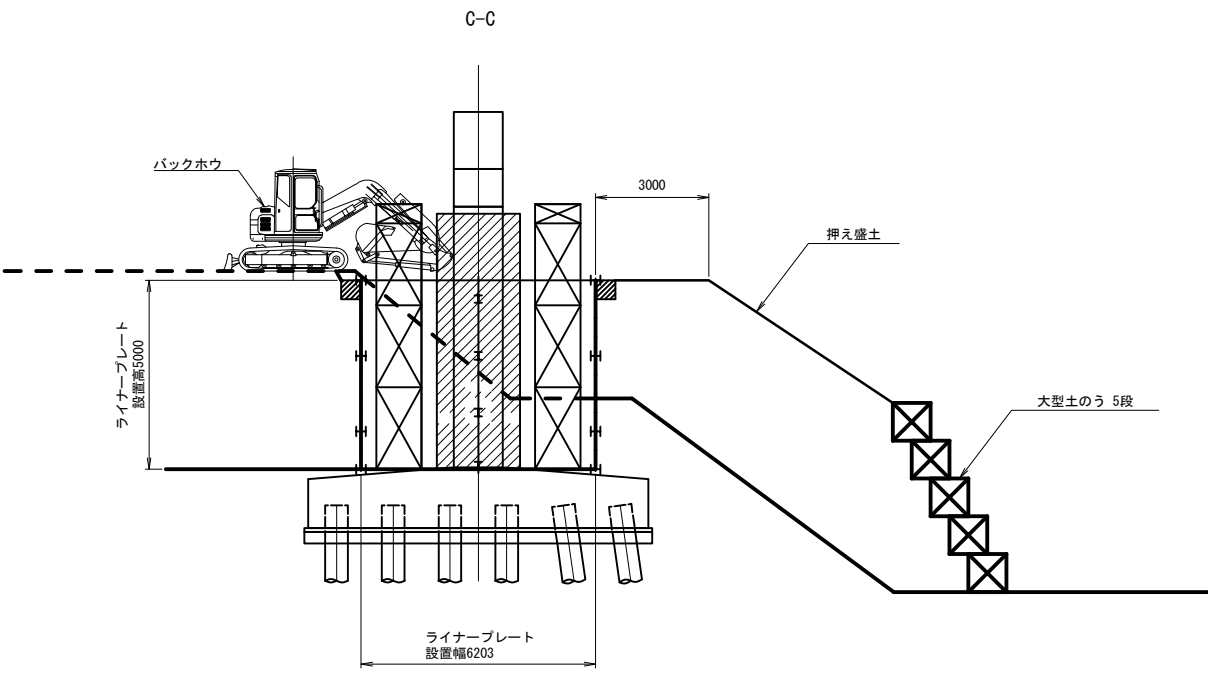
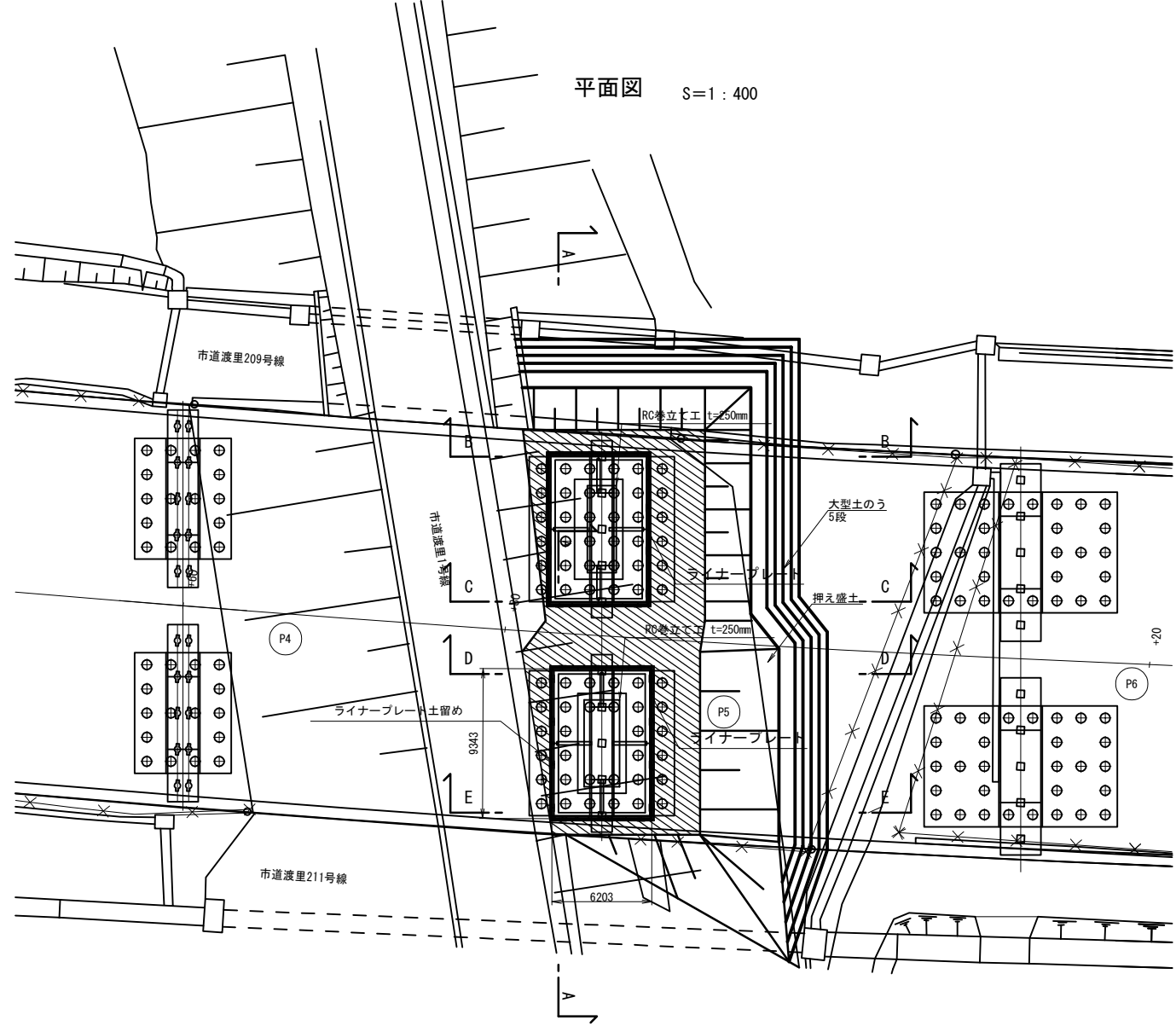
記号	工程		塗料または素地調整程度	標準 使用量 (g/m^2)	塗装間隔	標準 膜厚 (μm)
F11	現場塗装	素地調整	G-c	—	2hr 以内	—
		下塗り第1層	有機ジンクリッチペイント	ﾊﾞｯｸ 240	1～10日	30
		下塗り第2層	有機ジンクリッチペイント	ﾊﾞｯｸ 240	1～10日	30
		下塗り第3層	厚膜形エポキシ樹脂塗料下塗り ($120\mu\text{m}$)	(ｽﾌﾟﾚー 360) ﾊﾞｯｸ 300	1～10日	90
		下塗り第4層	厚膜形エポキシ樹脂塗料下塗り ($120\mu\text{m}$)	(ｽﾌﾟﾚー 360) ﾊﾞｯｸ 300	1～10日	90
		中塗り	ふっ素樹脂塗料用中塗り	(ｽﾌﾟﾚー 170) ﾊﾞｯｸ 140	1～10日	30
		上塗り	ふっ素樹脂塗料上塗り	(ｽﾌﾟﾚー 140) ﾊﾞｯｸ 120	1～10日	25

常磐自動車道 田野高架橋耐震補強工事			
図面の種類	田野高架橋(下り線) 塗替塗装・塗膜除去工 塗分け区分図(その2)		
縮 尺	—	図面番号	53 / 79
設計会社名	株式会社 復建技術コンサルタント		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 水戸管理事務所		

断面図 S=1:200



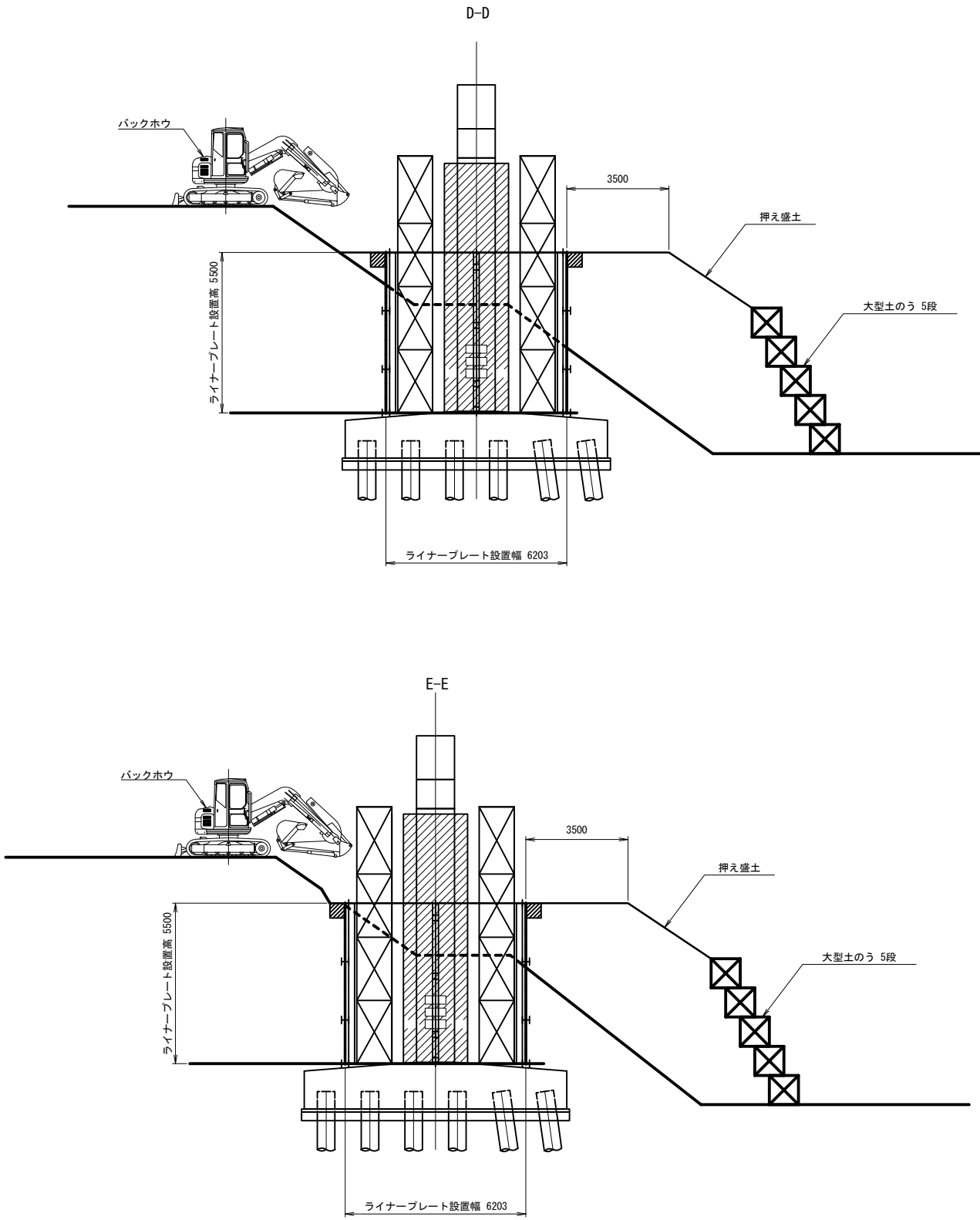
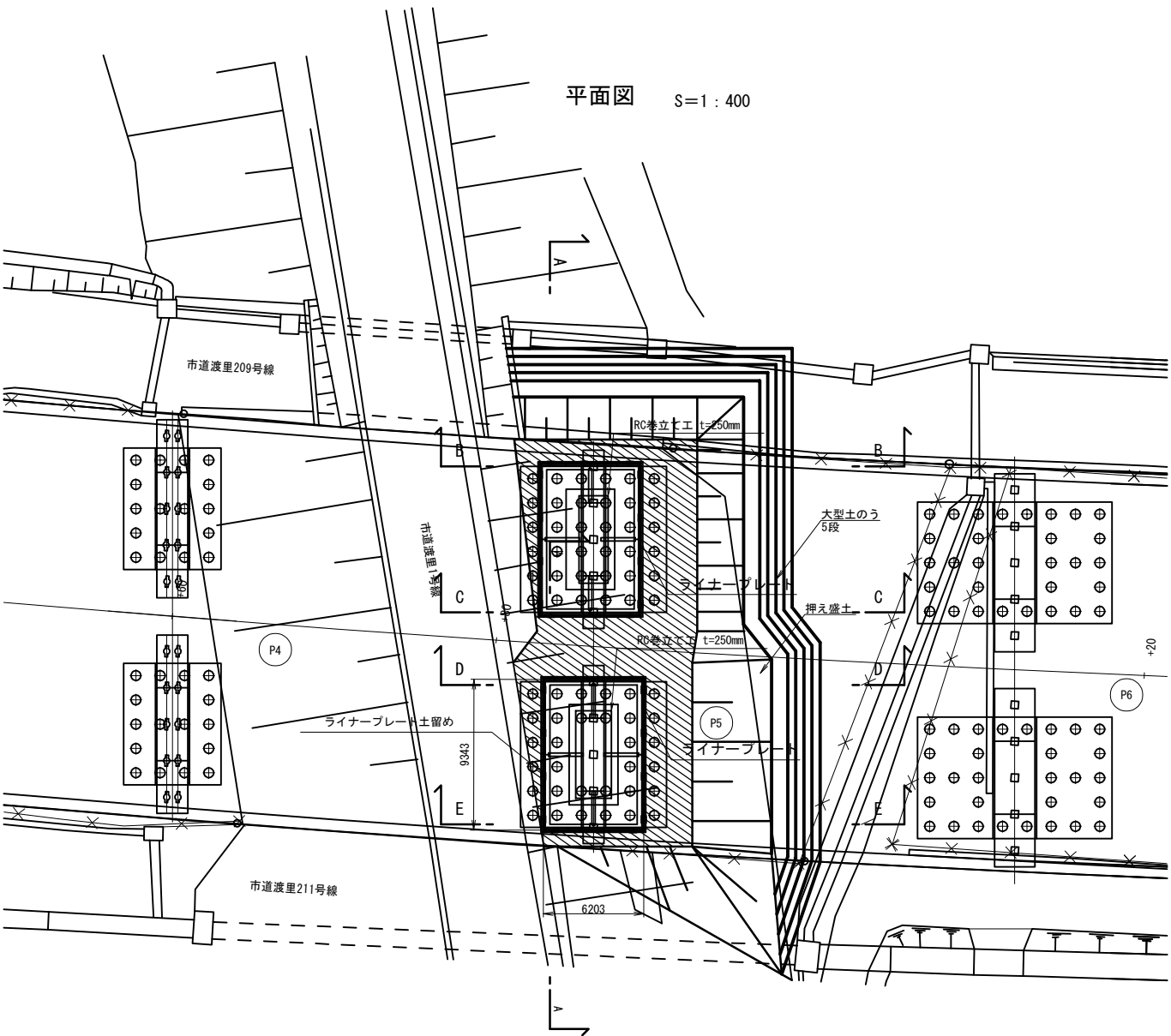
平面図 S=1:400



注記
1) 施工時に必要に応じ現地盤を確認し、
地盤の変状に相違がある場合は適宜修正を行うこと。
2) 大型土のうは耐候性土のう(1年対応品)とする。

常磐自動車道 田野高架橋耐震補強工事			
図面の種類	田野高架橋 P5橋脚 ライナープレート計画図(その1)(参考図)		
縮 尺	図 示	図面番号	54 / 79
設計会社名			
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 水戸管理事務所		

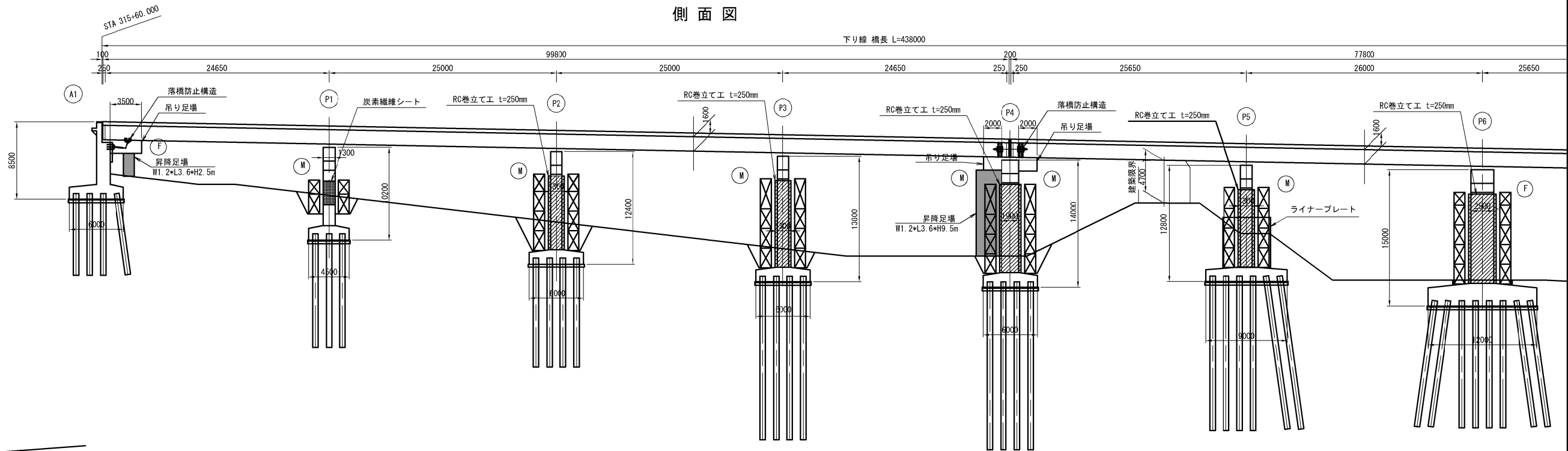
断面図 S=1:200



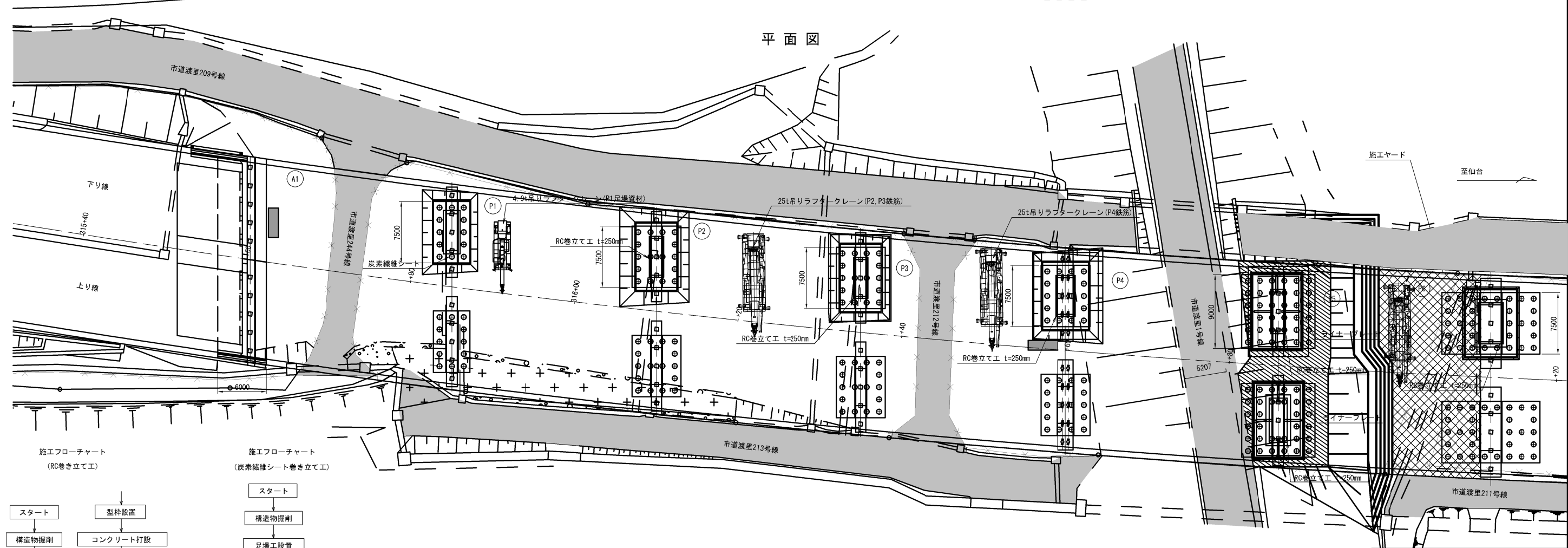
注記
1) 施工時に必要に応じ現地盤を確認し、
地盤の変状に相違がある場合は適宜修正を行うこと。
2) 大型土のうは耐候性土のう(1年対応品)とする。

常磐自動車道 田野高架橋耐震補強工事			
図面の種類	田野高架橋 P5橋脚 ライナープレート計画図(その2)(参考図)		
縮 尺	図 示	図面番号	55 / 79
設計会社名			
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 水戸管理事務所		

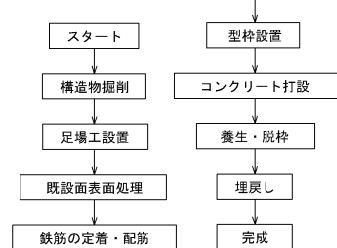
側面図



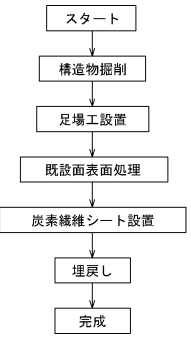
平面図



施工フローチャート
(RC巻き立て工)



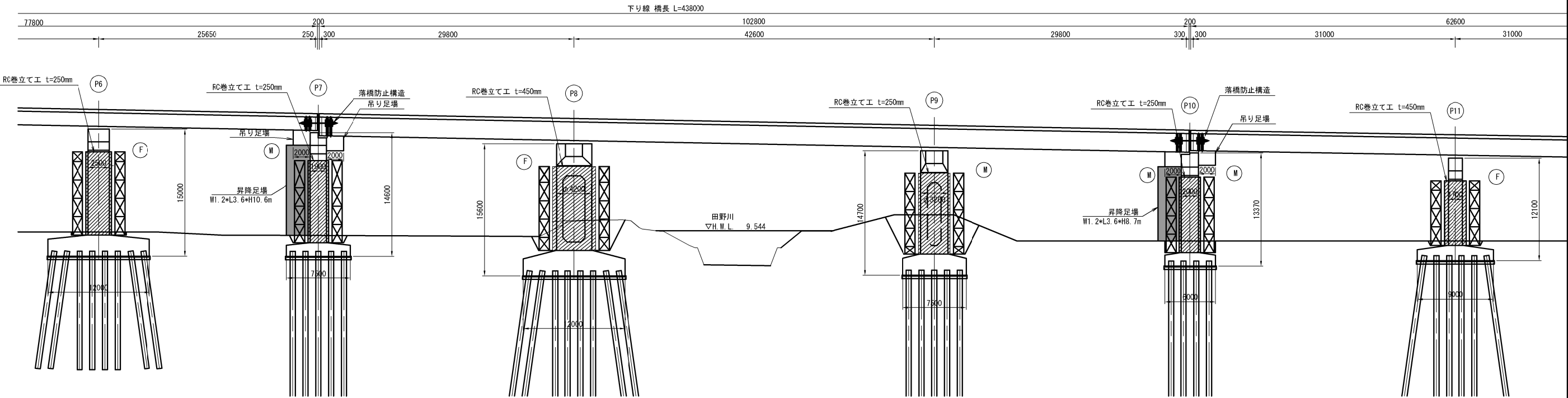
施工フローチャート
(炭素繊維シート巻き立て工)



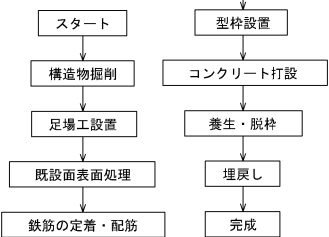
注記
構造物掘削埋戻し時に不足土が生じる場合は、掘削箇所近傍の土砂を使用するものとする。

常磐自動車道 田野高架橋耐震補強工事			
図面の種類	田野高架橋(下り線) 耐震補強施工計画図(その1)(参考図)	縮尺	図示 図面番号 57 / 79
設計会社名			
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 水戸管理事務所		

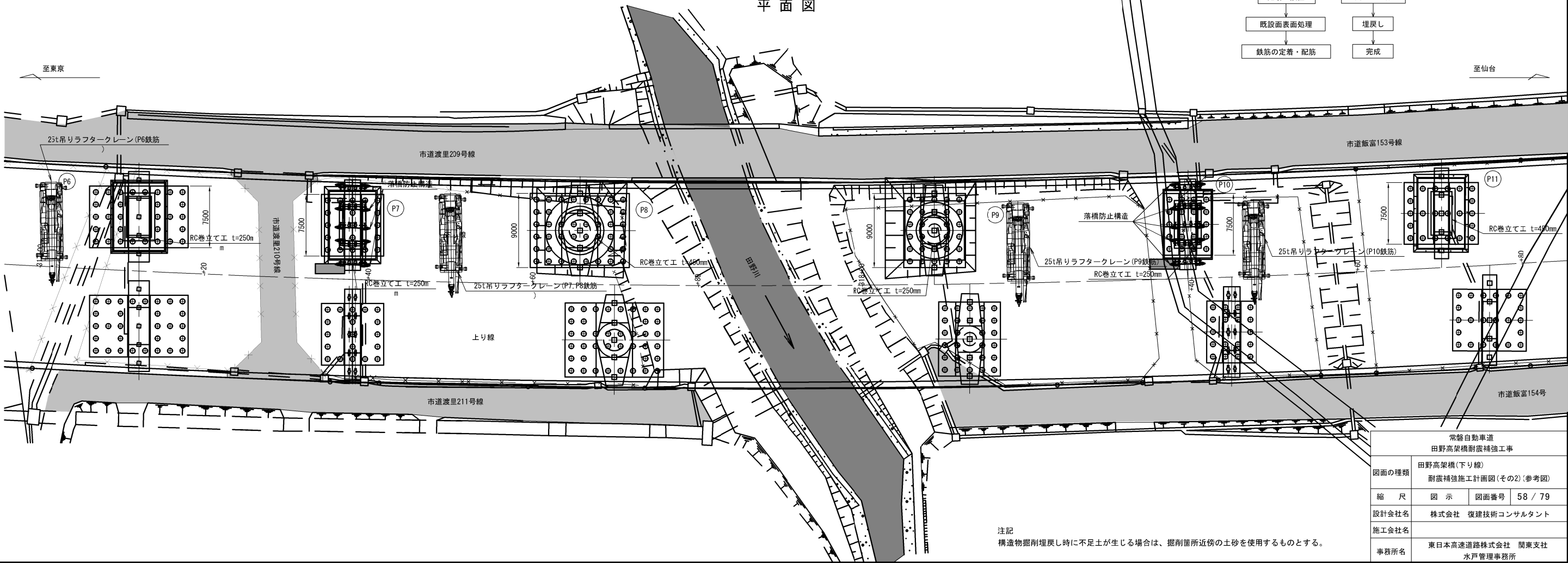
側面図



施工フローチャート
(RC巻き立て工)



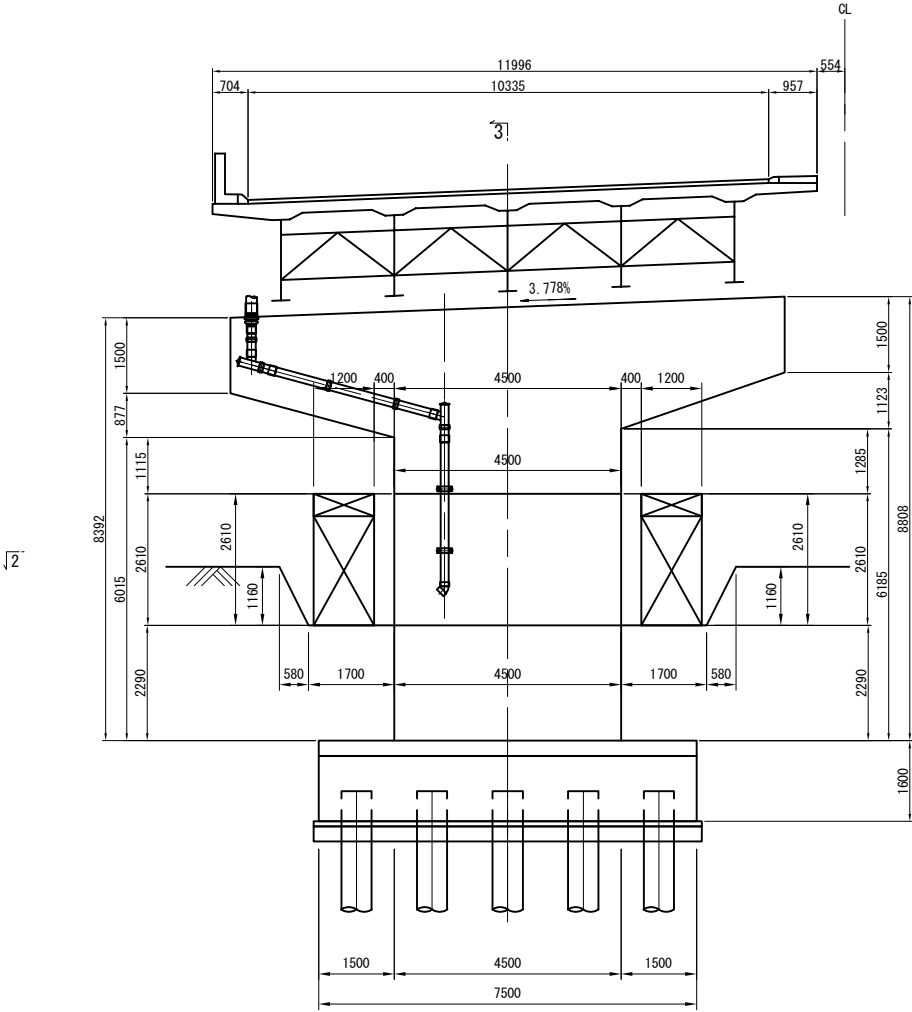
平面図



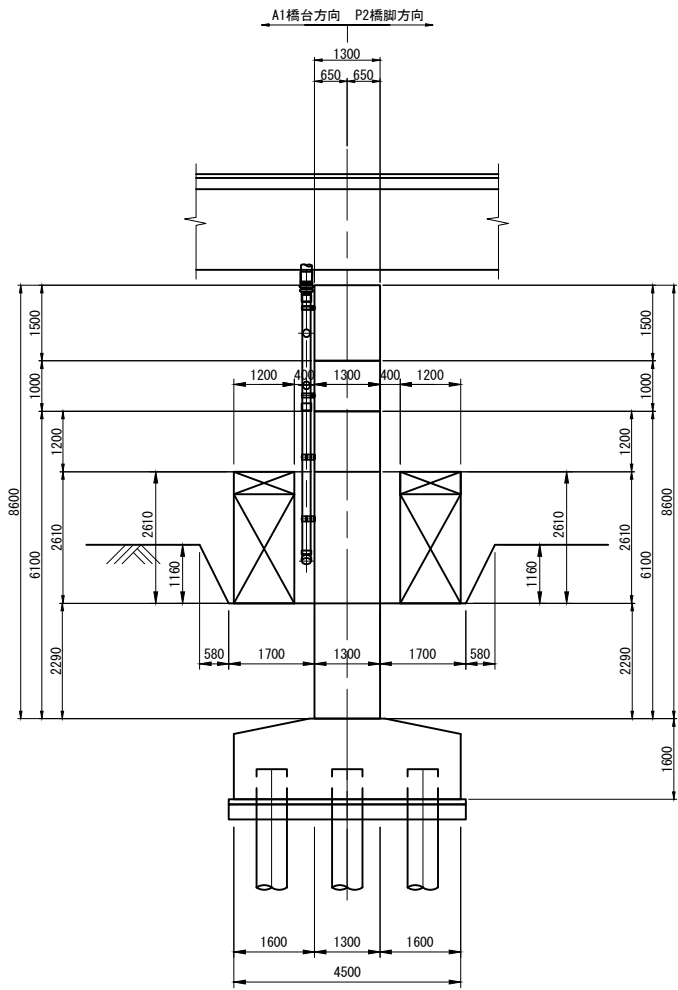
注記
構造物掘削埋戻し時に不足土が生じる場合は、掘削箇所近傍の土砂を使用するものとする。

田野高架橋(下り線) P1橋脚施工要領図(参考図) S=1:150
(下部工構造物掘削施工時)

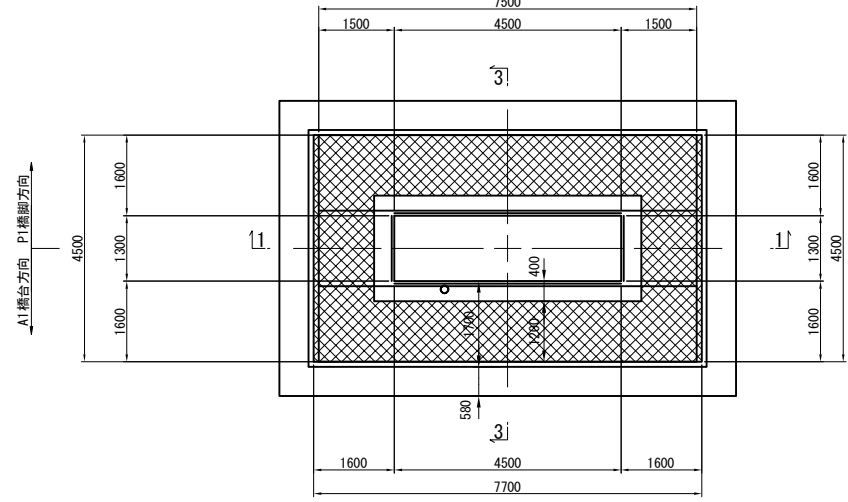
正面図
1 - 1



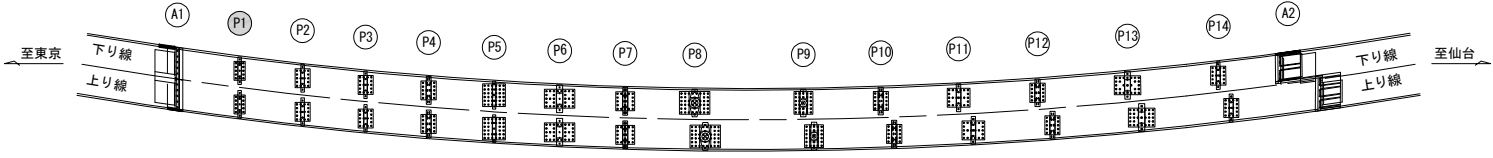
側面図
3 - 3



平面図
2 - 2



位置図



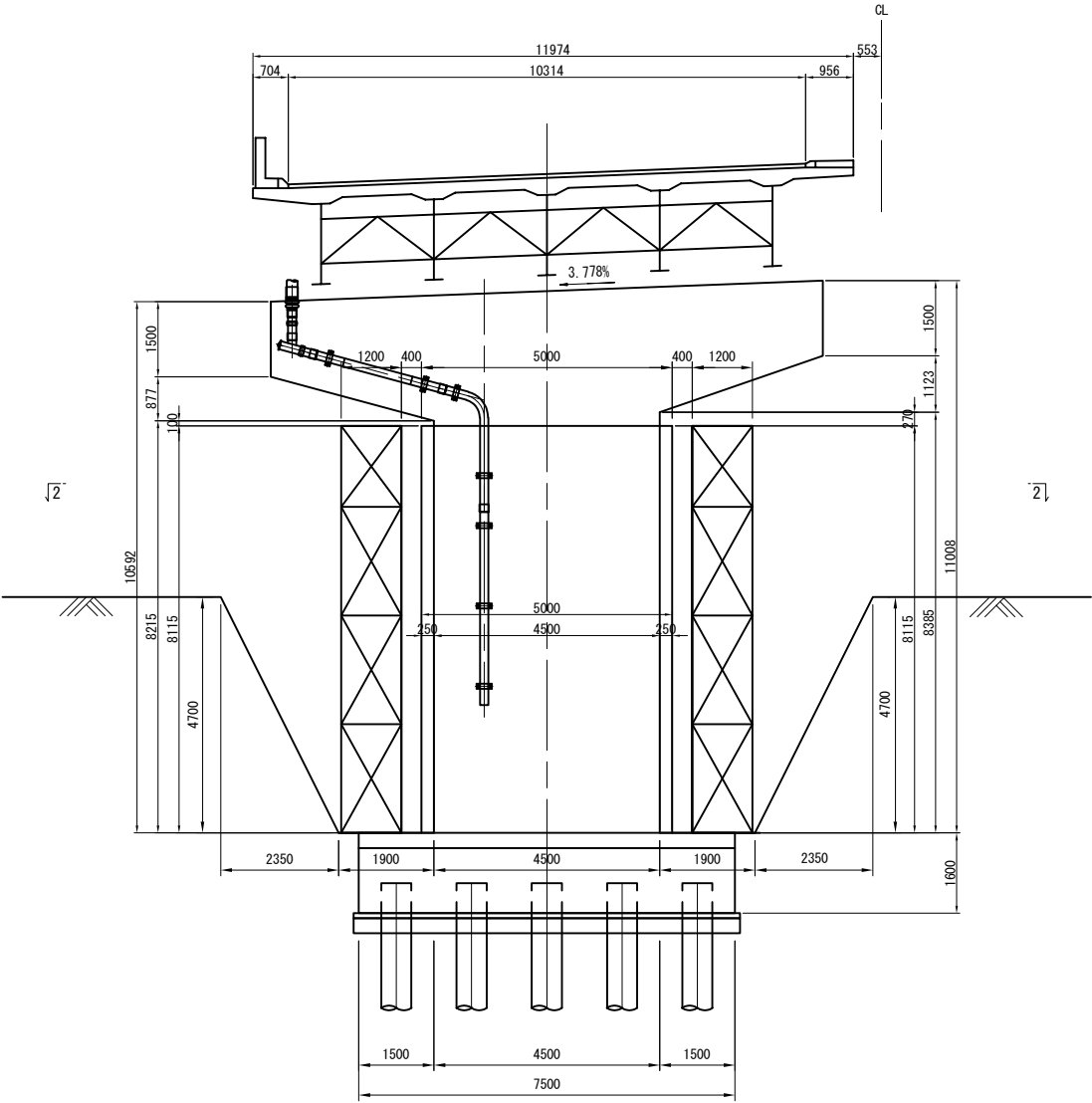
注記)
1. 本図面は既設設計図書を基に作成しているため、
現地にて寸法を確認した上で、施工を行うこと。
2. 現地盤高は現地計測値に基づくものとする。

常磐自動車道 田野高架橋耐震補強工事			
図面の種類	田野高架橋(下り線) P1橋脚施工要領図(参考図)		
	縮尺	図示	図面番号 60 / 79
設計会社名	株式会社 復建技術コンサルタント		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 水戸管理事務所		

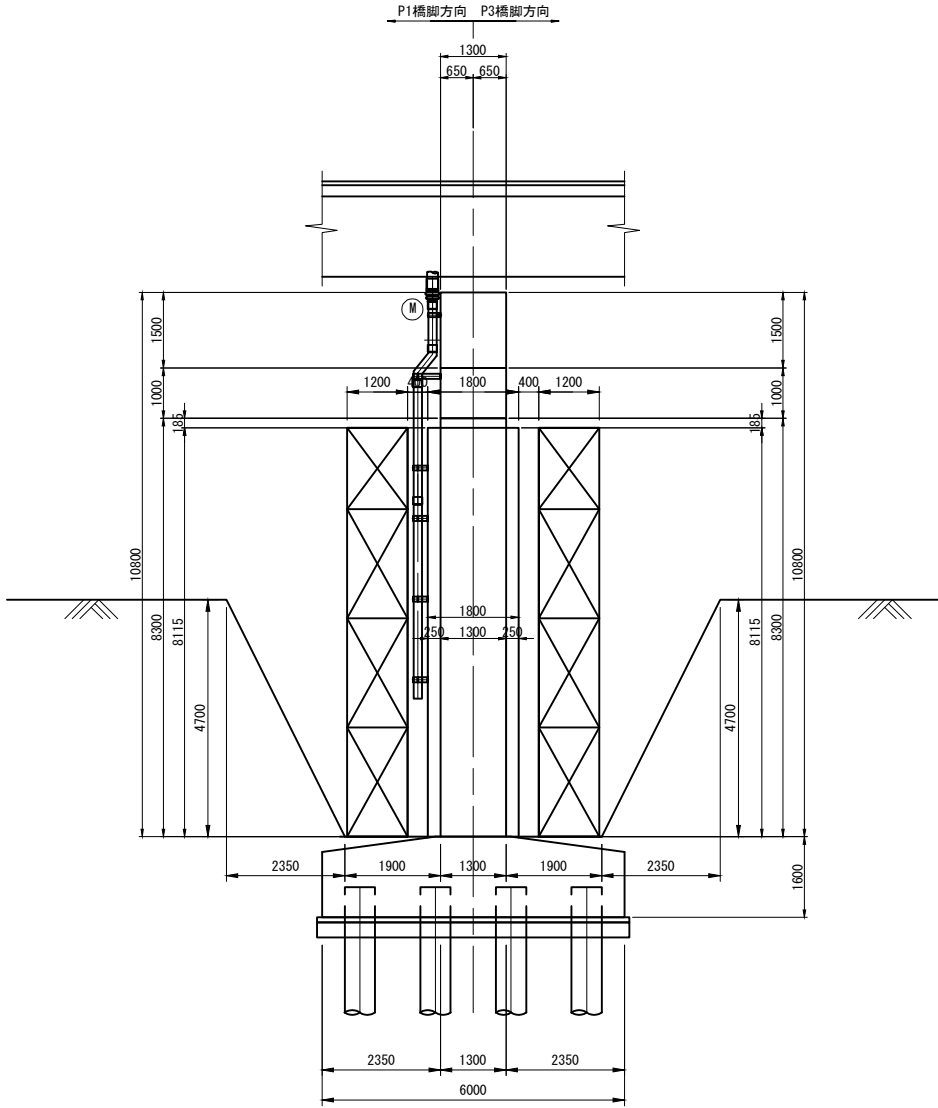
田野高架橋(下り線) P2橋脚施工要領図(参考図)
 (下部工構造物掘削施工時)

S=1:150

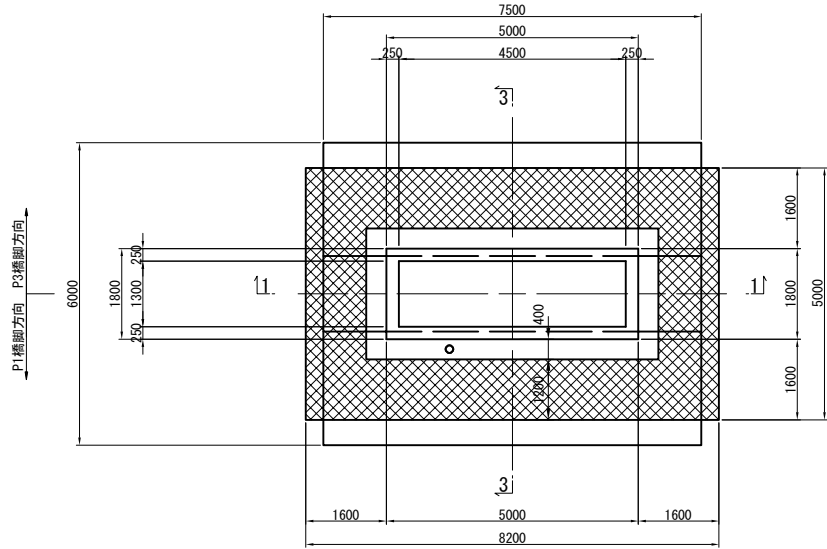
正面図
 1 - 1



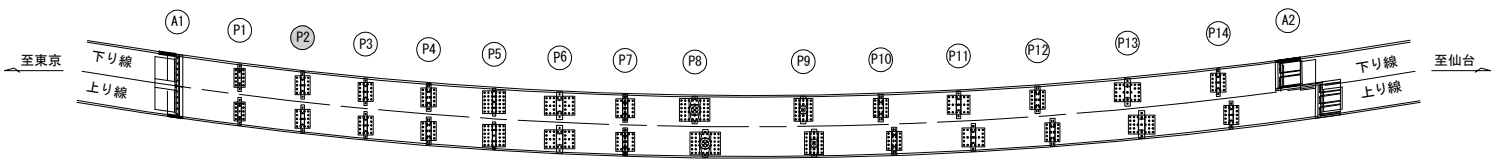
側面図
 3 - 3



平面図
 2 - 2



位置図

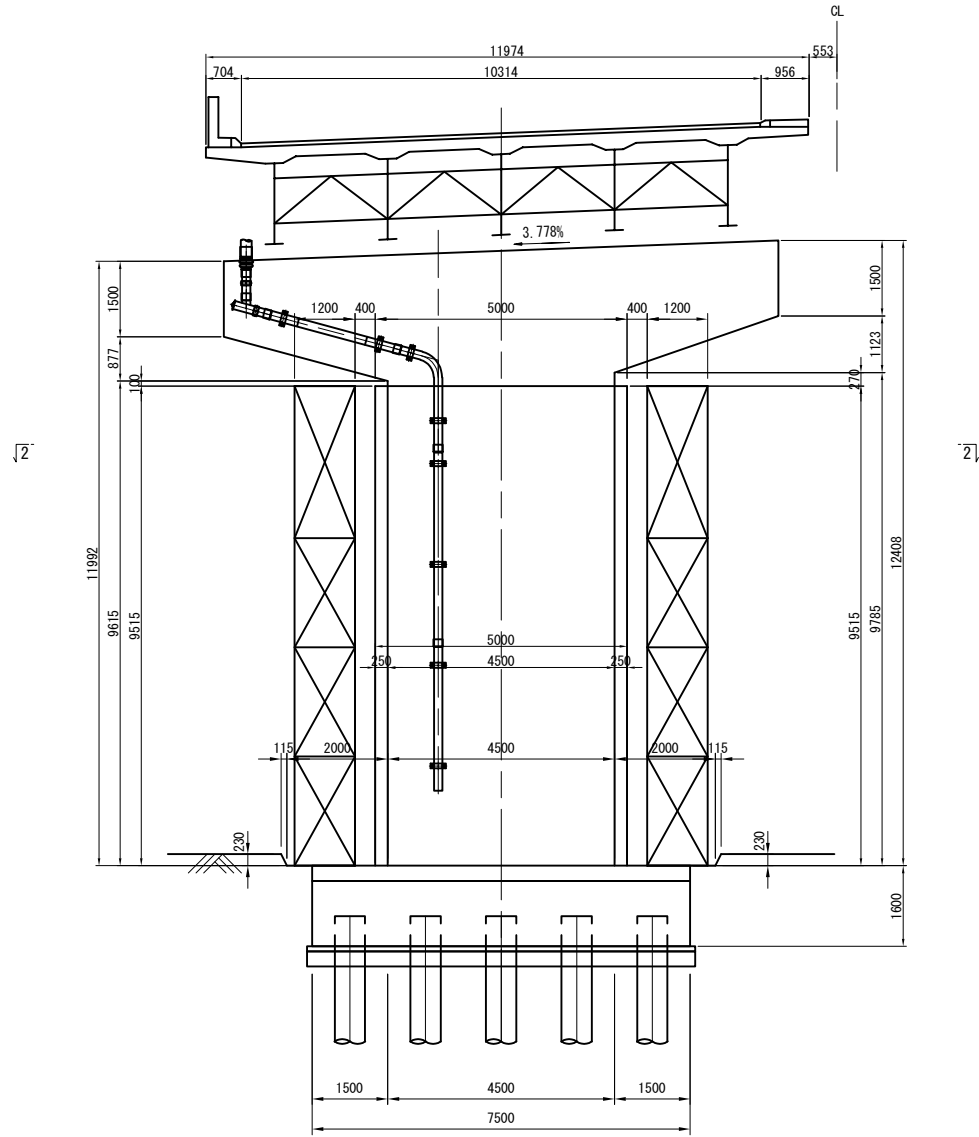


- 注記)
 1. 本図面は既設設計図書を基に作成しているため、
 現地に寸法を確認した上で、施工を行うこと。
 2. 現地盤高は現地計測値に基づくものとする。

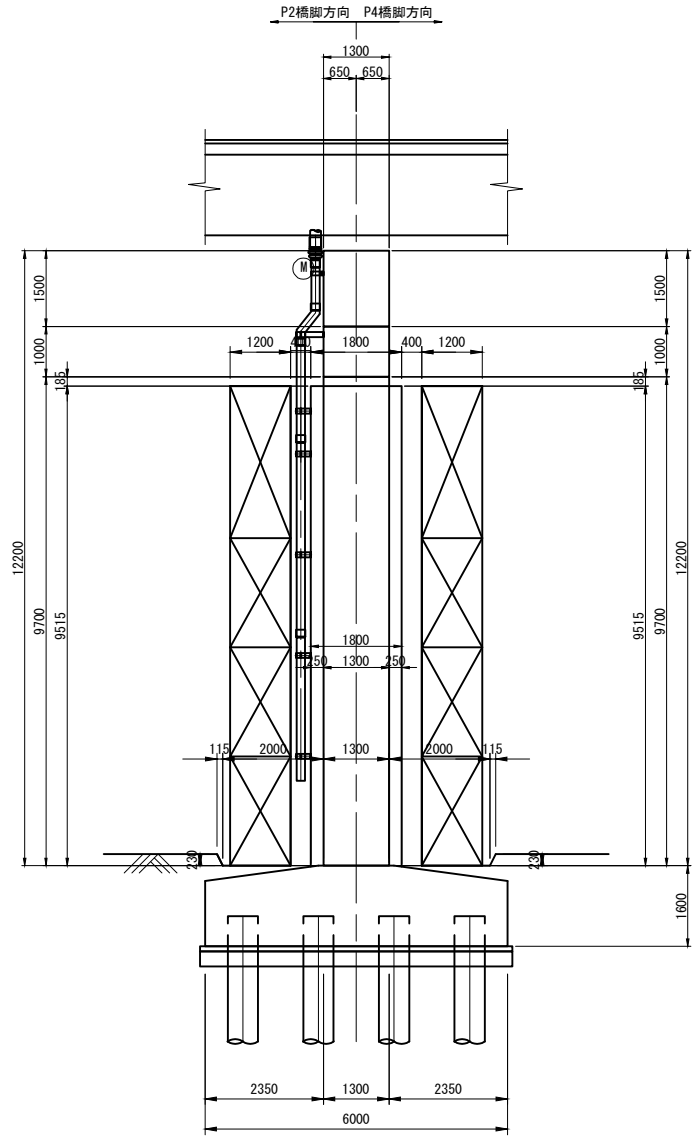
常磐自動車道 田野高架橋耐震補強工事			
図面の種類	田野高架橋(下り線) P2橋脚施工要領図(参考図)		
縮尺	図示	図面番号	61 / 79
設計会社名	株式会社 復建技術コンサルタント		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 水戸管理事務所		

田野高架橋(下り線) P3橋脚施工要領図(参考図)
 S=1:150
 (下部工構造物掘削施工時)

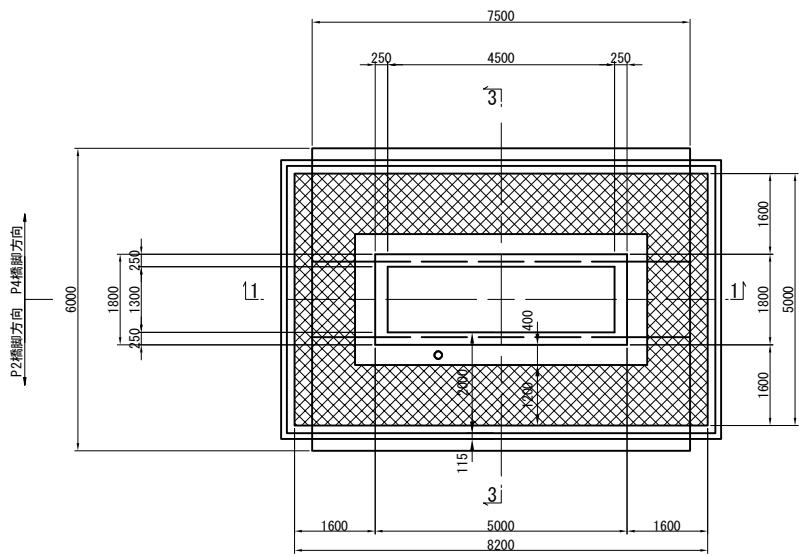
正面図
1 - 1



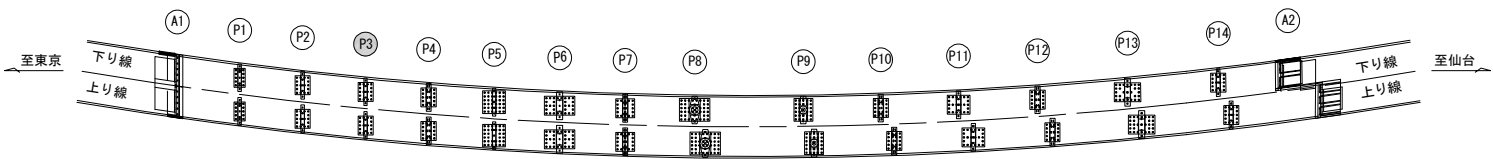
側面図
3 - 3



平面図
2 - 2



位置図

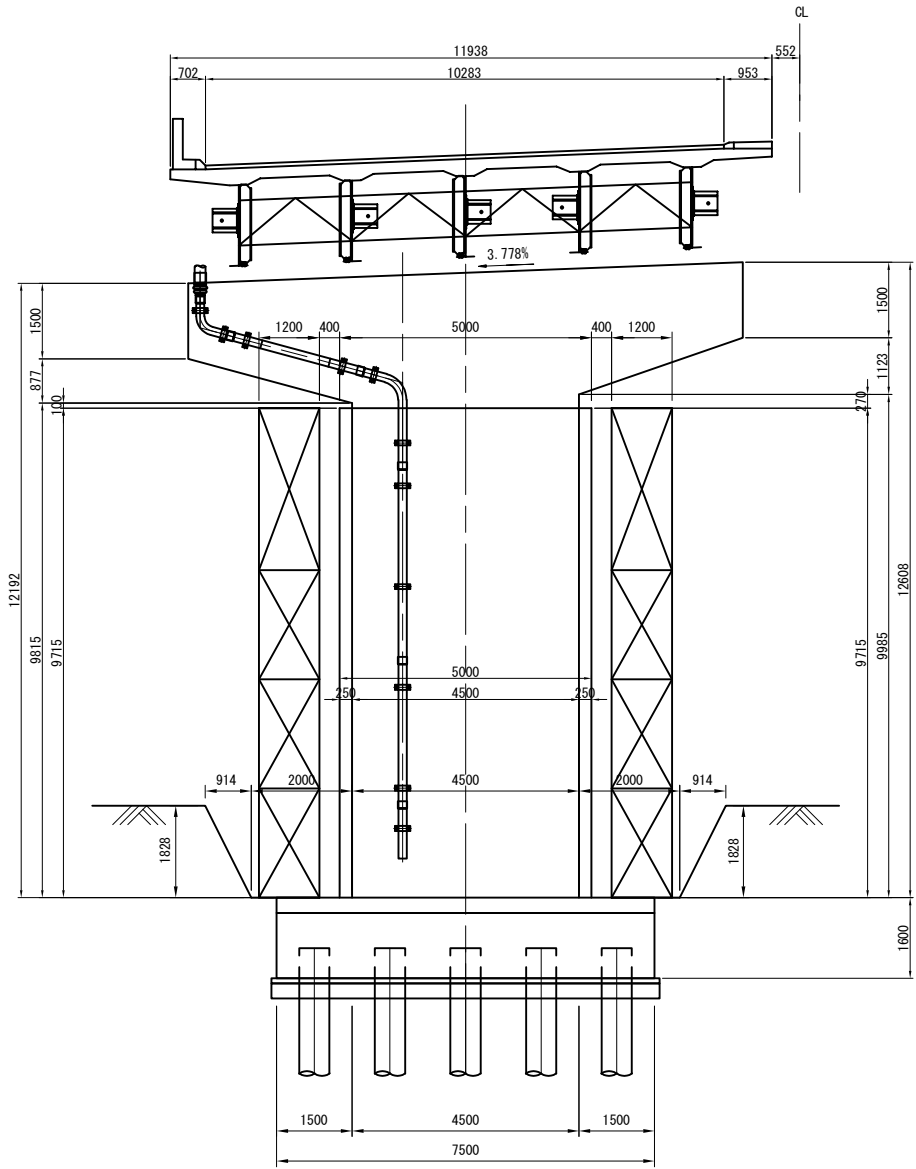


注記)
 1. 本図面は既設設計図書を基に作成しているため、現地に寸法を確認した上で、施工を行うこと。
 2. 現地盤高は現地計測値に基づくものとする。

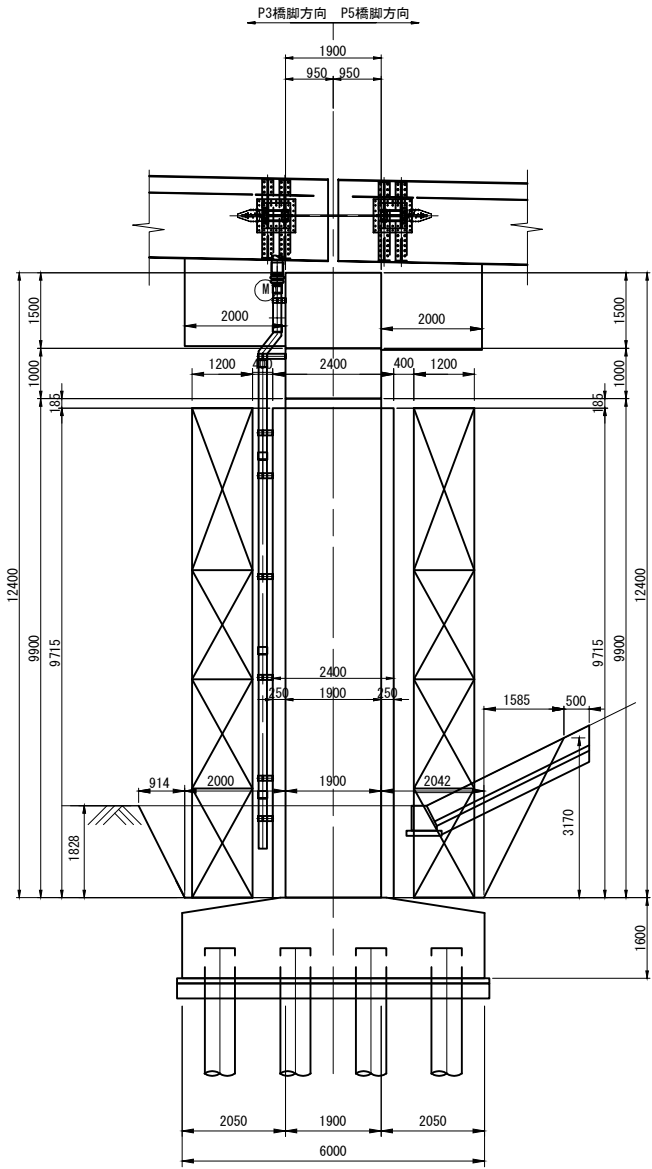
常磐自動車道 田野高架橋耐震補強工事			
図面の種類	田野高架橋(下り線)		
	P3橋脚施工要領図(参考図)		
縮尺	図示	図面番号	62 / 79
設計会社名	株式会社 復建技術コンサルタント		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 水戸管理事務所		

(下部工構造物掘削施工時)

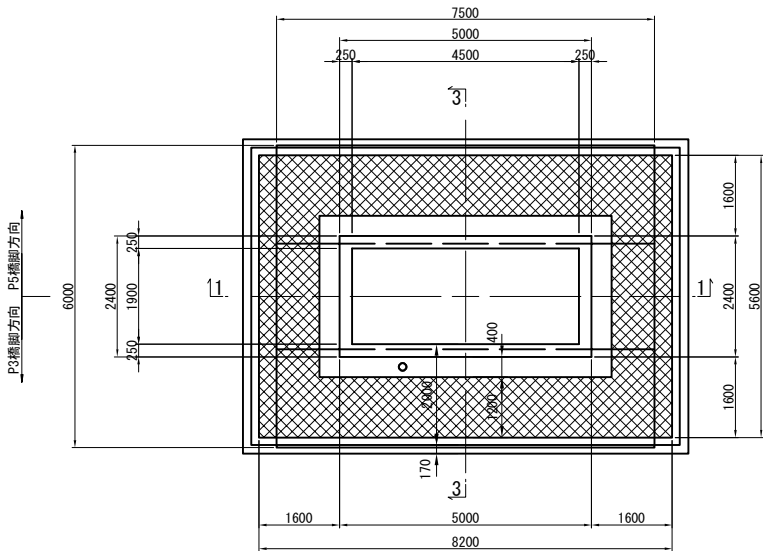
正面図
1 - 1



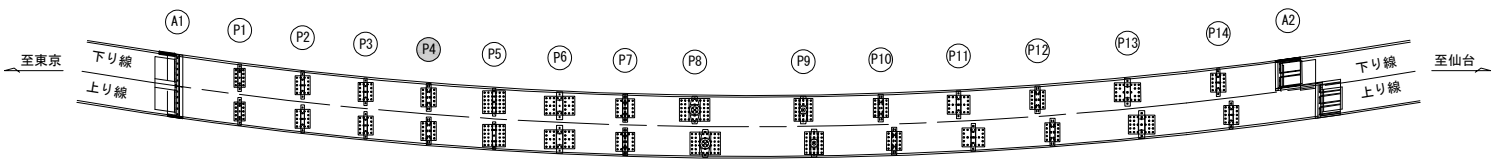
側面図
3 - 3



平面図
2 - 2



位置図



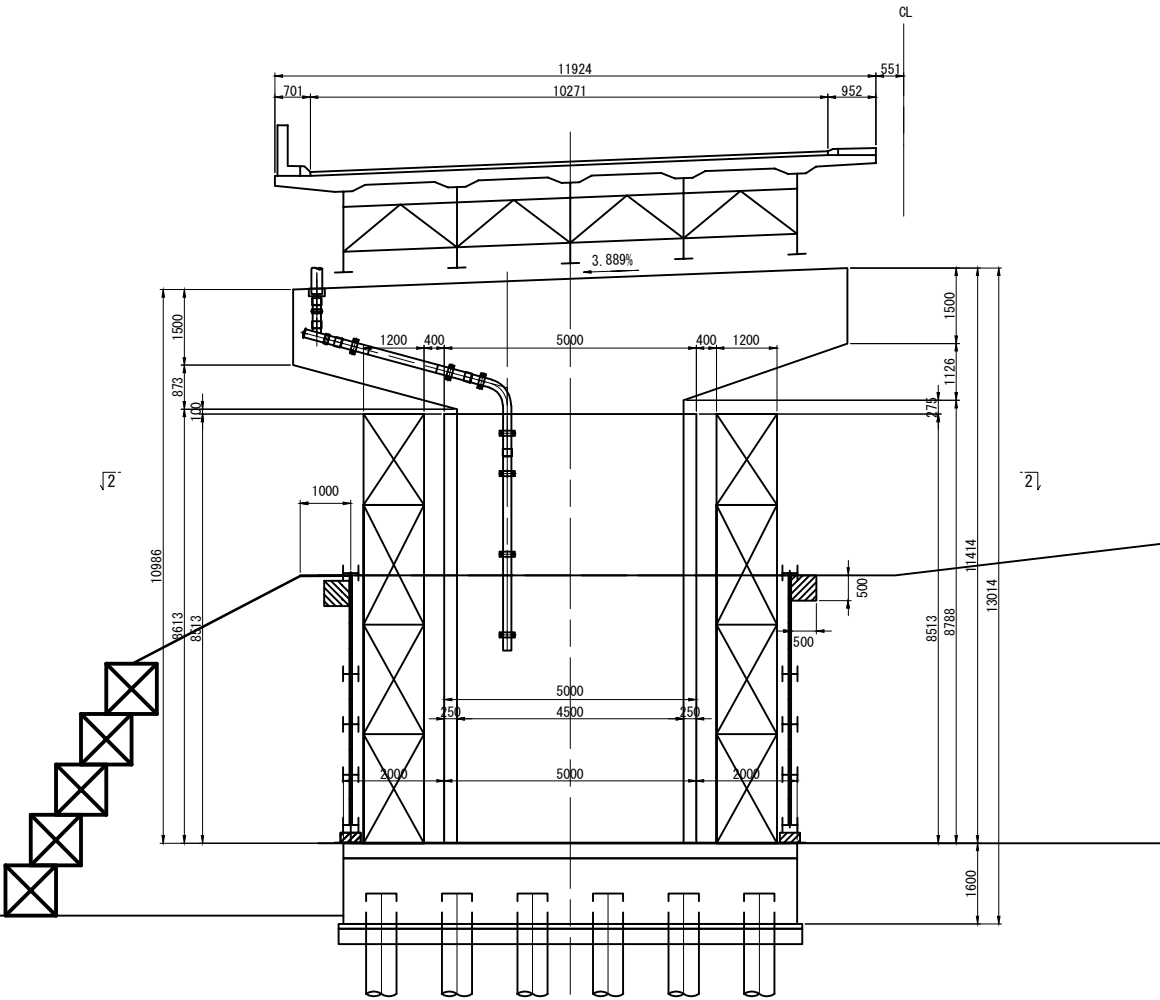
- 注記)
1. 本図面は既設設計図書を基に作成しているため、現地に寸法を確認した上で、施工を行うこと。
 2. 現地盤高は現地計測値に基づくものとする。

常磐自動車道 田野高架橋耐震補強工事			
図面の種類	田野高架橋(下り線) P4橋脚施工要領図(参考図)		
	縮尺	図示	図面番号 63 / 79
設計会社名	株式会社 復建技術コンサルタント		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 水戸管理事務所		

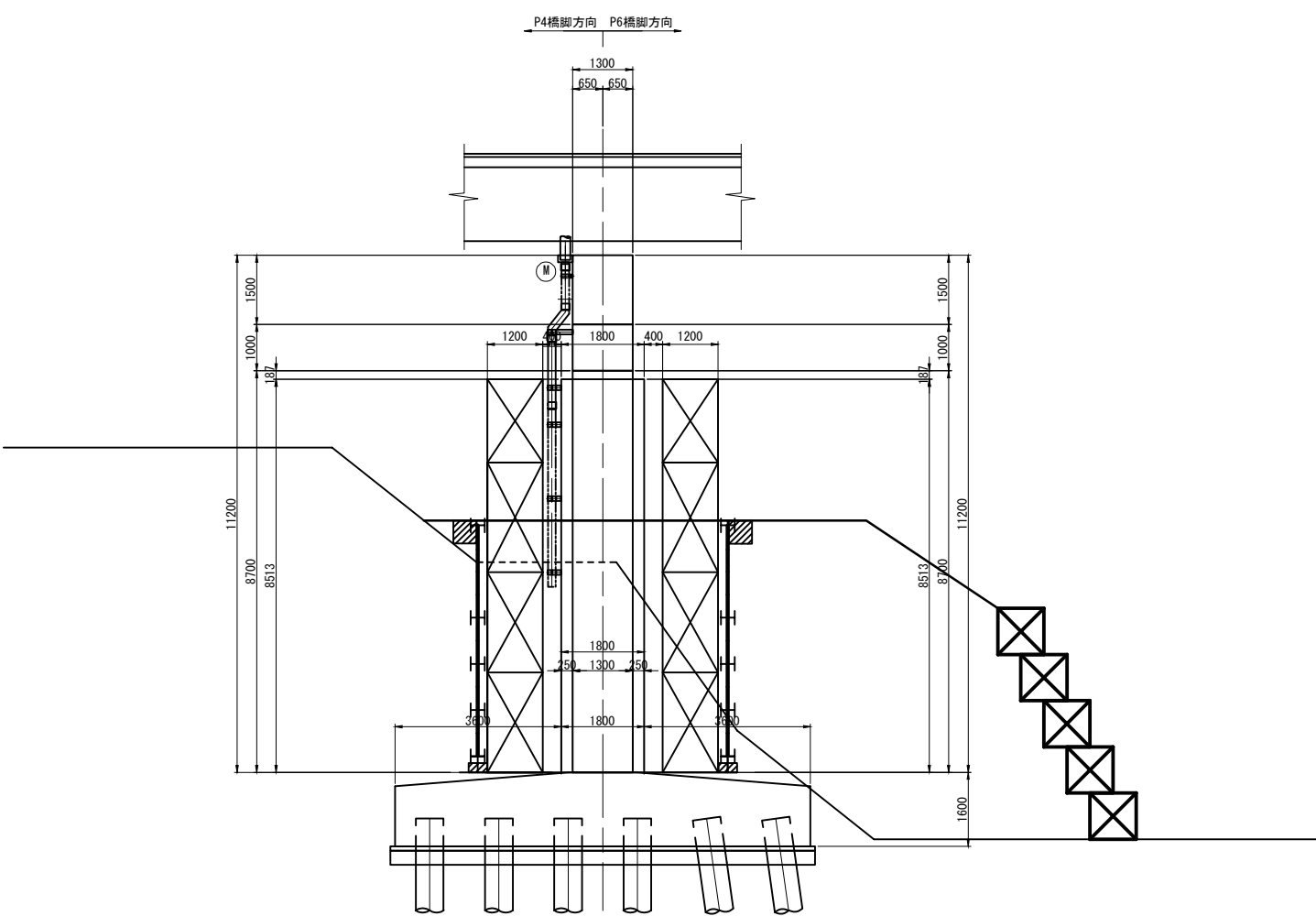
田野高架橋(下り線) P5橋脚施工要領図(参考図)
(下部工構造物掘削施工時)

S=1:150

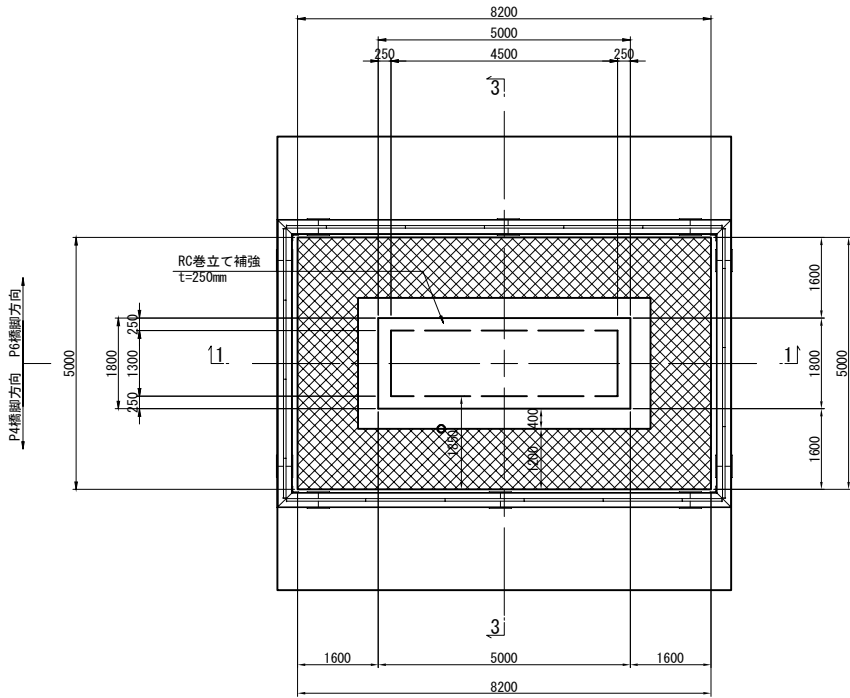
正面図
1 - 1



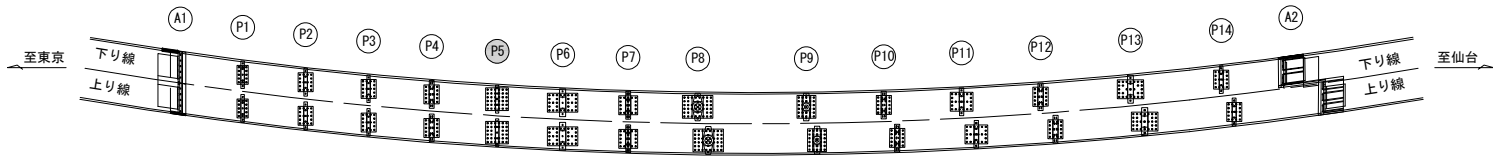
側面図
3 - 3



平面図
2 - 2



位置図

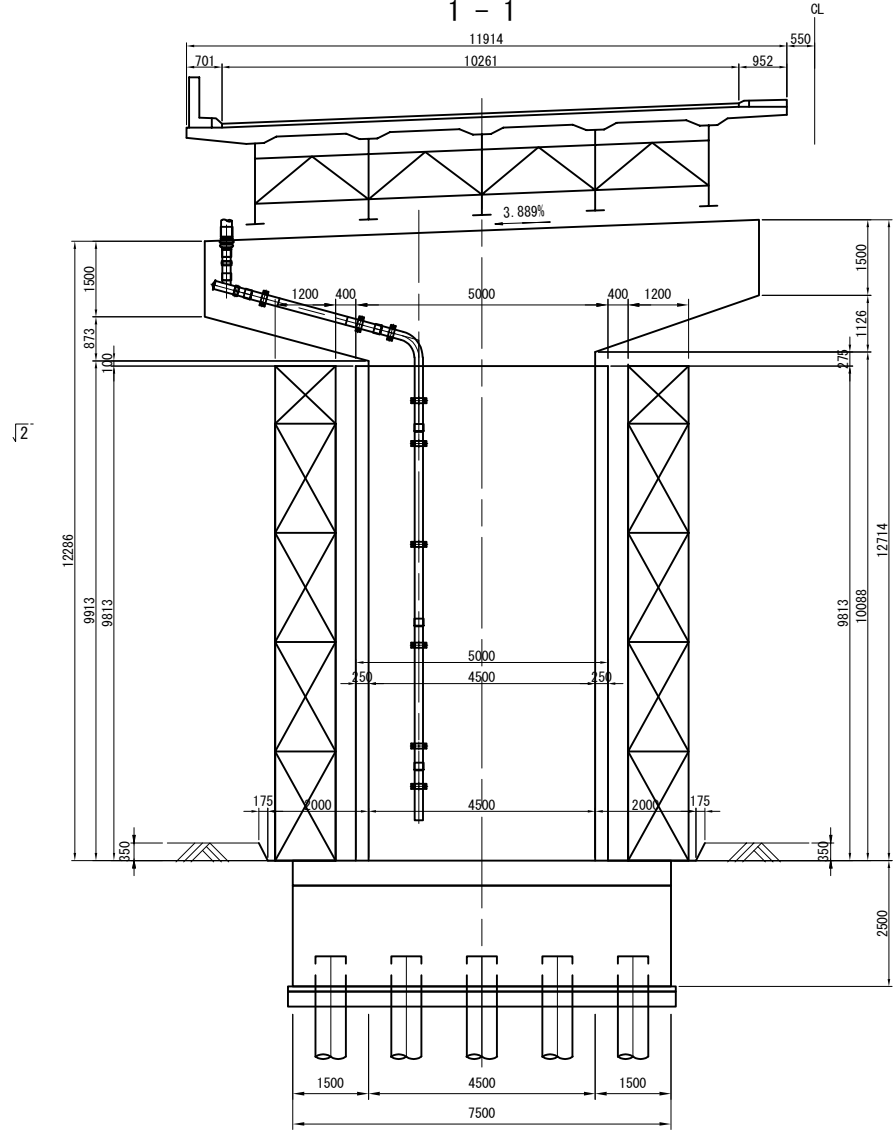


注記)
1. 本図面は既設設計図書を基に作成しているため、
現地にて寸法を確認した上で、施工を行うこと。
2. 現地盤高は現地計測値に基づくものとする。

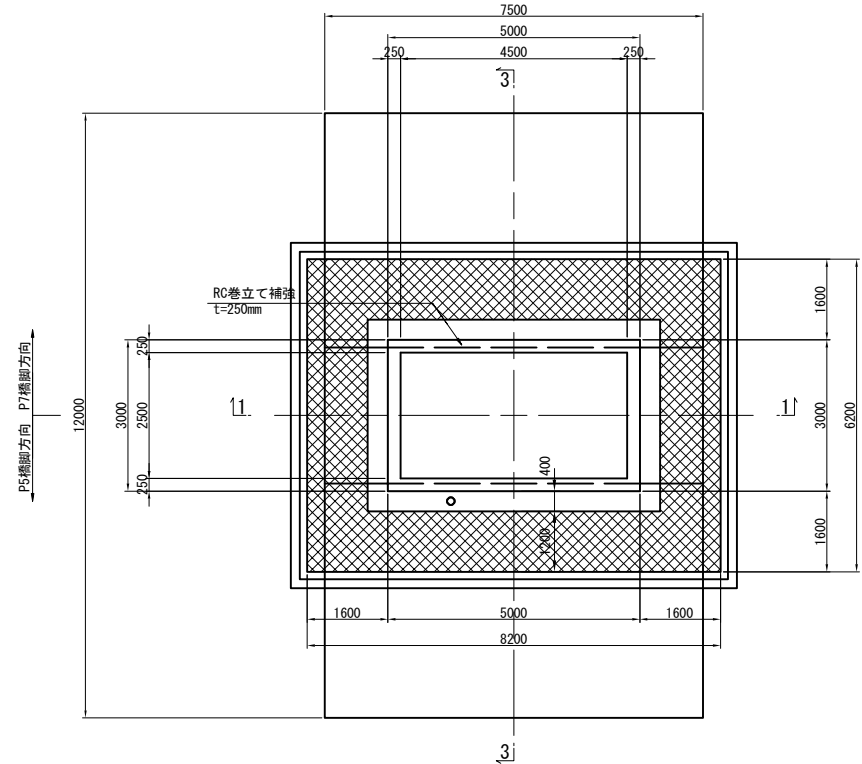
常磐自動車道 田野高架橋耐震補強工事			
図面の種類	田野高架橋(下り線)		
	P5橋脚施工要領図(参考図)		
縮 尺	図 示	図面番号	64 / 79
設計会社名	株式会社 復建技術コンサルタント		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 水戸管理事務所		

田野高架橋(下り線) P6橋脚施工要領図(参考図) S=1:150
(下部工構造物掘削施工時)

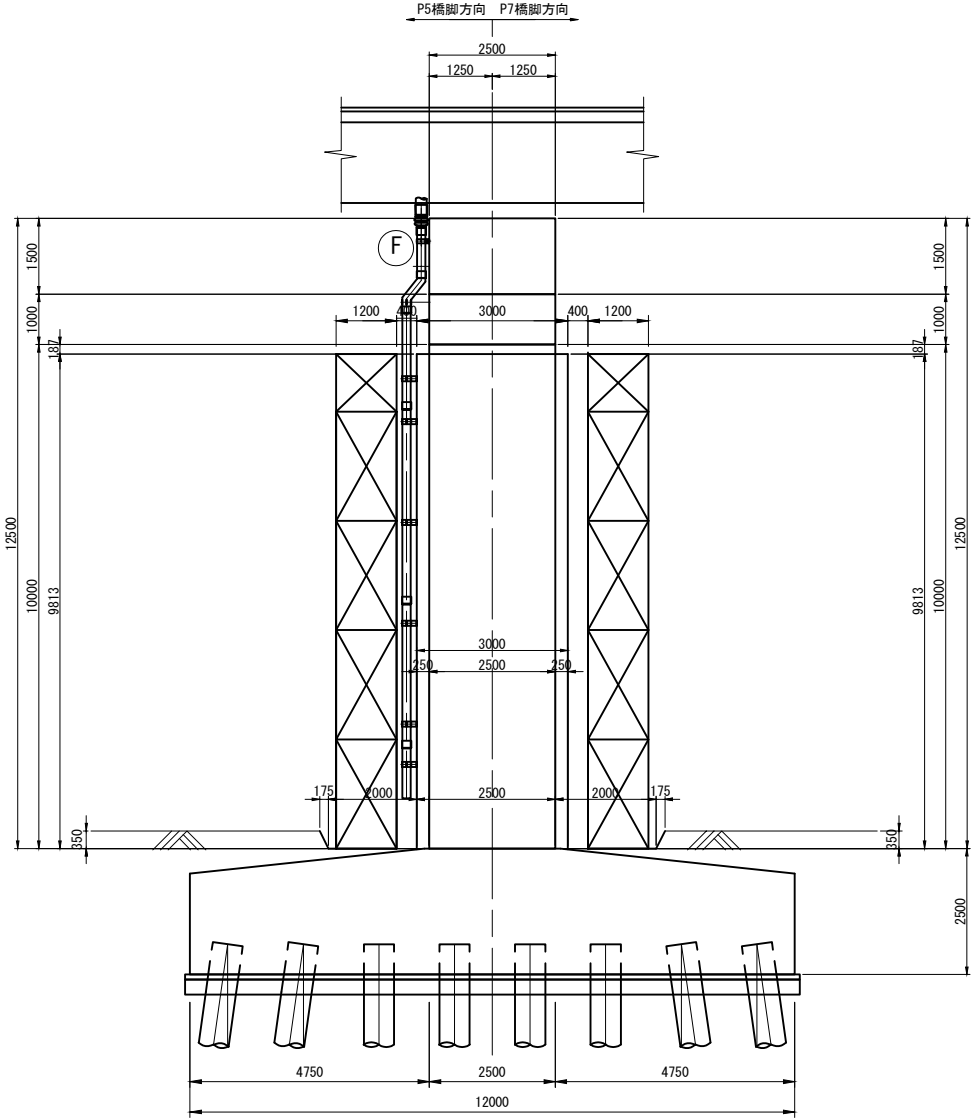
正面図
1 - 1



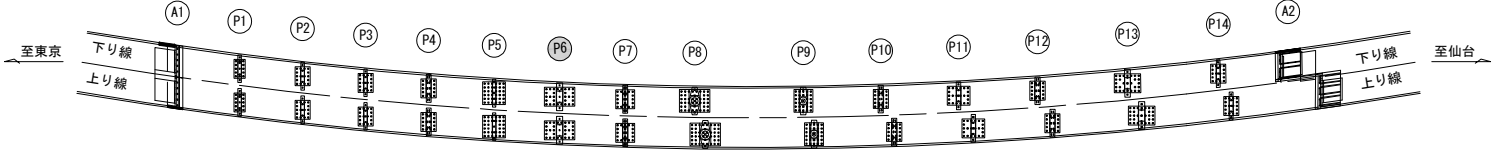
平面図
2 - 2



側面図
3 - 3



位置図



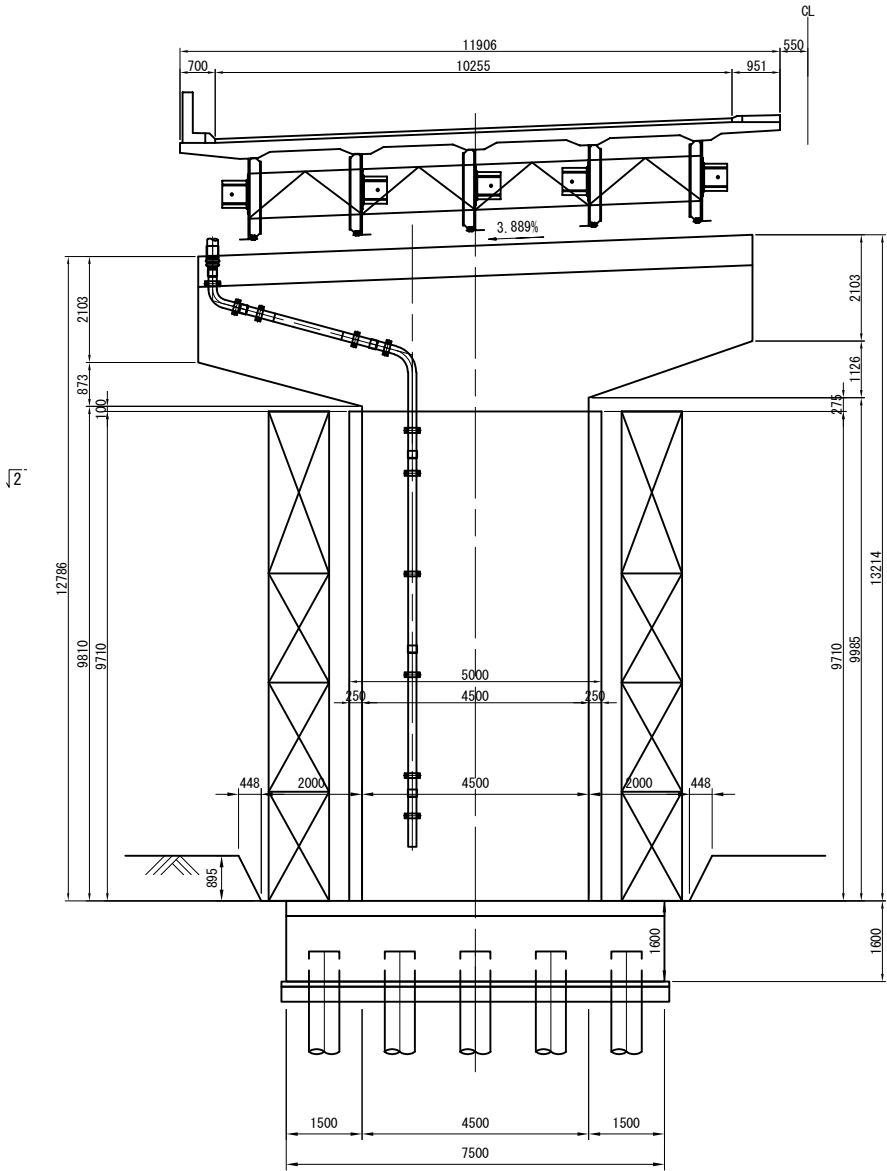
- 注記)
1. 本図面は既設設計図書を基に作成しているため、現地に寸法を確認した上で、施工を行うこと。
 2. 現地盤高は現地計測値に基づくものとする。

常磐自動車道 田野高架橋耐震補強工事			
図面の種類	田野高架橋(下り線) P6橋脚施工要領図(参考図)		
	縮尺	図示	図面番号 65 / 79
設計会社名	株式会社 復建技術コンサルタント		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 水戸管理事務所		

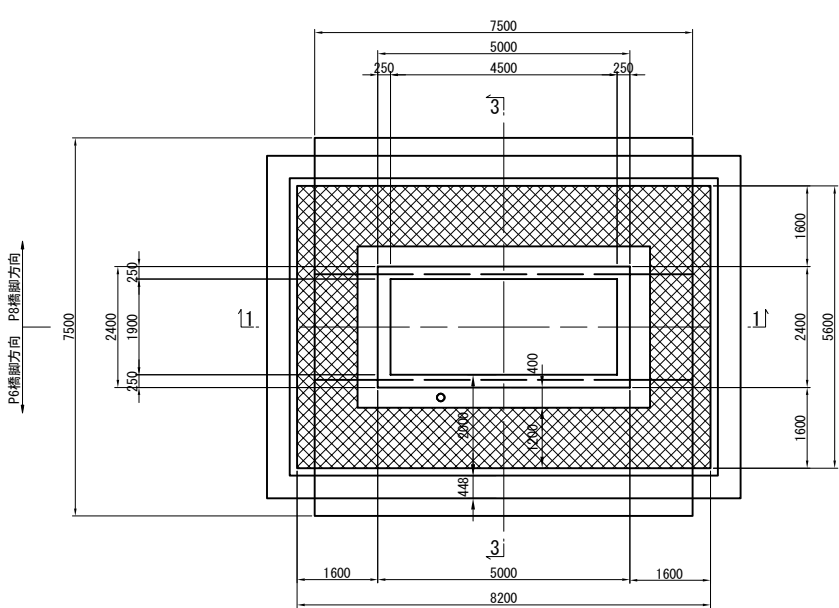
田野高架橋(下り線) P7橋脚施工要領図(参考図)
(下部工構造物掘削施工時)

S=1:150

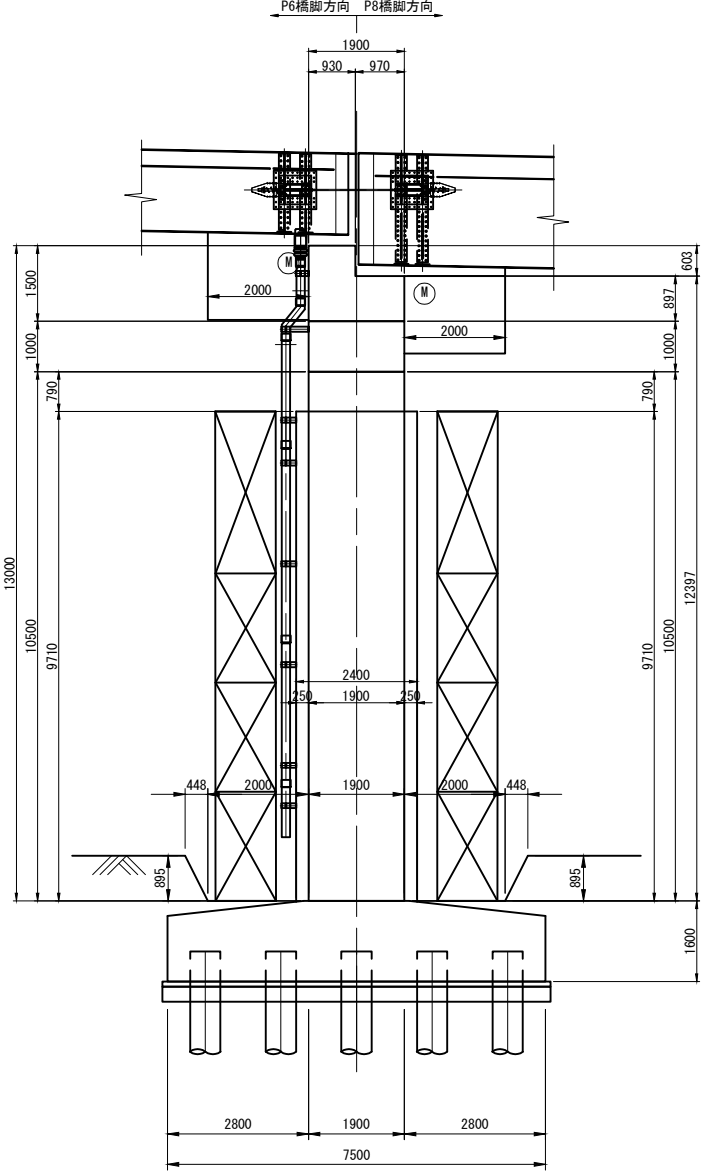
正面図
1 - 1



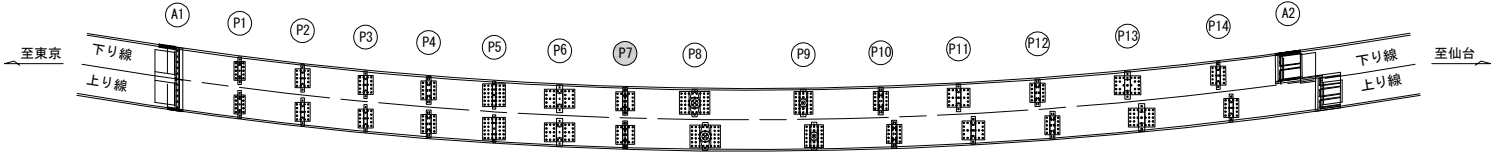
平面図
2 - 2



側面図
3 - 3



位置図

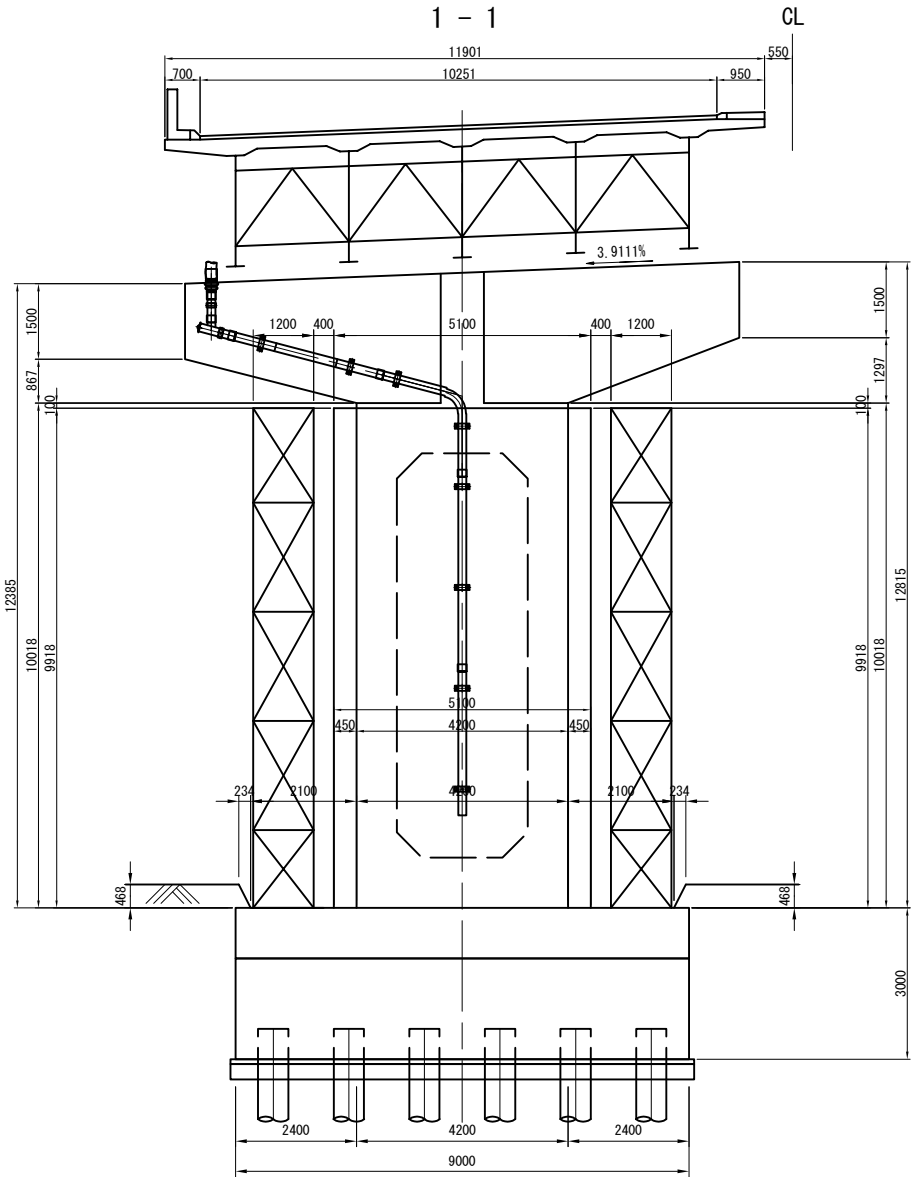


- 注記)
1. 本図面は既設設計図書を基に作成しているため、現地に寸法を確認した上で、施工を行うこと。
 2. 現地盤高は現地計測値に基づくものとする。

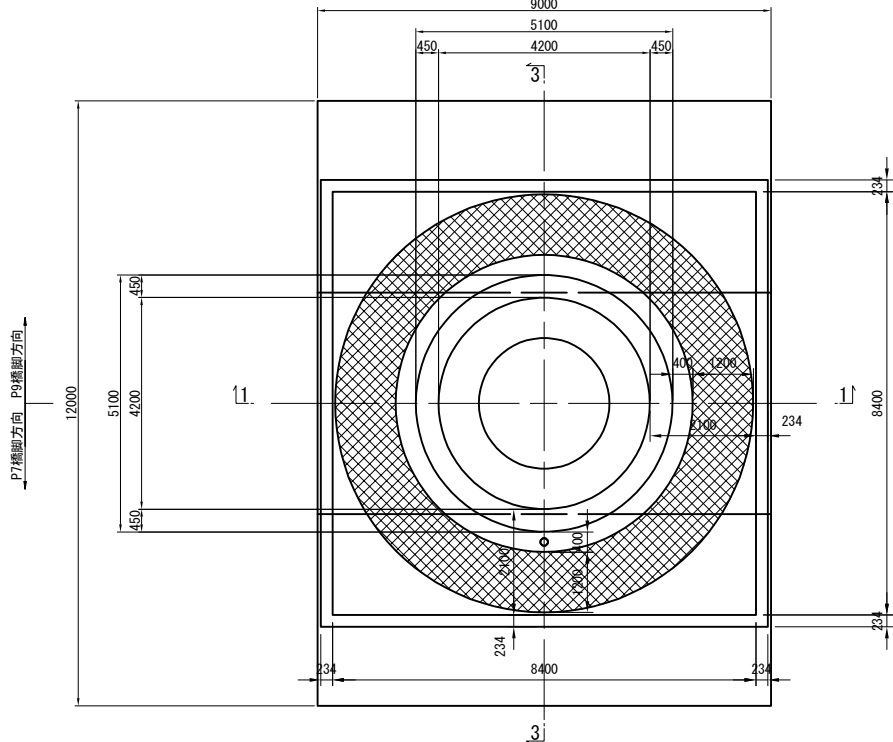
常磐自動車道 田野高架橋耐震補強工事			
図面の種類	田野高架橋(下り線) P7橋脚施工要領図(参考図)		
	縮尺	図示	図面番号 66 / 79
設計会社名	株式会社 復建技術コンサルタント		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 水戸管理事務所		

田野高架橋(下り線) P8橋脚施工要領図(参考図)
(下部工構造物掘削施工時) S=1:150

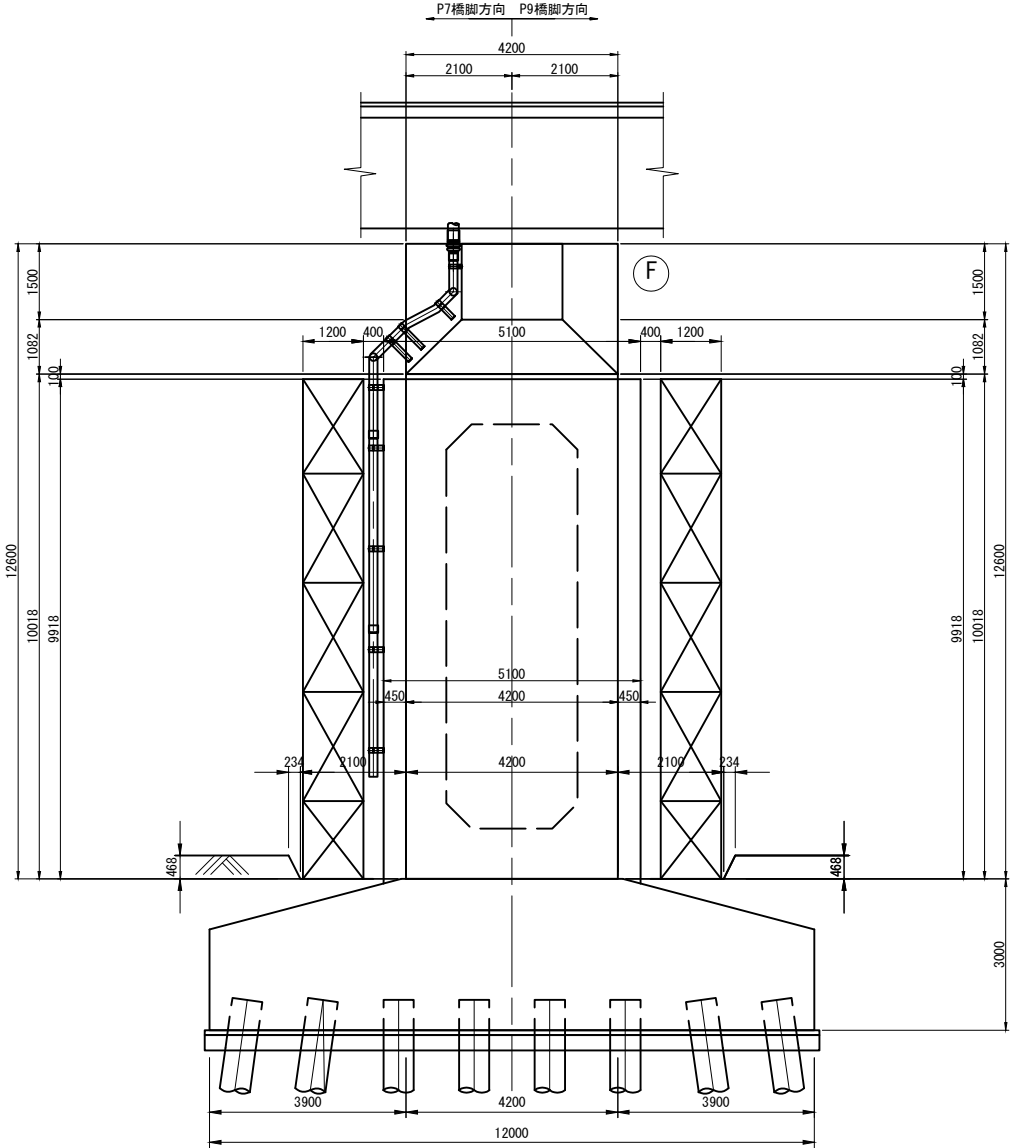
正面図
1 - 1



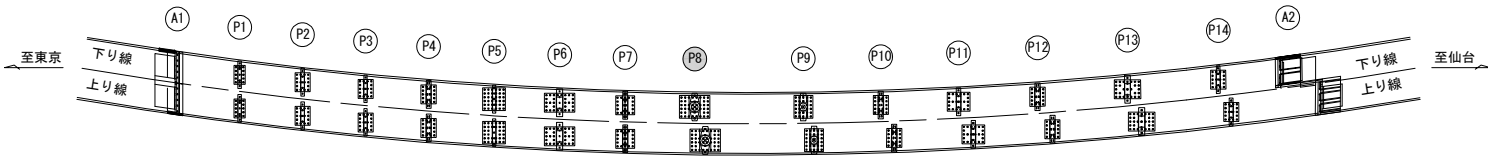
平面図
2 - 2



側面図
3 - 3



位置図



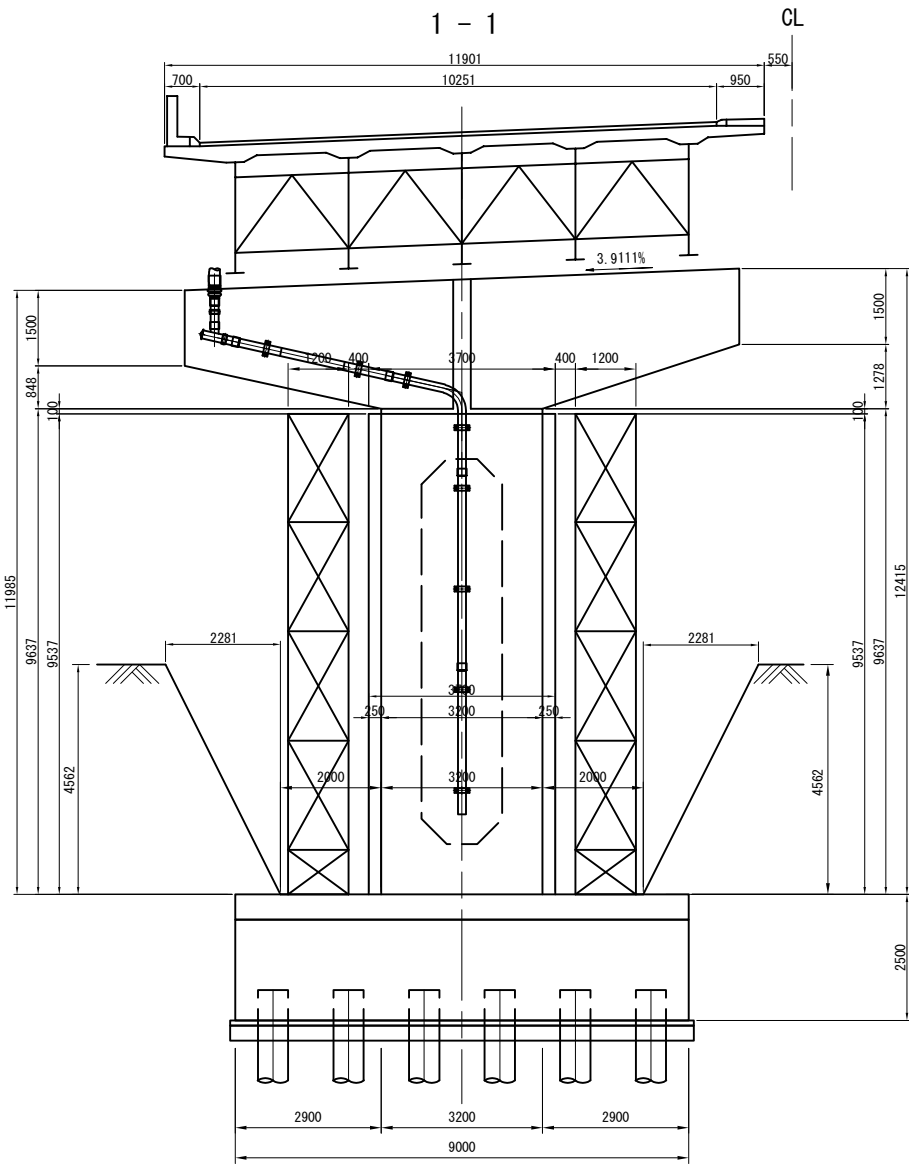
注記)
1. 本図面は既設設計図書を基に作成しているため、
現地に寸法を確認した上で、施工を行うこと。
2. 現地盤高は現地計測値に基づくものとする。

常磐自動車道 田野高架橋耐震補強工事			
図面の種類	田野高架橋(下り線)		
	P8橋脚施工要領図(参考図)		
縮 尺	図 示	図面番号	67 / 79
設計会社名	株式会社 復建技術コンサルタント		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 水戸管理事務所		

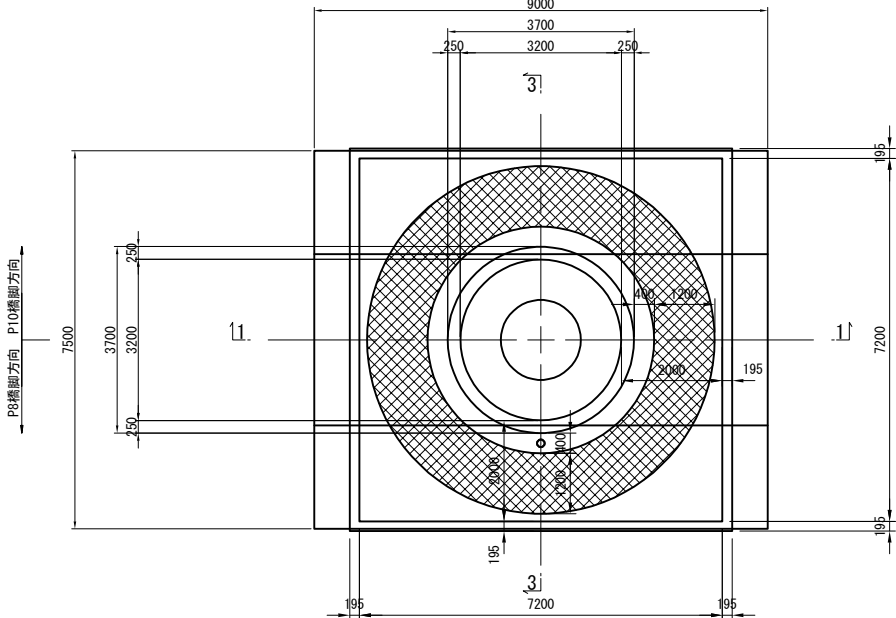
田野高架橋(下り線) P9橋脚施工要領図(参考図)
(下部工構造物掘削施工時)

S=1:150

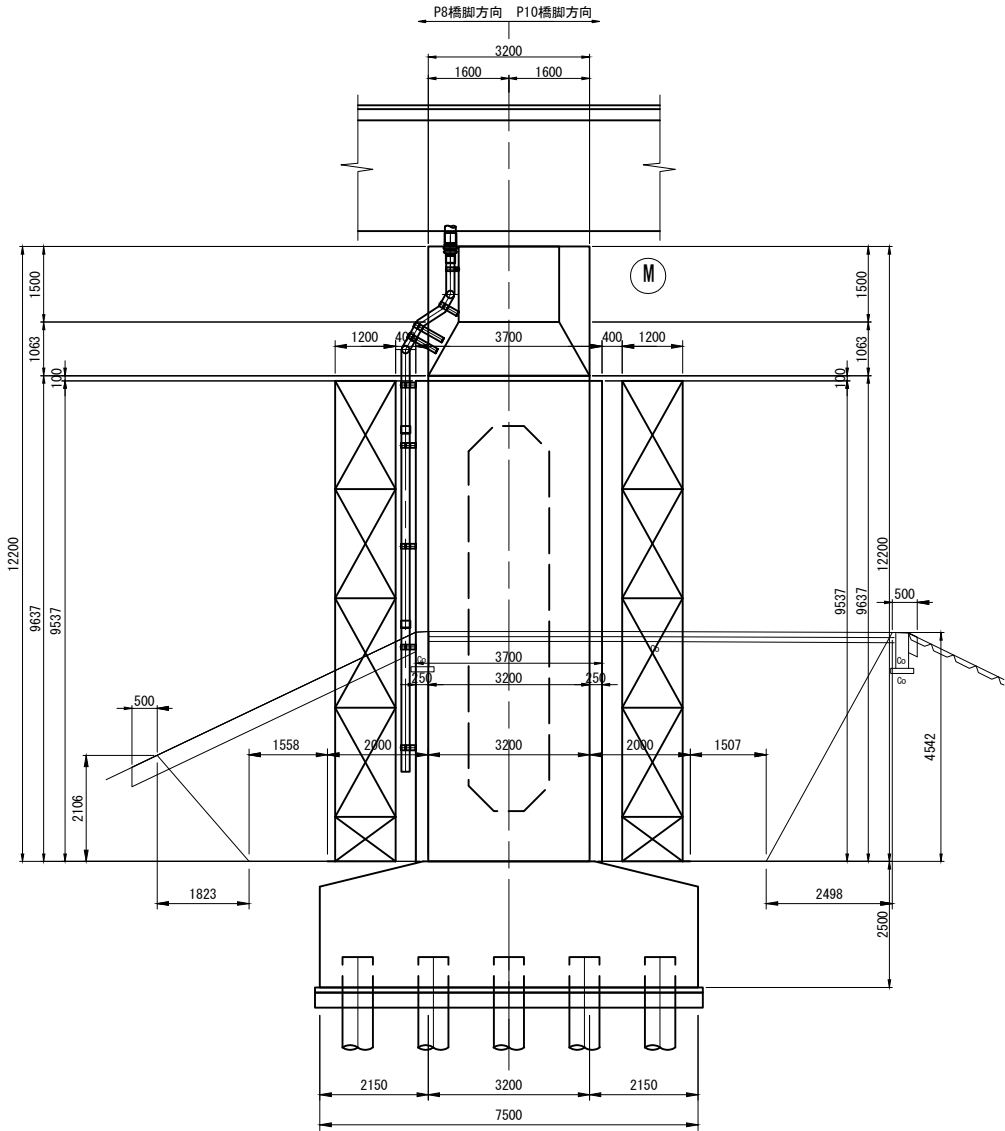
正面図
1 - 1



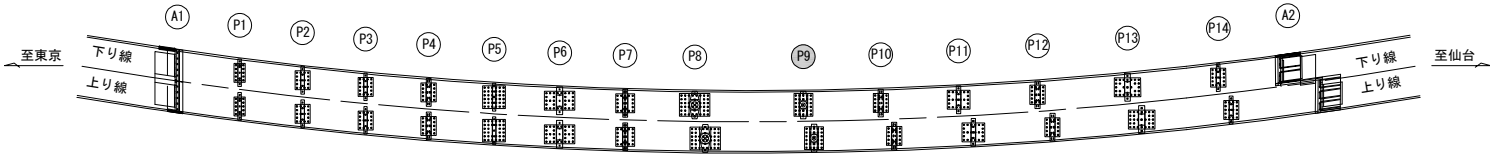
平面図
2 - 2



側面図
3 - 3



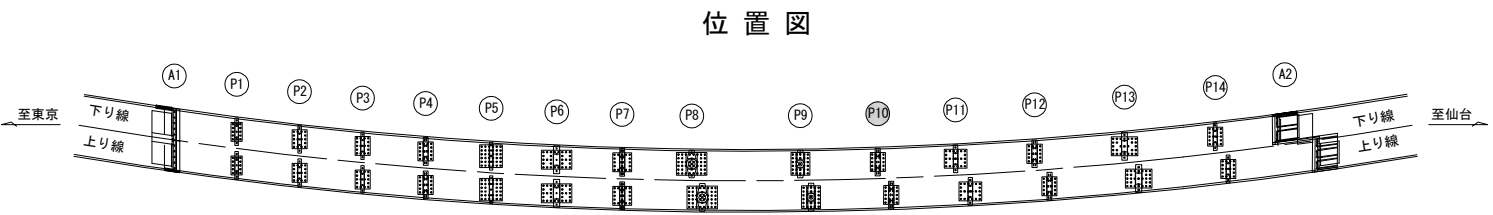
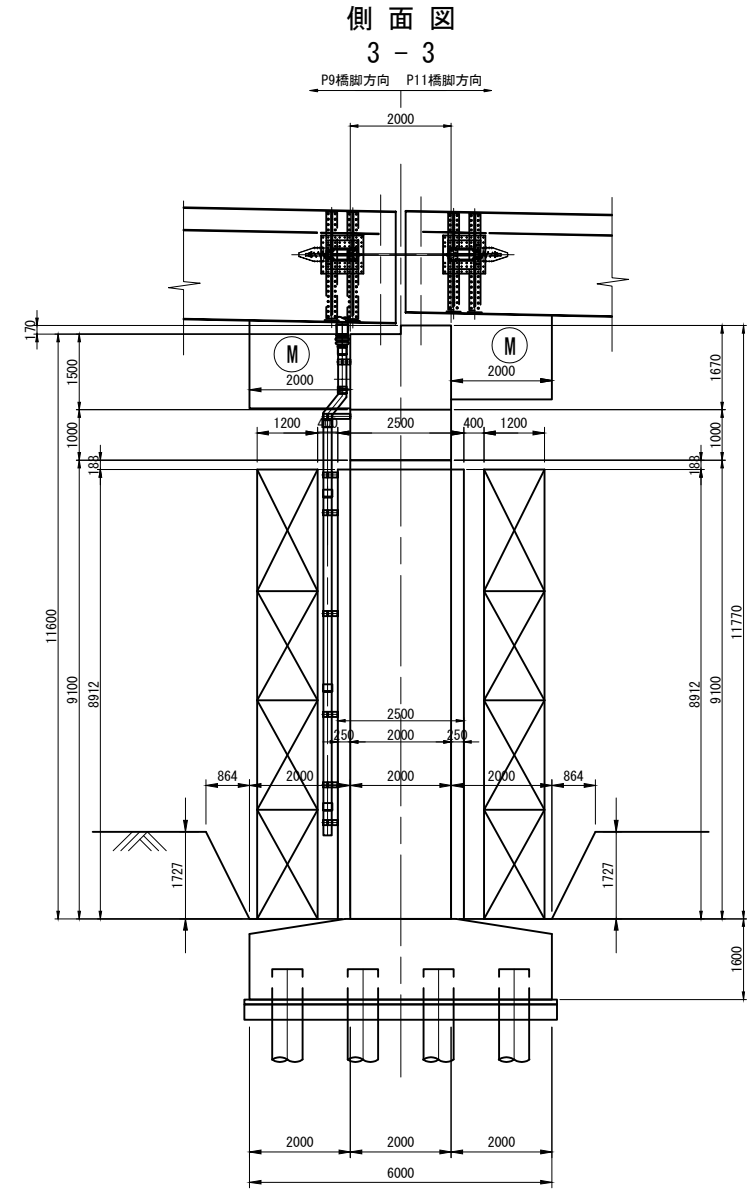
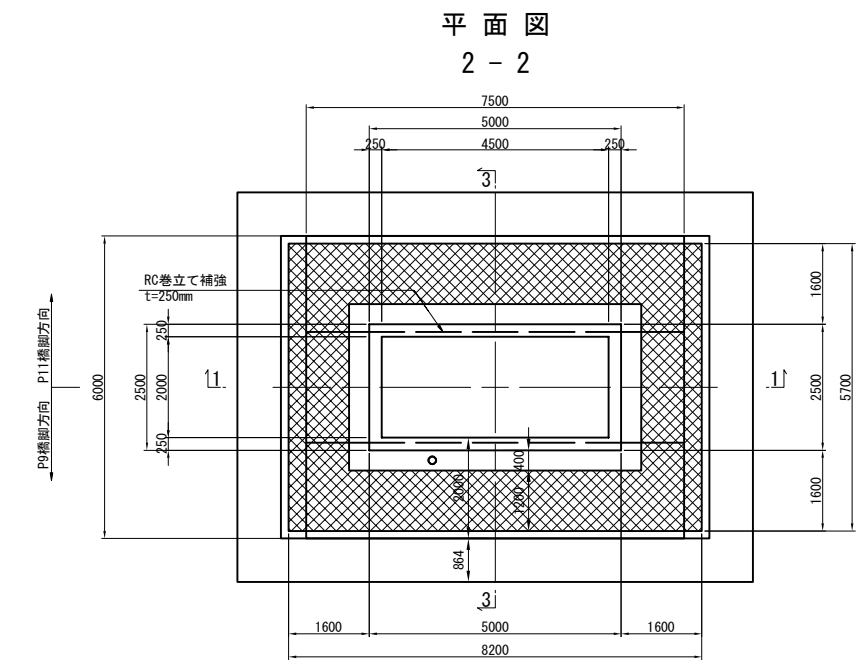
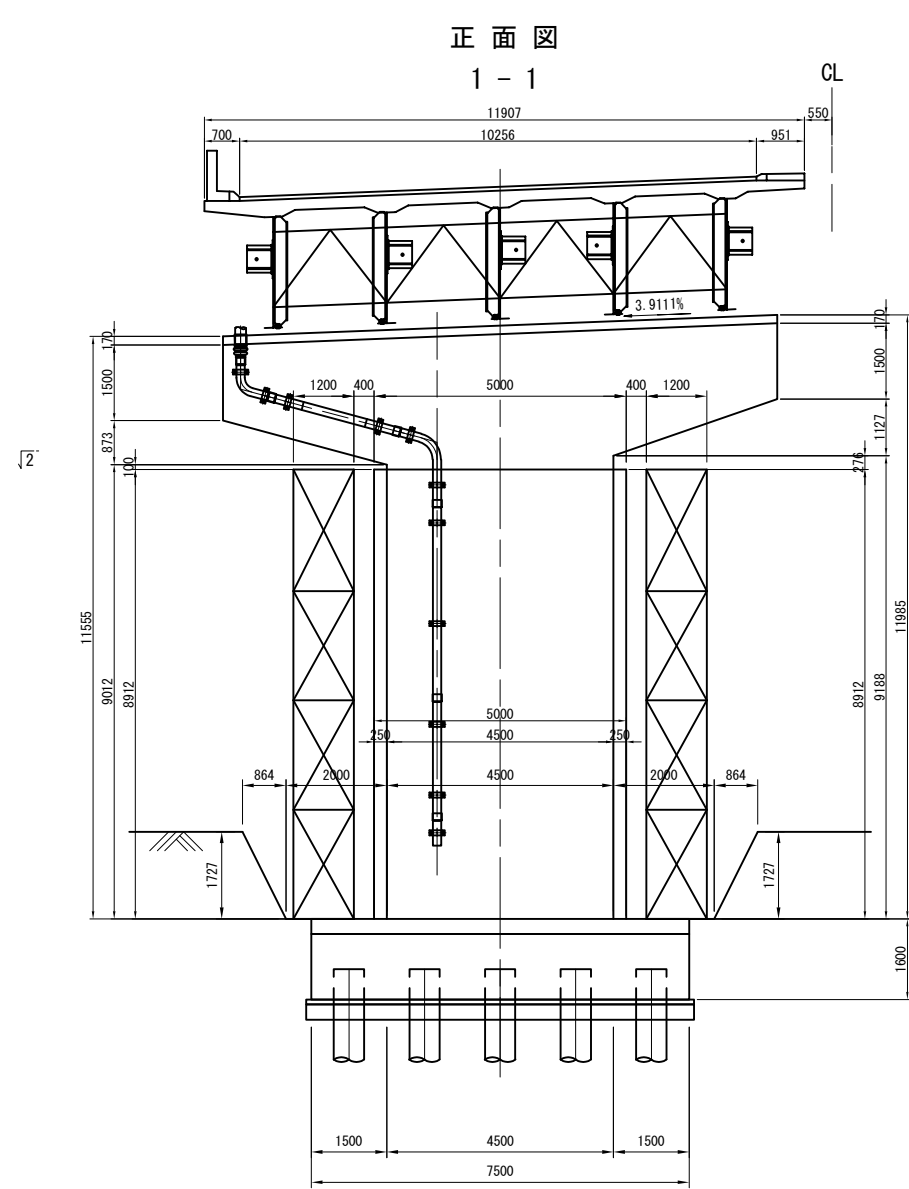
位置図



- 注記)
1. 本図面は既設設計図書を基に作成しているため、現地に寸法を確認した上で、施工を行うこと。
 2. 現地盤高は現地計測値に基づくものとする。

常磐自動車道 田野高架橋耐震補強工事			
図面の種類	田野高架橋(下り線) P9橋脚施工要領図(参考図)		
縮 尺	図 示	図面番号	68 / 79
設計会社名	株式会社 復建技術コンサルタント		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 水戸管理事務所		

田野高架橋(下り線) P10橋脚施工要領図(参考図) S=1:150
(下部工構造物掘削施工時)

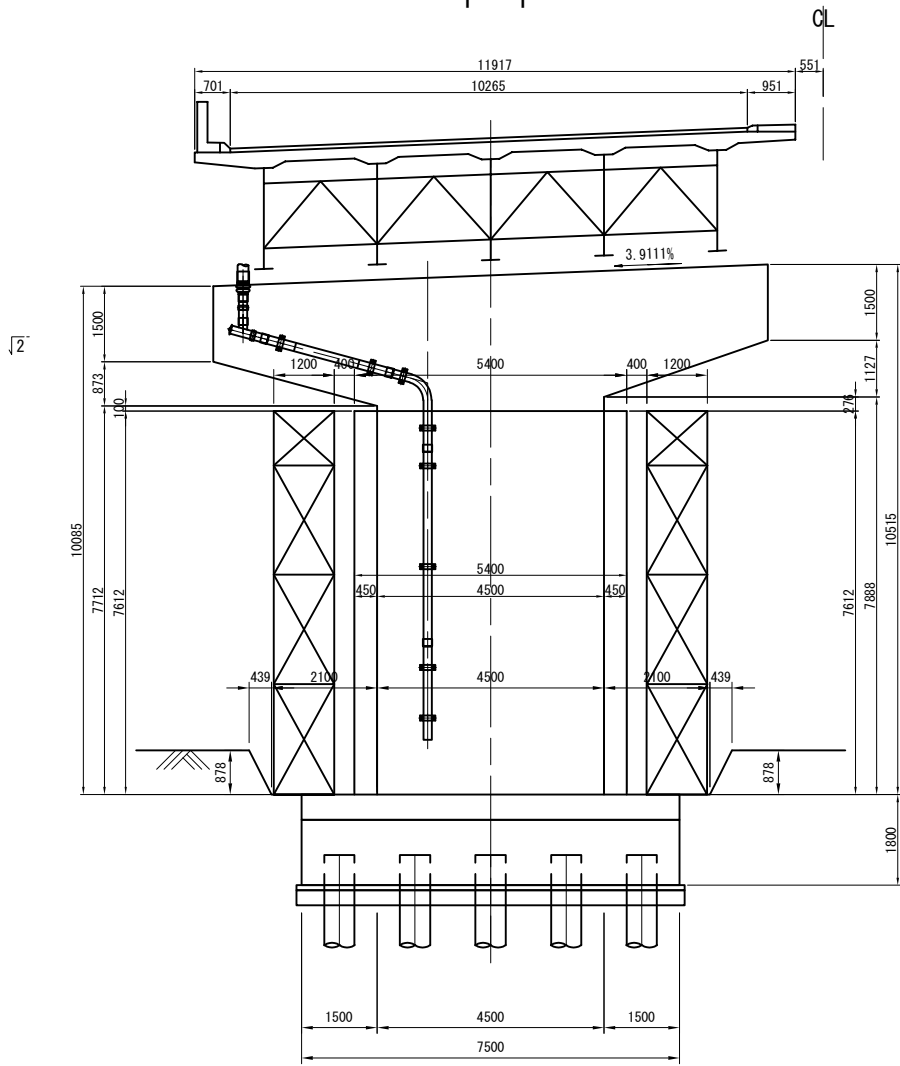


- 注記)
1. 本図面は既設設計図書を基に作成しているため、現地に寸法を確認した上で、施工を行うこと。
 2. 現地盤高は現地計測値に基づくものとする。

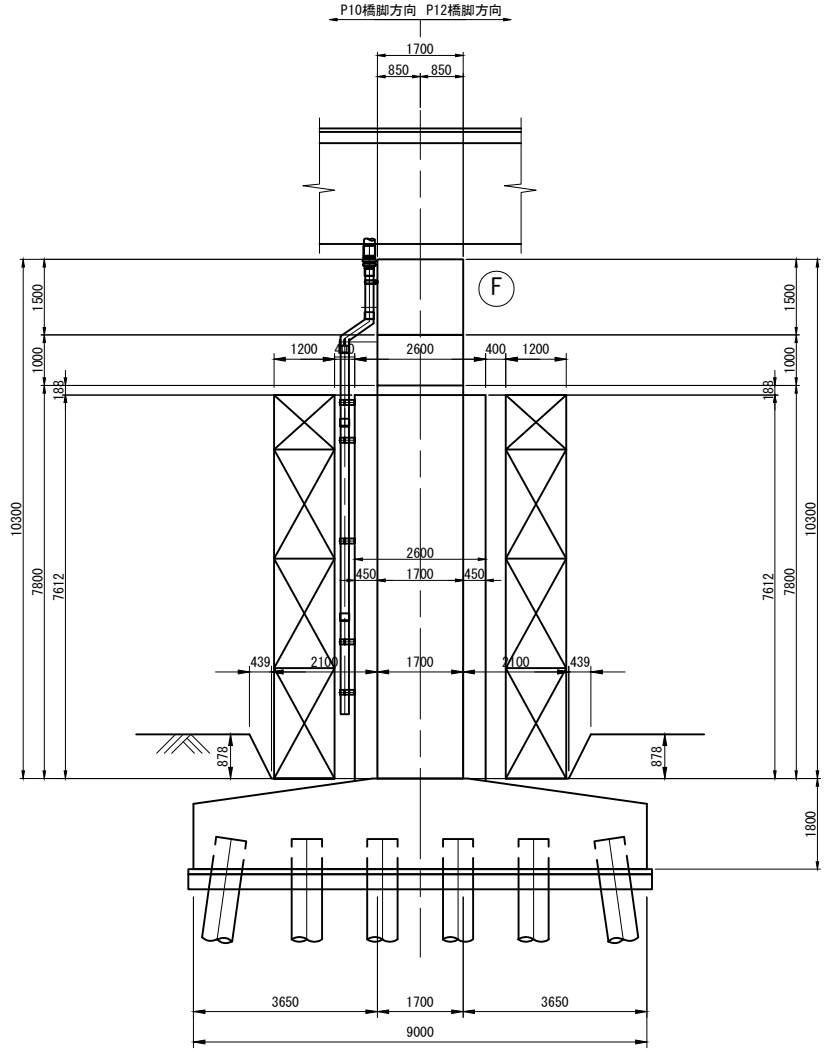
常磐自動車道 田野高架橋耐震補強工事			
図面の種類	田野高架橋(下り線) P10橋脚施工要領図(参考図)		
	縮尺	図示	図面番号 69 / 79
設計会社名	株式会社 復建技術コンサルタント		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 水戸管理事務所		

田野高架橋(下り線) P11橋脚施工要領図(参考図) S=1:150
(下部工構造物掘削施工時)

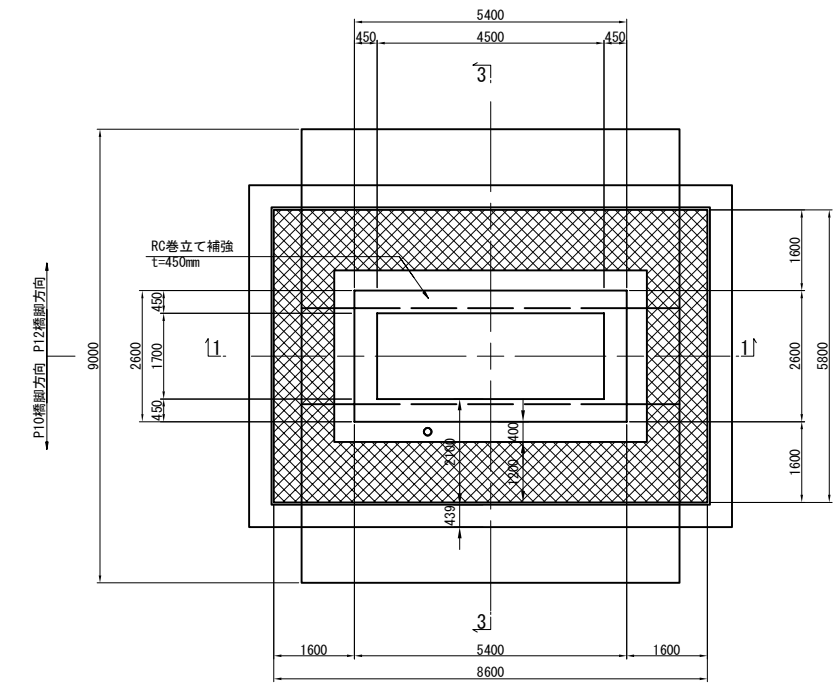
正面図
1 - 1



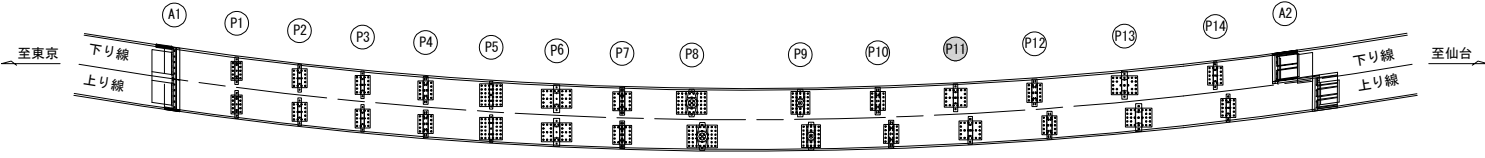
側面図
3 - 3



平面図
2 - 2



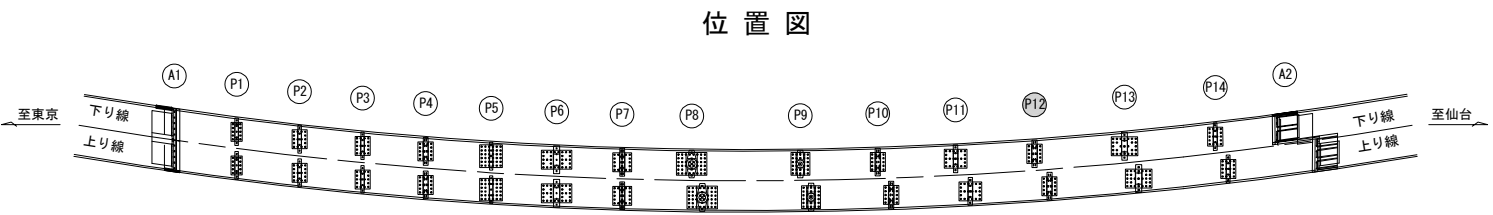
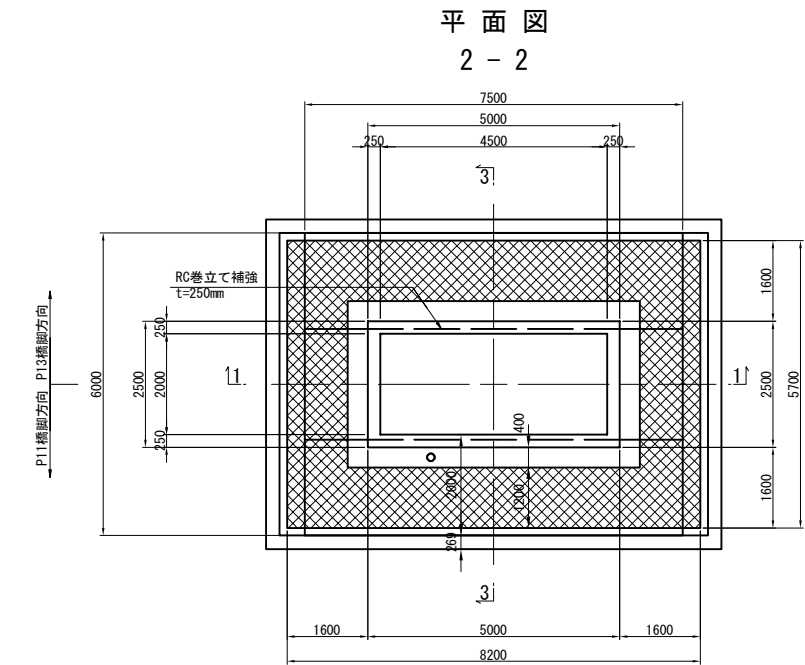
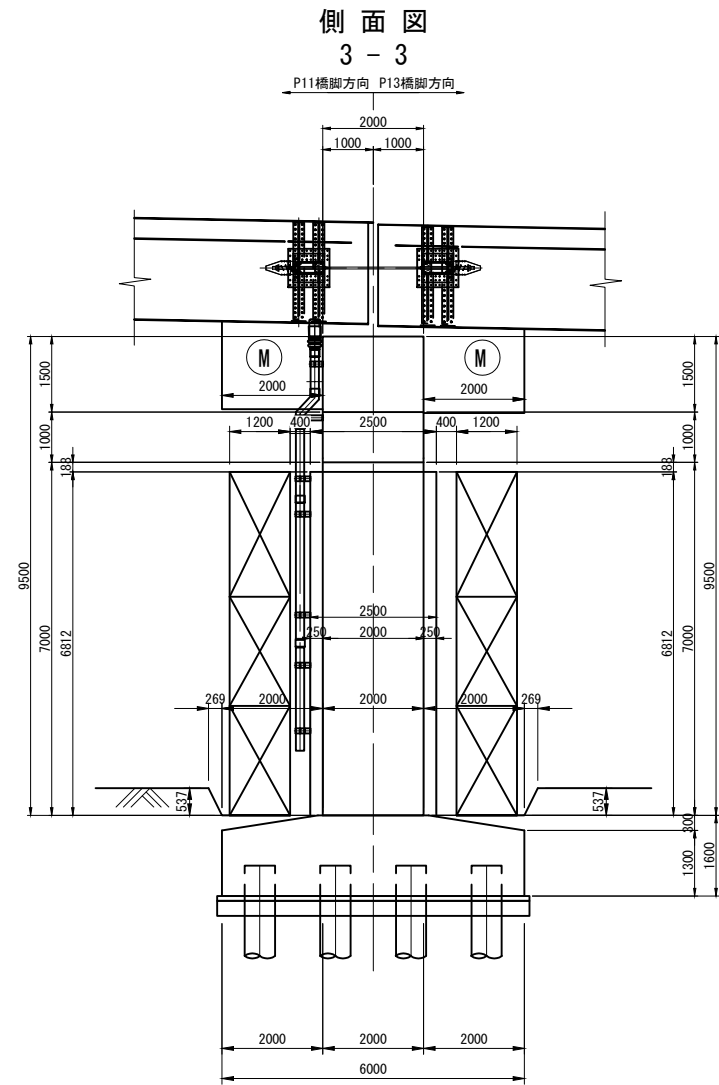
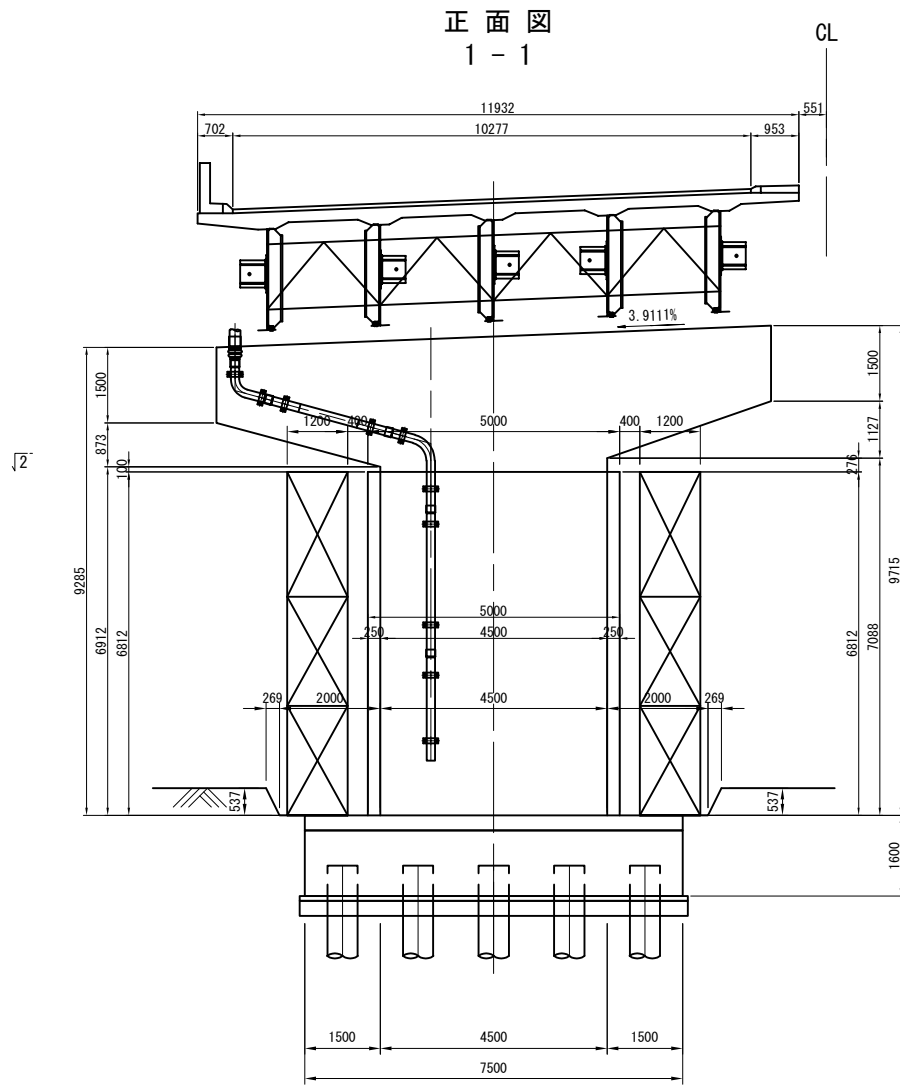
位置図



注記)
1. 本図面は既設設計図書を基に作成しているため、
現地に寸法を確認した上で、施工を行うこと。
2. 現地盤高は現地計測値に基づくものとする。

常磐自動車道 田野高架橋耐震補強工事			
図面の種類	田野高架橋(下り線) P11橋脚施工要領図(参考図)		
縮 尺	図 示	図面番号	70 / 79
設計会社名	株式会社 復建技術コンサルタント		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 水戸管理事務所		

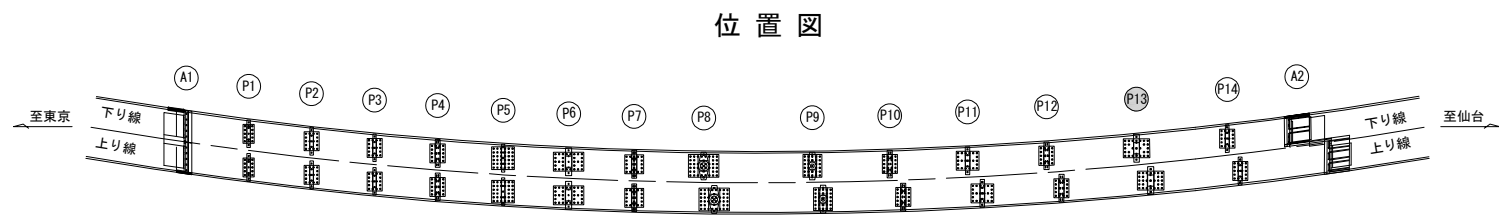
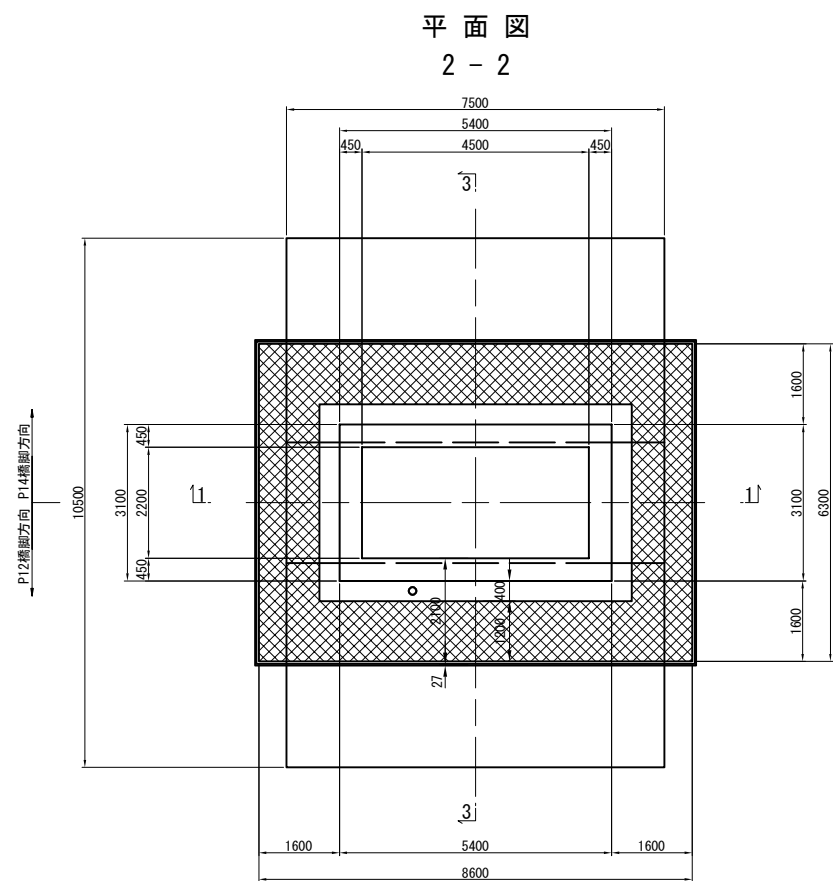
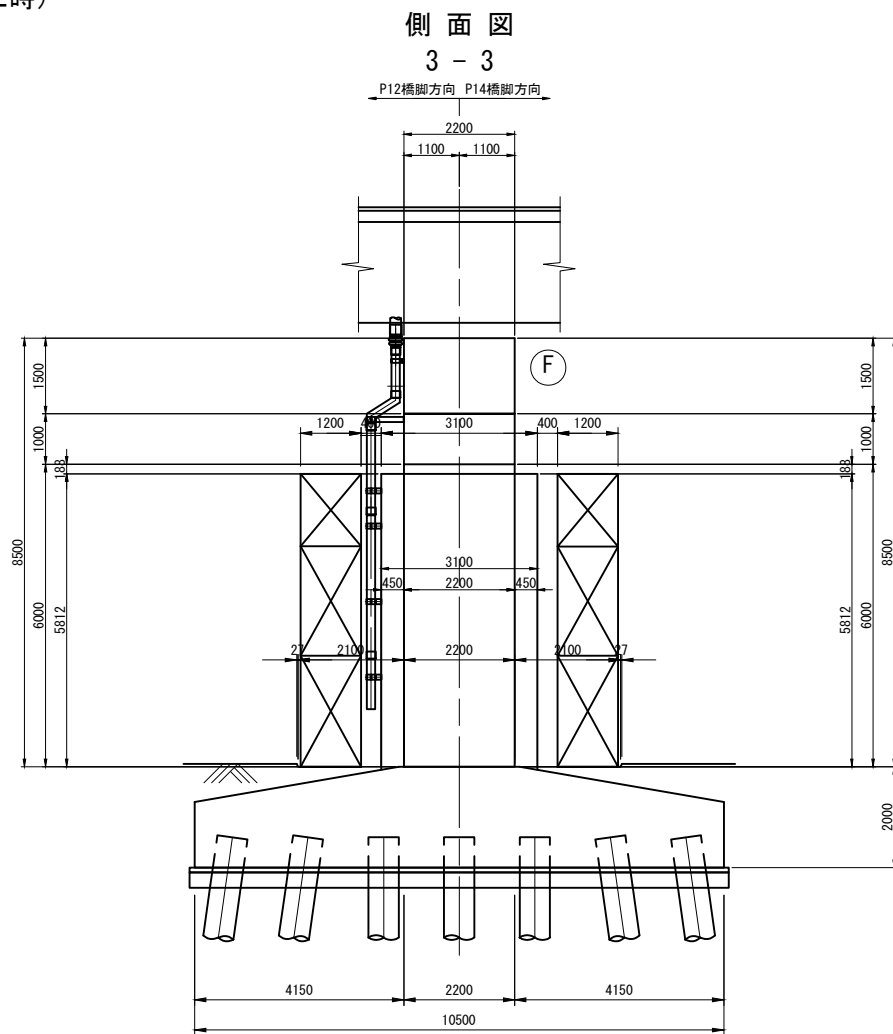
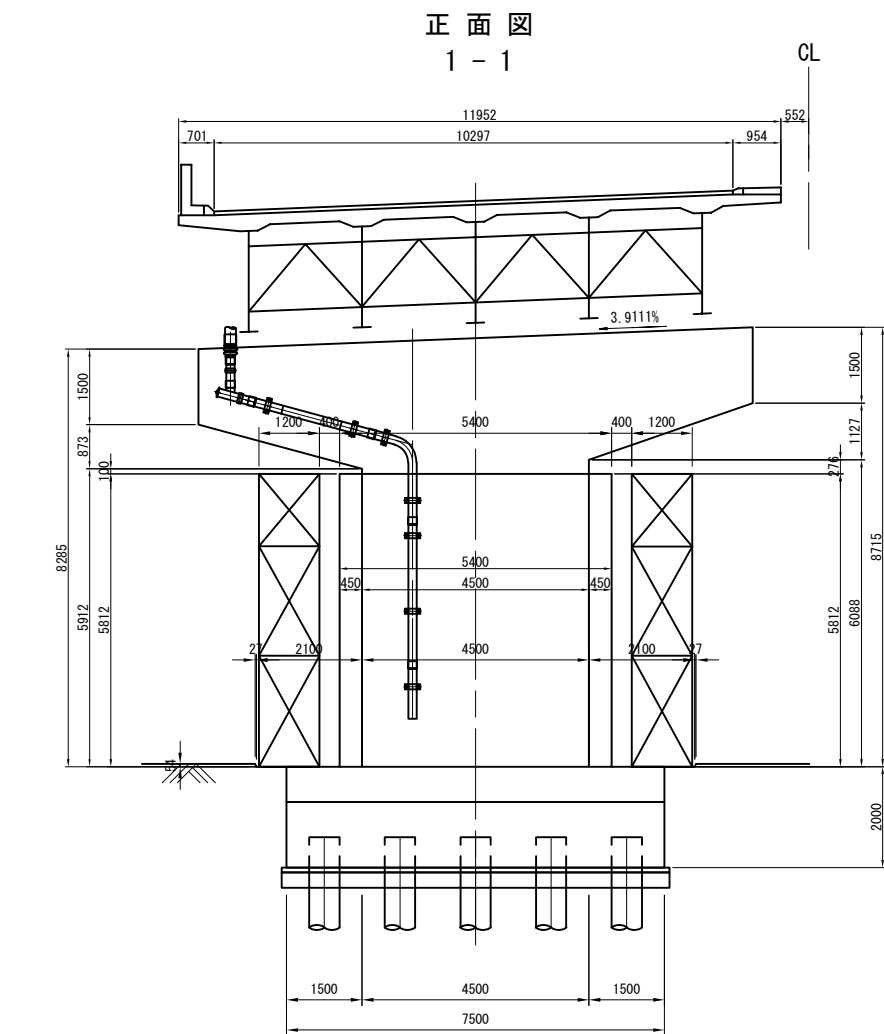
田野高架橋(下り線) P12橋脚施工要領図(参考図) S=1:150
(下部工構造物掘削施工時)



- 注記)
1. 本図面は既設設計図書を基に作成しているため、現地に寸法を確認した上で、施工を行うこと。
 2. 現地盤高は現地計測値に基づくものとする。

常磐自動車道 田野高架橋耐震補強工事			
図面の種類	田野高架橋(下り線) P12橋脚施工要領図(参考図)		
縮 尺	図 示	図面番号	71 / 79
設計会社名	株式会社 復建技術コンサルタント		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 水戸管理事務所		

田野高架橋(下り線) P13橋脚施工要領図(参考図) S=1:150
(下部工構造物掘削施工時)

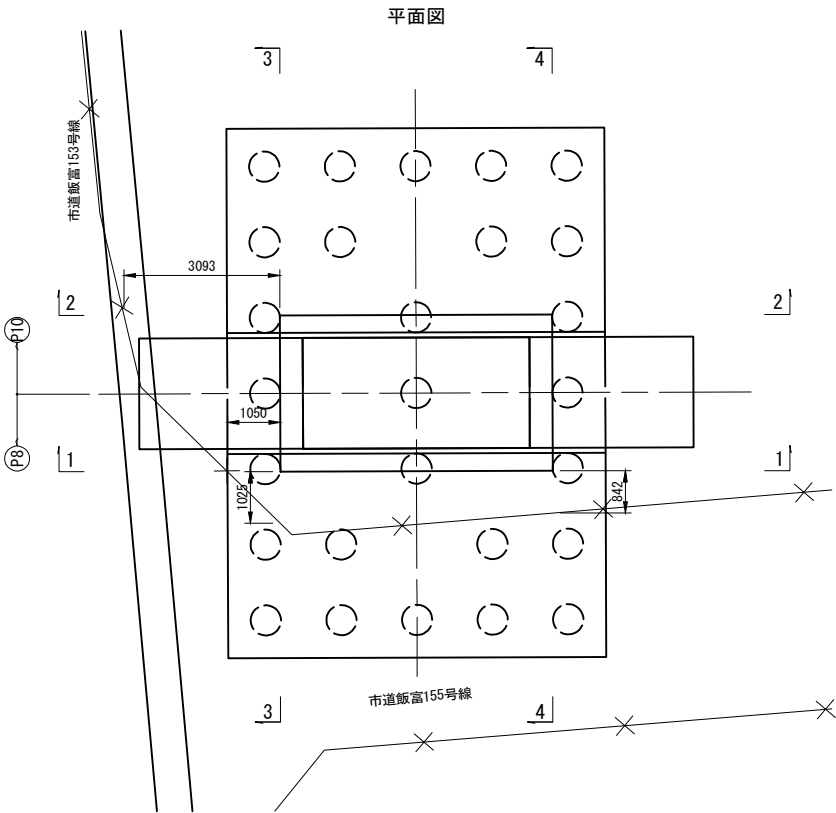
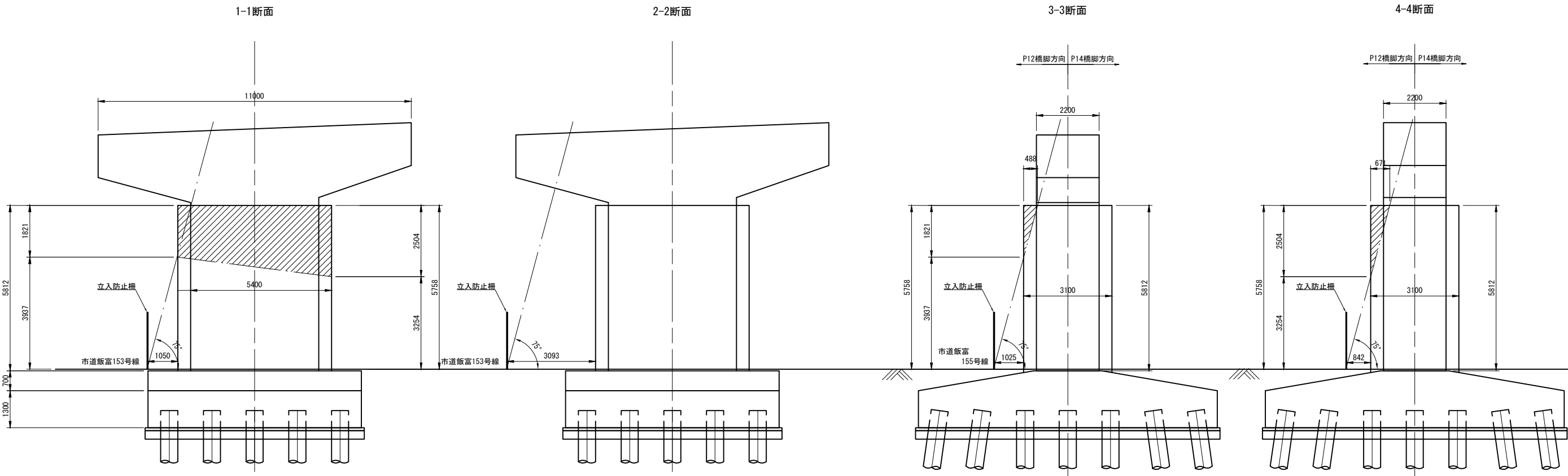


- 注記)
1. 本図面は既設設計図書を基に作成しているため、現地に寸法を確認した上で、施工を行うこと。
 2. 現地盤高は現地計測値に基づくものとする。

常磐自動車道 田野高架橋耐震補強工事			
図面の種類	田野高架橋(下り線) P13橋脚施工要領図(参考図)		
縮 尺	図 示	図面番号	72 / 79
設計会社名	株式会社 復建技術コンサルタント		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 水戸管理事務所		

田野高架橋(下り線) はく落防止対策工B詳細図 縮尺1:150

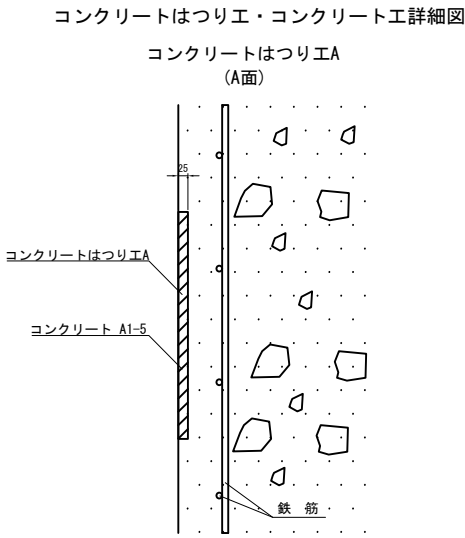
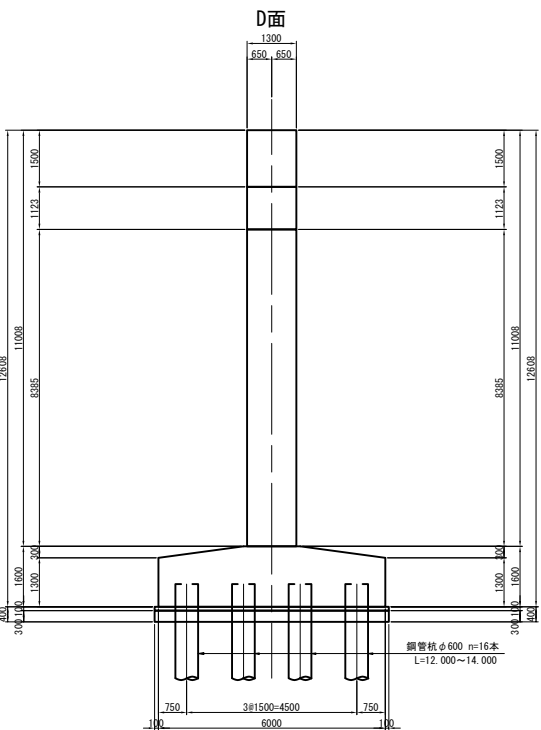
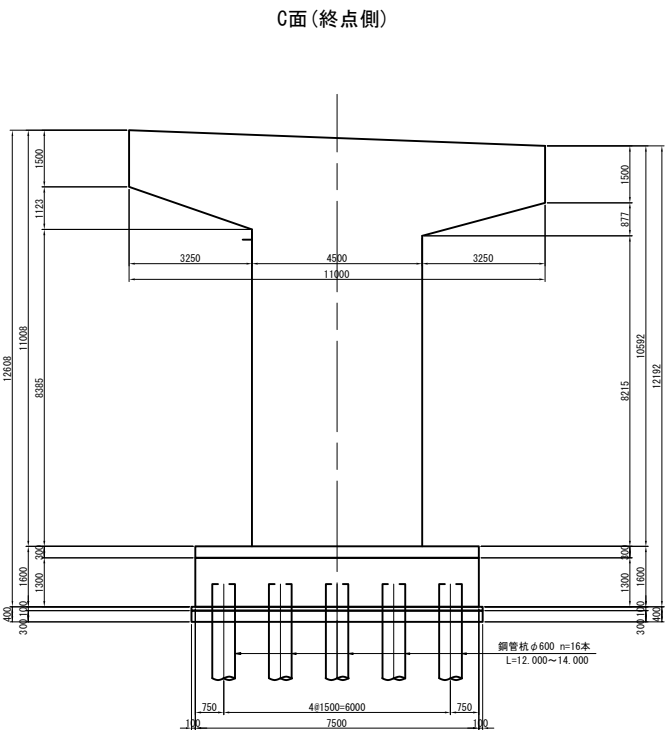
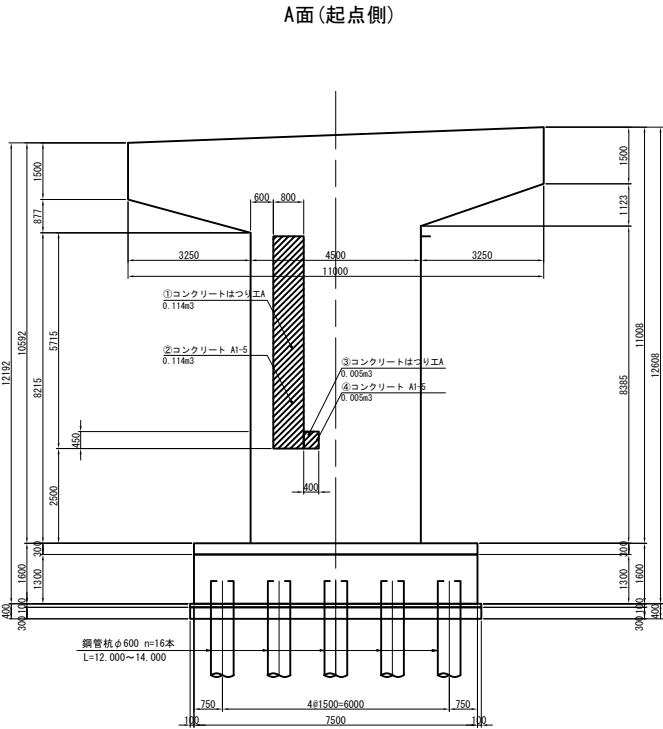
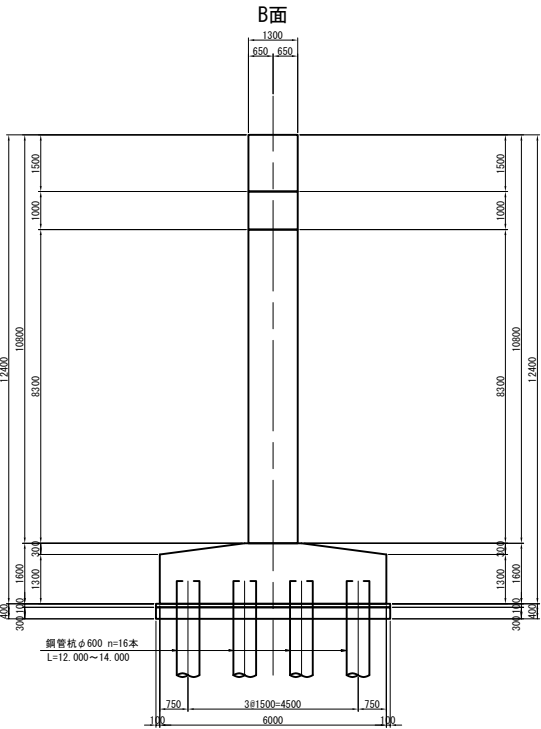
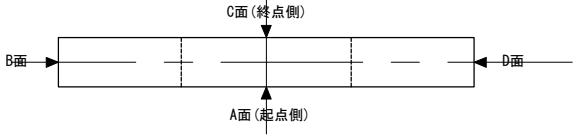
下部工(下り線 P13橋脚)



凡例
：はく落防止対策工

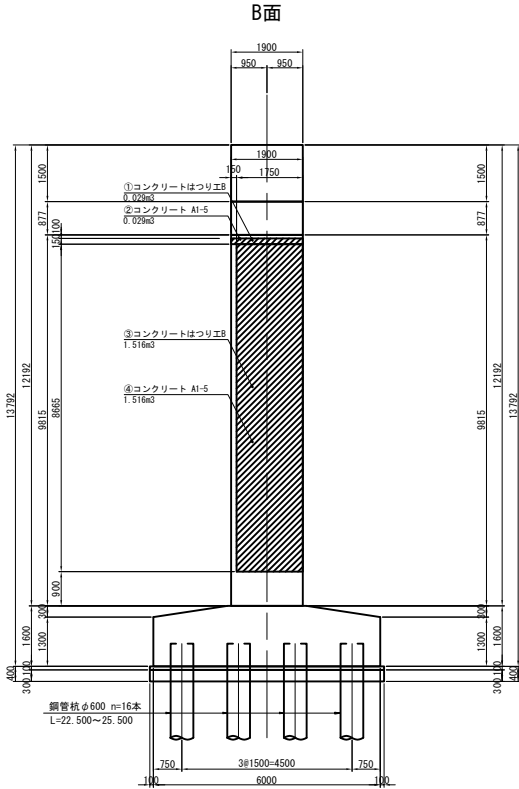
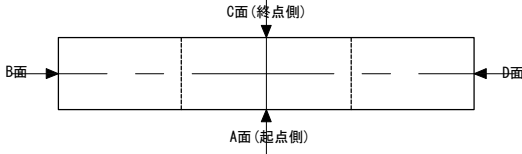
注記
1) 対策範囲については、現地調査を行い、
監督員と協議の上決定すること。

常磐自動車道 田野高架橋耐震補強工事			
図面の種類	田野高架橋(下り線) はく落防止対策工B詳細図		
縮 尺	図 示	図面番号	74 / 79
設計会社名	株式会社 復建技術コンサルタント		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 水戸管理事務所		

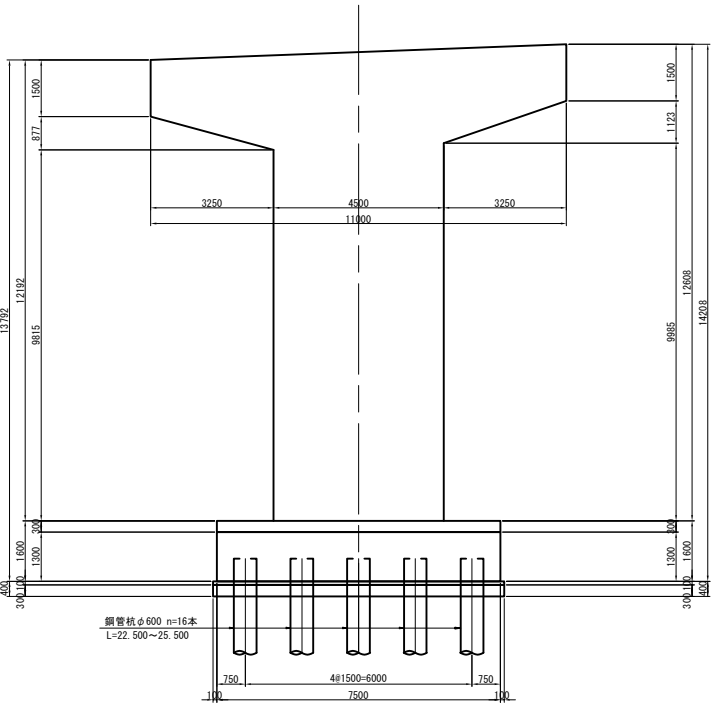


注) 1. 施工前に既設形状寸法を確認すること。

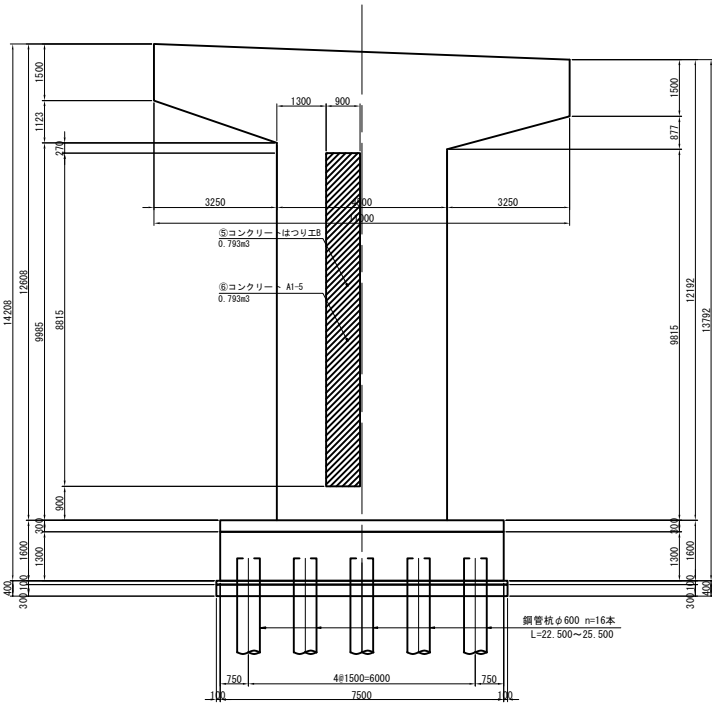
常磐自動車道 田野高架橋耐震補強工事			
図面の種類	田野高架橋(下り線) P2橋脚補修一般図		
縮 尺	1:200	図面番号	75 / 79
設計会社名			
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 水戸管理事務所		



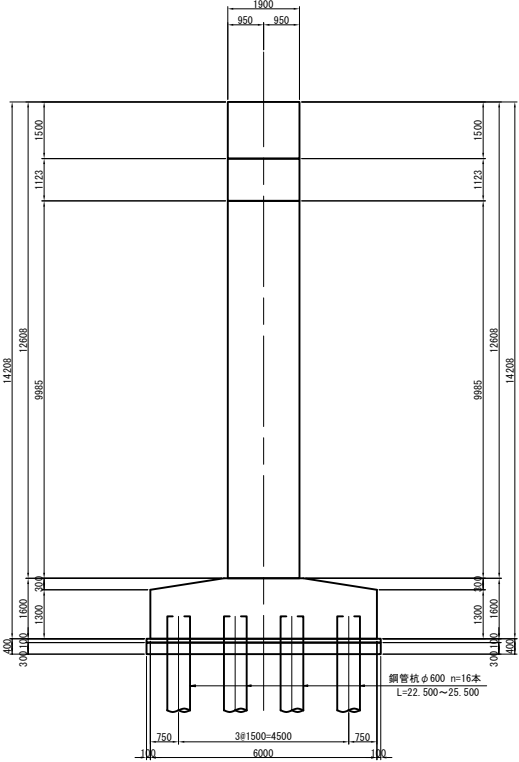
A面 (起点側)



C面 (終点側)

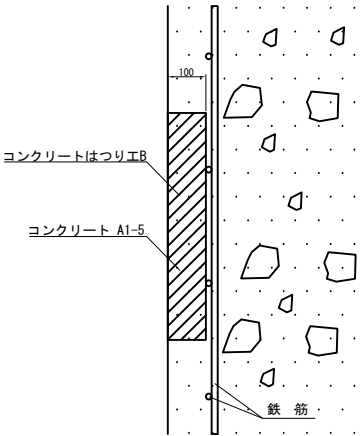


D面



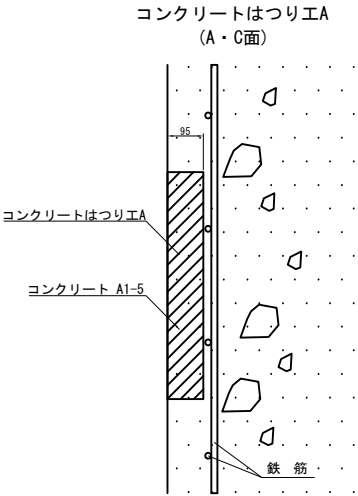
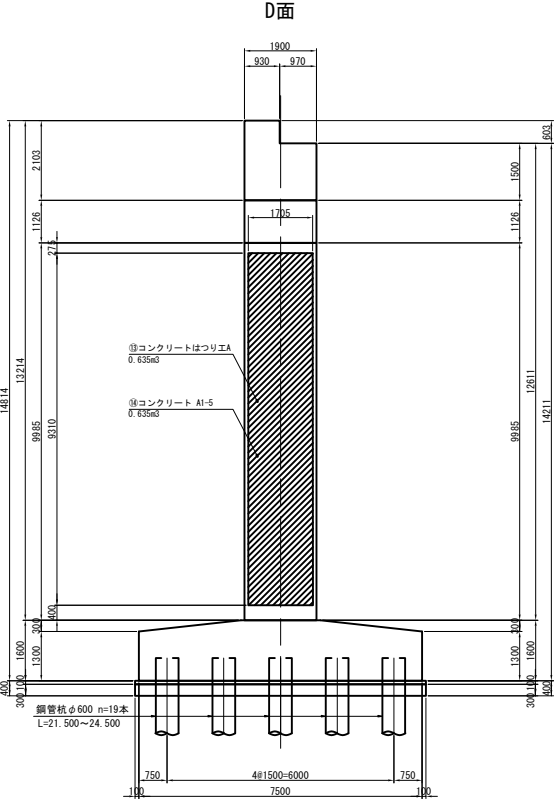
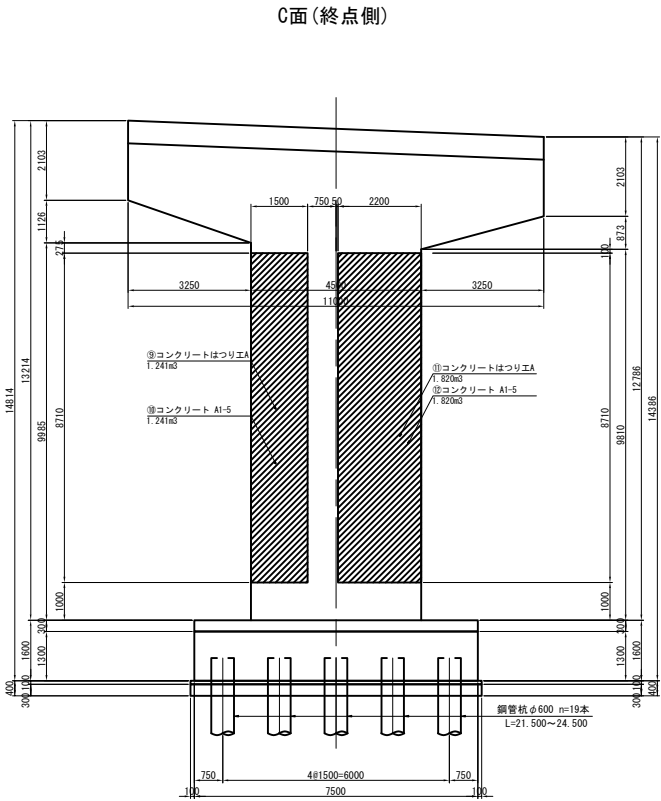
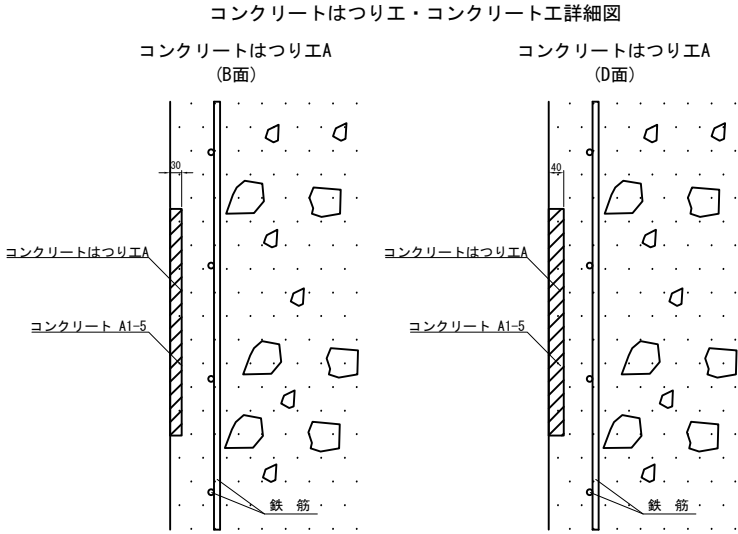
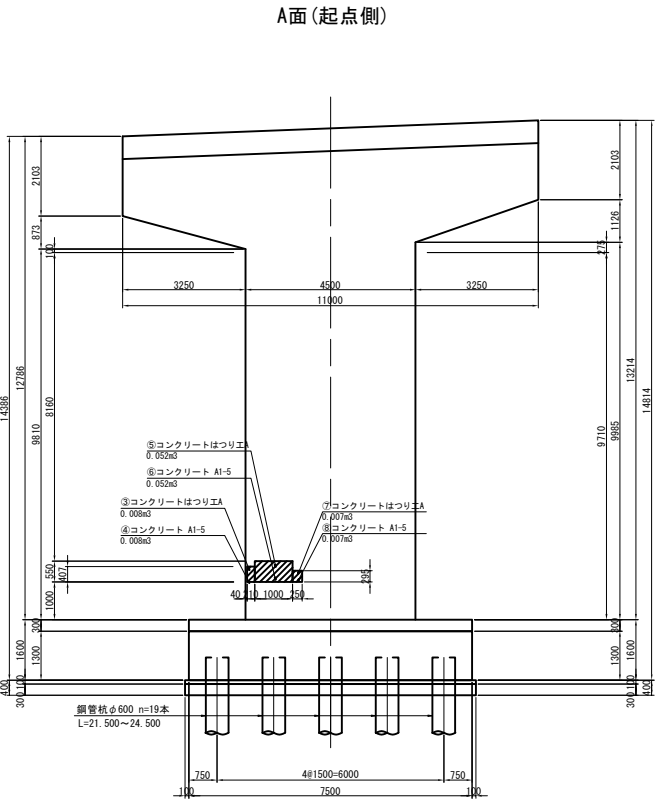
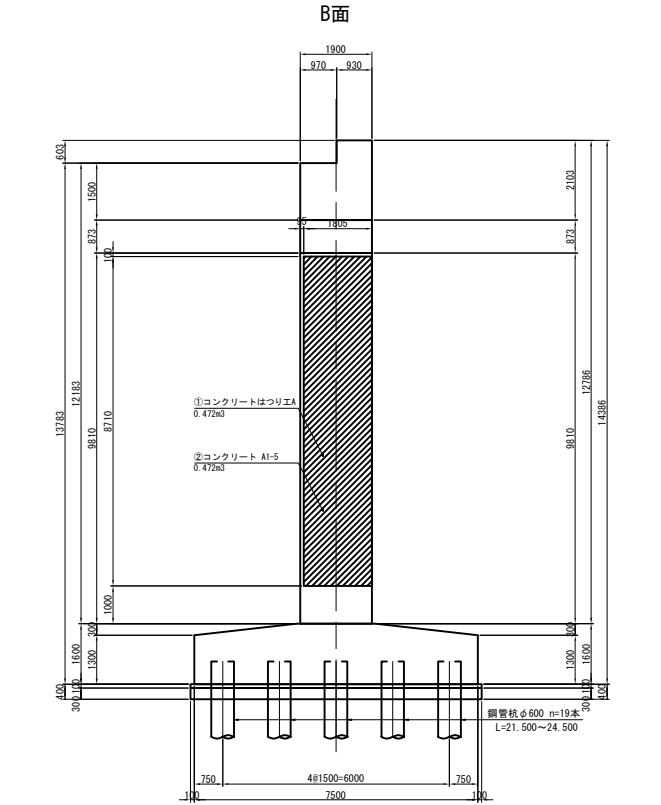
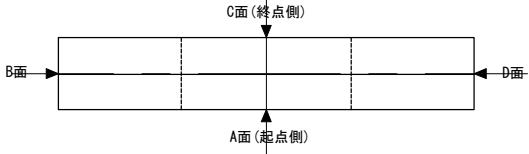
コンクリートはつりエ・コンクリート工詳細図

コンクリートはつりエB
(B・C面)



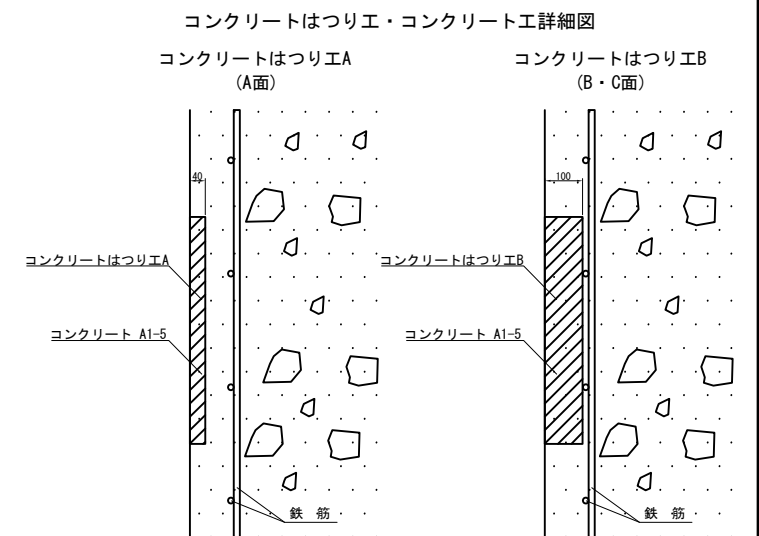
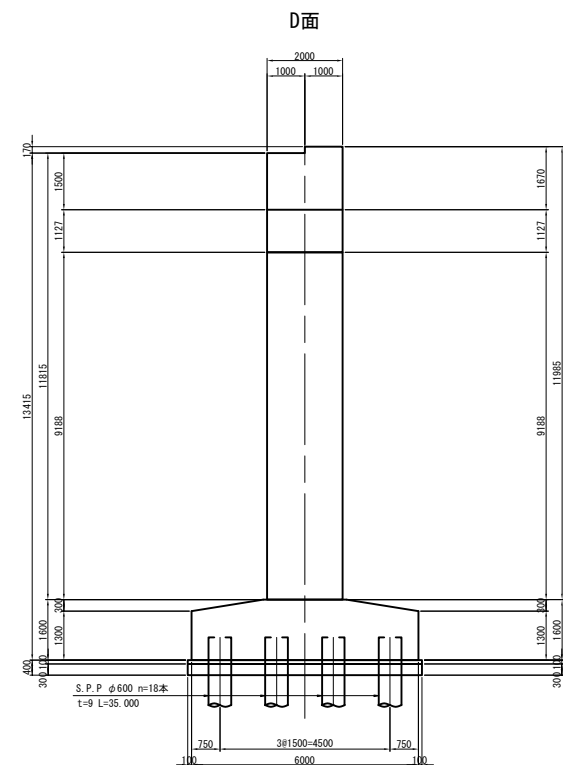
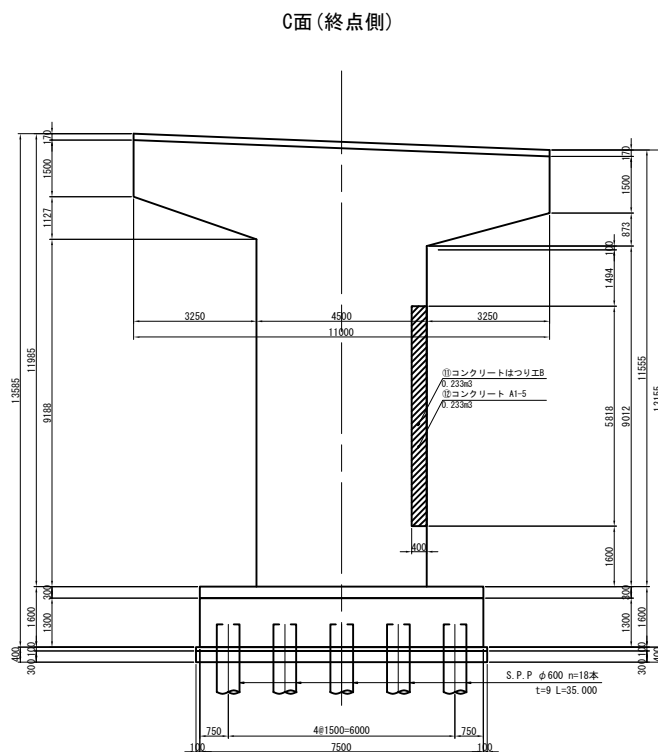
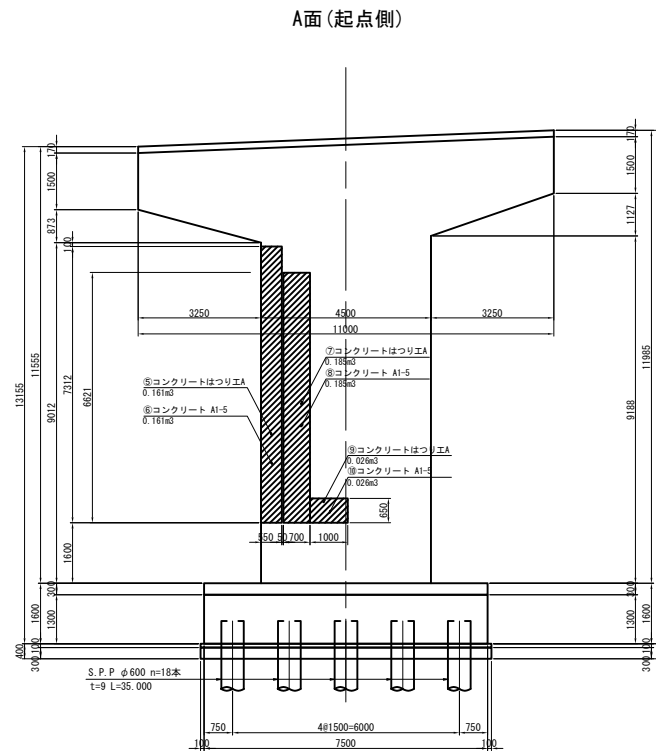
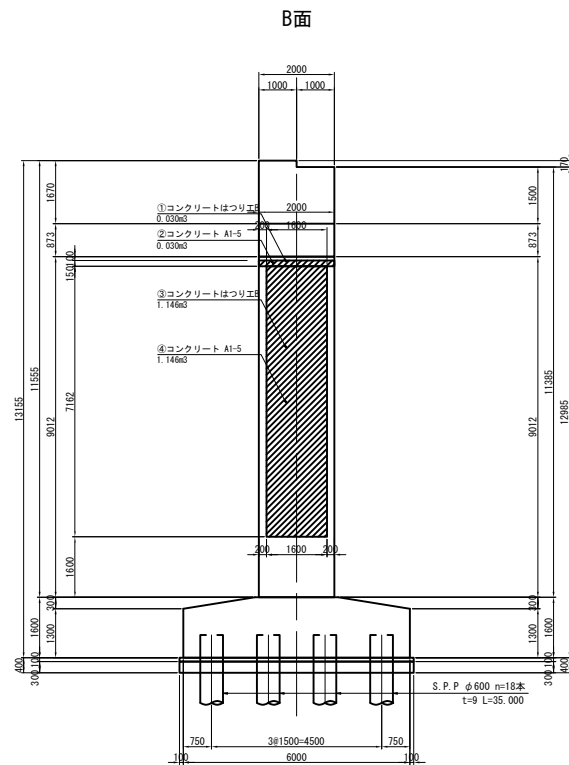
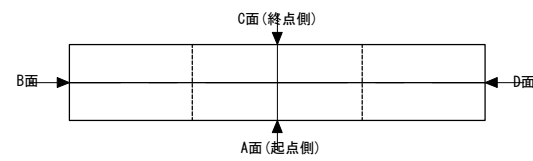
注) 1. 施工前に既設形状寸法を確認すること。

常磐自動車道 田野高架橋耐震補強工事			
図面の種類	田野高架橋(下り線) P4橋脚補修一般図		
縮 尺	1:200	図面番号	76 / 79
設計会社名			
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 水戸管理事務所		



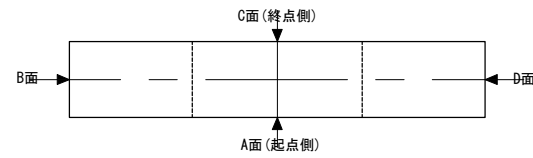
注) 1. 施工前に既設形状寸法を確認すること。

常磐自動車道 田野高架橋耐震補強工事			
図面の種類	田野高架橋(下り線) P7橋脚補修一般図		
縮 尺	1:200	図面番号	77 / 79
設計会社名			
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 水戸管理事務所		

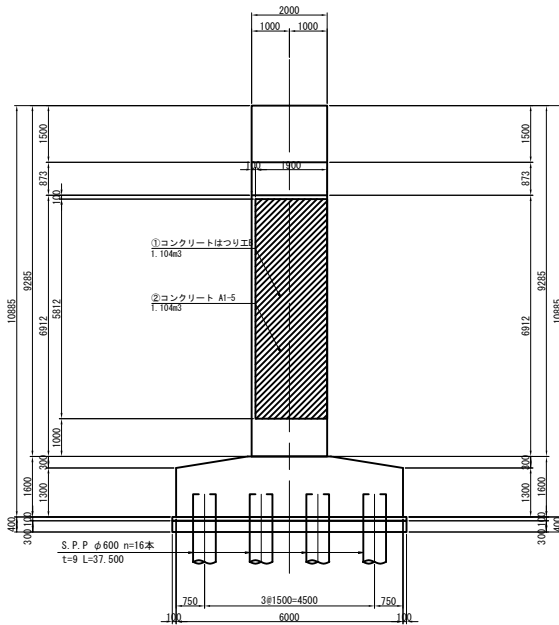


注) 1. 施工前に既設形状寸法を確認すること。

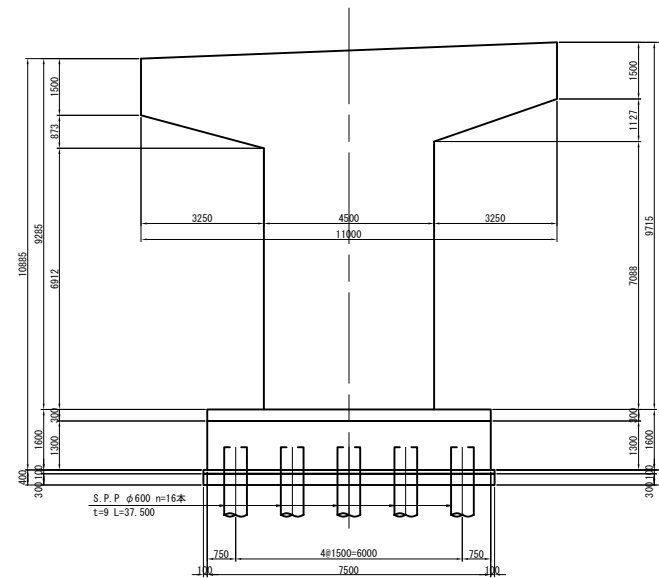
常磐自動車道 田野高架橋耐震補強工事			
図面の種類	田野高架橋(下り線) P10橋脚補修一般図		
縮 尺	1:200	図面番号	78 / 79
設計会社名			
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 水戸管理事務所		



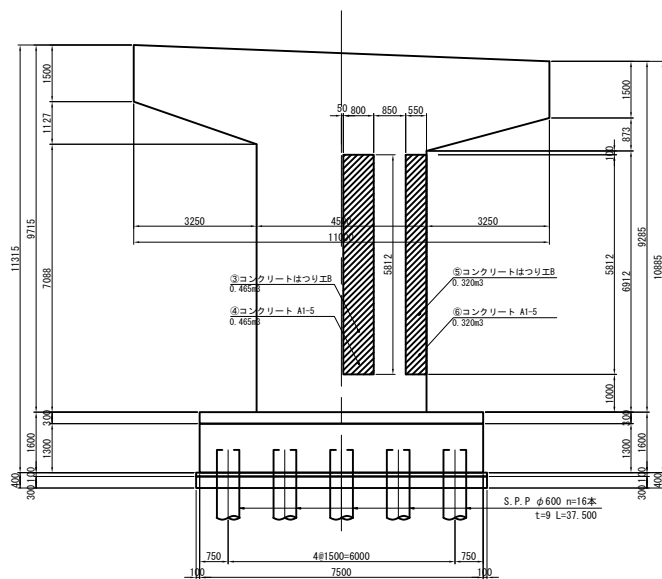
B面



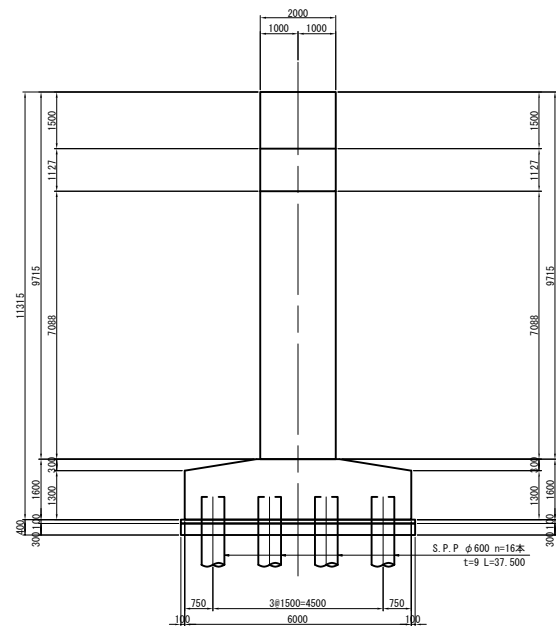
A面 (起点側)



C面 (終点側)

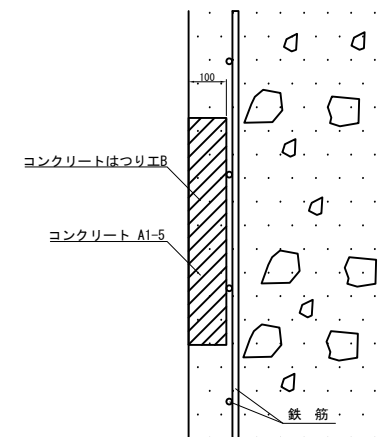


D面



コンクリートはつりエ・コンクリート工詳細図

コンクリートはつりエB
(B・C面)



注) 1. 施工前に既設形状寸法を確認すること。

常磐自動車道 田野高架橋耐震補強工事			
図面の種類	田野高架橋(下り線) P12橋脚補修一般図		
縮 尺	1:200	図面番号	79 / 79
設計会社名			
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 水戸管理事務所		